

平成 23 年 度

岩手県農業研究センター 年 報

平成 24 年 7 月

# 目 次

## I 農業研究センターの概要

1 組織機構・職員数	I - 1
2 会議、委員会、部会等の運営	I - 2
(1) 農業試験研究推進会議等の開催	I - 2
ア 新規試験研究課題の評価と選定	
イ 試験研究成果の評価と採択	
ウ 試験研究課題の年度評価及び事後評価	
エ 岩手県農業技術開発会議	
オ 試験研究推進アドバイザー	
(2) 機関評価委員会	I - 8
(3) 企画運営会議、全体会議	I - 8
(4) 委員会等の運営	I - 12
ア ほ場管理委員会	
イ 図書管理委員会	
ウ 研究報告等企画編集委員会	
エ 参観デー等企画運営委員会	
オ 特許審査委員会	
カ 備品導入検討委員会	
キ 岩手県立農業ふれあい公園管理運営委員会	
ク 環境美化委員会	
ケ 職員衛生委員会	
コ 原種等生産管理委員会	
(5) その他会議	I - 16
ア 全国農業関係試験研究場所長会議	
イ 東北地域農業関係試験研究場所長会議	
ウ 全国畜産関係試験研究場所長会議	
エ 全国畜産関係場所長会北海道・東北ブロック会議	
オ 岩手県試験研究機関評価に係る公設試所長等会議	
カ 岩手県農作物病害虫・雑草防除指針検討会議	
キ 東北農業試験研究推進会議	
ク 東北地域研究・普及連絡会議	
ケ 県内で開催された関係学会	
コ 北東北3県農業試験研究センター企画経営室長等会議	

## II 試験研究の推進

1 研究活動の概要	II - 1
2 トピックス	II - 2
(1) 特許・品種登録出願状況	II - 2
(2) 表彰等受賞状況	II - 2
(3) 特定課題調査検討チームによる検討及び連携プロジェクトによる研究推進	II - 2
(4) その他	II - 3

<b>3 研究室・課の動き</b> .....	II- 4
(1) プロジェクト推進室 .....	II- 4
(2) 企画管理部 .....	II- 4
(3) 技術部 .....	II- 6
(4) 環境部 .....	II- 10
(5) 病害虫防除部 .....	II- 11
(6) 畜産研究所 .....	II- 11
(7) 県北農業研究所 .....	II- 13
<b>4 平成23年度試験研究課題</b> .....	II- 14
(1) 細目課題分類 .....	II- 14
(2) 試験研究課題一覧 .....	II- 15
(3) 平成24年度試験研究を要望された課題とその措置一覧 .....	II- 24
<b>5 共同研究等の推進</b> .....	II- 26
(1) 農林水産省委託プロジェクト研究事業 .....	II- 26
(2) 新たな農林水産政策を推進する実用技術開発事業 .....	II- 26
(3) 研究成果最適展開支援事業 .....	II- 28
(4) その他独法等からの委託 .....	II- 28
(5) 民間委託試験 .....	II- 29
(6) (財)岩手生物工学研究センターとの共同研究 .....	II- 29
(7) 他の公設試との共同研究 .....	II- 29
(8) AFR(岩手農林研究協議会)研究会 .....	II- 29
(9) その他共同研究 .....	II- 30
(10) 産学官連携 .....	II- 30
<b>6 現地試験の実施</b> .....	II- 32

### III 試験研究の成果

<b>1 試験研究成果</b> .....	III- 1
(1) 平成23年度成果数 .....	III- 1
(2) 平成23年度成果名一覧 .....	III- 2
<b>2 追跡評価</b> .....	III- 5
(1) 評価視点 .....	III- 5
(2) 追跡評価の調査方法 .....	III- 5
(3) 追跡評価結果 .....	III- 6
<b>3 東北農業試験研究成果</b> .....	III- 13
(1) 研究成果数 .....	III- 13
(2) 研究成果名 .....	III- 13

### IV 試験研究成果の発表

<b>1 試験成績書等刊行物</b> .....	IV- 1
<b>2 研究レポート</b> .....	IV- 2
<b>3 岩手県農業研究センター研究報告</b> .....	IV- 4
<b>4 学会等研究報告</b> .....	IV- 6
(1) 学術論文 .....	IV- 6
(2) 学会発表 .....	IV- 7

5 雑誌等掲載	IV- 10
(1) 専門雑誌等	IV- 10
(2) 月間農業普及	IV- 10
(3) 岩手の畜産	IV- 10
(4) 岩手りんごタイムス	IV- 10
(5) その他の雑誌等	IV- 11
6 新聞等掲載	IV- 13
7 テレビ・ラジオ放送	IV- 16
(1) テレビ	IV- 16
(2) ラジオ	IV- 16
8 指導資料等掲載	IV- 17
9 図書資料収集・提供	IV- 19
10 ホームページ	IV- 19

## V 指導・啓発活動

1 技術伝達研修等への対応	V- 1
2 現地指導・研修会等への講師派遣	V- 3
3 視察者、見学者の受け入れ状況	V- 13
4 春季一般公開及び参観デー	V- 13
5 現地ふれあい農業研究センター	V- 13
6 一日子供農業研究員	V- 13
7 農業科学博物館、農業ふれあい公園、加工工房(加工体験)の利用者	V- 14
8 研修生の受け入れ	V- 15
(1) 海外研修	V- 15
(2) 北東北3県連携にかかる人事交流(研修)	V- 15
(3) 短期研修生	V- 15
(4) 体験学習の受け入れ	V- 16
ア 小中学校の「総合的な学習の時間」等に対応したもの	
イ 高等学校、大学の「職場体験研修」「視察」等に対応したもの	
9 協議会、委員会等委員	V- 18

## VI 職員研修

1 大学院派遣	VI- 1
2 海外派遣・研修	VI- 1
3 国内研修への派遣	VI- 1
(1) 依頼研究員	VI- 1
(2) 北東北3県研究職員交流(職員派遣)	VI- 1
(3) 農林水産関係研究リーダー研修	VI- 1
(4) 独立行政法人農業・食品産業技術総合研究機構 短期集合研修	VI- 1
(5) 農林水産関係研究者研修	VI- 1
(6) その他	VI- 2
4 所内研修等	VI- 8
(1) 岩手県総務部人事課主催研修	VI- 8
(2) 所内研修	VI- 9
5 所内セミナー等	VI- 10

## VII 試験研究以外の業務概要

1 作物の原々種の採種	VII- 1
(1) 主要農作物種子法に基づく原々種種子の生産	VII- 1
(2) その他原々種種子の生産	VII- 1
2 作物の原種の採種	VII- 2
(1) 主要農作物種子法に基づく原種種子の生産	VII- 2
(2) その他原種種子の生産	VII- 2
3 種苗等の配布	VII- 3
(1) 主要農作物種子法に基づく種苗の配布	VII- 3
(2) その他種苗の配布	VII- 4
4 県有種雄牛の精液の供給	VII- 5
(1) 黒毛和種	VII- 5
(2) 日本短角種	VII- 5
5 種豚、種鶏等の配布	VII- 6
(1) 銘柄鶏の配布	VII- 6
(2) 種豚の配布	VII- 6
6 寄託放牧	VII- 6
(1) 牛	VII- 6
(2) 馬	VII- 6

## VIII 人事、予算、財産

1 岩手県農業研究センター予算	VIII- 1
2 建物、用地の面積及び飼養家畜数	VIII- 2
(1) 建物・用地の面積	VIII- 2
(2) 飼養家畜頭数	VIII- 2
3 種苗登録、特許等	VIII- 3
(1) 種苗登録	VIII- 3
(2) 特許、実用新案	VIII- 4
(3) 一般に公開しているプログラム等	VIII- 5
4 表彰	VIII- 6
5 職員名簿	VIII- 9

## IX 東日本大震災津波への対応

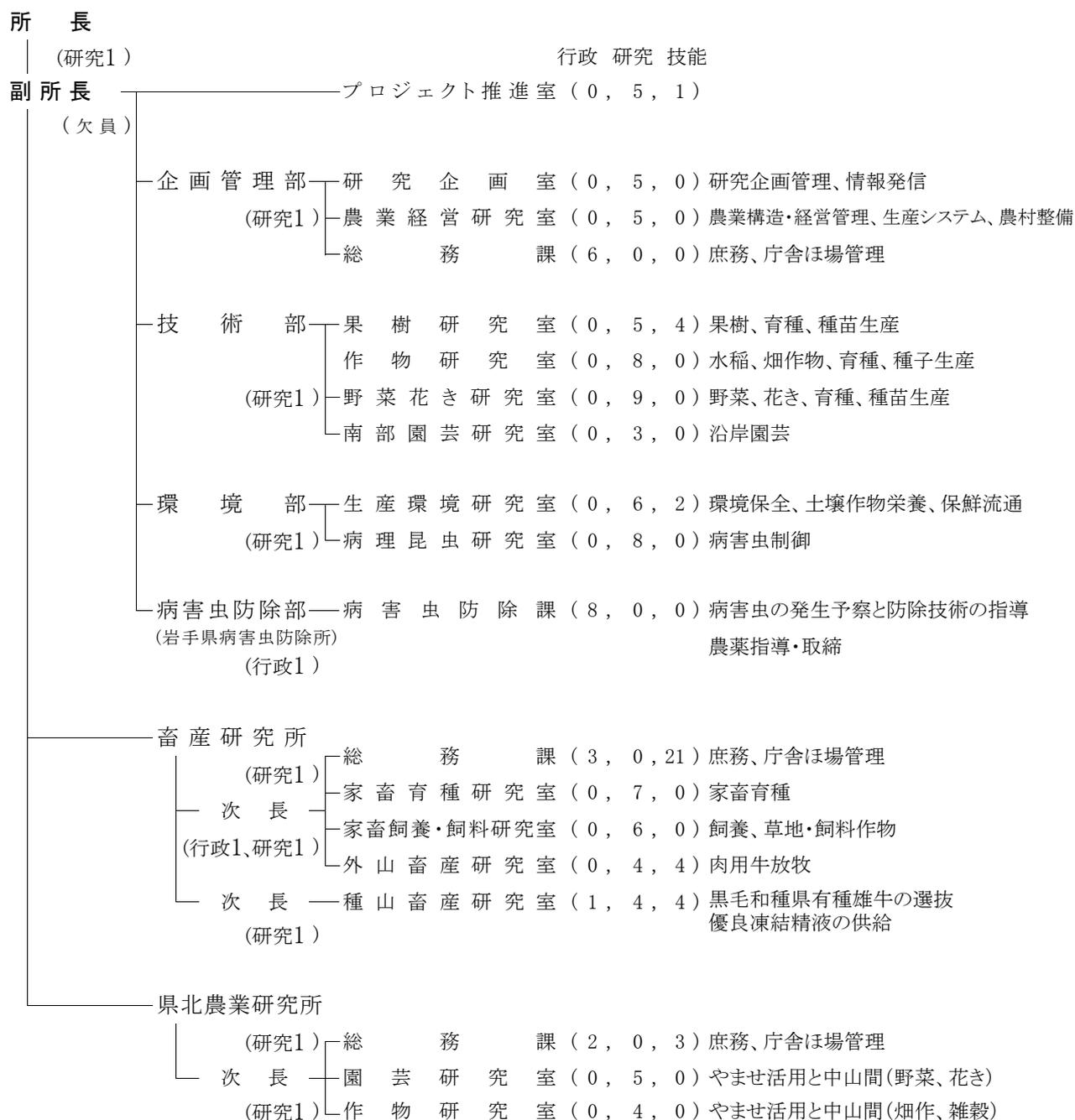
1 被害の状況	IX- 1
(1) 県全体の被害の状況	IX- 1
(2) 農業研究センターの被害の状況	IX- 1
2 農業研究センター災害対策本部の活動	IX- 2
3 復旧・復興に向けた活動	IX- 8
(1) 地域の復旧・復興対策会議等への対応	IX- 8
(2) 復旧支援業務の実施	IX- 8
(3) 復興支援業務の実施	IX- 8
(4) 放射性物質に係る業務	IX- 9
(5) 復旧・復興支援業務の取組み紹介	IX- 9
(6) 岩手県災害対策本部等から要請のあった支援業務への対応	IX- 11

X 沿革	X- 1
------	------

# I 農業研究センターの概要

# I 農業研究センターの概要

## 1 組織機構・職員数



〈職員数〉

	本 部		畜産研究所			県北農業研究所	合 計
	(北上市)	南部園芸研究室 (陸前高田市)	(滝沢村)	外山畜産研究室 (盛岡市玉山区)	種山畜産研究室 (住田町)	(軽米町)	
行政	15	0	3	0	1	2	21
研究	56	3	13	4	4	9	89
技能	7	0	21	4	4	3	39
合計	78	3	37	8	9	14	149

注: 本部研究職員数には欠員の副所長を含む

## 2 会議、委員会、部会等の運営

### (1) 農業試験研究推進会議等の開催

#### ア 新規試験研究課題の評価と選定

#### (ア) 第1回内部検討会議

##### a 開催日及び出席要請機関

部会名等	農産	園芸			畜産	県北振興*
		(果樹)	(野菜)	(花き)		
開催日	H23.8.8(月)	H23.8.4(木)			H23.8.5(金)	H23.8.9(火)
(財)岩手生物工学研究センター	○		○		○	○
農林水産企画室	○		○		○	○
流通課	○		○		○	○
農業振興課	○				○	
農業普及技術課	○		○		○	○
農村計画課	○					
農村建設課	○					
農産園芸課	○		○			○
畜産課	○				○	
中央家畜保健衛生所					○	
県北家畜保健衛生所						
県南家畜保健衛生所						
農業大学校	○		○		○	○
中央農業改良普及センター(県域)	○		○		○	○
中央農業改良普及センター(軽米)			○			○
中央農業改良普及センター(地域)	○					○
中央農業改良普及センター(遠野)						
盛岡農業改良普及センター	○		○			
八幡平農業改良普及センター			○			○
奥州農業改良普及センター	○		○		○	
一関農業改良普及センター						
大船渡農業改良普及センター						
宮古農業改良普及センター						
宮古農業改良普及センター(岩泉)					○	
久慈農業改良普及センター			○			○
二戸農業改良普及センター			○			○
盛岡広域振興局農政部					○	
県南広域振興局農政部					○	
県南広域振興局花巻農林振興センター						
県南広域振興局遠野農林振興センター						
県南広域振興局一関農林振興センター						
沿岸広域振興局農林部			○			
沿岸広域振興局大船渡農林振興センター						
沿岸広域振興局宮古農林振興センター					○	
県北広域振興局農政部						○
県北広域振興局二戸農林振興センター						○

参集範囲

注1) \*は県北振興連携プロジェクトの略(ホウレンソウ・雑穀に係る試験研究課題について検討)

注2) H22年度総合部会を廃止

##### b 協議事項

(a) 平成24年度試験研究を要望された課題とその措置(案)について

(b) 平成24年度新規試験研究課題(案)について

(c) その他

(イ) 第1回外部検討会議

a 開催日及び出席要請機関

部会名等	農産	園芸			畜産
		(果樹)	(野菜)	(花き)	
開催日	H23.9.12(月)	—	H23.9.13(火)	H23.9.13(火)	H23.9.14(水)
参集範囲	試験研究推進アドバイザー	○	○	○	○
	東北農政局盛岡地域センター				
	全国農業協同組合連合会岩手県本部	○	○	○	
	岩手県農業共済組合連合会				
	岩手県農産物改良種苗センター				
	岩手県植物防疫協会	○	○	○	
	岩手家農薬卸商業協同組合		○		
	岩手県農業公社				
	岩手県農業機械協会				
	岩手県畜産協会				

注1) H22年度総合部会を廃止、園芸部会(果樹)は平成24年度新規試験研究課題の提案が無いため、開催せず

注2) 園芸部会(果樹)は平成24年度新規試験研究課題の提案が無いため、開催せず

注3) 農産部会、畜産部会には試験研究推進アドバイザーの他、生産者、生産組合に出席要請

b 協議事項等

(a) 平成24年度新規試験研究課題について

(ウ) 第1回評価調整会議

a 開催日 平成23年10月4日(火) 13:15～

b 協議事項等

- (a) 平成24年度実施要望課題の措置について
- (b) 平成24年度新規試験研究課題(案)について
- (c) その他

c 参集範囲

農業研究センター所長、各部長、各研究所長、プロジェクト推進室長

イ 試験研究成果の評価と採択

(ア) 第2回内部検討会議

a 開催日及び出席要請機関

部会名等	農産	園芸			畜産	県北振興*	
		(果樹)	(野菜)	(花き)			
開催日	H23.12.6(火)	H23.12.7(水)	H23.12.7(水)	H23.12.5(月)	H23.12.8(木)	H23.12.9(金)	
参集 範囲	(財)岩手生物工学研究センター	○	—	—	—	—	
	流通課	○	○	—	—	—	
	農業振興課	○	—	—	—	—	
	農業普及技術課	○	○	○	○	○	
	農村計画課	○	—	—	—	—	
	農村建設課	○	—	—	—	—	
	農産園芸課	○	○	○	○	—	○
	畜産課	—	—	—	—	○	—
	中央家畜保健衛生所	—	—	—	—	○	—
	県北家畜保健衛生所	—	—	—	—	○	—
	県南家畜保健衛生所	—	—	—	—	○	—
	農業大学校	○	○	○	○	○	○
	中央農業改良普及センター(県域)	○	○	○	○	○	○
	中央農業改良普及センター(軽米)	—	—	○	—	○	○
	中央農業改良普及センター(地域)	○	○	—	—	○	○
	中央農業改良普及センター(遠野)	—	—	—	—	○	—
	中央農業改良普及センター(西和賀)	—	—	—	—	—	—
	盛岡農業改良普及センター	○	○	○	○	○	—
	八幡平農業改良普及センター	○	—	○	○	○	○
	奥州農業改良普及センター	○	○	—	○	○	—
	一関農業改良普及センター	○	○	—	○	○	—
	大船渡農業改良普及センター	○	○	○	—	—	—
	宮古農業改良普及センター	○	○	○	—	○	—
	宮古農業改良普及センター(岩泉)	—	—	—	—	○	—
	久慈農業改良普及センター	○	—	—	—	○	○
	二戸農業改良普及センター	—	○	—	○	○	○
	盛岡広域振興局農政部	—	—	—	—	○	—
	県南広域振興局農政部	—	—	—	—	○	—
	県南広域振興局花巻農林振興センター	—	—	—	—	○	○
	県南広域振興局遠野農林振興センター	—	—	—	—	○	—
	県南広域振興局一関農林振興センター	—	—	—	—	○	—
	沿岸広域振興局農林部	○	○	○	—	○	—
	沿岸広域振興局大船渡農林振興センター	○	—	—	—	○	—
沿岸広域振興局宮古農林振興センター	○	—	—	—	○	—	
県北広域振興局農政部	○	—	—	—	○	○	
県北広域振興局二戸農林振興センター	—	—	—	—	○	○	

注1) \*は県北振興連携プロジェクトの略(ホウレンソウ・雑穀に関する試験研究課題について検討)

b 協議事項

(a) 平成23年度試験研究成果(案)について

(b) その他

(イ) 第2回外部検討会議

a 開催日及び出席要請機関

部会名等	農産	園芸			畜産
		(果樹)	(野菜)	(花き)	
開催日	H24.1.5(木)	H24.1.12(木)	H24.1.12(木)	H24.1.11(水)	H24.1.10(火)
参集範囲	試験研究推進アドバイザー	○	○	○	○
	東北農政局盛岡地域センター	○	—	—	—
	全国農業協同組合連合会岩手県本部	○	○	○	○
	岩手県農業共済組合連合会	○	—	—	—
	岩手県土地改良事業団体連合会	○	—	—	—
	岩手県農産物改良種苗センター	○	○	—	○
	岩手県植物防疫協会	○	○	○	○
	岩手県農薬卸商業協同組合	○	○	○	—
	岩手県農業公社	○	—	—	—
	岩手県農業機械協会	○	—	—	—
	岩手県畜産協会	—	—	—	—
	家畜改良事業団盛岡種雄牛センター	—	—	—	—

注1) \*は県北振興連携プロジェクトの略(ホウレンソウ・アスパラガス・リンドウ・雑穀に関する試験研究課題について検討)

注2) 農産部会、畜産部会には試験研究推進アドバイザーの他、生産者、生産組合に出席要請

b 協議事項

(a) 平成23年度試験研究成果(案)について

(b) その他

(ウ) 第2回総合調整会議

a 開催日 平成24年1月23日(月) 13:00～

b 協議事項

(a) 平成23年度試験研究成果(案)について

(b) その他

c 参集範囲

農業研究センター所長、各部長、各研究所長、プロジェクト推進室長

ウ 試験研究課題の年度評価及び事後評価

(ア) 第3回内部検討会議

a 開催日及び出席要請機関

部会名等	プロジェクト 推進室	企画管理部	技術部		環境部	畜産 研究所	県北農業 研究所
			(作物関係)	(園芸関係)			
開催日	H24.2.27(月)	H24.2.28(火)	H24.2.29(水)	H24.2.28(火)	H24.3.1(木)	H24.3.5(月)	H24.3.2(金)
(財)岩手生物工学研究センター	—	—	○	○	○	—	—
農林水産企画室	○	—	—	—	—	○	—
流通課	○	○	○	○	○	○	○
農業振興課	—	○	○	—	—	—	—
農業普及技術課	○	○	○	○	○	○	○
農村計画課	○	—	—	—	—	—	—
農産園芸課	○	○	○	○	○	—	○
畜産課	—	—	—	—	—	○	—
盛岡広域振興局農政部	—	—	—	—	—	○	—
県南広域振興局農政部	—	—	—	—	○	○	—
〃 花巻農林振興センター	—	—	—	—	—	○	○
〃 遠野農林振興センター	—	—	—	—	—	○	—
〃 一関農林振興センター	—	—	—	—	○	○	—
沿岸広域振興局農林部	—	○	—	—	—	○	—
〃 大船渡農林振興センター	—	○	—	—	○	—	—
〃 宮古農林振興センター	—	○	—	—	—	○	—
県北広域振興局農政部	—	○	—	—	—	○	○
〃 二戸農林振興センター	—	—	—	—	—	○	○
中央家畜保健衛生所	—	—	—	—	—	○	—
県北家畜保健衛生所	—	—	—	—	—	○	—
県南家畜保健衛生所	—	—	—	—	—	○	—
農業大学校	—	—	○	—	—	○	—
中央農業改良普及センター(県域)	○	—	○	○	○	○	○
中央農業改良普及センター(地域)	○	—	○	—	—	○	○
盛岡農業改良普及センター	—	—	○	—	—	○	—
八幡平農業改良普及センター	—	—	○	○	—	○	○
奥州農業改良普及センター	—	—	○	○	○	○	—
一関農業改良普及センター	—	—	○	—	○	○	—
大船渡農業改良普及センター	—	○	—	—	○	—	—
宮古農業改良普及センター	—	○	—	—	—	○	—
久慈農業改良普及センター	—	○	—	—	—	—	○
二戸農業改良普及センター	—	—	—	—	—	—	○

参  
集  
範  
囲

b 協議事項

(a) 平成24年度試験研究課題の試験設計について

(b) その他

(イ) 第3回評価調整会議

a 開催日 平成24年1月16日(月) 13:00～

b 協議事項

(a) 年度評価・事後評価について

(b) 平成24年度新規試験研究課題について

(c) 試験研究推進計画の改訂について

(d) 平成23年度タイムリー成果について

(e) その他

c 参集範囲

農業研究センター所長、各部長、各研究所長、プロジェクト推進室長

## エ 岩手県農業技術開発会議

### (ア) 第1回

- a 開催日 平成24年2月8日(水) 15:30～
- b 協議
- (a) 農業研究センターにおける技術開発について
- (b) 生物工学研究センターにおける技術開発について
- c その他
- (a) 東日本大震災津波に対応した試験研究の取組みについて
- (b) 南部園芸研究室の再整備について
- (c) 農業研究センターの機関評価について
- d 参集範囲
- (財)岩手生物工学研究センター  
農政担当技監、農政関係各室課、生物工学研究所、農業大学校、中央農業改良普及センター  
農業研究センター所長、各部長、各研究所長、各研究所次長、プロジェクト推進室長、南部園芸研究室長

### オ 試験研究推進アドバイザー

所属部会	氏名	役職名	出席者	
			第1回	第2回
農産 (水稲)	新田 義修	岩手県立大学総合政策学部講師	○※1	
	片山 勝之	東北農業研究センター 水田作研究領域(大仙研究拠点)・上席研究員	○	○
	石母田 れい子	岩手県農業農村指導士	○	○
	高橋 信	岩手県農業農村指導士 (有)高橋農産・代表取締役	○	○
	岩崎 隆	岩手県青年農業士	○	○
農産 (畑作)	千葉 丈	全農岩手県本部営農対策部・次長	○	○
	小野 正一	岩手県農業農村指導士 (農)アグリパーク舞川・専務理事	○	○
	武田 純一	岩手大学農学部農学生命課程・教授	○	○
園芸 (果樹)	小森 貞男	岩手大学農学部農学生命課程・准教授		○
	阿部 和幸	果樹研究所リンゴ研究チーム・チーム長		○
	小岩 克宏	岩手県果樹協会・副会長岩手県農業農村指導士		○
	菅原 栄一	岩手県農業農村指導士		
	岩淵 壽子	岩手県農業農村指導士		○
園芸 (野菜)	由比 進	東北農業研究センター畑作園芸研究領域・上席研究員	○	○
	門田 育生	東北農業研究センター環境保全型農業研究領域(福島研究拠点)・上席研究員	○	○
	三浦 正美	岩手県農業農村指導士	○	○
	橋本 正成	(株)銀河農園 代表取締役	○	○
	照井 勝也	全農岩手県本部園芸部・次長	○	○
園芸 (花き)	稲本 勝彦	東北農業研究センター畑作園芸研究領域野菜・主任研究員	○	○
	高橋 俊一	(株)T&Gバイオオーナーサリー・代表取締役	○	○
	遠藤 満	八幡平市花き研究開発センター・主任技師	○	○
	南川 信一	岩手県農業農村指導士	○	○
畜産	押部 明德	東北農業研究センター・畜産飼料作研究領域 領域長	○	○
	富手 研司	(社)岩手県畜産協会 総務部長	○	
	小田 伸一	岩手大学農学部動物科学課程・准教授		○
	小原 俊英	全農岩手県本部畜産酪農部・部長		
	及川 欣一	岩手県農業農村指導士	○	○
	千葉 一幸	岩手県農業農村指導士	○	○
	白戸 綾子	(独)家畜改良センター岩手牧場・場長	○	○
			21 名	25 名

※1 園芸(野菜)部会に関連課題の提案があったため、新田アドバイザーは園芸(野菜)に出席。

注1) 平成23年度に試験研究課題、試験研究成果の作成に関して、専門的かつ総合的な視点で助言を行う試験研究推進アドバイザーを新設

## (2) 機関評価委員会

- ア 開催日 平成23年12月14日(水)
- イ 議題 (ア) 岩手県農業研究センターの運営概要について  
(イ) 岩手県農業研究センターの研究概要について  
(ウ) 委員講評
- ウ 機関評価委員  
(ア) 内部評価(7人) 所長、各部長、各研究室長  
(イ) 外部評価(6人) 小田島 利昭氏(全農県本部副本部長)  
(五十音順) 小野 正一氏(県農業農村指導士)  
小野寺 純治氏(岩手大学地域連携推進センター副センター長・教授)  
高畑 義人氏(岩手大学副学長・教授)  
新田 義修氏(岩手県立大学総合政策学部講師)  
松田 長生氏(東北農業研究センター企画管理部長)

## (3) 企画運営会議、全体会議

開催月日	場 所	内 容(協議事項等)
23.4.14(木)	特別会議室	(第1回企画運営会議) 1 協議事項 (1) 試験研究推進に係る制度改正等について 2 連絡・報告事項 (1) 特定課題検討チーム、連携プロジェクトチームについて (2) 平成23年度競争的研究資金応募課題採否状況について (3) 平成23年度試験研究課題の最終調整結果について (4) 災害発生時における職員配備体制及び非常召集連絡系統図について 及び岩手県農業研究センター災害対策実施マニュアルについて (5) 県庁各課との業務打合せについて (6) 農研センターHPのH22年度月別・項目別アクセス数 (7) 各部長・研究所長からの情報提供等 (8) 4月、5月の行事予定及び年間行事予定について
23.4.14(木)	大会議室	(全体会議) ○第1部 所長、各部長・研究所長、センター本部全職員 (1) 農業研究センター研究推進計画について (2) 農業研究センター業務方針について ア 組織のプロフィール、基本方針、職員の資質向上 イ 各部・研究所の取り組み基本方針及び重点事項について (ア) 企画管理部 (イ) 技術部 (ウ) 環境部 (エ) 病虫害防除部 (オ) 畜産研究所 (カ) 県北農業研究所 (キ) プロジェクト推進室 (3) 東日本大震災津波に係る取り組みについて (ア) 「震災復旧・復興支援プロジェクトチーム」 (イ) 復興支援活動 (4) その他 ○第2部 センター本部職員(室課長、チーム長、転入者、新採用職員) (1) 試験研究推進に係る諸規程について (2) 予算執行に係る留意事項等について(特に外部研究資金) (3) 情報セキュリティの徹底について (4) その他

開催月日	場 所	内 容(協議事項等)
23.5.23(月)	特別会議室	(第2回企画運営会議) 1 協議事項 (1) 試験研究課題の設定・研究成果検討のプロセスの見直しについて ①機関評価制度 ②試験研究推進会議・研究評価制度の見直し (2) 試験研究推進計画について (3) 短期研修生受入関連規程について 2 連絡・報告事項 (1) 平成23年度競争的研究資金課題の応募課題採否及び継続課題契約状況について (2) 農業・農村指導士との意見交換会について(持ち方) (3) 広報について (4) 各部長・研究所長からの情報提供 (5) 6月の行事予定について
23.7.21(木)	特別会議室	(第3回企画運営会議) 1 協議事項 (1) 第1回内部検討会議について(研究評価者の指名を含む) (2) 機関評価(内部①)の実施について (3) 追跡評価の実施について 2 連絡・報告事項 (1) センター規程集の見直しについて (2) 外部資金研究費の節別配分額について (3) 現地試験展示圃の設置状況について (4) 広報(らぼれたあ、プレスリリース等)について (5) 各部長・研究所長からの情報提供 (6) 8、9月の行事予定について
23.10.4(火)	特別会議室	(第4回企画運営会議) 1 協議事項 (1) 機関評価(内部1)の結果について (2) 機関評価(内部2)の実施について (3) 研究報告第11号発行及び第12号原稿集約状況について 2 連絡・報告事項 (1) 特定課題調査検討チーム、連携プロジェクトチームの取組状況について (2) 競争的資金または農林水産部重点化方針に対応した新規課題に関する手続き (3) 予算執行管理及び次年度当初予算要求について(作業依頼) (4) 研究備品更新計画について (5) 広報(らぼれたあ、プレスリリース、HPアクセス等)について (6) 各部長・研究所長からの情報提供 (7) 10、11月の行事予定について

開催月日	場 所	内 容(協議事項等)
23.10.24(月)	特別会議室	(第5回企画運営会議) 1 協議事項 (1) 平成24年度新規課題について (2) 平成24年度に向けた試験研究推進計画の改定方針について 2 連絡・報告事項 (1) 機関評価委員の委嘱手続きについて(進捗) (2) 平成24年度依頼研究員の派遣について (3) 平成23年度第2回内部検討会議について (4) 平成23年度予算執行状況の確認について(不正防止計画チーム) (5) 平成24年度当初予算要求の概要について (6) 各部長・研究所長から情報提供 (企画) リエゾン-I フォーラム(11/9)の対応について (7) 11、12月の行事予定について
23.11.21(月)	特別会議室	(第6回企画運営会議) 1 協議事項 (1) 機関評価委員会について 2 連絡・報告事項 (1) 平成24年度向け競争的資金への応募課題について (2) 平成23年度第2回内部検討会議について(日程及び提案予定成果) (3) 平成24年度当初予算要求の概要について(研究費を除く) ア 管理運営費等について(本部、畜産研究所、県北農業研究所) イ 備品更新計画(研究備品、農機等施設設備、等)(同上) (4) 各部長・研究所長から情報提供 (5) 12、1月の行事予定及び年間スケジュールについて
24.1.23(月)	特別会議室	(第7回企画運営会議) 1 協議事項 (1) 機関評価結果の概要と今後の進め方について (2) 農業技術開発会議(2/8)について (3) 平成24年度向け競争的資金への応募課題について 2 連絡・報告事項 (1) 岩手県農業農村指導士協会全体研修会(1/31)の対応について (2) 第3回内部検討会議(設計)について(日程) (3) 試験研究推進計画の見直しについて(日程) (4) 平成24年度業務方針の作成について (5) 研究予算の適正執行について (6) 年報の作成について(スケジュール) (7) 平成24年度参観デーの日程について (8) 各部長・研究所長から情報提供 (9) 2、3月の行事予定及び年間スケジュールについて

開催月日	場 所	内 容(協議事項等)
24.2.20(月)	特別会議室	(第8回企画運営会議) 1 協議事項 (1) 機関評価意見に対する対応(案)について (2) 平成24年度に向けた試験研究推進計画の見直しについて (3) 平成24年度向け競争的資金への応募課題について 2 連絡・報告事項 (1) 第3回内部検討会議について (2) 平成24年度依頼研究員の候補者の推薦について (3) 平成23年度マスコミへの情報提供(プレスリリース)実績について (4) 研究報告(第13号)の投稿募集について (5) 月刊「農業普及」の執筆について (6) 各部長・研究所長からの情報提供 (7) 3、4月の行事予定について
24.3.16(金)	特別会議室	(第9回企画運営会議) 1 協議事項 (1) 平成24年度業務方針(案)について (2) 研究費等に係る不正防止計画について 2 連絡・報告事項 (1) 試験研究課題の最終調整について (2) 平成24年度実施予定(応募中を含む)の外部資金研究課題について (3) 平成24年度依頼研究員の派遣について (4) 平成24年度センター全体会議の開催について (5) 農研センターHPの平成23年度月別・項目別アクセス数について (6) 各部長・研究所長から情報提供 (7) 3、4月の行事予定及び平成24年度年間行事計画について

#### (4) 委員会等の運営

##### ア ほ場管理委員会

開催月日	活動事項	内 容
23.4.14	水田関係	○水稲育苗管理にかかる打ち合わせ
23.4.26	作業部会打合せ	○作業部会「ほ場使用及びほ場作業調整」の年間計画 ○平成23年度の岩手県農業公社への作業委託内容 ○圃場利用計画、E地区水稲育苗ハウスの利用計画 ○圃場用水の利用計画 ○E地区水稲育苗ハウス周辺の揚水ポンプの稼働
23.4.26	水路清掃及び 圃場周辺環境整備	○水路清掃 ○圃場周辺の環境美化、ゴミ拾い作業
23.5.26	水田関係	○本田水管理にかかる打ち合わせ
23.5.30	技術部圃場管理打合せ	○当面する作業予定について(調整) ○その他技術部に関わる圃場の管理について
23.6.27	技術部圃場管理打合せ	○当面する作業予定について(調整) ○その他技術部に関わる圃場の管理について
23.7.27	技術部圃場管理打合せ	○当面する作業予定について(調整) ○その他技術部に関わる圃場の管理について
23.8.1	持ち回り決裁	○放射能汚染に係るたい肥舎への搬入残渣の取り扱いについて
23.8.29	技術部圃場管理打合せ	○当面する作業予定について(調整) ○その他技術部に関わる圃場の管理について ○水田関係打ち合わせ
23.8.29	水田関係圃場管理 打合せ	○秋作業の計画と調整
23.9.13	圃場管理委員会	○堆肥舎の管理について
23.10.3	技術部圃場管理打合せ	○当面する作業予定について(調整) ○その他技術部に関わる圃場の管理について
23.10.12	圃場管理委員会	○圃場管理用備品の更新計画について
23.11.1	技術部圃場管理打合せ	○当面する作業予定について(調整) ○その他技術部に関わる圃場の管理について
23.12.12	野鼠防除及び 圃場周辺環境整備	○野鼠防除 ○圃場周辺の環境美化、ゴミ拾い作業

##### イ 図書管理委員会

開催月日	場所	内 容
未開催		

##### ウ 研究報告等企画編集委員会

###### (ア)委員会

開催月日	場所	内 容
23.10.4	本部特別会議室	研究報告第11号発行及び第12号原稿集約状況について
23.10.12	電子掲示板 (供覧・簡易決裁)	研究報告編集幹事の推薦について
24.2.20	本部特別会議室	研究報告第12号の編集状況及び第13号の投稿募集について

## (イ) 幹事会 電子掲示板(「供覧・簡易決裁」)で随時開催

開催月日	場所	内 容
23.10.27	電子掲示板 (供覧・簡易決裁)	(1) 編集幹事会の開催方式について (2) 第12号投稿原稿の集約状況について (3) 今後のスケジュールについて
23.10.28		(1) 査読者の推薦について(外部1名、内部1名)
23.11.22		(1) 査読者の決定及び査読依頼について

## エ 参観デー等企画運営委員会

## (ア) 委員会

開催月日	場所	内 容
23.8.5	本部所長室 (本部運営会議)	(1) 平成23年度岩手県農業研究センター本部参観デー開催計画 (イベント、出展者など) (2) 参観デーの服務
23.8.22	本部所長室 (本部運営会議)	(1) 平成23年度岩手県農業研究センター参観デー開催計画(パンフレット) (2) 軽米地区区公所合同一般公開デー開催計画(パンフレット) (3) 生物工学研究所一般公開開催計画(パンフレット)

## (イ) 幹事会等

## (本部関係)

開催月日	場所	内 容
23.7.12	本部2階小会議室	(1) 平成23年度岩手県農業研究センター本部参観デー開催計画について ア 平成22年度の反省点について イ 開催計画について(イベント、人員配置、必要資材など) ウ 今後のスケジュール(予定)について (2) 第66回岩手県全国農業機械実演展示会における農事・営農相談コーナーの設置について (3) 生物工学研究所一般公開について (4) その他
23.7.29	本部1階小会議室	(1) 平成23年度岩手県農業研究センター本部参観デー開催計画について ア 開催計画について(イベント、人員配置、必要資材など) イ 今後のスケジュール(予定)について (2) 生物工学研究所一般公開について (3) その他
23.8.5	本部1階小会議室	(1) 平成23年度岩手県農業研究センター本部参観デー開催計画について ア 開催計画について イ 今後のスケジュール(予定)について (2) 生物工学研究所一般公開について (3) その他
H23.8.29	本部1階小会議室	(1) 平成23年度岩手県農業研究センター本部参観デーの運営について ア 本部参観デーマニュアル(案)について イ 準備作業等について ウ 参観デーで販売・提供する農産物に対する来場者の質問に対する対応(案)について (2) 生物工学研究所一般公開について (3) その他

開催月日	場所	内 容
23.8.30	本部 2階中会議室	平成23年度岩手県農業研究センター本部参観デー全体説明会 (1) 平成23年度岩手県農業研究センター本部参観デー開催計画について ア 本部参観デーのイベントについて イ 準備作業等について (2) 生物工学研究所一般公開について (3) その他

(畜産研究所関係)

開催月日	場所	内 容
未開催		震災により、岩手県全国農業機械実演展示会で対応

(県北農業研究所関係)

開催月日	場所	内 容
23.6.10	ミーティング室	(1)実行委員会の設置について (2)準備状況について (3)今後の進め方及びスケジュールについて
23.7.4	ミーティング室	(1)実施計画の確認(確定)について (2)準備役割分担について (3)今後の準備作業について
23.9.6	ミーティング室	(1)最終確認について (2)その他

オ 特許審査委員会

開催月日	場所	内 容
23.8.25	持ち回り審議	(1)りんどう新品種「いわてLB-2号(いわて夢みのり)」の勤務発明審査について
23.8.31	持ち回り審議	(1)りんご新品種「岩手5号(大夢)」の勤務発明審査について

カ 備品導入検討委員会

開催月日	場所	内 容
23.5.24	本部1階小会議室	(1)豆類種子調製用機械購入について(他7件)
23.6.23	持ち回り審議	(1)血液分析装置の購入について(他1件)
23.9.12	本部1階小会議室	(1)麦類種子生産用穀物遠赤外線乾燥機一式の購入について(他3件)

キ 岩手県立農業ふれあい公園管理運営委員会

開催月日	場 所	内 容
23.5.30	特別会議室	(1)「農業科学博物館の今後のあり方検討委員会」の設置について
23.7.20	特別会議室	(1)利用者増に向けた基本方向決定

#### 農業科学博物館の今後のあり方検討委員会

開催月日	場 所	内 容
23.6.14	農業科学博物館	(1)検討方法、スケジュール等決定
23.7.5	農業科学博物館	(1)改善計画案等検討

#### ク 環境美化委員会

開催月日	場 所	内 容
23.5.24	2階中会議室	(1)平成22年度環境美化委員会活動実績について (2)平成23年度環境美化委員会活動計画について

#### ケ 職員衛生委員会

開催月日	場 所	内 容
23.6.15	特別会議室	(1)平成22年度事業実績について (2)平成23年度事業計画(案)について
23.11.18	特別会議室	(1)平成23年度定期健康診断の結果について (2)職場巡視点検結果について

#### コ 原種等生産管理委員会

開催月日	活動事項	内 容
23.6.29	第1回委員会	(1)本年の重点取り組み事項 (2)生産計画 (3)関係様式の確認 (4)規程整備 (5)原種等生産管理委員会設置要領
-	東北6県主要農作物原種原々種生産にかかる情報交換会(秋田県)	(1)次年度へ開催延期
23.8.11	第1回外部審査	(1)水稲原種・原々種外部審査(出穂期)
23.9.16	第2回外部審査	(1)水稲原種・原々種外部審査(糊熟期)
24.2.6	第3回外部審査	(1)水稲原種・原々種外部審査(生産物)
23.2.13	第2回委員会	(1)23年度の実績について (2)24年度の計画について

(5) その他会議

ア 全国農業関係試験研究場所長会議

開催月日	場 所	内 容
23.6.23 ～24	和歌山県みなべ町 (紀州南部ロイヤルホテル)	全国農業関係試験研究場所長会総会・現地検討会 1 平成23年度全国農業関係試験研究場所長会通常総会 2 平成23年度研究功労者表彰式 3 平成23年度全国農業関係試験研究場所長会現地検討会 (1) 基調講演 演題 農林水産施策の現状と将来 講師 農林水産技術会議 講演 演題 和歌山県の果樹について 講師 和歌山県農林水産総合技術センター果樹試験場長 (2) 現地調査 ① 梅加工業者 (梅ウメタ(みなべ町) ② うめパイロットほ場(みなべ町) ③ みなべ町うめ振興館(みなべ町) } 2班に分かれ調査 ④ 和歌山県農林水産総合技術センター果樹試験場ほ場(みなべ町)

イ 東北地域農業関係試験研究場所長会議

開催月日	場 所	内 容
23.9.29 ～30	青森県六戸町 (地独)青森県産業技術 センター野菜研究所	1 協議 (1) 東日本大震災の被害状況と対応等について (2) 今後の試験研究に関する連携について 2 情報交換 (1) 野菜研究所試験ほ場視察 3 現地調査 (1) JAおいらせニンニク低温貯蔵施設(六戸町) (2) 全農あおもり野菜パッケージセンター(十和田市) (3) 夏秋イチゴ栽培農家(八戸市)

ウ 全国畜産関係試験研究場所長会議

開催月日	場 所	内 容
23.6.16	東京都文京区 (全国家電会館)	1 協議 (1)平成22年度事業報告及び収支決算について (2)平成23年度事業計画及び収支予算について (3)平成23年度会費の額及び徴収方法について 2 畜産研究功労者表彰 3 研修会「地震、津波、放射能とその対応」

エ 全国畜産関係場所長会北海道・東北ブロック会議

開催月日	場 所	内 容
開催なし		

オ 岩手県試験研究機関評価に係る公設試所長等会議

開催月日	場 所	内 容
23.7.18	盛岡市 (岩手県民会館)	東日本大震災津波からの復興支援に係る試験研究機関連携会議 (1)各試験研究機関の復旧・復興対策等の実施状況 (2)試験研究機関の連携について(現状・ニーズ等と連携協力)

カ 岩手県農作物病害虫・雑草防除指針検討会議

開催月日	場 所	内 容
23.9.21	盛岡市 (エスポワールいわて)	防除指針作成会議(農業普及技術課主催): 作成に係る基本方針の周知等
23.11.8~9	北上市 (農業研究センター)	分科会(農業普及技術課主催): 防除機指針の原案及び要望事項の検討
23.12.21~21	北上市 (農業研究センター)	平成24年度県防除指針の改正内容について(病害虫防除所主催): チェック結果の妥当性の検討
24.2.3	盛岡市 (エスポワールいわて)	防除指針作成会議(農業普及技術課主催): 防除指針(案)の決定

キ 東北農業試験研究推進会議

開催月日	場 所	内 容
<b>【作物推進部会】</b>		
23.8.23	岩手県農業研究センター (現地視察)二子中央営 農組合圃場	○畑作物研究会 1 畑作物研究会:「災害に克つ!東北の大豆栽培」 2 各県の畑作物生育概況報告
23.8.31	盛岡市 (東北農業研究センター)	○東北地域麦・なたね品種・検討検討会 1 麦・なたねの有望品種・系統及び新配布系統の成績検討
23.9.1~2	宮城県大崎市 (宮城県古川農業試験場) (現地視察) 大崎市、加美町	○東北地域水稻品種立毛検討会 1 水稻育成系統等の試験実施状況の視察及び立毛観察調査
23.9.7~8	宮城県大崎市、仙台市 (ハーネル仙台)	○直播研究会 1 東北地域の直播栽培の現状について 2 各県における水稻直播栽培等の取組状況及び今後の推進方策等について 3 水稻直播栽培の試験研究に関する情報提供 ・「プラウ耕・鎮圧体系の水稻乾田直播栽培技術」 ・「広畝形成同時播種方式の水稻乾田直播栽培」
24.2.2~3	秋田県大仙市 (グランドパレス川端)	○東北地域水稻品種・系統検討会 1 研究成果情報(稲育種)の検討 2 品種の作付け動向と要望される品種 3 奨励品種決定調査関係の検討 4 新配布系統の紹介 5 育種関係情報交換 ○稲栽培研究会(1日目は畑作物栽培研究会と合同開催) 1 検討課題「東日本大震災等の災害が作物生産に与えた影響と対策技術」 2 研究成果情報候補課題の検討 ○畑作物栽培研究会(1日目は稲栽培研究会と合同開催) 1 検討課題「東日本大震災等の災害が作物生産に与えた影響と対策技術」 2 研究成果情報候補課題の検討 ○畑作物品種検討会 1 夏畑作物品種系統の検討 2 特産作物(ハトムギ・ソバ・雑穀等)有望品種・系統の検討
<b>作物部会 本会議</b>		
1 現場段階での重要な技術的課題の検討 2 次年度重点検討事項「気象変動の状況とそれに対応した作物生産」 3 共同研究課題の提案 4 重点検討事項「東日本大震災からの復興に向けた生産技術の課題と今後の展望」 5 検討会・研究会報告 6 その他		

開催月日	場 所	内 容
<b>【基盤研究推進部会】</b>		
23.7.27	盛岡市 (東北農業研究センター)	○東北地域農業経営研究会(夏期) 1 大規模な農業災害への対応と農業・農村復興の課題
(夏季は中止)		○土壌肥料研究会(夏期)
23.8.18 ～19	北上市 (岩手県農業研究センター)	○作業技術研究会(夏期) 1 震災復興を視野に入れた東北地域の水田農業の技術開発 2 現地見学会及び検討会(圃場排水性の評価手法等)
23.8.18	北上市 (岩手県農業研究センター)	○農業機械学会東北支部・作業技術研究会合同シンポジウム 「震災復興を視野に入れた東北地域の水田農業の技術開発」 1 津波等により被災した水田の復旧に係る農業土木的課題 2 大区画水田の土壌水分制御について 3 水田作経営における乾田直播の魅力
23.8.19	花巻市、北上市 (岩手県農業研究センター)	○農業機械学会東北支部・作業技術研究会合同現地見学会 ○作業技術研究会(夏期)検討会 1 震災復興を視野に入れた東北地域の水田農業の技術開発 2 圃場排水性の評価手法に関する検討状況について 3 平成23年度重点検討事項の検討
23.9.6	盛岡市 (アイーナ)	○病害虫研究会 1 地域農業活性化のための病害虫管理の問題点
24.1.24～25	盛岡市 (東北農業研究センター)	○作業技術研究会 1 重点検討事項「東日本大震災に対応した工学的研究の課題と復興に向けた取組み」 2 重点検討事項「東北農業試験研究推進会議の今後の進め方についてー作業技術研究会の視点からー」 3 研究成果情報の検討 4 「農業新技術200X」及び「1.5年プロ」候補課題の検討 5 現場段階での重要な技術的課題の提案と検討 6 平成24年度作業技術研究会(夏期)についての意見交換
24.1.24～25	盛岡市 (東北農業研究センター)	○経営研究会 1 研究成果情報候補の検討 2 「農業新技術2013」および「1.5年プロ」候補の選定 3 重点検討事項「東北農業試験研究推進会議の今後のあり方について」の検討 4 重点検討事項「東日本大震災に対応した試験研究の現状と方向性について」の検討 5 新規研究課題の検討 6 夏期研究会の次年度開催計画の検討
24.1.25	盛岡市 (東北農業研究センター)	○農業気象研究会 1 研究成果情報の検討 2 重要検討事項「気候変動を考慮した東北地域における水田作の適地区分」の検討
24.1.24～25	盛岡市 (東北農業研究センター)	○土壌肥料研究会: 1 研究成果情報の検討 2 東北農業試験研究推進会議(土壌肥料研究会)の今後の進め方について 3 東日本大震災に対応した試験研究の現状と方向性について
24.1.24～25	盛岡市 (マリオス)	○病害虫分科会 病害研究会 1 研究成果情報の検討 2 平成23年度試験研究成績の検討
		○病害虫分科会 虫害研究会 1 研究成果情報の検討 2 平成23年度試験研究成績の検討

開催月日	場 所	内 容
<b>【基盤研究推進部会】</b>		
24.1.25	盛岡市 (東北農業研究センター)	1 平成23年度主要研究成果の検討 2 重点検討事項①「東北農業試験研究推進会議の今後の進め方」について 3 重点検討事項②「東日本大震災に対応した試験研究の現状と方向性」について 4 現場段階での重要な技術的課題への取り組み 5 各県からの情勢報告 6 平成24年度重要検討事項
<b>【畜産推進部会】</b>		
(夏季は中止)		畜産夏期研究会(原発事故の影響により中止)
24.1.26～27	盛岡市 (サンセール盛岡)	1 試験研究の検討・評価 2 重点検討事項「東日本大震災に対応した試験研究の現状と方向について」 3 現場段階での重要な技術的課題への取り組み 4 主要成果の紹介及び農業新技術200x候補の選定
24.1.27	盛岡市 (サンセール盛岡)	○ <b>牧草飼料作物優良品種選定ネットワーク推進会議</b> 1 飼料用トウモロコシ品種の選定試験 2 優良品種選定試験 3 話題提供「暖地型作物導入プロジェクト(飼料作物)」について
<b>【野菜花き推進部会】</b>		
23.7.28～29	青森県弘前市 (弘前パークホテル)	○ <b>野菜研究会</b> 1 震災後の野菜生産の方向を考える ―自然エネルギー利用、省エネルギー対策、作物への放射能の影響―
(夏季は中止)		○ <b>花き研究会(夏季)</b>
24.1.30	盛岡市 (東北農業研究センター)	○ <b>野菜花き合同研究会</b> 1 重点検討事項「野菜花き生産における大規模災害時の危機管理」
24.1.30～31	盛岡市 (東北農業研究センター)	○ <b>野菜研究会、花き研究会</b> 1 研究成果情報候補の検討
24.1.31	盛岡市 (東北農業研究センター)	1 試験研究の検討・評価 2 重点検討事項「野菜花き生産における大規模災害時の危機管理」の検討 3 研究成果情報候補課題の採択 4 現場段階での重要な技術的課題の検討
<b>【果樹推進部会】</b>		
23.9.22	寒河江市 (山形農業総合研究センター)	○ <b>果樹研究会</b> 1 寒冷地帯の果樹における各種障害の発生と対策 (再掲)
24.1.23～24	盛岡市 (労働福祉会館)	1 平成23年度成果情報 2 重点検討事項:リンゴ等果実輸出の現状と技術的対応方向 3 重点検討事項:東日本大震災による果樹の被害と復旧・復興に向けた研究課題 4 現場段階での重要な技術的課題への取り組み 5 主要新規課題の計画概要 6 今後の会議運営
24.2.6～8	盛岡市 (サンセール盛岡)	○ <b>全体会議</b> 東日本大震災が及ぼした果樹園芸被害の現状とその回復への歩み ○ <b>分科会</b> リンゴ生産における省力・軽労化技術の課題と展望 寒冷地果樹における病害虫防除の現状と今後の課題 農業に有用な生物の多様性を意識した病虫管理 リンゴ窒素施肥技術の確立に向けて

開催月日	場 所	内 容
<b>【評価企画会議】</b>		
24.2.23	盛岡市 (東北農業研究センター)	1 推進部会での検討の報告 2 主要研究成果の評価及び公表について 3 東北農業新技術実用化促進プロジェクト(1.5年プロ) 4 現場段階での重要な技術的課題への取り組み 5 県間連携の可能性のあるテーマ 6 その他
<b>【本会議】</b>		
24.2.24	盛岡市 (東北農業研究センター)	1 東北農業試験研究推進会議の今後の進め方について 2 東日本大震災に対応した試験研究の現状と方向について 3 県間連携の可能性のあるテーマについて 4 その他

#### ク 東北地域研究・普及連絡会議

開催月日	場 所	内 容
23.11.10	仙台市 (東北農政局)	参加者:所長 1 「国の施策で対応すべき技術的課題」候補等の選定について 2 「農業新技術2012」候補の選定について 3 「東北農業新技術実用化促進プロジェクト(1.5年プロ)」実証技術の選定について 4 試験研究機関における復旧・復興の取組 5 その他

#### ケ 県内で開催された関係学会

開催月日	場 所	学 会 名 ・ 内 容
23.7.6～7	盛岡市 (マリオス)	2011年度日本土壌肥料学会東北支部会岩手大会
23.8.18～19	北上市 (岩手県農業研究センター他)	平成23年度 農業機械学会東北支部会・研究発表会、シンポジウム、現地見学会
24.2.16～17	盛岡市 (岩手県民会館)	第65回北日本病害虫研究発表会

#### コ 北東北3県農業試験研究センター企画経営室長等会議

開催月日	場 所	内 容
23.10.12	盛岡市 (岩手県庁)	参加者:企画管理部長・研究企画室長 (1)研究職員交流の取組みについて (2)試験研究連携の取組みについて (3)情報交換

## Ⅱ 試験研究の推進

## II 試験研究の推進

### 1 研究活動の概要

岩手県では、平成 21 年度から平成 30 年度までの 10 年間の計画となる「いわて県民計画」を平成 21 年 12 月に策定した。この「いわて県民計画」に基づき、農林水産部では、農林水産分野の長期的な技術開発の方針として『農林水産技術立県いわて』技術開発基本方針（以下「技術開発基本方針」という。）を策定した（平成 22 年 3 月）。

技術開発基本方針に基づき、農業研究センターでは平成 26 年度までに取り組む具体的なアクションプラン「岩手県農業研究センター試験研究推進計画」を策定した（平成 22 年 3 月、平成 23 年 5 月改訂）。

技術開発基本方針の 6 つの農業技術開発の方向に即し、19 分野 56 取組みにより、安全・安心で高品質な農畜産物を効率的・安定的に生産するための高度な技術の開発を進め、「農林水産技術立県いわて」の確立に取り組んでいる。

平成 23 年度の試験研究にあたっては、以下の 3 つの基本方針に沿って、新規 21、継続 93、合計 114 の研究課題に取り組んだ。

- 1 顧客の視点に立った試験研究等業務の着実な推進  
〔
  - ・ 所得向上につながる普及性の高い技術開発
  - ・ 産地づくりをリードする革新的な技術開発など〕
- 2 プロジェクト研究の推進によるスピーディーな課題解決  
〔
  - ・ 課題設定から普及定着まで、研究、行政、普及、地域が一体的に推進
  - ・ 連携軸強化による効率的・効果的かつ戦略的な技術開発〕
- 3 情報発信の強化による県民への業務の「見える化」の推進  
〔
  - ・ 知的財産の実用化促進
  - ・ 研究成果活用・PR 強化〕

また、3月11日に発生した東日本大震災津波に対応するため、新たに「震災復旧・復興支援プロジェクトチーム」及び「放射性物質に係る農業技術対策検討チーム」を設置し、津波被災地での営農再開支援や放射性物質による汚染実態の把握と対策技術マニュアルの策定に取り組んだ。

県独自研究に加え、競争的資金等の活用や産学官連携による共同研究を推進しており、農産部門で 28 課題（うち新規 9 課題）、畜産部門で 5 課題（うち新規 1 課題）、合計 33 課題の共同研究に取り組んだ。中でも、農林水産省の新たな農林水産政策を推進する実用技術開発事業（地域連携強化型研究、以下「実用技術開発事業」という。）で採択された「北東北地域向け非主食用多用途稲の直播品種及び直播栽培等関連技術の開発（H22～24）」は初めて代表機関として取り組んでいる課題である。

産学官連携では、各種マッチングフェア等に出展して研究成果を積極的にPRし、新たなニーズの掘り起こしを行った。

知的財産では企業と製品化に取り組んだ「水田作業機の排水溝形成装置」及び「高設栽培装置及びこれを用いた高設栽培法」が特許を取得した。

新たな品種としては、水稻早生種「岩手 91 号」、酒造好適米「岩手酒 98 号」、りんご晩生種「岩手 5 号」及びりんどう晩生種「いわてVLB-1 号」を開発した。

震災への支援活動と並行して取り組んだ本年度の試験研究から得られた成果は、内部及び外部（試験研究推進アドバイザー・生産者等）の評価を経て、57 の研究成果（普及区分 9、指導区分 32、行政区分 13、研究区分 3）にとりまとめ公表した。

平成 18 年度以来の機関評価委員会をセンター本部において開催し、機関運営や試験研究について多くの助言が得られた。

## 2 トピックス

### (1)特許・品種登録出願状況

区分	出願内容	担当
特許	水田作業機の排水溝形成装置 【特許4854045号(2011/11/4)】	プロジェクト推進室
	高設栽培装置及びこれを用いた高設栽培方法 【特許4900735号(2012/1/13)】 樹皮繊維培土の製造方法及び樹皮繊維培土 【特開 2012-24006(2012/2/9)】	技術部 南部園芸研究室
種苗 登録	りんご 岩手5号 【登録出願 2011/12/28】 ・ 11月上旬に成熟する大玉で多汁のりんご	技術部 果樹研究室
	りんどう いわて夢みのり(いわてLB-2号) 【登録出願 2011/11/30】 ・ 9月下旬開花の切り花向け青色リンドウ F1 品種	技術部 野菜花き研究室

### (2)表彰等受賞状況

なし

### (3)特定課題調査検討チームによる検討及び連携プロジェクトによる研究推進

#### ア 特定課題検討チーム\*

なし

(\*多岐にわたる課題あるいは今後重要と見込まれる事項について研究的観点から検討するチーム)

#### イ 連携プロジェクト\*\*

(\*\*多岐の研究部門にまたがる研究課題を短期間に、効率よく解決するために編成するプロジェクト)

(ア)プロジェクト名及び構成

分野	プロジェクト名	研究内容	チーム員	協力
個別課題解決	リンドウこぶ症連携プロジェクト [H21~]	◎リンドウこぶ症対策に係る試験研究	環境部 技術部	・(財)岩手生物工学研究センター ・中央農業改良普及センター

(イ)今年度の取組概要

名称	検討内容	検討結果
リンドウこぶ症	●こぶ症の発生原因を解明するため、関連ウイルスの病原性について研究を進めている生工研との連携を図るため、連携プロジェクトを継続 なお、検討は生工研主催の部門別連携会議(病害部門)の中で実施し、研究の進捗状況等について情報共有を図った。	○計画 本年度の取組内容を確認(4月)。農研センターは接ぎ木伝染性の継続検討(生工研・野菜花き研)と、こぶ症発症株のサンプル提供を継続実施。生工研は GKaV の病原性・遺伝子解析を進める。 ○実績 接ぎ木における病徴再現には至らず。種子・花粉伝染性試験は失敗。こぶ症発症株の GKaV の塩基配列は遺伝的多様性に富み、地域間差が大きいことが明らかとなった(1月)。

## ウ 震災復旧・復興支援プロジェクトチーム

平成 23 年 3 月 11 日に発生した東日本大震災津波で甚大な被害を被った沿岸地域の農業の復旧・復興に向けた具体的な技術支援対策を実施するため、南部園芸研究室長をチーム長とし、水稻・野菜栽培、土壌肥料、農業経営など各専門分野の研究者 9 名をチーム員として、3 月 28 日に設置した。(その後、果樹担当者を追加し 11 名体制とした)

本プロジェクトチームは、大船渡、釜石地域の沿岸南部(宮古を一部含む)を対象に、①復旧に向けた取組支援として、津波により海水が流入した圃場の除塩対策や、②復興に向けた取組みとして、塩害土壌を直接用いない隔離床栽培など新たな野菜栽培技術の実証と複合経営モデルの確立に取り組んだ。

これら取り組みから得られた以下の内容をタイムリーな成果として現地に伝達した。

- ① 津波被災水田において栽培した水稻の事例解析:指導(技術部作物研究室)
- ② 津波被災水田(無作付け)での自然降雨による EC 推移:指導(環境部生産環境研究室)
- ③ 津波被災果樹園地におけるりんごの生育状況:指導(技術部果樹研究室)
- ④ 津波被災きゅうり圃場における除塩対策:指導(技術部南部園芸研究室)

## (4)その他

### ア インドネシア共和国岩手県友好親善使節団が来所

岩手県インドネシア友好協会 6 名及びインドネシア共和国南スラウエシ州ワジョー県知事等友好親善使節団 6 名が 9 月 27 日(火)にセンター及び農業科学博物館を視察した。ワジョー県知事や県農業所長は、センターではいちごの高設栽培装置やパプリカの栽培試験に、農業科学博物館では同県でも取組まれている養蚕関係の資料に関心が高かった。

### イ いわて発、「大豆小畦立て播種技術」が東北で 3,000ha を超える！

岩手県農業研究センターで開発された大豆の「小畦立て播種栽培技術」が、東北農政局の大豆 300A 技術普及面積調査によると、平成 22 年産で、岩手県 1,089ha、宮城県 989ha、山形県 704ha となっており、東北全体でも 3,398ha に達していることが明らかとなった。平成 23 年産では更なる面積の増加も見込まれる。「小畦立て播種栽培技術」は、代かきハローの爪配列を変更することで、小さい畦を立てながら播種を行う技術で、大きな馬力のトラクターを必要とせず、手軽に湿害軽減を図ることができることから、各地で普及面積が増加している。

「小畦立て播種栽培技術」については、平成 23 年度の試験研究成果の中で、大豆のみならず小麦、ナタネ等についてもマニュアル(冊子、動画)を作成し公表したことから、今後、更なる普及面積の増加が期待される。

## ウ 第 65 回北日本病害虫研究発表会を本県で開催

平成 24 年 2 月 16～17 日に岩手県民会館を会場に、「第 65 回北日本病害虫研究発表会」(主催:北日本病害虫研究会)が開催された。当研究発表会は、開催県を東北 6 県と北海道の持ち回りによって毎年開催されることとしており、本年度は当センター環境部病理昆虫研究室に開催地事務局を置いて開催したものである。

当日は、東北地方を中心に全国から 313 名が参加し、一般講演 41 課題、ポスター発表 48 課題に加え、「寒冷地の稲作害虫研究で感じたこと～その盛衰の不思議と発生生態の地域性～」と題して、元古川農業試験場場長の城所隆氏による特別講演が行われた。



### 3 研究室・課の動き

#### (1)プロジェクト推進室

昨年度まで、「水田農業」と「特裁・有機」の2室体制であったが、本年度からは1室となり、室長、水田農業チーム(研究員 4名)、技能員 1名の体制となり、水田農業の担い手支援のための生産技術の開発と実証に取り組んだ。

水稻の湛水直播栽培安定多収技術の開発、及び水田転換畑における麦・大豆の安定多収を実現する新技術等の開発を行い、これらを軸に、土地利用型作物の低コスト生産技術の確立と体系化に取り組んだ。

業務推進にあたっては、競争力・社会貢献力のある技術シーズの開発を目指し、現地実証試験やビジネスパートナーとのコミュニケーションの強化によって、生産現場に即した技術の実用化を図った。

##### <水稻直播栽培の安定多収技術の開発>

非主食用多収品種を用いた作溝同時直播装置による無カルパーコーティング播種について、実証試験を行いその実用性を明らかにした(研究成果:指導区分 無コーティング種子を使用した作溝同時湛水直播栽培の生育の特徴と管理のポイント)。併せて、作溝装置の低価格化をねらいとして、シンプルな構造への改良に取り組んだ。

このほか、直播での非主食用米の生育予測技術の開発、鉄コーティング直播等、水稻生産の低コスト化、軽労化、安定化に向けた試験研究を進めた。

##### <有機栽培支援技術の開発>

水稻有機栽培を支援する技術(機械除草)の開発では、現地(一関市大東町)有機栽培圃場を中心に、タイン型除草機及びブラウ耕の有効性について試験を実施し、有効性を確認すると共に問題点を抽出した。

##### <水田大豆・小麦の多収、低コスト技術の開発>

水田大豆の湿害を回避し多収化を図る小畦立て播種栽培を汎用的に適用する技術の開発を進めた。小麦及び大麦の密条小畦立て播種について現地実証試験(矢巾町、花巻市、奥州市)を実施し、好成績が得られた。技術の普及に向けて、機械メーカー等を対象にワークショップを開催し、意見交換を行った。

既存の大豆小畦立て播種栽培技術マニュアルに、新たな知見を加えた大豆、麦類、ソバ・ナタネについての「小畦立て播種栽培技術マニュアル」を作成した(研究成果:普及区分 小畦立て播種栽培技術マニュアル)。播種機の組み立てと調整について、より理解しやすいように動画も作成し、ホームページ上で公開した。

また、水稻乾田直播と大豆小畦立て播種栽培を組み合わせた輪作体系について、実規模現地実証(花巻市)を行い、3年間にわたりコストがほぼ半減する実証結果を得た。

このほか、大豆の機械除草技術の開発、釜石地域農業技術サポート会議からの要請による「小麦-ソバの二毛作体系実証」の小麦作における湿害軽減播種技術(密条用小畦立て播種)の実証等に取り組んだ。

#### (2)企画管理部

##### 研究企画室

農業試験研究のアクションプランである「農業研究センター試験研究推進計画」に基づき、研究員の円滑な試験研究の支援、生産者や県民に開かれた農業研究センターを目指し、以下の事項について重点的に取り組んだ。

##### <顧客起点の試験研究の推進>

顧客のニーズに対応した試験研究を推進するため、農業農村指導士との意見交換会(1月)や現地ふれあい農業研究センター(1月)及びセンター主催の成果発表会(2月)の場でアンケートを行い、顧客である農業者等のニーズを把握した。

試験研究推進計画については5月にローリングを行い内容の見直しをするとともに、30年度までの行程表を作成した。

試験研究推進の仕組みについては、意思決定のスピードアップを図るため検討プロセスの簡素化を図るとともに、顧客目線での助言を得るため、新たに試験研究推進アドバイザーを設置した。

センター運営や試験研究推進に対する外部評価を得るため、新たに6人の評価委員からなる機関評価委員会を設置した。12月に開催した評価委員会では今後の運営改善の参考となる多くの助言が得られた。

競争的研究資金応募のため、資金情報の提供や研究計画作成への助言を行うとともに、共同研究を推進するため、いわて産学官フォーラム等へ出展し、研究シーズを大学・企業等へ紹介した。

#### <アウトカムを意識した研究成果の普及と情報発信>

研究センターの業務内容や研究成果の周知を図るため、マスコミへのプレスリリースやホームページにより積極的な情報発信を行なった。プレスリリースは年間 41 回行い、マスコミでの報道件数は 79 件(前年 98 件)であった。ホームページでは年間 332 万件(前年 392 万件)の閲覧数があり、また、研究活動の現在(いま)を分かり易く伝える「らぼ・れたあ」をメールやホームページにより年間 70 回(前年 75 回)発信した。さらに、今年度より新たに Twitter による情報発信を開始し(正式運用開始:5 月 9 日)、ホームページの更新情報を中心にツイート数は 838、フォロワー数は 377 名を数えた。

県民に身近に感じてもらえるよう、センターを一般に開放する参観デーを開催するとともに一日子供農業研究員及び小・中・高・大学生の職場体験学習やインターンシップを受け入れた。

また、アスパラガス促成栽培技術や非主食用稲の直播技術等の研究成果に関する公開シンポジウムを開催するとともに、海水で浸水した農地の復旧対策や土壌を使用しないいちごの高設栽培技術を紹介する現地ふれあい研究センターを震災被災地である陸前高田市で開催した。

#### <専門知識と技術を有する人材育成>

研究員の資質向上については、「農業研究センター研究員育成プログラム」(平成 19 年 3 月策定)に基づき、センター研究員研修計画を策定し、依頼研究員(1 人)及び北東北三県研究職員交流(2 人)の派遣を支援するとともに、新たに制度化した可能性(FS)調査に3件5名を派遣した。

予算管理面では、総務課と経理事務検討チームを組織し、新たな予算の執行管理方法を構築するとともに、「不正防止計画」に基づいたモニタリングと内部監査の実施により適正な経理事務を支援した。また、研究備品の更新計画をローリングし、更新・整備を図った。

## 農業経営研究室

生産性の高い農業経営構造の確立に向け、①本県主要農産物の競争ポジショニングの提示、②主要な経営類型の経営管理方策の提示、③営農計画作成支援情報の提供、④本県農業構造の現状及び動向の提示を柱として業務に取り組んできた。

①本県主要農産物の競争ポジショニングの提示では、レタスの需要動向について東京都中央卸売市場の統計分析により、岩手県は市場シェア、伸び率ともに低い状態にあることを明らかにした。また、他県の産地調査により、確実な販売手段として相対取引の重要性が高いことと、出荷数量の確保のための生産者グループの育成が重要であることを示唆した。

②主要な経営類型の経営管理方策の提示では、大規模な経営を展開している水田農業経営体の取組内容を、経営の多角化、コスト低減、販売対応の 3 項目に分類・整理するとともに、経営展開に重要と思われる特徴的な取り組みについて販売事業、物財費の低減、労働費の低減、付加価値の向上、販売チャネルの開拓の 5 項目であることを示した。この成果については、平成 23 年度東北農業研究成果として採用された。

③営農計画作成支援情報の提供では、本庁関係各課等とともに農業技術体系の整備・拡充を図り「岩手県生産技術体系 2010 版」として提示するとともに、東日本大震災津波の復旧・復興に係る構想、計画等の策定を支援するため、現地において簡易な操作で経営計画(複数年に渡る生産計画、収支計画、資金計画)の試算が出来る「復興モデル作成支援シート」を開発し提供した。

④本県の農業構造の現状及び動向の提示では、2010 農林業センサスの公表を受けて農業構造の動向分析を進めている。平成 23 年度は研究成果として「岩手県における近年の農地流動化の特徴と地域性」について分析を進め、農業生産の主体が集落営農組織に大きく移行していることを明らかにした。また、施策立案に資する資料として「岩手県における農地所有主体の動向」「岩手県における経営耕地面積の動向」「岩手県における農地の”出し手”側の貸付・耕作放棄の動向」「岩手県における労働関係指標および資本関係指標の動向」について取りまとめ関係機関等に提示した。

### (3)技術部

#### 果樹研究室

果樹は、リンゴを主体に、ブドウ、西洋ナシ、オウトウ、ブルーベリーなどの樹種に係る試験を実施している。特に、早生から晩生までを網羅するオリジナルりんご品種の開発を掲げ、「つがる」に代わる早生品種と「ふじ」に匹敵する晩生種の開発を重点課題としている。また、温暖化によるリスクの解消、軽減を図るため、ツル割れや落葉遅延の原因解明を含め、凍霜害、裂果等のリスク対策の開発に努めると共に、防除薬剤の削減やドリフト防止など安全、安心に配慮した栽培技術確立に向けた課題を実施している。

リンゴの品種開発では、平成 22 年までに中晩生種での新たなオリジナル品種1品種開発を目標に掲げ、りんごオリジナル品種の4番目となる「岩手5号」を品種登録申請(2012,12,28)した他、残り2系統の最終評価を進めている。開花期及び葉に関する特性調査、果実肥大調査等をほぼ研究計画どおり実施できている。

ブドウの品種開発では、平成22年に登録申請した耐寒性が強く食味良好な赤色品種「エーデルロッセ」の短梢栽培への適応性について検討を開始したほか、オリジナル育成系統から2次選抜された岩手4号、5号の特性評価を進めているところ。

また、果樹の栽培技術の開発では、省力・低コスト・高品質安定生産技術や、安全・安心で環境に配慮した生産技術の確立に取り組み、今年度は以下の3つの研究成果を公表している。

- (1) S S用ドリフト低減型ノズル及び立木用ドリフト低減型防除機の特徴(追補)により、生研センターにより開発されたドリフト低減型ノズルと立木用ドリフト低減型防除機による防除効果は、薬剤到達性が高い樹では慣行S Sを利用した場合と同等の効果が認められることを明らかにした。
- (2) りんごに対する落果防止剤(1-ナフタレン酢酸ナトリウム)の使用法により、1-ナフタレン酢酸ナトリウム(商品名:ヒオモン水溶剤)を収穫開始予定の21~4日前に、1000倍で1回あるいは2000倍で2回散布することで、高い落果防止効果が認められることを明らかにした。
- (3) 津波被災農地におけるりんごの生育状況により、津波で浸水したりんご樹の生育は、速やかに排水がなされた場合、浸水による悪影響は認められないことを明らかにした。

この他、植物調節剤によるりんごの長期鮮度保持技術の確立に取り組み、県オリジナル品種をはじめとしたりんご主要品種における鮮度保持効果を明らかにした。

#### 作物研究室

昨年度までの「水稻栽培・育種チーム」と「畑作・種子生産チーム」を「水稻育種チーム」と「作物栽培・種子チーム」に改組した。

##### <水稻育種チーム>

水稻の奨励品種決定調査および水稻品種開発に取り組んだ。

##### (水稻品種)

奨励品種決定調査では、本調査において粳7品種・系統を供試した。現地調査は粳を12か所(うち大船渡と洋野は東日本大震災津波の影響で中止)、糯を2か所で検討した。本調査と予備調査結果を踏まえ、粳の早生で「ふ系233号」、中生で「越南239号」、「岩手107号」、晩生で「岩手105号」、「岩手108号」の5系統を24年度の本調査に供試することとした(試験研究成果書(行-03)、(行-04)、(行-05))。

「岩手91号」は、早生で食味が「いわてっこ」並から上回る良食味であり、アミロース含有率は9~12%と他の低アミロース品種に比べ年次変動が小さいことから、盛岡市以北や遠野地方、沿岸地域に適応し、冷凍米飯や加工品の開発に利用可能な品種として成果を提案した(普-02)。

「岩手酒98号」(2年目)については、22年度に引き続き、所内試験のほか現地圃場を設置して生産物で実規模の醸造試験を実施した結果、山田錦と比較して40%搗精での碎米が少なく、生成酒の官能試験結果も良好であったことから、研究成果をとりまとめ(普-03)、平成24年2月に奨励品種に編入した。

##### (水稻育種)

いわてブランド米品種開発事業(平成22年度まで「新しいわてオリジナル水稻品種開発事業」)に取り組んだ。

生産力検定予備試験は所内で30組合せ120系統、生産力検定本試験では所内で26組合せ50系統を供試し、各種特性検定試験の結果と合わせ、「岩手106号」(早生の中、いわてっこ並の良食味・玄米品質良好)、「岩手107号」(中生の中、あきたこまち並~やや優る良食味、収量はあきたこまちに優り、耐冷性極強)、「岩手108号」(晩生の中、ひとめぼれ並みの

良食味、収量はひとめぼれに優る)の3系統を選抜した(行-05)。

育種の効率化を図るため、(財)岩手生物工学研究センターと連携し、分子マーカーを用いた選抜技術の開発に取り組んだ。重要形質と連鎖したDNAマーカーの探索では、高度いもち病抵抗性、高度耐冷性など有用な形質と連鎖したものを選抜するため、RILsの養成と特性検定、低温発芽性に連鎖するDNAマーカーを利用した選抜ともし交雑を実施した。F<sub>4</sub>集団の個体選抜では、いもち病耐病性(*Pb1*、*Pi39*)、初期伸長性(*qSHL3-2*)を対象にマーカー選抜した。また、突然変異体と原品種との後代(F<sub>2</sub>集団)から選抜した個体のDNAをバルク化して配列情報を解読し、形質との連関を迅速に解析する手法(MutMap法)を(財)岩手生物工学研究センターと共同で開発した(*Nature Biotechnology* 30:174-178,2012)。

平成22年度から(独)東北農業研究センターおよび(地独)青森県産業技術センター農林総合研究所と共同で取り組んでいる「東北地域中北部向け多収品種の共同育成」は、23年度から農林水産省委託プロジェクトの「国産飼料(1系)コンソーシアム」の構成員として委託課題「11002c 多収でいもち病抵抗性・耐冷性・識別性を有する飼料用米品種の育成(東北地域中北部向けのいもち病抵抗性評価と多収性飼料用米系統の選抜)」で平成26年度まで取り組むこととしており、本年度は個体選抜で4組み合わせ100個体、単独系統で5組み合わせ15系統を選抜した。

また、農林水産省の実用技術開発事業では岩手県農業研究センターが代表機関となり、(地独)青森県産業技術センター農林総合研究所および(財)岩手生物工学研究センターと共同で「北東北地域向け非主食用多用途稲の直播品種及び直播栽培等関連技術の開発」に取り組み、平成24年度まで直播栽培で800kg/10aを実現する技術開発を目指すこととし、作物研究室は直播適性の高い多収品種の育成を担当し、23年度は移植栽培で800kg/10a超、湛水直播で700kg/10a超の系統「岩903」などを選抜した。

水稻の耐冷性と関連して、水管理の履歴、すなわち異常低温への感受性がある生育時期より以前の水温を制御し、頑強な植物体を育成し、冷害を最小限に抑える新たな技術シナリオを提案するため、岩手大学が代表機関となり「履歴水温管理による水稻の冷害軽減技術の開発」(農林水産省「新たな農林水産政策を推進する実用技術開発事業」)に平成21年度から取り組んだ結果、前歴期(穎花分化期～穂ばらみ期)の4週前から深水管理を実施し水温を上昇させることで、危険期に低温に遭遇しても冷害を低減できることを明らかとし、履歴水温効果を考慮した新たな栽培指針案を研究グループで考案した。

### <作物栽培・種子チーム>

水稻・畑作物(麦類・大豆)栽培試験、同作柄解析、同品種選定、主要農作物(水稻・小麦・大麦・大豆)原種・原々種生産に取り組んだ。

水稻栽培では、1名を東日本大震災津波の「震災復旧・復興支援チーム」の構成メンバーに配置し、津波で被災した水田で水稻を初めて栽培する場合の対策について研究成果をとりまとめた(指-01)。作況調査・作柄解析については、所内の作況試験データ(本部および県北研究所)・現地生育データ(農業改良普及センター)・気象データ(盛岡地方気象台)・土壤栄養(生産環境研究室)・病害虫(病理昆虫研究室)・作柄(東北農政局)・品質情報(同)を総合的に解析し、当年及び次年度以降の技術対策指導に供した(指-09)。また、過去の作況試験等のデータを整理・解析し、「岩手県における水稻主要品種の幼穂形成期追肥実施を7月上旬に判定する目安」を成果として提案した(指-07)。

麦類奨励品種決定調査では、小麦7品種・系統、大麦2系統を供試した。小麦では日本めん用として有望視していた「東北228号」(2年目)をナンブコムギ代替候補として耐病性・収量性・熟期を重点的に検討した結果、「有望」と判定した。

栽培関係では、県内の麦用除草剤の使用実態及び雑草発生傾向を把握するとともに効果的な除草剤の特徴を紹介し、発生草種に応じた使用推進を図るため、「麦の雑草防除の動向とイネ科雑草に有効な土壌処理剤の特性」を成果とした(指-11)。

また、普及員等指導者の技術指導に資するため、試験研究成果として「平成23年岩手県産小麦の生育経過の概要と特徴」(指-10)をとりまとめた。

特性検定では、昨年度まで指定試験地制度で実施していた麦類耐寒雪性を委託プロジェクト「水田底力プロ」の請け負いで実施した。大麦・小麦109品種・系統を供試した結果、小麦2系統を「強」と判定した。

#### (大豆)

大豆奨励品種決定調査では、4系統を供試し、「東北166号」を「多収、外観品質良」として「やや有望」と評価した。なお、本年度から指定試験地制度が廃止となったことから、22年度まで配布対象外であった当センターにおいて地域適応性検定試験相当の系統((独)東北農業研究センター育成「刈系統」)を奨励品種決定予備調査の位置づけで受け入れることとし、23年度は7系統を供試した。

また、普及員等指導者の技術指導に資するため、試験研究成果として「平成23年岩手県産大豆の生育経過の概要と特徴」(指-9)をとりまとめた。

立枯性病害抵抗性検定試験は、本年度から実用技術開発事業で実施することとなり、39系統・品種を供試し、3系統を「強」、6系統・品種を「やや強」と判定した。

#### (種子生産)

水稻種子生産(主要品種)では、原々種はうるち7品種(63系統)541kg、原種はうるち10品種(うち酒造好適米2品種、非主食用米2品種)18,040kg、もち2品種960kgを生産した。なお、原種のさらなる安定生産・供給を図るため、平成24年度からうるち早生品種「かけはし」は県北農業研究所で、もち中生品種「ヒメノモチ」は紫波町で生産することとした。

小麦では、原々種は「ゆきちから」を 240kg、原種は「ナンブコムギ」を 3,150kg、「ゆきちから」を 4,560kg 生産した。  
大豆原々種は「リュウホウ」を 455kg、原種は「ナンブシロメ」を 1,980kg 生産した。  
また、採種圃担当者(普及員、農協職員、種子部会生産者等)を対象とした研修会で講師として指導した。

## 野菜花き研究室

野菜花き研究室では、「農林水産技術立県いわて」の確立のため、以下の基本方針に沿って野菜、花きの作目毎2チーム体制で試験研究に取り組んでいる。(1)消費ニーズ及び将来の動向を見越した本県に適する花き(リンドウ)の新品種の育成・選抜、(2)顧客の視点に立った園芸品目の省力・低コスト生産技術の開発(3)生産の安定に直結する優良な原種苗等の正確かつ安定的な供給

### <野菜チーム>

野菜は、「顧客の視点に立った園芸品目の省力・低コスト生産技術の開発」を着実に推進するため、果菜類では、施設栽培トマト、パプリカの安定多収技術、露地ピーマン、ナスの効率的施肥法、きゅうりの土壤病害軽減技術等に取り組んでいる。茎葉菜類では、国内生産量がほとんどない 11 月の促成アスパラガス栽培技術の確立、ハクサイの冬～春生産を可能にする新品種・作型の開発に向けた課題を実施している。

このうちトマトでは、新たに「長期安定収穫が可能なトマト栽培技術の確立」を課題化し、低温期に生じる障害果の発生回避技術確立による初期生産の安定化及び土耕栽培での栄養・草勢診断に基づいた追肥方法や整枝・誘引方法の開発による草勢低下を防ぐ長期どり栽培技術の確立に取り組んでいる。

パプリカは、新産地の育成を目指し、本県の夏期冷涼な気象を活かした安定生産技術について研究開発を行ってきたが、新たに「収穫量の時期別変動が小さいパプリカ安定栽培技術の確立」を課題化した。これは実用技術開発事業で採択され、野菜茶業研究所をはじめ6研究機関共同研究課題である。当センターでは着果制限による収穫量調節技術を検討するとともに、収穫前および収穫後の果実の着色を促す方法について検討し、時期別変動の少ない安定した収量が得られる栽培法の確立に取り組んでいる。

きゅうりは、同事業で平成 22 年度に採択された「被害リスクに応じたウリ科野菜ホモプシス根腐病の総合的防除技術の確立」に取り組んでいる。未発病は場においても有効な対策として、指標植物を利用して、しおれをあらかじめ予測し、整枝管理と組み合わせることによって、収量を維持する可能性を明らかにした。土壌消毒によらない被害回避対策の1つとして、継続して技術確立に取り組んでいく。

ピーマンでは、中央農業総合研究センターの委託プロジェクトにより、低コスト養液土耕装置を利用した効率的施肥法に取り組んだ。適正なかん水管理により収量・品質向上と効率的な養液土耕による施肥量削減を目指して、所内試験の露地作型及び遠野市、九戸村の現地試験で目標を上回る収量を得た。

アスパラガスでは、実用技術開発事業で採択され、東北各県や大学など9組織と共同研究を行う「寒冷地特性を活用しアスパラガスの周年供給を可能とする高収益生産システムの確立」(H21～23)に取り組んだ。端境期となる 11 月の早期出荷実現に向け、研究成果「アスパラガス伏せ込み促成栽培 11 月生産技術」(指導)を公表した。また、最終年に当り研究成果を現地に普及するため、「元気です！東北のアスパラガス」シンポジウムを開催し、全国から 195 人が参加した。

この他、ハクサイでは、国独法、大学、民間種苗会社との共同研究課題「寒冷地における冬～春野菜生産を可能にする新品種・作型の開発」(H21～23)に取り組み、現時点の育成途中品種ではあるが、ハウスとべた掛けの利用により3月どりの作型と露地における5月、6月どりの作型を実証した。

### <花きチーム>

花きは、世界に発信する「リンドウ王国いわて」の確立に向けて、主産地としての優位性を維持するために、研究対象をリンドウに特化している。特に、市場の需要を満たし、さらには需要を作り出すためのオリジナル品種開発を最重点課題としている。

また、これまでに開発したオリジナル品種の原々種維持、原種増殖と種苗センターへの供給、生産性の高い省力・低コスト安定生産技術の確立、開花調節等応用化技術の確立に向けた課題を実施している。

リンドウの品種開発では、平成 25 年度までに切り花3品種の育成を目標に、有望3系統の評価に取り組んだ。その結果、10月上旬に開花する1系統を選定し、研究成果「10月上旬開花の切り花向け青色リンドウ F1 品種「いわて VLB-1 号」の育成」(普及)を公表した。今後、既存晩生品種「ジョバンニ」(9月中旬開花)と「アルビレオ」(10月上旬開花)の間を埋める品種として全県に作付け推進する振興方策と併せて、県の奨励品種検討会議で選定された。平成 24 年度に品種登録手続きを進め、種子については平成 25 年春からの供給開始を予定している。

なお、平成 23 年度に品種登録出願した「いわて夢のり」(いわて LB-2 号)は、H24.2.20 付けで品種登録出願が受理された。

平成 22 年度の終了課題である「純系リンドウとDNAマーカーを利用した品種育成技術の開発」で得られた成果を活用し、未受精胚珠の培養により得られた倍加半数体個体に由来する系統のうち 44 系統から自殖種子を採種し、純系を用いた F1 採種を目指して 27 系統を定植している。今後、特性調査を進めるとともに、供試系統を追加していく予定である。

温度・日長条件に対するりんどうの生育反応の解明に取り組み、早生品種における発蕾から開花までの日数の増加・減少の程度は、「発蕾から花卉抽出」、「花卉抽出から開花」の各生育ステージともに、期間平均気温が1℃上昇または下降するごとに、概ね1.5日増加または減少することを指標として判断できることを内容とする研究成果「リンドウ早生品種における発蕾から開花までの日数増加・減少程度の判断指標」(指導)を公表した。

岩手県オリジナル花き遺伝資源の超低温保存法の確立に取り組み、低温にあたったリンドウの株の越冬芽を用いることで、保存前の培養を要しない簡易な超低温保存法が可能であることを明らかにし「リンドウ越冬芽を用いた超低温保存法」(指導)として成果公表した。これによりリンドウ品種の原体や親系統の維持が可能となり、低温処理や前培養を省くことで、処理時間も5時間程度に短縮される。

リンドウ種子供給に関して、平成 21、22 年に発生した子房部位に輪紋が発現する症状は、平成 23 年は出ていない。花粉伝搬するウイルス症の可能性もあることから、対策として花粉の PCR 分析を行い問題のない花粉を使用した。また、原々種の安定採種、親株の大量増殖と供給に取り組み、ほぼ計画数量どおりの親株を種苗センターに供給した。これら採種親株の管理について、種苗センター現地ほ場を確認しながら、毎月関係機関で検討会を実施し安定供給を図ったことで、ほぼ需要をまかなう種子量を確保できた。

平成 23 年度の新規課題としては、リンドウ系統の早晩性による温度反応差を把握し、適正な増殖条件の解明とリンドウにおける赤色や青色 LED 光光源を利用した増殖率向上技術を検討を目的とした「早晩性の違いによるリンドウ組織培養の増殖条件の確立」(H23~25)に着手した。初年度として、3 対程度の展葉個体、増殖における明確な光の違いは見られなかったが、赤色と青色の波長の違いによる生育差を確認した。

この他、オリジナル極早生品種の株養成技術の開発など、現場からの要望課題について、地域希望農業技術サポート会議と連携した取り組みを行っている。

## 南部園芸研究室

南部園芸研究室は3月11日に発生した震災により研究施設等が全壊・流失したため、試験研究課題を縮小し、平成23年度は本部で研究を行った。夏秋どり作型に適する品種比較試験では、夏季高温の影響で果実品質が低下(小玉傾向)し、目標収量に達しなかったが、「すずあかね」「エッチェス138」はクラウン冷却により収量の向上を確認した(公益財団法人さんりく基金採択課題)。実用技術開発事業課題「涼しい夏を活かす!国産夏秋イチゴ安定多収技術の開発・実証」では、改良型短日処理を実施したところ、昨年よりも増収傾向であった。また、栽培槽の改良及びミスト噴霧により夏季の培地温・気温の上昇が抑制されることを確認した。木質系資源の有効利用技術の開発では、共同研究先である石村工業㈱が津波で被災したため、閉鎖型高設栽培システムの局所温度管理法について電熱温床線を利用し試験を実施した。花壇苗の高品質化を目指す試験では、パンジー等を供試品目として7月下旬から試験に取り組み、栽培時のかん水間隔や出荷直前の前処理では実用的な耐乾性を得るまでには至らなかった。かん水間隔は隔日より毎日の方がかん水停止後に萎れにくい傾向であり、次年度詳細を確認予定である。

### 農業研究センター震災復旧・復興支援プロジェクトチームの設置

3月11日に発生した東日本大地震津波で甚大な被害を被った沿岸地域の農業の復旧・復興に向けた具体的な技術支援対策を実施するため、南部園芸研究室長をチーム長とし、水稲・野菜栽培、土壌肥料、農業経営など各専門分野の研究員9名をチーム員として、3月28日に設置した。(その後、果樹担当研究員を追加し11名体制とした)

本プロジェクトチームは、大船渡、釜石地域の沿岸南部(宮古を一部含む)を対象に、①復旧に向けた取組支援として、津波により海水が流入した圃場の除塩対策、②復興に向けた取組みとして、塩害土壌を直接用いない隔離床栽培など新たな野菜栽培技術の実証と複合経営モデルの確立に取り組んだ。

これら取り組みから得られた以下の内容をタイムリーな成果として現地に伝達した。

- ① 津波被災水田において栽培した水稲の事例解析:指導(技術部作物研究室)
- ② 津波被災水田(無作付け)での自然降雨によるEC推移:指導(環境部生産環境研究室)
- ③ 津波被災果樹園地におけるりんごの生育状況:指導(技術部果樹研究室)
- ④ 津波被災きゅうり圃場における除塩対策:指導(技術部南部園芸研究室)

また、一昨年研究成果として取りまとめたイチゴの低コストな高設栽培システムを企業との共同研究により製品化に取り組み、被災地の園芸復興モデルの一環として導入した。

## (4) 環境部

### 生産環境研究室

生産環境研究室では、安全で、安心できる農産物の安定的な生産・供給や環境に配慮した農業の振興を図り、岩手ならではの産地づくりに寄与するため、①環境への負荷軽減に配慮した持続的な土壌・施肥管理技術、②消費者の多様なニーズに対応した高品質農産物の安定供給技術を柱とした研究課題に取り組んでいる。

今年度の取組みの成果としては、環境に配慮した施肥管理技術として、①「特別栽培米専用肥料の連用による収量・品質および地力への影響」を明らかにするとともに、②「園芸畑作施肥設計支援シート」を作成、公表した。また、りんどうの施肥試験を通じ、りんどうの株の生理生態を調査し、③「エゾリンドウの塊茎と芽序に着目した株分解法」を開発。その手法を活用することにより、④「エゾリンドウの主塊茎と副塊茎に着目した株の経年推移」を明らかにした。その他には、県内耕地土壌の管理実態調査(S54～)や温室効果ガス情報調査、鶏ふんの利用拡大に向けた尿素添加高窒素鶏ふん堆肥の製造試験、トマトの適正な施肥管理のための試験や食の安全確保のための野菜類における食中毒菌の検査手法試験等に引き続き取り組んだ。

また、今年度は、東日本大震災津波に伴い、沿岸地域では、農地が津波により大規模な被害を受けたことから、農研センターでは「震災復旧・復興支援プロジェクトチーム」を設置し、当研究室から、副チーム長(土壌対策グループ)およびチーム員として参画した。塩害対策として被災農地のモニタリング調査(4月～11月)を行い、研究成果「津波被災水田(無作付け)での自然降雨によるEC推移」(指導)として公表した。

一方、大震災により発生した東京電力福島第一原子力発電所の事故によって、県南部を中心に放射性物質による被害を受けたことから、平成23年9月26日に農業研究センターと中央農業改良普及センター(県域グループ)職員からなる「放射性物質に係る農業技術対策調査検討チーム」を設置し、環境部長(チーム長)、室長および研究員2名がチームに参画、土壌や農作物における放射性物質の実態調査等に取り組んだ。調査結果は、「放射性物質影響防止のための農作物生産管理マニュアル」として取りまとめ、農業普及技術課より公表された(平成24年2月)。

さらに、農林水産省による農地土壌の放射性物質濃度分布図の作成のため、当研究室と中央農業改良普及センター(県域グループ)及び県北研究所が中心となって、県内160地点での土壌サンプリング(10月～11月)を行った。調査結果は、農林水産省より「農地土壌の放射性物質濃度分布図」として公表された(平成24年3月)。

### 病理昆虫研究室

持続性が高く安定性のある農業生産の展開を目指した病害虫制御技術の確立を進めるため、環境負荷軽減を目指し、効率的な化学的病害虫防除技術、生物的防除など環境にやさしい病害虫防除技術及び病害虫総合管理技術(I・P・M)の開発に取り組んだ。

水稲分野では、アカスジカスミカメの放飼試験により斑点米の被害解析を行い、本種が斑点米を形成させる時期は、水稲の穂揃期7日後より穂揃期35日後まで長期に及ぶことを明らかにし、研究成果(指導)として取りまとめるとともに学会で発表した(第56回応用動物昆虫学会)。また、3カ年にわたり葉いもち対象箱施用粒剤の減量試験に取り組み、標準量に対して30g/箱に減量した場合の葉いもち、穂いもちの発生リスク評価を行った結果、葉いもちの発病株率は約1.3倍、穂いもちの発病率率は約1.5倍となる可能性が高いことを明らかにし、その成果を学会で発表した(第65回北日本病害虫研究発表会)。一方、穂いもち予防剤の処理を広域的に省略した地域と省略していない地域でいもち病の発生実態調査を行い、両者の発生に差がないことを明らかにし、単年度の結果ではあるがその結果を学会で発表した(第65回北日本病害虫研究発表会)。

畑作分野では、ダイズ害虫マメシクイガに対する各種薬剤の防除効果を明らかにし、その成果を学会で発表した(第65回北日本病害虫研究発表会)。

野菜分野では、キュウリの難防除土壌病害であるキュウリホモプシス根腐病の防除対策として、転炉スラグを使用して土壌pHを7.5程度に改良すれば有効であることを明らかにした(研究成果・指導)。また、ホウレンソウの病害である白斑病に効果のある薬剤の検討を行い、その結果を防除指針に反映するとともに、学会で発表した(第65回北日本病害虫研究発表会)。

果樹分野では、リンゴ害虫ハダニ類の土着天敵であるカブリダニ類について2カ年にわたり調査した結果、県内リンゴ園で生息するカブリダニ類はケナガカブリダニやツツウカブリダニであることを明らかにした(研究成果・指導)。

花き分野では、リンドウの重要害虫リンドウホソハマキに対して有効な薬剤を明らかにし、その成果を学会で発表するとともに(第65回北日本病害虫研究発表会)、同害虫の防除技術確立を目指した新たな課題を立ち上げた。

なお、学会等には積極的に参加し、前記を含み日本植物病理学会で2件(東北部会含む)、日本応用動物昆虫学会では2件、北日本病害虫研究会では5件について口頭又はポスター発表し、本県の成果をPRした。

## (5) 病害虫防除部

### 病害虫防除課

#### (病害虫発生予察)

水稲、麦類、大豆、りんご、ぶどう、きゅうり、キャベツ、ねぎ、りんどうを対象として発生予察調査等に基づき、7回の定期情報に加え、警報を1回（水稲：斑点米カメムシ類）、注意報を2回（水稲：斑点米カメムシ類、りんどう：リンドウホソハマキ）、特殊報を3回（クロスグリ：スグリコスカシバ、りんご・日本なし：ヒメボクトウ、りんどう：キオビトガリメイガ）を発表した。また、防除速報を9回（水稲：斑点米カメムシ2回、取り置き苗処分、小麦：赤かび病、大豆等：ネキリムシ類、りんご：モニリア病、ピーマン：タバコガ類、野菜類等：オオタバコガ、タバコガ類）発行した。これらの情報については、メール、印刷物のほか、いわてアグリベンチャーネットにも掲載し、関係機関・団体、共同防除組合等に提供した。

#### (病害虫防除指導)

効率的な薬剤防除並びに生物的防除法、耕種の防除法および物理的防除法を組み入れた総合防除の地域への定着を図り、環境に配慮した持続的農業を推進するため、病害虫防除員、関係機関・団体と緊密な連携をとりながら、「市町村病害虫防除計画」に基づいた防除の実施を推進した。

水稲においては、各地方の病害虫防除員協議会および病害虫防除連絡協議会、市町村病害虫防除協議会、稲作部会等が中心となり取り組んでいる地域の一斉点検調査とその結果に基づく防除指導に対し、随時支援・指導を行った。また、巡回調査地点の農家92件の防除実績等を収集し、発生要因解析を行い、次年度以降の防除指導の資とした。

園芸作物では、りんごについて地域の防除暦作成にあたって普及センター担当者等とともに検討を行った。また、県内69の共同防除組合等から防除実績を収集、解析して次年度の防除計画の改善に資した。野菜では24件、りんどうは13件の農家の防除実績を収集、同様に次年度の防除計画に資した。

病害虫防除員に対しては、上記の調査活動や防除指導への支援の他、植物防疫実績検討会および諸会議、研修会等を通じて情報の共有と資質の向上を図った。

重要性が増してきている病害虫診断は、118件の依頼に対応した。作物別の内訳は、50%以上が野菜で、次に花き、果樹の順であり、原因別には、病害と虫害がそれぞれ30%程で、次に不明、生理障害・薬害の順であった。

#### (農薬適正使用指導)

農薬の適正な販売や使用を徹底するために、農薬の販売者や使用者に対する研修会を関係機関・団体と共同で開催した（7月14日、参加者223名）。また、農薬取締法に基づき、農薬販売者への立入検査を実施するとともに（391件）、農薬使用基準違反のあった使用者に対し指導を行った（2件）。

## (6) 畜産研究所

### 家畜育種研究室

#### <家畜育種>

本県の気候・風土に適し、高品質・低コスト生産が可能となる優良種畜の作出(造成)や飼養管理向上のための技術確立に取り組んでいる。

(肉用牛) 日本短角種雄牛造成はH22直接検定15頭(平均DG1.43kg)から、現場後代検定用6頭(選抜率40%、平均DG1.43kg)を選抜した。現場後代検定はH18交配種雄牛「松富」、「花蛇」、「萩川」、「民姫」、「慶一」の成績を公表した。また、遺伝的能力の推定及び近交係数データベースを更新し「短角牛2011 IN IWATE」として地域機関および団体に情報提供した。肥育試験ではトウモロコシWCSと大豆WCS組合せによりトウモロコシWCSとフスマ給与と同等の発育と枝肉成績が得られた。

黒毛和種の肥育試験では牛肉中脂肪酸の不飽和度向上のため膨潤玄米の給与試験を現地実証中だが、肉用牛出荷自粛規制、出荷停止により脂肪酸測定に遅れを生じた。尿石症予防の飼料給与試験では可溶性蛋白質と非繊維性炭水化物の比率が低い場合に発症することを確認した。

(養豚) 現地農場と提携したパークシャー種豚群の遺伝的改良、地域未利用資源の飼料としての活用等に取り組んでおり、パークシャー種の配合飼料中の輸入トウモロコシを飼料米で全量代替した場合に飼料要求率が良くなる傾向が見られた。

(養鶏) 3月の震災の影響により飼料供給や「南部かしわ」雛の需要が一時停止した影響を受け、一部試験計画の遅延や各種系統の生産計画見直しを余儀なくされたが、5月中旬には初生雛の供給を再開した。南部かしわの止め雄として利用する新軍鶏系統選抜にも孵化時期の遅れによる影響が生じた。

## ＜家畜工学＞

牛の改良・増殖促進のために胚移植技術および遺伝子解析技術等のバイオテクノロジーに関する課題について基礎研究と応用化研究に取り組み、成果の普及、啓発に努めた。

（繁殖）胚移植可能時期の解明により受胎牛の効率的利用を目的に持続性黄体ホルモン放出剤を発情後の早い時期に膈内留置し、受胎性を確認した。留置した数例に受胎を確認しており、受胎機構解明に繋がる可能性を探っている。

（遺伝子解析）種雄牛「菊福秀」産子の QTL 解析から BMSNo. に影響する遺伝子座が第 17 番染色体に位置し、後継候補牛選抜に利用可能であることを提示した。また、枝肉重量に関連する NCAPG 遺伝子の 1 塩基多型解析から「菊安舞鶴」6 番染色体上の枝肉重量 QTL は NCAPG 遺伝子が原因した擬陽性であることが判明した。

黒毛和種の県枝肉共進会出品牛について脂肪酸組成と関連遺伝子分布状況等について調査を実施した。

## 家畜飼養・飼料研究室

当研究室では、乳用牛の飼養管理技術の確立と良質粗飼料の効率的な生産・調製技術開発に取り組んでいる。

### ＜飼養＞

「岩手県酪農・肉用牛生産近代化計画」を基本に、生産者ニーズに応えるため、家畜生理と調和した高能力牛の飼養管理技術の確立と省力管理システム、自然環境と調和したゆとりのある酪農経営を構築するための技術開発に取り組んでいる。

搾乳用 TMR とグラスサイレージ等を併給 (TDN65%、CP14%に調製) することにより、育成前期・中期において良好な発育を確保できた。また、規格外大豆の飼料利用を検討した結果、産乳成績を低下させずに大豆粕 CP の 50% を規格外大豆で代替できた。

新たに、光触媒 (酸化チタン) を用いた換気装置システムを明らかにして畜舎環境改善を図るため、「子牛の群飼下における畜舎内環境改善方法の確立」に着手した。

### ＜飼料＞

本県の畜産を安定的に推進するため、良質で効率的な自給粗飼料の生産技術の開発に取り組んでいる。

ライ麦＋トウモロコシの不耕起栽培体系の確立を目指した試験では、冬作ライ麦を出穂始期と出穂期に刈取した場合の冬作ライ麦と後作トウモロコシの収量について調査し、冬作ライ麦の最適刈取時期は出穂期であることを明らかにした。

飼料用トウモロコシ市販品種のうち、極早生 4 品種、早生 8 品種、中生 5 品種、晩生 5 品種の生育特性、耐病性、収量性等について比較し、これらを総合的に判断して、早生の中では「ロイヤルデント TH680」を推奨品種として提案した。

## 外山畜産研究室

中山間地域の草地資源を最大限に活用した肉用牛生産基盤の拡大を推進するため、日本短角種の周年出荷へ向けた飼養管理技術の確立、草地管理技術の確立のためのリモートセンシング、GPS の活用、作溝式播種機を活用した簡易な放牧地更新技術、外部寄生虫 (アブ) の駆除技術に取り組んでいる。

日本短角種の周年出荷へ向けた飼養管理技術では、舎飼い期に経産牛に種雄牛を自然交配させることにより早期分娩させることが出来た。リモートセンシングについては衛星データと実測データ (雑草被度) の関連性が明らかになった。GPS については、雑草防除作業精度の向上と波及地における薬液散布漏れが低減されることが明らかになった。作溝式播種機を活用した簡易な放牧地更新技術では、放牧地において前植生の草丈調整の必要のない早春時期に牧草追播処理を行う場合、播種後の前植生が 30cm 以内で入牧することでその後の定着率を維持できることが明らかになった。外部寄生虫 (アブ) の駆除技術では、ピレスロイド系塗布剤の殺虫効果は確認できたものの、誘因技術としてのパウチサイレージを活用した二酸化炭素発生装置では、誘因効果は見られず安価で省力的な誘因方法を明らかにすることはできなかった。

## 種山畜産研究室

黒毛和種改良事業 (いわて和牛改良増殖対策事業) の一環として、県内産黒毛和種種雄牛候補 11 頭を選定するとともに畜産研究所生産の受精卵雄産子等 3 頭計 14 頭の直接検定を実施し、後代検定を実施する候補種雄牛として 5 頭 (「優成」「平安雪」「百合茂勝」「晴奈」「照也」) を選抜した。また、平成 19 年度の直接検定により選抜された「桜銀次」「雪乃花」「王道気高」「大和魂」「東重勝」の 5 種雄牛について現場後代検定を実施し、うち成績が優れた「雪乃花」を新たに基幹種雄牛として選抜した。

## (7) 県北農業研究所

### 園芸研究室

県北地域における野菜、花きの地域適応性技術の確立及び開発技術の現地実証に関する研究を実施した。

#### 1) ほうれんそう産地における夏期増収技術の確立

① 雨よけほうれんそうの土壌水分実態を、八幡平農業改良普及センター管内3戸(ハウス)、久慈農業改良普及センター管内3戸(ハウス)の計6戸について、水分センサーを用いて測定しデータを蓄積した。

#### 2) 国産アスパラガスの周年生産技術の確立

① レタス連作ほ場への促成アスパラガスの根株栽培による輪作や伏せ込み終了後の根株をレタス連作ほ場にすき込むことによるネグサレセンチュウの密度低減により、レタス生育の向上が図れることを研究成果(指導)として公表した。

② 促成アスパラガスの収益性向上のための大株養成について、「深耕ロータリによる土壌膨軟化」、「大畦による根の伸長容積確保」、「フラワーネット等での倒伏防止による斑点病軽減」について、現地での実用に向けた実証を行った。

#### 3) 生物多様性調査を場内キャベツ圃場で実施し、調査結果は本部でとりまとめた。

#### 4) 温暖化に伴う高温によるほうれんそうの生育への影響について、生育予測モデルの適合性を検証した。

#### 5) 県北地域におけるりんどうの収益向上技術の確立

① 露地でのトンネル栽培による「いわて夢あおい」(極々早生6)の作期前進をはかる研究を行った。

② りんどう有望系統の現地適応性について研究を行った。

③ ハウス栽培における病害虫防除法について研究を行った。

### 作物研究室

「いわて雑穀生産・販売戦略(H21.3 策定)」の戦略目標「高品質な雑穀の安定生産」、「化学合成農薬や化学肥料を用いない栽培技術の確立」を達成するため、オリジナル品種の開発と持続的安定生産技術の確立に取り組むとともに、雑穀の原種生産を開始した。

雑穀オリジナル品種の開発については、アワ F6 世代 2 系統の黄色粒多収糯系統、キビ F5 世代 6 系統の濃顕色大粒糯系統を選抜した。また、タカキビ在来系統の形態特性を明らかにし、研究成果「岩手県遺伝資源データベースシステム」(指導)を公表した。

畑輪作技術の確立については、① 輪作年数を重ねるとさらに雑草が増え、前作と同じく移植栽培することで除草時期が早いほど雑草は少なく、雑草量が多いほど減収する。② アワ、キビ、タカキビは株間距離が狭いほど多収となり、エゴマは広いほど収量が多い。③ 移植時期と苗質の違いにより収量の多少があり、品目で反応が異なることなどを明らかにし、研究成果「雑穀の移植栽培による抑草効果」(指導)を公表した。また、機械移植栽培の開発では、みのるポット移植機による機械移植は、植え付け精度が劣り、苗及び機械の改良が必要であることから、次年度、新規課題で対応することとした。

施肥体系の確立については、ヒエ、タカキビ、エゴマの施肥量による生育・収量の差が明らかになり、キビの施肥量による生育・収量・養分吸収量のデータが蓄積された。

化学合成農薬を用いない病害虫防除技術については、① 水田ヒエのイネヨトウに対する B T 剤の越冬世代羽化揃期を起点とする 3 回散布と 2 回散布は同等の効果があり、② アワ温湯種子消毒の圃場試験では、しらが病に対する効果が確認できなかったが、室内での発病再現を確認し、③ ヒエ温湯種子消毒の圃場試験では、黒穂病に対する効果が確認できなかったことなど明らかにし、研究成果「雑穀品目別主要病害虫の被害様相と発生時期」(指導)を公表した。

雑穀の原種生産については、種苗センターに雑穀原種を6品種・系統、計7.3kg供給するとともに、1系統の原種を採種した。

今年度、東日本大震災津波の被災農地の除塩対策について、宮古以北の未作付け水田の土壌ECの推移及び作付け水稻の生育・収量等を追跡調査し、研究成果は本部との共同により、土壌及び水稻関係2件を公表した。

#### 4 平成23年度試験研究課題

##### (1) 細目課題分類

研究推進計画分野 担当部所	総課題数	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19
		農業構造・経営管理	水稲	畑作物	果樹	野菜	花き	作物バイオテクノロジー	作業技術	環境保全	土壌作物栄養	病害虫制御	食の安全	乳用牛	肉用牛	中小家畜(豚・鶏)	草地・飼料作物	家畜バイオテクノロジー	畜産環境	県北農業振興
<b>プロジェクト推進室</b>	14		3						9		2									
<b>企画管理部</b>	4	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
農業経営研究室	4	4																		
<b>技術部</b>	123	0	36	11	29	20	13	2	1	6	4	1	0	0	0	0	0	0	0	0
果樹研究室	39				29	1	1			6	1	1								
作物研究室	48		35	11					1		1									
野菜花き研究室	25					11	11	2			1									
南部園芸研究室	11		1			8	1				1									
<b>環境部</b>	28	0	0	0	1	1	0	0	0	2	9	14	1	0	0	0	0	0	0	0
生産環境研究室	12					1				1	9		1							
病理昆虫研究室	16				1					1		14								
<b>畜産研究所</b>	31	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	8	7	7	5	1	0
家畜育種研究室	13														4	5		4		
家畜飼養・飼料研究室	10													3		2	3	1	1	
外山畜産研究室	5														1		4			
種山畜産研究室	3														3					
<b>県北農業研究所</b>	30	0	5	4	0	2	0	0	0	0	2	1	0	0	0	0	0	0	0	16
園芸研究室	13					2					1									10
作物研究室	17		5	4							1	1								6
<b>総計</b>	230	4	44	15	30	23	13	2	10	8	17	16	1	3	8	7	7	5	1	16

※複数の分野に再掲されている研究課題はそれぞれに計上。

複数の担当研究室がある研究課題はそれぞれに計上。

(2) 試験研究課題一覧

主査研究室	連番	(課題番号)課題名	開始	終了	予算区分	担当研究室
<b>【プロジェクト推進室】</b>						
プロジェクト	1	(H19-29)水稲乾田直播と大豆浅耕小畦立て栽培技術による輪作体系の確立と実証	19	23	独法委託	プロジェクト 農業経営 生産環境
プロジェクト		(H19-29-3000)1年1作輪作体系の現地実証	19	23	独法委託	プロジェクト 農業経営 生産環境
プロジェクト	2	(H21-01)水田における小麦の湿害軽減播種技術の開発	21	23	県単研究	プロジェクト
プロジェクト	3	(H21-18)寒冷地におけるナタネ生産現地実証試験	21	23	独法委託	プロジェクト
プロジェクト	4	(H23-01)水田における土地利用型作物の除草機を中心とした除草技術の確立	23	25	独法委託	プロジェクト
プロジェクト		(H23-01-1000)水稲有機栽培における除草機を中心とした栽培管理技術の評価	23	25	独法委託	プロジェクト
プロジェクト		(H23-01-2000)水田転作における大豆の除草機を中心とした除草技術の確立	23	25	県単研究	プロジェクト
<b>【農業経営研究室】</b>						
農業経営	6	(H21-03)先進的経営体のビジネスモデルと経営管理方策の解明	21	23	県単研究	農業経営
農業経営	7	(H21-02)本県主要農産物の需要・競争構造の分析	21	25	県単研究	農業経営
農業経営	8	(H21-04)農業技術体系データベースの整備・拡充	21	25	県単研究	農業経営
農業経営	9	(H23-02)2010年農林業センサスを活用した農業構造動向分析	23	25	県単研究	農業経営
<b>【作物研究室】</b>						
作物(技術)	10	(803)水稲奨励品種決定調査	14	25	県単採種	作物(技術)
作物(技術)		(803-1000)予備調査	14	25	県単採種	作物(技術)
作物(技術)		(803-1100)中晩生系統	14	25	県単採種	作物(技術)
作物(技術)		(803-1200)早生系統	14	25	県単採種	作物(県北)
作物(技術)		(803-2000)本調査	14	25	県単採種	作物(技術)
作物(技術)		(803-2100)中晩生系統	14	25	県単採種	作物(技術)
作物(技術)		(803-2200)早生系統	14	25	県単採種	作物(県北)
作物(技術)		(803-3000)現地調査	14	25	県単採種	作物(技術)
作物(技術)	11	(805)水稲作況調査と作柄成立要因の解析	14	25	県単研究	作物(技術)
作物(技術)		(805-1000)水稲作況調査	14	25	県単研究	作物(技術)
作物(技術)		(805-1100)県央・県南地域	14	25	県単研究	作物(技術)
作物(技術)		(805-1200)県北地域	14	25	県単研究	作物(県北)
作物(技術)		(805-2000)水稲優良品種の気象反応試験	14	25	県単研究	作物(技術)
作物(技術)		(805-2100)県央・県南地域	14	25	県単研究	作物(技術)
作物(技術)		(805-2200)県北地域	14	25	県単研究	作物(県北)
作物(技術)		(805-3000)水稲作柄成立要因の解析	14	25	県単研究	作物(技術)
作物(技術)	12	(61)水稲原々種生産	S29	25	県単採種	作物(技術)
作物(技術)	13	(62)水稲原種生産	S29	25	県単採種	作物(技術)
作物(技術)	14	(807)水田雑草の効果的防除技術の開発	14	25	民間委託	作物(技術)
作物(技術)		(807-1000)水稲作用除草剤第2次適用性試験	14	25	民間委託	作物(技術)
作物(技術)		(807-1100)県央・県南地域	14	25	民間委託	作物(技術)
作物(技術)		(807-1200)県北地域	14	25	民間委託	作物(県北)

凡 例

- ・主査: 小課題の主査研究室
- ・No. : 小課題の連番、課題毎の固有番号はそれぞれの課題名の先頭に( )表記
- ・課題: (課題番号)課題名を記載、小課題は太字表示  
※ 課題番号: 細目課題は1000番代表記、細目1～4まで各桁毎の表記
- ・開始・終了: 課題の実施～終了年数
- ・予算区分: 国庫補助; 国庫補助事業、国庫委託; 国庫委託事業、独法委託; 独法委託事業、民間委託; 民間委託事業  
令達; 令達予算研究、県単研究; 県単予算予算、県単採種; 主要農作物採種管理費
- ・担当: 小課題、細目課題の担当研究室名

主査 研究室	連番	(課題番号)課題名	開始	終了	予算区分	担当研究室
作物(技術)	15	(H22-rb01)主食用米等品種の育成(コシヒカリを超える米)	S59	25	令達	作物(技術)
作物(技術)		(H22-rb01-1000)交配母本評価と交配	S63	25	令達	作物(技術)
作物(技術)		(H22-rb01-2000)初期世代養成	S63	25	令達	作物(技術)
作物(技術)		(H22-rb01-3000)個体選抜	S63	25	令達	作物(技術)
作物(技術)		(H22-rb01-4000)系統選抜	S63	25	令達	作物(技術)
作物(技術)		(H22-rb01-4100)単独系統	S63	25	令達	作物(技術)
作物(技術)		(H22-rb01-4200)生産力検定予備試験系統群	S63	25	令達	作物(技術)
作物(技術)		(H22-rb01-4300)生産力検定本試験系統群	S63	25	令達	作物(技術)
作物(技術)		(H22-rb01-5000)生産力検定	S63	25	令達	作物(技術)
作物(技術)		(H22-rb01-5100)生産力検定予備試験	S63	25	令達	作物(技術)
作物(技術)		(H22-rb01-5200)生産力検定本試験	S63	25	令達	作物(技術)
作物(技術)		(H22-rb01-5300)生産力検定試験早生系統	S63	25	令達	作物(技術)
作物(技術)		(H22-rb01-6000)特性検定試験	S63	25	令達	作物(技術)
作物(技術)		(H22-rb01-6100)いもち病真性抵抗性遺伝子型推定	S63	25	令達	作物(技術)
作物(技術)		(H22-rb01-6200)葉いもち圃場抵抗性検定試験	S63	25	令達	作物(技術)
作物(技術)		(H22-rb01-6300)穂いもち圃場抵抗性検定試験	S63	25	令達	作物(技術)
作物(技術)		(H22-rb01-6400)耐冷性検定試験(育成系統)	S63	25	令達	作物(技術)
作物(技術)		(H22-rb01-6500)食味官能試験	S63	25	令達	作物(技術)
作物(技術)		(H22-rb01-6600)食味関連成分分析及び物性試験	S63	25	令達	作物(技術)
作物(技術)		(H22-rb01-6700)穂発芽検定試験	S63	25	令達	作物(技術)
作物(技術)		(H22-rb01-6800)直播適性	S63	25	令達	作物(技術)
作物(技術)		(H22-rb01-7000)DNAマーカー等先端技術利用	S63	25	令達	作物(技術)
作物(技術)		(H22-rb01-8000)育成系統採種	S63	25	令達	作物(技術)
作物(技術)	16	(H22-rb02)醸造用水稲品種の育成(山田錦を超える米)	S63	25	令達	作物(技術)
作物(技術)		(H22-rb02-1000)交配母本評価と交配	S63	25	令達	作物(技術)
作物(技術)		(H22-rb02-2000)初期世代養成	S63	25	令達	作物(技術)
作物(技術)		(H22-rb02-3000)個体選抜	S63	25	令達	作物(技術)
作物(技術)		(H22-rb02-4000)系統選抜	S63	25	令達	作物(技術)
作物(技術)		(H22-rb02-4100)単独系統	S63	25	令達	作物(技術)
作物(技術)		(H22-rb02-4200)生産力検定予備試験系統群	S63	25	令達	作物(技術)
作物(技術)		(H22-rb02-4300)生産力検定本試験系統群	S63	25	令達	作物(技術)
作物(技術)		(H22-rb02-5000)生産力検定	S63	25	令達	作物(技術)
作物(技術)		(H22-rb02-5100)生産力検定予備試験	S63	25	令達	作物(技術)
作物(技術)		(H22-rb02-5200)生産力検定本試験	S63	25	令達	作物(技術)
作物(技術)		(H22-rb02-5300)生産力検定試験早生系統	S63	25	令達	作物(技術)
作物(技術)		(H22-rb02-6000)特性検定試験	S63	25	令達	作物(技術)
作物(技術)		(H22-rb02-6100)いもち病真性抵抗性遺伝子型推定	S63	25	令達	作物(技術)
作物(技術)		(H22-rb02-6200)葉いもち圃場抵抗性検定試験	S63	25	令達	作物(技術)
作物(技術)		(H22-rb02-6300)穂いもち圃場抵抗性検定試験	S63	25	令達	作物(技術)
作物(技術)		(H22-rb02-6400)耐冷性検定試験(育成系統)	S63	25	令達	作物(技術)
作物(技術)		(H22-rb02-6500)食味官能試験	S63	25	令達	作物(技術)
作物(技術)		(H22-rb02-6600)食味関連成分分析及び物性試験	S63	25	令達	作物(技術)
作物(技術)		(H22-rb02-6700)穂発芽検定試験	S63	25	令達	作物(技術)
作物(技術)		(H22-rb02-6900)醸造適性	S63	25	令達	作物(技術)
作物(技術)		(H22-rb02-7000)DNAマーカー等先端技術利用	S63	25	令達	作物(技術)
作物(技術)		(H22-rb02-8000)育成系統採種	S63	25	令達	作物(技術)
作物(技術)	17	(H22-rb03)委託試験	S39	25	国庫委託	作物(技術)
作物(技術)		(H22-rb03-2000)稲民間育成品種評価試験	H13	25	民間委託	作物(東北)
作物(技術)		(H22-rb03-3000)耐冷性検定試験(委託系統検定)	H18	25	独法委託	作物(技術)
作物(技術)	18	(H21-24)東北地域中北部向け多収稲品種の共同育成	21	26	独法委託	作物(技術)
作物(技術)		(H21-24-3000)個体選抜	21	26	独法委託	作物(技術)
作物(技術)		(H21-24-4000)系統選抜	21	26	独法委託	作物(技術)
作物(技術)		(H21-24-4100)単独系統	21	26	独法委託	作物(技術)
作物(技術)		(H21-24-4200)生産力検定予備試験系統群	21	26	独法委託	作物(技術)
作物(技術)		(H21-24-4300)生産力検定本試験系統群	21	26	独法委託	作物(技術)
作物(技術)		(H21-24-5000)生産力検定	21	26	独法委託	作物(技術)
作物(技術)		(H21-24-6000)特性検定試験	21	26	独法委託	作物(技術)
作物(技術)		(H21-24-6100)いもち病真性抵抗性遺伝子型推定	21	26	独法委託	作物(技術)
作物(技術)		(H21-24-6200)葉いもち圃場抵抗性検定試験	21	26	独法委託	作物(技術)
作物(技術)		(H21-24-6300)穂いもち圃場抵抗性検定試験	21	26	独法委託	作物(技術)
作物(技術)		(H21-24-6400)耐冷性検定試験(育成系統)	21	26	独法委託	作物(技術)
作物(技術)		(H21-24-6600)食味関連成分分析及び物性試験	21	26	独法委託	作物(技術)
作物(技術)		(H21-24-6700)穂発芽検定試験	21	26	独法委託	作物(技術)
作物(技術)		(H21-24-6800)直播適性	21	26	独法委託	作物(技術)
作物(技術)		(H21-24-8000)育成系統採種	21	26	独法委託	作物(技術)

主査 研究室	連番	(課題番号)課題名	開始	終了	予算区分	担当研究室
作物(技術)	19	(174)えだまめ等オリジナル品種優良種苗の維持・増殖	8	25	令達	作物(技術)
作物(技術)	20	(877)大豆立枯性病害抵抗性検定試験	14	25	独法委託	作物(技術)
作物(技術)	21	(889)麦類耐寒雪性特性検定試験	14	25	独法委託	作物(技術)
作物(技術)	22	(890)畑作物の生育相及び気象反応の解明	14	25	県単研究	作物(技術)
作物(技術)		(890-2000)大豆の生育相と気象反応の解明	14	25	県単研究	作物(技術)
作物(技術)		(890-2100)県央・県南地域	14	25	県単研究	作物(技術)
作物(技術)		(890-2200)県北地域	14	25	県単研究	作物(県北)
作物(技術)		(890-1000)麦類の生育相と気象反応の解明	14	25	県単研究	作物(技術)
作物(技術)		(890-1100)県央・県南地域	14	25	県単研究	作物(技術)
作物(技術)		(890-1200)県北地域	14	25	県単研究	作物(県北)
作物(技術)	23	(891)畑作物原々種・原種生産	14	25	県単採種	作物(技術)
作物(技術)	24	(H19-13)麦類奨励品種決定調査及び有望系統の特性調査	19	25	県単採種	作物(技術)
作物(技術)		(H19-13-1000)(1)奨励品種決定調査(県南・県央地域)	19	25	県単採種	作物(技術)
作物(技術)		(H19-13-2000)(2)奨励品種決定調査(県北地域)	19	25	県単採種	作物(県北)
作物(技術)		(H19-13-3000)(3)有望系統特性調査	19	25	令達	作物(技術)
作物(技術)	25	(H19-12)大豆等奨励品種決定調査及び有望系統の特性調査	19	25	県単採種	作物(技術)
作物(技術)		(H19-12-1000)(1)奨励品種決定調査(県南・県央地域)	19	25	県単採種	作物(技術)
作物(技術)		(H19-12-2000)(2)奨励品種決定調査(県北地域)	19	25	県単採種	作物(県北)
作物(技術)		(H19-12-3000)(3)有望系統特性調査	19	25	県単採種	作物(技術)
作物(技術)	26	(H21-16)履歴水温管理による水稻の冷害軽減技術の開発	21	23	独法委託	作物(技術)
作物(技術)		(H21-16-1000)栽培指針の策定と現地実証	21	23	独法委託	作物(技術)
作物(技術)	27	(H21-20)「ひとめぼれ」突然変異集団とRILsを用いた 連関解析実験系の確立と利用	21	23	独法委託	作物(技術)
作物(技術)		(H21-20-1000)系統群の形質評価及び 多様なイネ中間母本の迅速なDNAマーカー育種	21	23	独法委託	作物(技術)
作物(技術)	28	(H22-33)北東北地域向け非主食用多用途稲の直播品種 及び直播栽培等関連技術の開発	22	24	国庫委託	作物(技術) プロジェクト
作物(技術)		(H22-33-1000)北東北地域に適応する非主食用多用途 多収稲の品種開発・岩手県南部向け品種の開発	22	24	国庫委託	作物(技術)
作物(技術)		(H22-33-2000)寒冷地における湛水作溝同時直播栽培 技術の確立・寒冷水田に適応した湛水作溝同時直播技術 の開発	22	24	国庫委託	プロジェクト
作物(技術)		(H22-33-3000)寒冷地における湛水作溝同時直播栽培 技術の確立・DVRモデルによる湛水直播生育予測と 季節予報を組み合わせた適品種・適期予測システムの 開発	22	24	国庫委託	プロジェクト
作物(技術)		(H22-33-4000)寒冷地における湛水作溝同時直播栽培 技術の確立・湛水直播栽培における多収生産技術の 現地実証	23	24	国庫委託	プロジェクト

主査 研究室	連番	(課題番号)課題名	開始	終了	予算区分	担当研究室
<b>【果樹研究室】</b>						
果樹	29	(851)果樹の生育と果実品質変動要因の解明	14	25	県単研究	果樹
果樹		(851-1000)りんごの生育・生態の把握	14	25	県単研究	果樹
果樹		(851-2000)ぶどうの生育・生態の把握	14	25	県単研究	果樹
果樹		(851-3000)西洋なし、その他の果樹の生育・生態の把握	14	25	県単研究	果樹
果樹	30	(850)畑作物に対する植調剤等の利用法	14	25	民間委託	果樹
果樹		(850-1000)果樹園用除草剤の効果的使用法	14	25	民間委託	果樹
果樹		(850-1100)民間委託試験分	14	25	民間委託	果樹
果樹		(850-1200)令達試験分	14	25	令達	果樹
果樹		(850-2000)果樹の植調剤及び資材の効果的使用法	14	25	民間委託	果樹
果樹		(850-3000)野菜の除草剤実用化試験	15	25	民間委託	野菜花き
果樹		(850-5000)【畜産研究所担当分】	16	25	民間委託	家畜飼養・飼料
果樹		(850-5100)【家畜飼養・飼料研究室担当分】	16	25	民間委託	家畜飼養・飼料
果樹		(850-5110)除草剤試験	16	25	民間委託	家畜飼養・飼料
果樹		(850-6000)【県北農業研究所担当分】	16	25	民間委託	園芸(県北)
果樹		(850-6100)【県北園芸研究室担当分】	16	25	民間委託	園芸(県北)
果樹		(850-6110)植調剤試験	16	25	民間委託	園芸(県北)
果樹		(850-6200)【県北作物研究室担当分】	19	25	民間委託	作物(県北)
果樹		(850-6210)植調剤試験	19	25	民間委託	作物(県北)
果樹		(850-7000)小麦の除草剤実用化試験	18	25	民間委託	作物(技術)
果樹		(850-8000)南部園芸研究室分	18	25	民間委託	南部園芸
果樹		(850-8100)除草剤試験	18	25	民間委託	南部園芸
果樹	31	(894)良品質・高品質生産を目的としたウイルスフリー樹の 作出	14	25	令達	果樹
果樹	32	(830)ジョナゴールド、ふじ等に優るりんご中・晩生種の開発	14	25	令達	果樹
果樹		(830-1000)国育成系統適応性(盛岡58～65号)	14	25	国庫委託	果樹
果樹		(830-2000)国内外導入品種の選抜	14	25	令達	果樹
果樹		(830-3000)いわて特産中晩生種の交配育成	14	25	令達	果樹
果樹	33	(829)キャンベル・紅伊豆にかわる耐寒性大衆嗜好品種の 育成及び選抜	14	28	独法委託	果樹
果樹		(829-1000)寒冷地向きぶどうの系統適応性試験	14	25	独法委託	果樹
果樹		(829-1400)第12回系統適応性検定試験	20	25	独法委託	果樹
果樹		(829-1500)第13回系統適応性検定試験	22	28	独法委託	果樹
果樹		(829-2000)国内外育成の寒冷地向き品種の選抜 (生食用、醸造、兼用種等品種の選抜)	14	25	令達	果樹
果樹		(829-3000)耐寒性大衆嗜好品種の育成及び選抜	14	25	令達	果樹
果樹	34	(837)ラ・フランスに優る西洋なし品種の開発	14	25	令達	果樹
果樹		(837-1000)国内外導入品種の選抜	14	25	令達	果樹
果樹	35	(826)おうとう、もも等の優良品種の選抜	14	25	令達	果樹
果樹		(826-1000)おうとう、もも等の優良品種の選抜	14	25	令達	果樹
果樹	36	(H20-02)岩手県におけるおうとうの垣根仕立て栽培法の 確立	20	25	県単研究	果樹
果樹	37	(H21-05)つがる等に優るりんご早生品種の開発	21	30	令達	果樹
果樹	38	(H22-03)岩手県における果樹栽培の温暖化対策技術の 確立	22	27	県単研究	果樹
果樹		(H22-03-1000)開花期前進に伴う凍霜害対策技術の 確立	22	27	県単研究	果樹
果樹		(H22-03-2000)温暖化による果実障害対策技術の確立	23	27	県単研究	果樹
果樹		(H22-03-3000)気象変動に対応した優良系統の選抜	22	24	県単研究	果樹
果樹		(H22-03-4000)落葉遅延がリンゴ樹に及ぼす影響の解明	23	27	県単研究	果樹
果樹		(H22-03-5000)温暖化に対応できる新規果樹の選抜と 栽培技術の確立	24	27	県単研究	果樹
果樹		(H22-03-6000)果樹園における温暖化緩和技術の開発 (仮称)	22	26	独法委託	果樹
果樹	39	(H22-26)1-MCPによるりんごの長期鮮度保持技術の確立	22	23	民間委託	果樹
果樹	40	(H23-03)りんご新品種などの安定生産技術の確立	23	28	県単研究	果樹
果樹		(H23-03-1000)オリジナル品種の安定生産技術の確立	23	28	県単研究	果樹
果樹		(H23-03-2000)優良品種の栽培技術の確立	23	28	県単研究	果樹
果樹	41	(H23-04)ぶどうオリジナル品種の安定生産技術の確立	23	26	県単研究	果樹
果樹		(H23-04-1000)高品質果実生産方法の確立	23	25	県単研究	果樹
果樹		(H23-04-2000)短梢栽培用平棚を利用した栽培方法の 確立	23	26	県単研究	果樹

主査 研究室	連番	(課題番号)課題名	開始	終了	予算区分	担当研究室
<b>【野菜花き研究室】</b>						
野菜花き	42	(H20-17)ウリ科作物に発生するホモプシス根腐病の蔓延阻止技術の開発	20	24	独法委託	野菜花き
野菜花き		(H20-17-1000)被害リスクに応じたウリ科野菜	22	24	独法委託	野菜花き
野菜花き		ホモプシス根腐病の総合的防除技術の確立	22	24	独法委託	野菜花き
野菜花き		(H20-17-1100)指標植物による発生予察と整枝技術を組み合わせた萎凋被害回避技術の開発	22	24	独法委託	野菜花き
野菜花き	43	(H21-10)寒冷地における冬～春野菜生産を可能にする新品種・作型の開発	21	23	県単研究 独法委託	野菜花き
野菜花き		(H21-10-1000)長日要求性素材を利用した極晩抽性ハクサイの新作型の開発	21	23	独法委託	野菜花き
野菜花き	44	(H21-17)寒冷地特性を活用し国産アスパラガスの周年安定供給を実現する高収益生産システムの確立	21	23	独法委託	野菜花き 園芸(県北)
野菜花き		(H21-17-1000)アスパラガス萌芽性の解明	21	23	独法委託	野菜花き
野菜花き		(H21-17-2000)冷涼な気象を活用した早期休眠打破技術の確立	21	23	独法委託	野菜花き
野菜花き		(H21-17-3000)抗線虫資材としての利用技術の開発(旧課題番号H20-09-1000)	21	23	独法委託	園芸(県北)
野菜花き		(H21-17-4000)促成アスパラガス収量確保のための根株養成技術(旧課題番号H20-09-2000)	21	23	県単研究	園芸(県北)
野菜花き	45	(H21-15)低コスト養液土耕栽培による水田転換畑におけるリン酸肥料削減技術の実証	21	25	独法委託	野菜花き
野菜花き		(H21-15-1000)低コスト養液土耕草地を利用した効率的施肥法の確立	21	25	独法委託	野菜花き
野菜花き		(H21-15-2000)リン酸成分を有効活用した省資源型農業の開発	23	25	独法委託	野菜花き
野菜花き	46	(843)りんどうの生育・生態調査	14	25	県単研究	野菜花き
野菜花き	47	(840)りんどうF1品種の親株維持・増殖技術の確立	14	25	県単研究	野菜花き
野菜花き		(840-1000)種子による親株維持技術の確立	14	25	県単研究	野菜花き
野菜花き		(840-2000)培養系親系統の特性検定及びF1品種の組合せ検定	14	25	県単研究	野菜花き
野菜花き	48	(191)りんどうの品種育成	S49	25	令達	野菜花き
野菜花き		(191-1000)りんどうの品種開発	20	25	令達	野菜花き
野菜花き		(191-2000)親株の安定生産	20	25	令達	野菜花き
野菜花き	49	(H19-09)温度・日長条件に対するりんどうの生育反応	19	23	県単研究	野菜花き
野菜花き	50	(H19-05)岩手県オリジナル花き遺伝資源の超低温保存法の確立	19	23	県単研究	野菜花き
野菜花き	51	(H22-07)リンドウ栽培安定化技術の開発	22	24	県単研究	野菜花き
野菜花き		(H22-07-1000)リンドウ発芽率向上安定化技術の開発	22	24	県単研究	野菜花き
野菜花き		(H22-07-2000)県育成極早生品種の株養成技術の開発	22	24	県単研究	野菜花き
野菜花き	52	(H23-05)早晩性の違いによるリンドウ組織培養の増殖条件の確立	23	25	県単研究	野菜花き
野菜花き		(H23-05-1000)組織培養を用いた増殖における培養温度条件と早晩性の関係	23	25	県単研究	野菜花き
野菜花き		(H23-05-2000)組織培養を用いた増殖における光条件の検討	23	25	県単研究	野菜花き
野菜花き	53	(H23-06)収穫量の時期別変動が小さいパプリカ安定栽培技術の確立	23	25	県単研究 独法委託	野菜花き
野菜花き	54	(H23-07)「なす」の省力・低コスト栽培技術の開発	23	25	県単研究	野菜花き
野菜花き		(H23-07-1000)かん水等による低コスト生産安定技術の確立	23	25	県単研究	野菜花き
野菜花き		(H23-07-2000)簡易で省力的な栽培技術の確立	23	25	県単研究	野菜花き
野菜花き	55	(H23-08)長期安定収穫が可能なトマト栽培技術の確立	23	27	県単研究	野菜花き 生産環境 南部園芸
野菜花き		(H23-08-1000)低温期の障害果発生回避技術の確立	23	27	県単研究	野菜花き
野菜花き		(H23-08-2000)栽培管理・天候に対応したかん水・追肥技術の確立	23	27	県単研究	生産環境
野菜花き		(H23-08-3000)高温期における草勢管理技術の確立	24	27	県単研究	野菜花き
野菜花き		(H23-08-4000)3段階芯新栽培様式の確立	23	25	県単研究	南部園芸

主査 研究室	連番	(課題番号)課題名	開始	終了	予算区分	担当研究室
<b>【南部園芸研究室】</b>						
南部園芸	56	(H22-05)イチゴ夏秋どり作型における適品種の選定と多収生産技術の確立	22	25	県単研究 独法委託	南部園芸
南部園芸	休止 中	(H22-05-1000)夏秋どり作型における四季成り性イチゴ適品種の選定	22		県単研究	南部園芸
南部園芸	休止 中	(H22-05-2000)夏秋どり作型における多収生産技術の開発	22	24	県単研究 民間委託	南部園芸
南部園芸		(H22-05-3000)夏秋どり作型における一季成り性品種の適応性評価	22	25	県単研究 独法委託	南部園芸
南部園芸	57	(H23-09)花壇苗類の高品質化技術の開発	23	25	県単研究	南部園芸
南部園芸		(H23-09-1000)花壇苗の出荷後の品質を安定化させる技術の開発	23	25	県単研究	南部園芸
南部園芸	58	(H23-10)園芸分野における木質系資源の有効利用技術の開発	23	25	県単研究	南部園芸
南部園芸		(H23-10-1000)粉碎杉樹皮を用いた新たな園芸培地の開発	23	25	県単研究	南部園芸
南部園芸		(H23-10-2000)促成イチゴの低コスト加温栽培技術の開発	23	25	県単研究	南部園芸
南部園芸	59	(H23-21)津波被災農地における除塩対策実証	23	24	県単研究	南部園芸
<b>【生産環境研究室】</b>						
生産環境	60	(H15-24)環境保全型有機質資源連用効果調査	15	27	県単(土壌対策)	生産環境
生産環境		(H15-24-1000)水田における有機質資源連用効果	15	27	県単(土壌対策)	生産環境
生産環境		(H15-24-2000)畑地における有機質資源連用効果	15	27	県単(土壌対策)	生産環境
生産環境	61	(H16-22)新肥料の実用化	16	27	民間委託	生産環境
生産環境		(H16-22-5000)プロジェクト推進室	20	27	民間委託	プロジェクト
生産環境		(H16-22-7000)技術部	20	27	民間委託	作物(技術) 果樹 野菜花き 南部園芸
生産環境		(H16-22-7100)作物研究室(技術)担当分	20	27	民間委託	作物(技術)
生産環境		(H16-22-7300)南部園芸研究室担当分	20	27	民間委託	南部園芸
生産環境		(H16-22-7400)果樹研究室担当分	23	27	民間委託	果樹
生産環境		(H16-22-7500)野菜花き研究室担当分	23	27	民間委託	野菜花き
生産環境		(H16-22-8000)環境部	20	27	民間委託	生産環境
生産環境		(H16-22-8100)生産環境研究室担当分	20	27	民間委託	生産環境
生産環境		(H16-22-9000)県北農業研究所	20	27	民間委託	園芸(県北) 作物(県北)
生産環境		(H16-22-9100)園芸研究室(県北)担当分	20	27	民間委託	園芸(県北)
生産環境		(H16-22-9200)作物研究室(県北)担当分	20	27	民間委託	作物(県北)
生産環境	62	(H20-20)土壌由来温室効果ガスインベントリ情報等整備調査	20	24	独法委託	生産環境
生産環境	63	(H15-23)土壌機能実態モニタリング調査	15	25	県単(土壌対策)	生産環境
生産環境	64	(H16-20)5. 野菜の品質自主管理技術の開発	17	24	県単研究 独法委託	生産環境
生産環境		(H16-20-4000)(4)生食用野菜生産環境からの食中毒菌の検出手法及び可食部汚染低減手法の実証と改善	21	24	独法委託	生産環境
生産環境	65	(H21-14)窒素質肥料添加による高窒素鶏ふん堆肥の製造とその利用技術の開発	21	25	独法委託	生産環境
生産環境	66	(H22-21)省資源型土壌管理技術の確立	22	24	県単研究	生産環境
生産環境		(H22-21-1000)転作大豆栽培における低pH改善技術の確立	22	24	県単研究	生産環境
生産環境	67	(H23-11)簡易土壌養分分析システムの機能向上	23	24	独法委託	生産環境
生産環境		(H23-11-1000)フラットベッドスキャナを用いた土壌中全炭素・全窒素推定キットの精度向上	23	24	独法委託	生産環境
生産環境		(H23-11-2000)植物体内窒素濃度の簡易推定手法の開発	23	24	独法委託	生産環境
生産環境	68	(H23-12)土壌環境に配慮した家畜由来有機質資源の肥料的評価	23	24	県単研究	生産環境

主査 研究室	連番	(課題番号)課題名	開始	終了	予算区分	担当研究室
<b>【病理昆虫研究室】</b>						
病理昆虫	69	(H20-19)農業に有用な生物多様性の指標及び評価手法の開発	20	23	独法委託	病理昆虫 園芸(県北)
病理昆虫		(H20-19-2000)(2)寒冷地のキャベツ圃場における環境保全型農法と関連した生物多様性の指標生物の選抜と評価手法の開発	20	23	独法委託	病理昆虫 園芸(県北)
病理昆虫	70	(H09-03)【植物防疫事業研究】	9	27	国庫補助	病理昆虫
病理昆虫	71	(402)新農薬の効果検定と防除基準作成	9	25	民間委託	病理昆虫
病理昆虫		(402-2000)県北農業研究所	9	25	民間委託	園芸(県北)
病理昆虫		(402-4000)環境部	9	25	民間委託	病理昆虫
病理昆虫		(402-5000)技術部	16	25	民間委託	果樹
病理昆虫	72	(H15-28)地域特産物における新防除資材の実用化	15	24	国庫補助	病理昆虫
病理昆虫		(H15-28-I000)雑穀類の難防除害虫	22	24	国庫補助	作物(県北)
病理昆虫		(H15-28-M000)りんごの葉枯病	22	23	国庫補助	病理昆虫
病理昆虫	73	(H21-06)ダイズを加害するウコンノメイガの発生生態の解明と防除対策の確立	21	23	国庫補助	病理昆虫
病理昆虫	74	(H21-09)水稲箱施用剤の減量施用技術の開発	21	23	国庫補助	病理昆虫
病理昆虫	75	(H22-01)広域的な葉いもち防除の徹底による穂いもち防除を省略したいもち病防除体系の確立	22	26	国庫補助	病理昆虫
病理昆虫	76	(H22-02)斑点米被害を低く抑える水稲出穂期以降の畦畔雑草管理対策	22	24	令達	病理昆虫
病理昆虫	77	(H22-04)ハダニ類を主体としたリンゴ病害虫防除体系の最適化	22	26	国庫補助	病理昆虫 果樹
病理昆虫		(H22-04-1000)夏期の防除体系の最適化	22	26	国庫補助	病理昆虫
病理昆虫		(H22-04-2000)樹型等を考慮した適正な薬剤散布量の検討	22	24	国庫補助	果樹
病理昆虫	78	(H22-06)キュウリ栽培で問題となる病害の防除技術確立	22	24	国庫補助	病理昆虫
病理昆虫		(H22-06-1000)ホモプシス根腐病の防除技術確立	22	24	国庫補助	病理昆虫
病理昆虫		(H22-06-2000)キュウリ黒星病の防除技術確立	22	24	独法委託	病理昆虫
病理昆虫	79	(H23-13)耕種的防除と天敵製剤を組み合わせた果菜類害虫の防除技術の開発	23	25	国庫補助	病理昆虫
病理昆虫		(H23-13-1000)施設栽培なすにおける天敵製剤を活用した化学合成農薬削減技術の開発	23	25	国庫補助	病理昆虫
病理昆虫		(H23-13-2000)施設栽培ピーマンにおける天敵製剤を活用した化学合成農薬削減技術の開発	23	25	国庫補助	病理昆虫
病理昆虫	80	(H23-14)ホウレンソウ栽培で問題となる病害の防除技術の確立	23	25	令達	病理昆虫
病理昆虫		(H23-14-1000)ホウレンソウ白斑病の防除技術の検討	23	25	国庫補助	病理昆虫
病理昆虫		(H23-14-2000)土壌酸性改良によるホウレンソウ萎凋病の発病抑制効果の検討	23	25	令達	病理昆虫

主査研究室	連番	(課題番号)課題名	開始	終了	予算区分	担当研究室
<b>【家畜育種研究室】</b>						
家畜育種	81	(304)肉用牛における経済形質とDNAマーカーとの連鎖解析	7	25	令達	家畜育種
家畜育種	82	(237)日本短角種産肉能力検定(現場後代検定法)	17	30	令達	家畜育種
家畜育種	83	(236)日本短角種産肉能力検定(直接法)	S45	30	令達	家畜育種
家畜育種	84	(H20-22)遺伝子発現調節による和牛肉の不飽和度向上技術の開発	20	24	独法委託	家畜育種
家畜育種	85	(H22-12)和牛肥育における尿石症予防のための飼養技術の開発	22	25	県単研究	家畜育種
家畜育種	86	(H22-13)地域未利用資源を活用したリキッドフィーディングシステムの開発	22	24	県単研究	種山畜産 家畜育種
家畜育種	87	(H22-14)地域未利用資源を活用した南部かしわの飼料給与技術の確立	22	24	県単研究	家畜育種
家畜育種	88	(H22-15)岩手独自の新電鶏系統の開発	22	26	県単研究	家畜育種
家畜育種	89	(H22-30)パークシャー種における輸入トウモロコシから飼料米への全量代替給与技術の確立	22	26	独法委託	家畜育種
家畜育種	90	(H22-29)発酵TMR素材としての自給高タンパク質飼料の低コスト調製・給与技術の開発(乳牛・肉用牛給与)	22	26	独法委託	家畜飼養・飼料 家畜育種
家畜育種	91	(H22-35)新規情報を指標とした種雄牛選抜の実用化	22		令達	家畜育種
家畜育種	92	(H23-16)生産農場におけるパークシャー種豚群の遺伝的改良システムの構築	23	27	県単研究	家畜育種
家畜育種	93	(H23-17)黒毛和種における分娩後の採胎成績向上及び早期受胎のための分娩前後の飼養管理技術の確立	23	26	県単研究	家畜育種
家畜育種	94	(H23-18)臍内留置型プロジェステロン製剤を用いた胚移植適期の拡大技術の確立	23	25	県単研究	家畜育種
<b>【家畜飼養・飼料研究室】</b>						
家畜飼養・飼料	95	(253)とうもろこし市販品種の特性比較	S54	25	県単研究	家畜飼養・飼料
家畜飼養・飼料	96	(H21-07)飼料用トウモロコシの効果的な除草剤散布技術の確立	21	23	県単研究	家畜飼養・飼料
家畜飼養・飼料	97	(H22-18)飼料用トウモロコシ栽培における堆肥の効率的利用技術の確立	22	24	県単研究	家畜飼養・飼料
家畜飼養・飼料	98	(H22-19)飼料作物栽培における土壌条件等に応じた減肥技術の確立	22	25	県単研究	家畜飼養・飼料
家畜飼養・飼料	99	(H22-20)乳用育成牛から初産までのTMR給与技術の開発	22	25	県単研究	家畜飼養・飼料
家畜飼養・飼料	100	(H22-31)不耕起栽培トウモロコシを導入した寒冷地向け飼料作物周年栽培作付体系の確立	22	26	独法委託	家畜飼養・飼料
家畜飼養・飼料	101	(H23-15)乾乳期間の短縮が高泌乳牛に及ぼす影響の解明	23	26	県単研究	家畜飼養・飼料
家畜飼養・飼料	102	(H23-20)空気清浄機能を有する畜舎用換気装置の開発と実用化	23	25	独法委託	家畜飼養・飼料
<b>【外山畜産研究室】</b>						
外山畜産	103	(H22-10)日本短角種の周年出荷へ向けた飼養管理技術の確立	22	25	県単研究	外山畜産 家畜育種
外山畜産	104	(H22-11)外部寄生昆虫(アブ)の駆除技術の確立	22	24	県単研究	外山畜産
外山畜産	105	(H22-16)リモートセンシング、GPSを活用した効率的な草地管理技術の確立	22	24	県単研究	外山畜産
外山畜産		(H22-16-1000)リモートセンシングによる草地管理情報の取得技術	22	24	県単研究	外山畜産
外山畜産		(H22-16-2000)トラクター搭載型GPSを活用した草地の精密管理技術	22	24	県単研究	外山畜産
外山畜産	106	(H22-17)作溝式播種機を活用した簡易な放牧地更新技術の確立	22	24	県単研究	外山畜産
<b>【種山畜産研究室】</b>						
種山畜産	107	(235)黒毛和種産肉能力検定(間接法・現場後代検定)	1	30	管理運営費	種山畜産
種山畜産	108	(857)県有種雄牛の利用及び能力調査	14	30	管理運営費	種山畜産
種山畜産	109	(234)黒毛和種産肉能力検定(直接法)	S62	30	管理運営費	種山畜産

主査 研究室	連番	(課題番号)課題名	開始	終了	予算区分	担当研究室
<b>【園芸研究室(県北研)】</b>						
園芸(県北)	110	(H21-08)ほうれんそう産地における夏期増収技術の確立	21	23	県単研究	園芸(県北)
園芸(県北)		(H21-08-2000)夏期高温乾燥期における 実用的かん水方法	21	23	県単研究	園芸(県北)
園芸(県北)		(H21-08-3000)夏期ほうれんそう1t穫りの実証	22	23	県単研究	園芸(県北)
園芸(県北)		(H21-08-4000)低濃度エタノールを用いたハウレンソウ 萎凋病被害軽減技術	21	23	国庫補助	園芸(県北)
園芸(県北)		(H21-08-5000)硫酸イオンがほうれんそうの生育に 及ぼす影響の検討	23	23	県単研究	園芸(県北)
園芸(県北)	111	(H22-28)地球温暖化が果樹・野菜等の園芸作物及び茶 に及ぼす影響評価と適応技術の開発	22	26	独法委託	園芸(県北)
園芸(県北)	112	(H22-08)県北地域におけるりんどうの収益向上技術の確立	22	24	国庫補助	園芸(県北)
園芸(県北)		(H22-08-1000)露地でのトンネル栽培による 「極々早生6」の作期前進技術	22	24	県単研究	園芸(県北)
園芸(県北)		(H22-08-2000)りんどう有望系統の現地適応性	22	24	県単研究	園芸(県北)
園芸(県北)		(H22-08-3000)ハウス栽培における病害虫防除法	22	24	国庫補助	園芸(県北)
<b>【作物研究室(県北研)】</b>						
作物(県北)	113	(H22-22)いわて雑穀生産・販売戦略を支援する 雑穀優良種子の生産	22	26	令達	作物(県北)
作物(県北)	114	(H22-23)いわて雑穀生産・販売戦略を支援する品種開発 と持続的安定生産技術の確立	22	26	国庫補助	作物(県北)
作物(県北)		(H22-23-1000)加工・栽培特性に優れた 雑穀オリジナル品種の開発と雑穀遺伝資源の 収集・評価・保存	22	26	県単研究 令達	作物(県北)
作物(県北)		(H22-23-2000)安定生産を可能にする雑穀畑輪作技術 の確立	22	26	県単研究 令達	作物(県北)
作物(県北)		(H22-23-3000)安定生産に向けた雑穀の 適正施肥体系の確立	22	26	県単研究	作物(県北)
作物(県北)		(H22-23-4000)化学合成農薬を用いない 雑穀病害虫防除技術の開発	22	26	国庫補助	作物(県北)

### (3) 平成24年度試験研究を要望された課題とその措置一覧

(平成23年10月27日付け農研企第153号で要望機関に回答)

要望No.	要望機関	要望課題名	担当研究室 (主査担当)	措置区分	
農 産 部 会	1	中央農業改良普及センター(奥州)	主食用及びWCS用稲における鉄コーティング直播栽培に効果的な除草剤使用体系	○作物	B, C
	2	中央農業改良普及センター(久慈)	鉄コーティング種子による水稻湛水直播栽培の出芽・苗立ちの安定化技術確立	○プロジェクト 作物	B, C
	3	中央農業改良普及センター(地域)	水田における小麦・大豆・雑穀の生産性向上	○プロジェクト	A, B, C, D
	4	農業普及技術課	地球温暖化防止等環境保全効果のある農業技術の選定	○生産環境、 作物、果樹	C
園 芸 部 会	1	中央農業改良普及センター(地域)	早期成園化のためのフェザー苗養成法の確立	○果樹	A, C
	2	中央農業改良普及センター(県域)	りんご品種「岩手5号」の栽培技術の確立	○果樹	A
	3	中央農業改良普及センター(二戸)	りんご品種「はるか」の果台の長さと言質との関係について	○果樹	A, C
	4	中央農業改良普及センター(二戸)	りんご岩手7号に対するスマートフレッシュの鮮度保持効果について	○果樹	A, B
	5	流通課	りんご輸出拡大のための長期出荷技術の確立	○果樹	B
	6	中央農業改良普及センター(久慈)	県北沿岸地域におけるネギの長期出荷体系の確立	○園芸(県北)	A, C
	7	中央農業改良普及センター(二戸)	加工業務用に適するねぎの栽培方法の確立	○園芸(県北)	A
	8	中央農業改良普及センター(奥州)	リンドウの欠株発生対策と株の維持管理技術の確立	○野菜花き、生 産環境	A, B, C
	9	中央農業改良普及センター(地域)	小ぎくの高収益生産体系技術の開発	○野菜花き	C, D
	10	中央農業改良普及センター(二戸)	無側枝性ぎくを主体とした輪ぎく栽培技術体系の確立	○園芸(県北)	A
	11	全農岩手県本部	一輪菊「芽なし菊」の栽培技術の確立に関して	○園芸(県北)	A
	12	沿岸広域振興局 宮古農林振興センター	沿岸部(宮古地方)に施設園芸団地を形成する場合の営農類型の確立	○農業経営	A
	13	農産園芸課	トマトにおける高温度障害果の発生要因と対策について	○野菜花き	A, C

【措置区分】 A:次年度実施予定 B:現在実施中 C:既知見あり D:次年度実施できない

要望No.	要望機関	要望課題名	担当研究室 (主査担当)	措置区分
畜産部会	1	中央農業改良普及センター(宮古) 維持草地における土壌硬盤破砕機導入の効果及びその最適実施時期について	○家畜飼養・飼料	C
	2	中央農業改良普及センター(奥州) 粘質土壌地帯における草地の持続的利用技術の開発	○家畜飼養・飼料	C
	3	中央農業改良普及センター(宮古) ツキノワグマの誘因技術及び効果的な侵入防止及び捕獲について	○外山畜産	D
	4	岩手県農業共済組合連合会 黒毛和牛における旨み成分の解析(特に脂肪酸及びアミノ酸について)	○家畜育種	B, D
	5	畜産課 オーチャードグラス中生品種の優良品種選定試験	○家畜育種	A
県北振興	1	中央農業改良普及センター(二戸) 雑穀の機械移植栽培技術の確立	○作物(県北)	A
	2	中央農業改良普及センター(八幡平) ホウレンソウケナガコナダニの有効な防除について	○園芸(県北)	A
	3	中央農業改良普及センター(八幡平) ほうれんそうへの効果的なかん水方法について	○園芸(県北)	A
	4	県北広域振興局二戸農林振興センター 白いんげんの機械化栽培技術の確立	○作物(県北)	C

【措置区分】 A:次年度実施予定 B:現在実施中 C:既知見あり D:次年度実施できない

## 5 共同研究等の推進

### (1) 農林水産省委託プロジェクト研究事業(10/10委託)

課題名	委託元	研究期間	研究の内容	担当研究室
水田の潜在能力発揮等による農地周年有効活用技術の開発	東北農業研究センター(*)	H19～23	水稲乾田直播と大豆浅耕小畦立て栽培技術による輪作体系の確立と実証	プロジェクト推進室 農業経営
農業に有用な生物多様性の指標及び評価手法の開発	(独)農業環境技術研究所	20～23	寒冷地のキャベツほ場における環境保全型農法と関連した生物多様性の指標生物の選抜	病理昆虫園芸(県北研)
地域内資源を循環利用する省資源型農業確立のための研究開発	東北農業研究センター(*)	21～25	水稲有機栽培に対応できる除草技術の確立	プロジェクト推進室
地域内資源を循環利用する省資源型農業確立のための研究開発	近畿中国四国農業研究センター(*)	21～25	低コスト養液土耕栽培による水田転換畑におけるリン酸肥料削減技術の実証	野菜花き
地域内資源を循環利用する省資源型農業確立のための研究開発	中央農業総合研究センター(*)	21～25	窒素質肥料添加による高窒素鶏ふん堆肥の製造とその利用技術の開発	生産環境
生産・流通・加工工程における体系的な危害要因の特性解明とリスク低減技術の開発(生食用野菜における病原微生物汚染の防止・低減技術の開発)	野菜茶業研究所(*)	21～24	生食用野菜生産環境からの食中毒菌の検出手法および可食部汚染低減手法の実証と改善(冷涼地)	生産環境
自給飼料を基盤とした国産畜産物の高付加価値化技術の開発	畜産草地研究所(*)	22～26	多収でいもち病抵抗性・耐冷性・識別性を有する飼料用米品種の育成	作物(技術部)
	国立大学法人山形大学	22～26	パークシャー種における輸入トウモロコシから飼料米への全量代替給与技術の確立	家畜育種
	畜産草地研究所(*)	22～24	発酵TMR素材としての高タンパク質飼料の低コスト調製・給与技術の開発	家畜育種 家畜飼養・飼料
	畜産草地研究所(*)	22～24	不耕起栽培とうもろこしを導入した寒冷地向け飼料作物周年作付体系の確立	家畜飼養・飼料
農林水産分野における地球温暖化対策のための緩和及び適応技術の開発	果樹研究所(*)	22～24	果樹園における剪定枝チップ等の施用の影響解明	野菜花き
	中央農業研究センター(*)	22～26	地球温暖化が果樹・野菜等の園芸作物及び茶に及ぼす影響評価と適応技術の開発	園芸(県北研)

\* (独)農業・食品産業技術総合研究機構

### (2) 新たな農林水産政策を推進する実用技術開発事業(10/10委託)

課題名	共同研究機関 (筆頭が中核機関)	研究期間	研究の内容	担当研究室
耕作放棄地を活用したナタネ生産及びカスケード利用技術の開発(課題番号: 21014)	中央農業総合研究センター(*), 福島県農業総合センター, 茨城県農業総合センター	21～23	4「寒冷地および温暖地におけるナタネ生産現地実証試験」	プロジェクト推進室
履歴水温管理による水稲の冷害軽減技術の開発(課題番号: 21089)	国立学校法人岩手大学、国立大学法人東京大学、国立大学法人山形大学、東北農業研究センター(*), 北海道農業研究センター(*), 青森県農林総合研究センター、宮城県古川農業試験場、秋田県農林水産技術センター、福島県農業総合センター	21～23	やませ地域の現地圃場での影響評価	作物(技術部)

課題名	共同研究機関 (筆頭が中核機関)	研究期間	研究の内容	担当研究室
寒冷地においてアスパラガスの周年安定供給を可能にする栽培技術の確立(課題番号: 21006)	東北農業研究センター(*)、野菜茶業研究所(*)、宮城県農業・園芸総合研究所、秋田県農林水産技術センター、山形県農業総合研究センター、福島県農業総合センター、国立大学法人北海道大学北方生物圏フィールド科学センター、国立大学法人弘前大学  【研究総括者】 岩手県農業研究センター 技術部園芸研究室 山口貴之	21～23	・研究総括 1「早期休眠打破技術の開発」 「アスパラガスの休眠特性の解明」 「冷涼な気象を活用した早期休眠打破技術の確立」  4「廃根の適正処理とバイオマス利用技術の開発」 「抗線虫資材としての利用技術の開発」	野菜花き園芸(県北研)
北東北地域向け非主食用多用途稲の直播品種及び直播栽培等関連技術の開発(課題番号:22087)	岩手県農業研究センター(地独)青森県産業技術センター(農林総合研究所)、(財)岩手生物工学研究センター  【研究総括者】 岩手県農業研究センター 技術部作物研究室 佐々木 力	22～24	・研究総括 1「北東北地域に適応する非主食用多用途多収稲の品種開発」 岩手県南部向けの非主食用多収稲品種の開発  2「寒冷地における湛水直播栽培技術の確立」 湛水直播に係る技術の開発 開発技術の現地実証	作物(技術部)プロジェクト推進室
ウリ科作物に発生するホモプシス根腐病の総合的な被害回避技術の確立(課題番号: 22082)	東北農業研究センター(*)、秋田県立大学、宮城県農業・園芸総合研究所、福島県農業総合センター	22～24	2「被害リスクに応じた防除(被害回避)技術の開発」 「整枝管理による萎凋症状の緩和手法の開発」 「土壌改良資材による被害緩和技術の開発」	病理昆虫
遺伝子発現調節による和牛肉の不飽和度向上技術の開発(課題番号:2004)	山形県、宮城県、秋田県農林水産技術センター、東北大学、北海道大学、日本獣医生命科学大学	20～24	不飽和度を高める飼料及び給与技術の開発	家畜育種
空気清浄(脱臭・除菌)機能を有する畜舎用光触媒換気装置の開発と実用化(課題番号:23061)	【地独】岩手県工業技術センター、岩手大学、パウレックス(株)、(株)釜石電気製作所	23～25	5群飼環境下における環境改善方法の確立	家畜飼養・飼料
涼しい夏を活かす！国産夏秋イチゴ安定多収技術の開発・実証(課題番号:23006)	東北農業研究センター(*)、(地独)青森県産業技術センター野菜研究所他	23～25	2「花成制御による夏秋イチゴ安定多収技術の開発」 (1)「なつあかり」の長日処理等による安定多収技術の開発	南部園芸
カラーピーマンの光照射追熟技術を利用した増収栽培技術の開発(課題番号:23004)	野菜茶業研究所(*)、宮城県、山形県、長野県、高知県	23～25	2「光照射追熟を利用した早どり増収栽培技術の開発」 (1)「収穫果実の熟度、収穫時期および品種が光照射追熟に及ぼす影響の解明」	野菜花き
地球温暖化に対応したブドウおよびウメ新品種の開発と温暖化進行後の適地変化予測(課題番号:23029)	果樹研究所(*)、山梨県、福岡県、和歌山県、群馬県、石川県、愛媛県、鹿児島県	23～25	醸造用ぶどう品種開発 ③選抜系統の岩手県における地域適応性の解明	果樹

\* (独)農業・食品産業技術総合研究機構

課題名	共同研究機関 (筆頭が中核機関)	研究期間	研究の内容	担当研究室
食料自給率向上に貢献できる実需者ニーズの高い大豆優良品種の育成(課題番号:23031)	作物研究所(*)、(地独)北海道総合研究機構、北海道、長野県、新潟県、2農業協同組合、朝日食品工業(株)、福島県、京都府、千葉県、鹿児島県	23～25	(2)～⑨大豆立枯性病害抵抗性系統の評価	作物(技術部)
耐病性といもち病抵抗性を兼ね備えた極良食味及び業務用米品種の開発とその普及(課題番号:23038)	(地独)北海道立総合研究機構、北海道農業研究センター(*)、東北農業研究センター(*)、宮城県、秋田県、山形県、福島県、北海道	23～25	II.寒地における安定良質水稻品種の開発 エ-①耐冷性特性調査	作物(技術)

\* (独)農業・食品産業技術総合研究機構

### (3) 研究成果最適展開支援事業((独)科学技術振興機構、10/10委託)

課題名	共同研究機関	研究期間	研究の内容	担当研究室
(育成研究)				
長日要求性素材と遺伝子解析を応用したアブラナ科極晩抽性品種の開発	【中核機関】 東北農業研究センター(*)	21～23	選抜系統 F1組合わせを用いた新作型の開発	野菜花き

### (4) その他独法等からの委託(10/10委託)

事業・課題名	共同研究機関	研究期間	研究の内容	担当研究室
生研センター・イノベーション創出基礎的研究推進事業(発展型研究一般枠)	(財)岩手生物工学研究センター、国立大学法人 総合研究大学院大学	21～23	「ひとめぼれ」突然変異集団とRILsを用いた連関解析実験系の確立と利用	作物(技術部)
発展的調査研究	(財)さんりく基金	23	夏秋どりイチゴの9月以降の収量を向上する温度・日長制御技術の研究	南部園芸
(緊プロ)高性能農業機械の開発・実用化	生研センター(*)	23	中山間地域対応型汎用コンパインの開発	プロジェクト推進室
受託研究	東北農業研究センター(*)	23	育成地等からの小麦配布系統の耐寒雪性圃場検定	作物(技術部)
受託研究	(地独)岩手県工業技術センター	23	下水汚泥焼却灰からの回収リン酸及び脱リン残渣の肥効試験	生産環境

\* (独)農業・食品産業技術総合研究機構

### ※競争的研究資金に基づく共同研究機関数(延べ数)

研究機関区分	延べ機関数
大学	2
独立行政法人	26
公設試験場・地方独立行政法人	43
民間(公益法人を含む)	8

**(5) 民間委託試験(10/10委託)**

事業名・課題名	相手方	研究の内容	担当研究室
農薬及び植物調節剤等の効果検定試験	(社)岩手県植物防疫協会	(社)日本植物防疫協会からの委託	病理昆虫、園芸(県北研)、作物(県北研)
		(社)日本植物調節剤研究協会からの委託	作物(技術部)、野菜花き、果樹、南部園芸、家畜飼養・飼料、作物(県北研)
肥料の効果等に関する試験	岩手県施肥合理化協議会	(対象作物) 水稲、水稲(育苗)、小麦、りんご、トマト、きゅうり、アスパラガス、レタス、非結球レタス、ほうれんそう、りんどう	作物(技術部)、野菜花き、南部園芸、生産環境、園芸(県北研)

**(6) (財)岩手生物工学研究センターとの共同研究**

研究課題名	生工研担当	研究期間	研究の内容	担当研究室
水稲重要形質と連鎖したDNAマーカーの探索	生命科学研究部(遺伝学ゲノム学研究分野)	H15～26	生工研と共同で遺伝子解析に基づくDNAマーカーの開発及びそれらを用いた岩手オリジナル水稲品種の育成	作物(技術部)
DNAマーカー利用によるリンドウ新育種技術の開発と品種保護への応用	細胞工学研究部(分子育種研究分野)	H20～24	リンドウのDNAマーカーの整備及びそれらを用いた優良品種の育成法の確立 品種保護のために高精度かつ簡易なDNA鑑定技術の開発	野菜花き 病理昆虫
体系的な植物病害診断法の確立に向けた病原体検出診断技術の開発	生命科学研究部(植物病態分子研究分野)	H19～23	ウイルスによる感染の検出を長鎖二本鎖RNAの蓄積を指標とする手法の確立及び迅速かつ体系的な植物病害診断技術の確立	病理昆虫

**(7) 他の公設試との共同研究**

課題名等	相手方	研究期間	担当研究室
ワイン専用ぶどう新系統の醸造特性評価	工業技術センター	6～	園芸(技術部)
県産小麦品種の加工特性評価	工業技術センター	7～	作物(技術部)
醸造用水稲品種の開発	工業技術センター	8～	作物(技術部)

**(8) AFR(岩手農林研究協議会)研究会**

## ア 研究会

名称	構成	研究期間	担当研究室
1 岩手育種研究会	◎岩手大学農学部・教育学部、東北農業研究センター、岩手県農業研究センター、岩手生物工学研究センター	10～	作物(技術部)
2 水稲栽培研究会	◎岩手大学農学部、岩手県農業研究センター	11～	作物(技術部)
3 果樹栽培研究会(*)	◎岩手大学農学部、岩手県農業研究センター、中央普及センター	11～23	果樹
4 リンドウ研究会	◎岩手大学農学部、東北農業研究センター、岩手県農業研究センター、八幡平市花き研究開発センター	11～	野菜花き

※平成21年度協議会(11/27)において継続活動実績のある研究会に整理することを承認。これを受けて当センター職員が参加している研究会のみを掲載した。

\* 果樹栽培研究会は平成23年度で廃止。

イ AFR協議会等の開催

開催月日	場 所	内 容
23.11.25	岩手大学農学部第1会議室 同 5号館1階7番講義室	平成23年度岩手農林研究協議会(AFR)協議会 ※設置要綱を改訂〔協議会、幹事会組織の見直し、等〕 第12回岩手農林研究協議会(AFR)シンポジウム
23.7.21	岩手大学農学部会議室	平成23年度第1回岩手農林研究協議会(AFR)幹事会
23.10.21		平成23年度第2回岩手農林研究協議会(AFR)幹事会

(9) その他共同研究

課題名	相手方	研究期間	研 究 の 内 容	担当研究室
肉用牛における経済形質とDNAマーカーの連鎖解析	(社)畜産技術協会	13～	岩手県種雄牛の約300頭からなる半きょうだい家系を作成し、DNAマーカーによる連鎖解析を行い、経済形質遺伝子座を明らかにする。また、遺伝的不良形質について、500頭程度の半きょうだいサンプルを追加、原因領域に新たなマーカーの追加等を行い原因となる遺伝子座を明らかにする。	家畜育種
生物遺伝資源交換に関する研究協定	(独)農業生物資源研究所	14～24	植物、動物、微生物の生物遺伝資源及びDNAの相互交換	センター全体

(10) 産学官連携

名 称	開催年月	場 所	内 容	担当研究室
産学官連携フォーラム いわて産学連携推進協議会 (リエゾン I)	23.11.9	盛岡市 (工業技術センター)	研究シーズ発表による県内企業とのマッチング  (事務局:岩手大学地域連携推進センター)	研究企画
JST北東北地域資源フォーラム in 岩手	23.11.9	盛岡市 (工業技術センター)	研究シーズ発表による県内企業とのマッチング	研究企画
JST北東北地域資源フォーラム in 青森	23.11.15	青森市	研究シーズ発表(パネル展示のみ)による県内企業とのマッチング	研究企画
JST北東北地域資源フォーラム in 秋田	23.11.17	秋田市	研究シーズ発表(パネル展示のみ)による県内企業とのマッチング	研究企画
アグリビジネス創出フェア	23.11.30 ～ 12.2	千葉県	研究シーズ発表(パネル展示のみ)による企業とのマッチング	研究企画
東北地域アグリビジネス創出フェア	23.12.20	宮城県	研究シーズ発表(パネル展示のみ)による企業とのマッチング	研究企画
平成23年度産学官連携セミナー  東北地域農林水産・食品ハイテク研究会	24.1.20	仙台市	産官学の連携強化、先端技術に関する情報提供、異業種・異分野間交流  事務局:東北農業研究センター(東北農政局)	研究企画

※1 平成23年度リエゾン-Iマッチングフェアに出展した研究シーズ(研究シーズ集掲載)

研究シーズ名	担当研究室
作業労力を軽減できるリンドウ選花作業台セットを開発しました！	農業経営
大玉でジューシーな赤色リンゴ新品種「岩手5号」	果樹
敬老の日に彩りを～鉢物りんどう新品種「ももずきんちゃん」	野菜花き
<b>(以下は「研究シーズ集」掲載のみ)</b>	
健康志向の雑穀(ヒエ「ねばりっこ」)でお菓子を作りませんか	作物(県北研)
いわてオリジナル新形質米品種～機能性！色！香り！ 用途はあなた次第～	作物(技術部)
安心して水稻直播栽培を取り入れるための生育予測モデルと一緒に 作りませんか？	プロジェクト推進室
果肉が褐変しにくいカットフルーツに好適な赤リンゴ「岩手7号」	果樹
耐寒性が強く食味良好なぶどう「岩手3号」	果樹
低コストで排液を系外に出さない閉鎖型高設栽培“エコ”システム	南部園芸
そばや盛岡冷麺のクズ、おからなどの地域未利用資源で作るブランド豚 及び地鶏の自給飼料	家畜育種

※2 平成23年度東北地域農林水産・食品ハイテク研究会研究・技術シーズ集に掲載した研究シーズ

研究シーズ名	担当研究室
作業労力を軽減できるリンドウ選花作業台セットを開発しました！	農業経営
大玉でジューシーな赤色リンゴ新品種「岩手5号」	果樹
敬老の日に彩りを～鉢物りんどう新品種「ももずきんちゃん」	野菜花き
低コストで排液を系外に出さない閉鎖型高設栽培“エコ”システム	南部園芸



内 容 ( 試験研究課題名 )	市町村名	地 区 名	担 当 (関係研究室)
酒造好適米「岩手酒98号」醸造試験原料米生産	紫波町 奥州市	上平沢 前沢区	技術部 作物
麦類耐寒雪性特性検定試験	一戸町	奥中山	
麦類奨励品種決定調査(現地調査)	一関市 矢巾町	舞川 煙山	
大豆奨励品種決定調査(現地調査)	奥州市 滝沢村	前沢区 大沢	
リンゴ育種系統の現地適応性試験	二戸市 宮古市 矢巾町 奥州市 一関市	金田一 内の沢 煙山 江刺区小倉沢 花泉町金沢	技術部 果樹
低コスト養液土耕装置を利用した効率的施肥法の確立(ピーマン)	遠野市 九戸村	松崎 伊保内	技術部 野菜花き
リンドウ採花期間における環境にやさしい肥料の検討	八幡平市	安代	環境部 生産環境
水稻のケイ酸質資材の施用効果	盛岡市 花巻市 北上市 一関市	都南 東和 和賀 萩荘	
水稻に対するケイ酸入り基肥用配合肥料の効果	花巻市	石鳥谷	
水稻における特別栽培農産物等生産技術の安定化実証	奥州市 一関市	江刺区岩谷堂 花泉町花泉	
小麦に対するLPコート配合肥料の効果検討	花巻市	下根子	
高窒素鶏ふん堆肥の機械施肥適合性実証	岩手町 九戸村 金ヶ崎町	久保 山根 六原	
広域的な葉いもち防除の徹底による穂いもち防除を省略した いもち病防除体系の確立	奥州市	江刺区 水沢区	環境部 病理昆虫
斑点米被害を低く抑える水稻出穂期以降の畦畔雑草管理対策	奥州市	水沢区	
ダイズを加害するウコンノメイガの発生生態の解明と防除対策の 確立	一関市	奥玉	
キュウリホモブシス根腐病の防除技術確立	遠野市 花巻市	宮守達曾部 約7a×3筆 湯本糠塚	
新農薬の効果検定と防除指針作成	奥州市 盛岡市	江刺区 (ホップ) 羽場 (ミニトマト)	
ハウレンソウ栽培で問題となる病害の防除技術の確立	久慈市	山形村	

内 容 ( 試験研究課題名 )	市町村名	地 区 名	担 当 (関係研究室)
不耕起栽培とうもろこしを導入した寒冷地向け飼料作物周年作付け体系の確立	滝沢村		畜産研究所 家畜飼養・飼料
トウモロコシ市販品種の特性比較	岩泉町 遠野市 八幡平市		
被災地における新たな園芸品目導入への技術支援	洋野町 宮古市	大野 田代	県北農業研究所 園芸
キャベツ圃場における生物多様性の指標候補種選定 (農業に有用な生物多様性の指標および評価手法の開発)	八幡平市	松尾刈屋	
現地ほうれんそうハウスの土壌水分の実態調査 (ほうれんそう産地における夏期増収技術の確立)	八幡平市 久慈市 洋野町	平笠・大更 侍浜町 下高森・日当	
りんどうトンネル栽培による作期前進実証 (県北地域におけるりんどうの収益性向上技術の確立)	九戸村	江刺家	
りんどう施設栽培における病虫害発生実態調査 (県北地域におけるりんどうの収益性向上技術の確立)	九戸村 軽米町	戸田 山内	
東日本大震災津波被害水田の除塩対策並びに水稻安定栽培等の技術支援圃場	宮古市 岩泉町 野田村	撰待 小本 長地 米田 4地区、14ほ場	県北農業研究所 作物
雑穀輪作作物の組み合わせと輪作年数に応じた栽培様式の検討試験 (地域経営推進事業費)	二戸市  軽米町	下斗米  長倉	
アワ・キビ新品種現地適応性試験(オリジナル雑穀品種の育成)	軽米町	尾田	
光利用による害虫防除効果試験	軽 米 町 軽米町 九戸村	駒木 小軽米 葉の木沢	

### Ⅲ 試験研究の成果

### Ⅲ 試験研究の成果

#### 1 試験研究成果

##### (1)平成23年度成果数

成果区分	普及 (普及に移しうる成 果)	指導 (技術指導に参考と なる成果)	行政 (行政施策等に反映 すべき成果)	研究 (研究手法等に関す る成果)	総計
1 農業構造・経営管理	1	2	3	0	6
2 水稻	2	3	3	0	8
3 畑作物	0	3	0	0	3
4 果樹	0	3	0	0	3
5 野菜	0	2	0	0	2
6 花き	1	2	0	0	3
7 作物バイオテクノロジー	0	0	0	0	0
8 作業技術	1	1	0	0	2
9 環境保全	0	0	0	0	0
10 土壌作物栄養	1	3	0	1	5
11 病虫害制御	0	3	0	0	3
12 食の安全	0	0	0	0	0
13 乳用牛	0	1	0	0	1
14 肉用牛	0	2	6	1	9
15 中小家畜(豚・鶏)	0	1	0	0	1
16 草地・飼料作物	3	1	0	1	5
17 家畜バイオテクノロジー	0	1	2	0	3
18 畜産環境	0	0	0	0	0
19 県北農業振興	0	4	0	0	4
[ 計 ]	9	32	14	3	58

普及:農家等へ普及することによって、経済効果や経営改善等が見込まれる成果

指導:普及指導員等の技術指導上の参考として適当と認められる成果

行政:行政からのニーズに対応した研究成果等で、行政施策の企画等に参考になると認められるもの

研究:研究手法・分析手法、育種母本等に関するもの

## (2) 平成23年度成果名一覧

### 【普及(普及に移しうる成果)】

分野	成果番号	成果名	担当研究室
農業構造・経営管理	H23-普-01	りんどう選花作業台セットによる選花作業時間の短縮効果	農業経営
水稲	H23-普-02	早生低アミロース水稲品種「岩手91号」の育成	作物(技術)
水稲	H23-普-03	大吟醸酒原料向け水稲品種「岩手酒98号」の育成	作物(技術)
花き	H23-普-04	10月上旬開花の切り花向け青色リンドウF1品種「いわてVLB-1号」の育成	野菜花き
作業技術	H23-普-05	小畦立て播種栽培技術マニュアル	プロジェクト
土壌作物栄養	H23-普-06	園芸野菜施肥設計支援シート	生産環境
草地・飼料作物	H23-普-07	乾物収量性に優れた飼料用トウモロコシ早生品種「ロイヤルデントTH680」	家畜飼養・飼料
草地・飼料作物	H23-普-08	飼料用トウモロコシの不耕起栽培における二毛作前作ライ麦の最適刈取時期	家畜飼養・飼料
草地・飼料作物	H23-普-09	飼料用トウモロコシ圃場および不定形・波丘草地におけるトラクタ搭載型GPS作業支援システムを活用した除草剤散布作業精度の向上	外山畜産

### 【指導(技術指導に参考となる成果)】

分野	成果番号	成果名	担当研究室
水稲	H23-指-01	津波被災水田において栽培した水稲の事例解析	作物(技術)
果樹	H23-指-02	津波被災果樹園地におけるりんごの生育状況	果樹(技術)
野菜	H23-指-03	津波被災きゅうり圃場における除塩対策	南部園芸
土壌作物栄養	H23-指-04	津波被災水田(無作付け)での自然降雨によるEC推移	生産環境
農業構造・経営管理	H23-指-05	水田農業経営体の特徴と経営展開のポイント	農業経営
農業構造・経営管理	H23-指-06	小ぎくの収穫調製作業に影響を及ぼす要因と改善方向	農業経営
水稲	H23-指-07	平成23年岩手県産水稲の生育経過の特徴と作柄・品質に影響した要因の解析	作物(技術)
水稲	H23-指-08	岩手県における水稲主要品種の幼穂形成期追肥実施を7月上旬に判定する目安	作物(技術)
畑作物	H23-指-09	平成23年岩手県産大豆の生育経過の概要と特徴	作物(技術)
畑作物	H23-指-10	平成23年岩手県産小麦の生育経過の概要と特徴	作物(技術)
畑作物	H23-指-11	麦の雑草防除の動向とイネ科雑草に有効な土壌処理剤の特性	作物(技術)
果樹	H23-指-12	りんごに対する落果防止剤(1-ナフタレン酢酸ナトリウム)の使用法	果樹(技術)
果樹	H23-指-13	SS用ドリフト低減型ノズル及び立木用ドリフト低減型防除機の特徴(追補)	果樹(技術)

分野	成果番号	成果名	担当研究室
野菜	H23-指-14	アスパラガス伏せ込み促成栽培11月生産技術	野菜花き
花き	H23-指-15	リンドウ早生品種における発蕾から開花までの日数増加・減少程度の判断指標	野菜花き
花き	H23-指-16	リンドウ越冬芽を用いた超低温保存法	野菜花き
作業技術	H23-指-17	無コーティング種子を使用した水稲作溝同時湛水直播栽培の生育の特徴と管理のポイント	プロジェクト
土壌作物 栄養	H23-指-18	特別栽培米専用肥料の連用による収量・品質及び可給態窒素への影響	生産環境
土壌作物 栄養	H23-指-19	エゾリンドウの主塊茎と副塊茎に着目した株の経年推移	生産環境
病虫害制 御	H23-指-20	アカスジカスミカメの斑点米形成時期	病理昆虫
病虫害制 御	H23-指-21	岩手県のリンゴ園地に生息するカブリダニ類	病理昆虫
病虫害制 御	H23-指-22	転炉スラグを用いた土壌pH改良によるキュウリホモプシス根腐病の被害軽減	病理昆虫
乳用牛	H23-指-23	育成中期（体重270kg）までの育成牛に搾乳用TMRを併給する飼料給与技術	家畜飼養・飼料
肉用牛	H23-指-24	蛋白質源として大豆サイレージを給与した日本短角種の肥育	家畜育種
家畜バイ オテクノ ロジー	H23-指-25	黒毛和種雄牛の一価不飽和脂肪酸割合育種価の推定	家畜育種
肉用牛	H23-指-26	各種要因が黒毛和種子牛市場価格に及ぼす影響の性別による違いについて	種山畜産
中小家畜 (豚・鶏)	H23-指-27	パークシャー種の肥育後期(体重70～110kg)における飼料用米配合飼料給与が発育・肉質に及ぼす影響	家畜育種
草地・飼料 作物	H23-指-28	作溝式播種機を用いた早春牧草追播における入牧時草丈が牧草定着に及ぼす影響	外山畜産
県北農業 振興	H23-指-29	促成アスパラガス廃根株を用いたレタス圃場のキタネグサレセンチュウ被害軽減技術	園芸（県北）
県北農業 振興	H23-指-30	岩手県雑穀遺伝資源データベースシステム	作物（県北）
県北農業 振興	H23-指-31	雑穀の移植栽培による抑草効果	作物（県北）
県北農業 振興	H23-指-32	雑穀品目別主要病害虫の被害様相と発生時期	作物（県北）

【行政(行政施策等に反映すべき成果)】

分野	成果番号	成果名	担当研究室
農業構造・経営管理	H23-行-01	岩手県産レタスの競争ポジショニングと対応方向	農業経営
農業構造・経営管理	H23-行-02	復興モデル作成支援シート	農業経営
水稲	H23-行-03	平成23年度水稲奨励品種決定試験本調査・現地調査結果	作物(技術)
水稲	H23-行-04	平成24年度水稲奨励品種決定試験本調査・現地調査新規供試系統	作物(技術)
水稲	H23-行-05	平成24年度水稲新配付系統(候補系統)	作物(技術)
肉用牛	H23-行-06	日本短角種産肉能力検定(直接法)成績	家畜育種
肉用牛	H23-行-07	日本短角種産肉能力検定(現場後代検定法)成績	家畜育種
肉用牛	H23-行-08	黒毛和種産肉能力検定(直接法)成績	種山畜産
肉用牛	H23-行-09	黒毛和種産肉能力検定(現場後代検定法)成績	種山畜産
肉用牛	H23-行-10	黒毛和種種雄牛別枝肉成績	種山畜産
肉用牛	H23-行-11	黒毛和種子牛市場における県有種雄牛の評価	種山畜産
家畜バイオテクノロジー	H23-行-12	種雄牛「菊福秀」のQTL解析結果と後継牛のQTL保有状況	家畜育種
家畜バイオテクノロジー	H23-行-13	県内の黒毛和種および日本短角種集団においてNCAPG遺伝子型多型は枝肉重量とロース芯面積に影響を及ぼす	家畜育種
農業構造・経営管理	H23-行-14	岩手県における近年の農地流動化の特徴と地域性	農業経営

【研究(研究手法等に関する成果)】

分野	成果番号	成果名	担当研究室
土壌作物栄養	H23-研-01	エゾリンドウの塊茎と芽序に着目した株分解法	生産環境
肉用牛	H23-研-02	画像ファイルからの閉区間面積測定ツール	家畜育種
草地・飼料作物	H23-研-03	人工衛星画像を用いた大規模草地の実草量の推定	外山畜産

## 2 追跡評価

### (1) 評価視点

岩手県農業研究センター試験研究課題評価実施要領別表5の規程により、「成果の活用状況」について、「現在も有効な成果であるか」「成果が経済活動等で活用されているか」の評価視点で追跡評価を実施。

### (2) 追跡評価の調査方法

#### ア 評価1(評価の視点「現在も有効な成果であるか」)

(ア) 評価対象 平成9年度から平成19年度までに公表した「普及」、「指導」区分の試験研究成果

(イ) 評価方法 成果の主査研究室が関係研究室と調整の上、自己評価

(ウ) 評価区分

- A:(現在でも)有効
- B:目的達成(既に、成果の目的を達成し、現在では有効性がない)
- C:後年度の成果に反映(更新)
- D:無効(Bの概念にふくまないもの)

#### イ 評価2(評価の視点「成果が経済的活動等で活用されているか」)

(ア) 評価対象

- a 平成20年度に公表した「普及」区分の研究成果
- b 平成20年度に公表した「指導」区分の研究成果から評価対象として選定したもの

(イ) 評価方法

a 「普及区分」

(a) 本庁各室課が定める要綱・要領等に基づき検討されている成果は、自己評価を実施(別紙様式「平成22年度追跡評価調査(普及区分)」)

- ① 農作物奨励品種等の決定及び改廃に関する要綱(奨励品種等)  
※ 農産園芸課が所管する稲、麦類、豆類、果樹、野菜、花き等が対象
- ② 岩手県農作物病害虫・雑草防除指針作成要領(農薬の採用・使用上の留意点等)
- ③ いわて和牛改良増殖対策事業推進協議会設置要領(種雄牛の作出)
- ④ 日本短角種集団育種推進事業推進協議会設置要領(種雄牛の作出)

(b) 上記(a)以外の成果は、中央農業改良普及センターに調査を依頼(別紙様式「平成23年度追跡評価調査(普及)」)

(c) 評価区分

- ① 農家への普及状況 A(目標の75%)、B(75%未満～50%)、C(50%未満～25%)、D(25%未満)
- ② 成果適用地帯または対象者における当該成果活用による効果  
A(大いにあった)、B(あった)、C(あまりなかった)、D(なかった)
- ③ 成果活用等により地域(農家)に与えた具体的な効果(成果が活用されない要因)

a 「指導区分」

(a) 中央農業改良普及センターに次の調査を依頼する(別紙様式「平成23年度追跡調査(指導区分利用状況)」)。

(b) 評価区分

- ① 技術指導の参考になったか:A(大いに参考になった)、B(参考になった)、C(あまり参考にならなかった)、D(参考にならなかった)
- ② 指導効果(技術改善、技術水準の向上、指導効率の向上等):A(大いにあった)、B(あった)、C(あまりなかった)、D(まったくなかった)

(3) 追跡評価結果(評価の視点「成果が経済的活動等で活用されているか」)

ア 普及区分

(ア) 農業研究センターが自己評価した成果

No.	<code>成果名	普及状況	効果	評価コメント (成果活用等による効果等)
1	(H20-普-02)品種 食味に優れ、草丈が低く栽培しやすい半もち・短稈の早・中・晩生ヒエ「ヒエ岩手1号」「ヒエ岩手2号」「ヒエ岩手3号」【作物県北<作物県北>】  【目標→現状】 ヒエ岩手1号: 県北部畑1ha →0.4ha(H22) ヒエ岩手2号: 全県水田26.5ha →28ha(H22) ヒエ岩手3号: 県中・県南部水田5ha →実績なし	A	B	「1号」は県北の畑地帯で栽培され、県北地域の製パン業者が市販する「雑穀パン」の原料に用いられた。「2号」は県下最大のヒエ産地である花巻地域で栽培され、「雑穀ミックス」の原料として地元業者によって全国的に販売されている。2品種合計の普及面積は目標の87%に達し経済活動でも活用されていることから、本成果の活用効果は認められる。 しかし、いずれも複数の原料を用いた雑穀製品内の一部材料としての利用に止まっている。ヒエオリジナル品種に着目し、その食味特性を活用した製品は試作に止まっており、当初期待した効果が十分に達成されているものとはいえない。今後は、食品加工産業者との連携を強化するため、さらなる行政的な支援も期待したい。
2	(H20-普-03)県中南部向け非主食用水稻新品種「岩南29号」の育成【作物<作物>】  【目標→現状】	-	B	飼料用米は戸別所得補償における戦略作物に位置づけられ、岩手県でも施策推進に重要な品目である。当該品種の作付け面積も平成23年度で約440ha(種子供給量からの推定値、農産園芸課調べ)と順調に伸びている。
3	(H20-普-04)県中北部向け非主食用水稻新品種「岩手85号」の育成【作物<作物>】  【目標→現状】	B	B	飼料用米は戸別所得補償における戦略作物に位置づけられ、岩手県でも施策推進に重要な品目となっている。当該品種の作付け面積も約350ha(種子供給量からの推定値、農産園芸課調べ)と順調に伸びている。
4	(H20-普-06)直播栽培における水稻中期除草剤「ペノキスラム水和剤」の使用時期【作物<作物>】  【目標→現状】	-	B	成果公表時の当該除草剤の処理時期は、葉書を懸念したメーカーの意向もあり、「稲6葉期以降/ビエ5葉期まで」であったが、その後登録内容が変更され「稲3葉期以降/ビエ5葉期まで」(平成23年度防除指針)となった。従って、登録内容変更後は、成果の内容である「使用時期」について現場での使用場面は少ないと思われる。
5	(H20-普-11)品種 鉢物用リンドウ「ももずきんちゃん(花研鉢2)」【野菜花き<園芸>】  【目標→現状】 普及見込み生産量10,000鉢/年→H22販売実績 15,240鉢	B	A	平成22年の出荷量は15,240鉢と目標数値を上回った。平成23年は前年を上回る数量の苗が供給され、主要な2産地(北上、花巻)だけでも4.6万鉢と目標を大きく上回る出荷が計画されていることから、順調に増加していると言える。 出荷物に対する市場評価も高く、出荷数量の増加とともに出荷期間の拡大が期待されており、産地の生産拡大意欲につながっている。
6	(H20-普-15)肉質に優れる日本短角種種雄牛「辰郎」の作出【家畜育種<家畜育種>】  【目標→現状】	-	A	エリート牧区供用後も人工授精での利用が最も多い(H22)。その雄産子は地域から毎年直接検定候補牛として選定されてくる。
7	(H20-普-16)乾物収量性に優れた飼料用トウモロコシ中生品種「ゴールドデントKD660」【家畜飼養・飼料<家畜飼養・飼料>】  【目標→現状】 普及見込み面積 90ha→65.5ha(H23)	B	A	研究成果公表後の平成21年度から順調に作付面積は増加しており、平成23年度には単年度でも目標数値の70%以上の実績をあげている。 飼料用トウモロコシの中生・晩生品種に期待される高収量というメリットが現地でも受け入れられ、近年の自給飼料増産意欲の高まりを後押しするとともに今後更なる作付面積の拡大が期待できる。
8	(H20-普-17)平成21年度岩手県病害虫防除指針に採用した主な殺虫剤、殺菌剤【病理昆虫<病理昆虫>】  【目標→現状】	-	B	各地域の病害虫防除体系策定の際に活用されている。

\*1:普及状況:農家への普及状況 A(目標の75%)、B(75%未満~50%)、C(50%未満~25%)、D(25%未満)、目標数値が定められていない場合は記載しない

\*2:効果:成果適用地帯または対象者における当該成果活用による効果 A(大いにあった)、B(あった)、C(あまりなかった)、D(なかった)

## (イ) 中央農業改良普及センターが評価した成果

No.	<code>成果名	普及状況	効果	評価コメント (成果活用等による効果等)
1	(H20-普-01)イブキジャコウソウ栽培マニュアル【農業経営<農業経営>】 【目標→現状】	-	A	景観、環境改善といった効果だけではなく、斑点米カメムシ対策としても注目を浴びた。マニュアル作成により、より身近な技術となった点と畦畔管理に対して農家の意識がさらに高まった点は評価が高い。
2	(H20-普-05)落水出芽を行う水稲湛水直播栽培に適する肥効調節型肥料の配合【PJ推進室<PJ推進室.>】 【目標→現状】 湛水直播面積の50%→30%	B	A	水稲湛水直播における肥料としてメーカーから商品も販売されており、湛水直播用に活用されている。
3	(H20-普-07)納豆用大豆「すずほのか」の播種適期及び好適栽植密度【作物<作物>】 【目標→現状】 普及見込み面積40ha→30ha	B	B	納豆用品種として徐々に栽培面積が拡大している中で、安定栽培に向けた指標として活用されている。
4	(H20-普-08)水田大豆の小畦立て播種栽培の導入効果(追補)ー播種機の改良オプションー【PJ推進室<PJ推進室.>】 【目標→現状】	-	B	成果で示された内容を参考にしているものの、成果をそのまま取り入れるのではなく、生産者個々で圃場条件にあわせ播種機を独自に改良しながら使用しているため、本技術そのものの普及率は低い。
5	(H20-普-09)りんご「黄香」の樹上裂果軽減対策【果樹<園芸>】 【目標→現状】	-	A	黄香は省力的な栽培が可能な黄色品種であるが、収穫時の裂果が課題であり、本成果はその裂果軽減のため現地指導で利用されている。なお、中央農業改良普及センターでは本成果等を活用し『「黄香」裂果対策マニュアル』を作成し、技術の普及を図っている。
6	(H20-普-10)出荷規格L(350g)を目標としたぶどう品種「サニールージュ」の花穂整形と適粒【果樹<園芸>】 【目標→現状】	-	A	「サニールージュ」は8月下旬から9月上旬に収穫できる種なしの品種として、紫波・花巻で栽培面積が増加している。本成果は有効な栽培方法として現地で利用されている。
7	(H20-普-12)リンゴの肥効調節型肥料を利用した株養成期の低コスト施肥法【生産環境<生産環境>】 【目標→現状】	-	A	りんごを栽培するほとんどの地域で当技術を導入しており、省力及び低コストの効果が得られている。しかしながら、滞水しやすい圃場では肥効が不安定になる傾向があることから、明きょ等の排水対策や即効性肥料の追肥の実施することで効果の安定を図っている。
8	(H20-普-13)県北地域における9～10月出荷用小ぎくの栽培体系【園芸(県北)<園芸(県北)>】 【目標→現状】 9～10月出荷用小ぎく栽培農家数に占める技術導入農家割合 100%→40%	C	B	現況ではボリュームが不足するなどリスクが伴うことから導入が進んでいない。規模拡大による作期拡大を目的とした導入の可能性は考えられる。
9	(H20-普-14)リンゴの育苗中に発生する苗腐敗症の発生病態と防除対策【病理昆虫<病理昆虫>】 【目標→現状】	-	A	これまで苗腐敗症が多発する事例が散見されたが、防除対策の確立により、被害の発生が抑えられている。

\*1:普及状況:農家への普及状況 A(目標の75%)、B(75%未満～50%)、C(50%未満～25%)、D(25%未満)、目標数値が定められていない場合は記載しない

\*2:効果:成果適用地帯または対象者における当該成果活用による効果 A(大いにあった)、B(あった)、C(あまりなかった)、D(なかった)

イ 指導区分

No.	<code>成果名	指導参考	指導効果	評価コメント	活用事例
1	(H20-指-01)新技術等を導入した農業技術体系データ 【農業経営<農業経営>】 [県単,タイムリー]	B	B	中山間地における認定農業者の経営改善計画(水稲10a区画1ha体系)や集落営農組織における経営計画(小麦冬期播種栽培、大豆小畦立て播種栽培)の策定・見直しをする際に当該データを活用している。	経営計画策定や見直しの際に活用
2	(H20-指-02)生産技術体系を活用したきゅうり経営分析シート 【農業経営<農業経営>】 [県単,タイムリー]	B	C	目指すべき経営体(所得)と雇用導入の可否を簡易に判断できるシートだが、実際の場面では導入時期のきゅうりの単価に左右されるケースが多い。	摘葉ヘルパー等を検討するきゅうり産地で一部活用
3	(H20-指-03)集落営農組織の現状と展開方向 【農業経営<農業経営>】 [県単,タイムリー]	B	C	集落営農組織の発展段階別に現状と課題や展開方向が整理されているので、各組織へ支援する際の方向性や支援内容の参考にはなるが、組織によりおかれた状況が異なるので示された支援内容や方法をそのまま活用することが難しい。	—
4	(H20-指-04)園芸農家経営分析シート 【農業経営<農業経営>】 [県単,タイムリー]	B	C	時系列で経営評価できるのはよいが、複合経営の場合どの部門に課題があるのかがやや分かりにくく、十分に活用されていない。	園芸経営体の時系列経営分析に活用
5	(H20-指-05)稲作コスト低減技術情報ナビの作成 【農業経営<農業経営>】 [県単,タイムリー]	C	C	標準的な生産技術体系との比較・評価が簡易にできることは評価できるが、生産コストの中で最も大きな割合を占める施設・機械費の計算方法が異なること、経営改善のための分析としては同一生産者における年次比較も必要であること等から、十分に活用されていない。	—
6	(H20-指-06)水稲種子消毒用生物農薬の防除効果 【病理昆虫<病理昆虫>】 [民間委託,タイムリー]	B	B	環境保全型農業の推進に一定の成果があり、バカ苗病に対して注意を促している点は評価できるが、その後バカ苗対策が必要になった点を考えると成果として取りまとめたタイミングは遅かったと思う。	特別栽培米生産地域での農薬選定及び使用方法の参考資料として活用
7	(H20-指-07)集落営農組織における経営管理の展開方向 【農業経営<農業経営>】 [県単,タイムリー]	B	C	集落営農組織の経営管理を支援するうえで参考とはなるが、経理事務のみを一元化した組織など、この手法を適用できる段階にない組織が多いこともあり、十分な活用がされていない。	—
8	(H20-指-08)非主食用品種「岩南29号」および「岩手85号」の施肥法 【作物(技術)<作物(技術)>】 [県単]	B	B	飼料米・稲WCS用として作付けする際の施肥管理の参考としている。	飼料生産者等への技術指導の参考資料に活用
9	(H20-指-09)水稲湛水直播における作溝同時直播装置の開発 【PJ推進室<PJ推進室(水田農業)>】 [県単]	A	A	直播栽培で落水出芽を効果的に行う装置として評価高く、導入者から高い評価を得た。	直播栽培農家が当該装置を導入する際に活用
10	(H20-指-10)大区画水田における水稲直播栽培モデル体系 【PJ推進室<PJ推進室(水田農業)>】 [県単,要望]	A	B	モデルの提示、コスト意識を高めた点で評価できる。	各種会議や指導会の資料に活用
11	(H20-指-11)温湯浸漬処理済み水稲種子の長期保存条件 【病理昆虫<PJ推進室(特栽・有機)>】 [国庫補助,要望]	A	A	現場のニーズに対応した成果であり、大規模温湯処理施設の運営において、長期保存の裏付けデータとなった。	当該種子導入地域で長期保存の参考資料として活用
12	(H20-指-12)アカスジカスミカメに対する地域一斉防除が有効となる防除時期 【病理昆虫<病理昆虫>】 [独法委託,要望]	A	A	斑点米カスミカメに対する薬剤の地域一斉防除の考え方に対して現場でやや混乱があったが、明確に防除時期を示した点を高く評価している。	各種会議や指導会の資料に活用

No.	<code>成果名	指導参考	指導効果	評価コメント	活用事例
13	(H20-指-13)平成20年における水稲生育の特徴と作柄・品質に影響した要因の解析 【作物(技術)<作物(技術)>】 [県単]	A	B	その年の作柄を研究の立場から解析することは水稲の安定生産のうえで重要であり高く評価したい。さらに、データの精度や中長期的なデータの解析等があれば技術の方向性等を意識することが出来るので工夫が欲しい。	各種会議や指導会の資料に活用
14	(H20-指-14)肥効調節型肥料(シグモイド型)で水稲の肥料費を低減 【生産環境<生産環境>】 [民間委託]	A	A	市販されている肥料についても速くに肥料内容の見直しが行われ県内生産者に利用されている	各種会議や指導会の資料に活用
15	(H20-指-15)水稲における固定式タイン型除草機の除草効果 【PJ推進室<PJ推進室(特裁・有機)>】 [県単]	B	B	有機栽培生産者のニーズに対応した成果として評価したい。	有機栽培米生産者が当該技術を導入する際に活用
16	(H20-指-16)平成20年産麦・大豆の生育経過の概要と特徴 【作物(技術)<作物(技術)>】 [県単]	B	B	技術指導資料として参考になった。	各種会議や指導会の資料に活用
17	(H20-指-17)ダイズ紫斑病の効率的な薬剤防除体系 【病理昆虫<病理昆虫>】 [民間委託]	A	B	防除指針にも掲載され、紫斑病の防除に有効活用されている。	各種会議や指導会の資料に活用
18	(H20-指-18)発酵鶏ふんを利用した大豆の無化学肥料栽培技術 【作物(県北)<作物(県北)>】 [県単,要望]	A	B	肥料のコスト低減策として発酵鶏ふんで栽培している生産組織も出てきており、その参考となっている。	各種会議や指導会の資料に活用
19	(H20-指-19)キビ、アワの登熟特性からみた成熟期の推定 【作物(県北)<作物(県北)>】 [県単]	A	B	収穫適期の指導資料として有効活用されている。	各種会議や指導会の資料に活用
20	(H20-指-20)キビ、アワの機械収穫技術 【作物(県北)<作物(県北)>】 [県単]	A	B	コンバイン収穫が行われている地域で、指導資料として有効活用されている。	各種会議や指導会の資料に活用
21	(H20-指-21)生物農薬(BT水和剤)によるアワノメイガ防除条件下でのアワの生育特性から見た適正播種量と作期 【作物(県北)<作物(県北)>】 [県単]	A	B	生物農薬が使用されている地域での栽培資料として有効活用されている。	各種会議や指導会の資料に活用
22	(H20-指-22)りんご「ふじ」の樹上凍結が果実品質に及ぼす影響 【果樹<園芸(技術)>】 [県単]	A	A	凍害防止のため、現地指導の資料として活用されている。	指導会の資料に活用
23	(H20-指-23)りんご「シナノゴールド」の台木比較評価 【果樹<園芸(技術)>】 [県単]	A	A	「シナノゴールド」は有望品種として、面積が増えている品種である。苗木導入時の台木選択のための資料として利用されている。	指導会の資料に活用
24	(H20-指-24)県内主要りんご産地におけるナミハダニの薬剤抵抗性実態を踏まえた殺ダニ剤使用体系 【病理昆虫<病理昆虫>】 [国庫補助]	A	A	ナミハダニはりんごにおいて、大量発生が懸念される重要害虫であり、本成果は地域の防除暦作成において参考資料となっている。	防除暦の作成に活用

No.	<code>成果名	指導参考	指導効果	評価コメント	活用事例
25	(H20-指-25)クラブアップル「ドルゴ」、「スノードリフト」の授粉専用品種としての特性 【果樹<園芸(技術)>】 [国庫委託]	B	B	品種間のドリフト削減や結実確保のための技術資料として利用されている。	指導会の資料に活用
26	(H20-指-26)授粉専用品種のポット大苗移植によるリンゴ単植園での結実安定効果 【果樹<園芸(技術)>】 [国庫委託]	B	B	品種間のドリフト削減や結実確保のための技術資料として利用されている。	指導会の資料に活用
27	(H20-指-27)ブルーベリー栽培における有機質資材の利用法 【果樹<園芸(技術)>】 [県単]	B	B	ブルーベリー栽培における有効な指導資料となる。剪定枝を粉砕するためのチップパーの導入数が少ないことが課題である。	指導会の資料に活用
28	(H20-指-28)四季成り性イチゴの主要品種の特性【南部園芸<南部園芸>】 [県単]	B	B	県内のいちご生産者を対象としたセミナー等において当該研究成果が周知され、一部で品種選定の参考になっている。	研修会等での情報提供に活用
29	(H20-指-29)四季成り性イチゴの摘果と摘花房処理の効果 【南部園芸<南部園芸>】 [県単]	B	C	四季成り性品種の導入されている地域の指導担当者が、該当品種の栽培管理指導をする際の参考資料となる。	指導者間での知見の共有
30	(H20-指-30)アスパラガス数品種の岩手県における年内どり伏せ込み促成栽培適性 【野菜花き<園芸(技術)>】 [国庫委託]	B	B	野菜栽培技術指針及び普及センター指導資料に当該研究成果の内容が盛り込まれ活用されている。	指導会の資料に活用
31	(H20-指-31)トマトすすかび病とCf-9品種を侵す葉かび病(新レース)の新奇発生と診断のポイント 【病理昆虫<病理昆虫>】 [民間委託]	B	B	野菜栽培技術指針に当該研究成果の内容が盛り込まれており、診断のポイントが現地指導の参考になっている。	現地での病害診断の参考資料として活用
32	(H20-指-32)ハウレンソウ萎凋病に対するクロルピクリン錠剤の低薬量処理法 【園芸(県北)<園芸(県北)>】 [民間委託,要望]	B	C	実際の土壤消毒作業では被覆資材を新たに購入するのではなく、手持ちの中古資材を用いることがほとんどであるため、活用されていない。土壤中のガス濃度や萎凋病の防除効果のデータは土壤消毒の基礎データとして活用されている。	実証試験や指導の基礎データとして活用
33	(H20-指-33)小型反射式光度計及び示差屈折計を用いたレタス体内成分(硝酸イオン、糖)の簡易推定法 【生産環境<生産環境>】 [県単]	C	C	実際の生産流通場面で硝酸イオン、糖含量が必要になることがほとんどないので活用されていない。今後、新たな取引を確保する場合の売り込み材料の一つになる可能性がある。	—
34	(H20-指-34)GAP(衛生管理:トマト、きゅうり)における改善点と対策 【生産環境<生産環境>】 [県単]	B	B	GAP関係の品質管理チェックシート等の資料作成の際に参考になる。	品質向上の啓発資料の参考資料として活用
35	(H20-指-35)A4菌により作出したわい性リンドウ「A4PB No.34-25」の特性 【野菜花き <園芸(技術)>】 [県単]	B	—	特にPRしていないこと、育種の観点から普及活動をする機会がほとんどないことから、評価不能である。	—
36	(H20-指-36)パンジー鉢上げ用土としての杉樹皮培地の利用技術 【南部園芸<南部園芸>】 [県単]	B	B	一部地域で実証しているところであるが、生産現場に普及するためには培土メーカーによる商品化が必要である。	実証圃で導入する際に活用
37	(H20-指-37)リンドウ種子の調製・貯蔵技術 【野菜花き<園芸(技術)>】 [県単]	B	B	指導するうえでの根拠にすることができたが、さらなる種子供給の安定化につながる技術確立が望まれる。	各種会議や指導会の資料に活用

No.	<code>成果名	指導参考	指導効果	評価コメント	活用事例
38	(H20-指-38)等温遺伝子増幅法(ICAN法)を利用したキクわい化病の簡便な検定法 【病理昆虫<病理昆虫>】 [県単]	A	A	普及センターでは病理昆虫研究室の協力を得て検定体制を整備し、キクわい化病の検定に対応している。	各地域で検定を実施する際に活用
39	(H20-指-39)泌乳牛における分離給与の飼料給与順序がルーメン発酵に与える影響 【家畜飼養・飼料<家畜飼養・飼料>】 [県単]	B	A	これまでも傾注されている管理項目であったが、客観的データの提示により定着はより進んだ。	指導資料等において活用
40	(H20-指-40)栄養管理による泌乳牛の尿量低減効果 【家畜飼養・飼料<家畜飼養・飼料>】 [県単]	D	D	尿量低減前に飼料給与管理に伴う乳量・乳質・疾病対策に重点を置かれているため、現場での応用場面は極めて少ない。	—
41	(H20-指-41)岩手県の黒毛和種在胎日数の現状と育種価および適合率 【種山畜産<種山畜産>】 [県単]	B	C	兆候により分娩を予測し対応するのが一般的であるが、大規模経営で効率的に分娩予測観察を行うための群管理の参考となった。	指導資料等において活用
42	(H20-指-42)ライコムギサイレージを活用した日本短角種の自給飼料主体肥育技術 【家畜育種<家畜育種>】 [県単]	B	D	自給飼料主体トウモロコシ多給肥育技術において一つの参考となったが、短角飼養地帯ではトウモロコシ・ライコムギの2毛作体系の実施が困難である。	指導資料等において活用
43	(H20-指-43)パークシャー種育成豚及び肥育豚の能力調査成績 I 【家畜育種<家畜育種>】 [県単]	B	—	豚飼養農家に対して指導する機会がほとんどないため評価不能である。	関係機関での情報共有に活用
44	(H20-指-44)豚の肥育後期(70～110kg)における玄米添加給与が産肉性に及ぼす影響 【家畜育種<家畜育種>】 [県単]	B	—	豚飼養農家に対して指導する機会がほとんどないため評価不能である。現場での活用では、玄米の供給とコスト低減が課題と思われる。	関係機関での情報共有に活用
45	(H20-指-45)産肉性から見た南部かしわ(K系)の適正な肥育終了週齢 【家畜育種<家畜育種>】 [県単,要望]	B	—	南部かしら飼養農家に対して、指導をする機会がほとんどないため評価不能である。	関係機関での情報共有に活用

No.	<code>成果名	指導参考	指導効果	評価コメント	活用事例
46	(H20-指-46)飼料用トウモロコシ栽培における牽引式不耕起播種機の作業性 【家畜飼養・飼料<家畜飼養・飼料>】 [独法委託,要望]	B	B	TMRセンター等大規模栽培経営体における播種機更新の検討をする際の参考となった。	TMRセンター実績検討会等で活用
47	(H20-指-47)子宮頸管粘液pHによる黒毛和種の過剰排卵処理後の卵巢反応の推定 【家畜育種<家畜育種>】 [県単]	B	B	過剰排卵処理後の卵巢反応の数的な推定の目安として参考となった。	移植講習会で活用
48	(H20-指-48)受精卵移植時の血液検査値と受胎率・糞便pHとの関係 【家畜育種<家畜育種>】 [県単]	B	B	公共牧場における移植時の参考となり、更にタンパク過剰に至らない肥培管理(放牧草)検討につながっている。	移植講習会で活用
49	(H20-指-49)有機物の連用効果と土壤養分の過剰蓄積 【生産環境<生産環境>】 [県単]	A	A	本成果をもとに補給型施肥を盛り込んだ農作物施肥管理指針を平成21年に県で策定し、これに基づいた施肥体系について現在普及を図っている。	農作物施肥管理指針への考え方に盛り込まれた
50	(H20-指-50)県内水田土壌の施肥管理と化学性の変化 【生産環境<生産環境>】 [県単]	A	A	本成果をもとに補給型施肥を盛り込んだ農作物施肥管理指針を平成21年に県で策定し、これに基づいた施肥体系について現在普及を図っている。	農作物施肥管理指針への考え方に盛り込まれた
51	(H20-指-51)県内畑土壌の有機物施用と土壤の化学性の変化 【生産環境<生産環境>】 [県単]	A	A	本成果をもとに補給型施肥を盛り込んだ農作物施肥管理指針を平成21年に県で策定し、これに基づいた施肥体系について現在普及を図っている。	農作物施肥管理指針への考え方に盛り込まれた
52	(H20-指-52)基盤整備直後の法面管理としてのイブキジャコウソウの経営評価 【農業経営<農業経営>】 [県単]	B	B	イブキジャコウソウの導入に向けた作業量やコストの目安として参考となった。	導入検討に当たった参考資料として個別活用
53	(H20-指-53)リンドウこぶ症の発生生態に基づく当面の発生防止対策 【病理昆虫<病理昆虫>】 [国庫補助,タイムリー,要望]	A	B	当成果より得られた知見を指導場面で活用しているが根本的な解決に至っていないことから、原因解明が望まれている。	各種会議や指導会の資料に活用

※技術指導の参考になったか:A(大いに参考になった)、B(参考になった)、C(あまり参考にならなかった)、D(参考にならなかった)  
指導効果(技術改善、技術水準の向上、指導効率の向上等):A(大いにあった)、B(あった)、C(あまりなかった)、D(まったくなかった)

### 3 東北農業試験研究成果

< 研究成果情報 >

#### (1) 研究成果数

推進部会名	作物	基盤技術	畜産	果樹	野菜花き	流通・加工	計
研究成果数	1	2	2	2	3	0	10

#### (2) 研究成果名

推進部会名	成 果 名	分 類	主査研究室
作物	立木果樹用ドリフト低減型スピードスプレーヤーのわい化リンゴ樹における病害虫防除効果	研究	技術部・作物
基盤技術	津波被災水田(無作付け)での自然降雨によるEC推移	研究	生産環境
	水田農業経営体の特徴と経営展開のポイント	研究	農業経営
果樹	立木果樹用ドリフト低減型スピードスプレーヤーのわい化リンゴ樹における病害虫防除効果	普及	果樹
	11月上旬に成熟する大玉で多汁のリンゴ新品種「岩手5号」	普及	果樹
野菜花き	アスパラガス伏せ込み促成栽培11月生産技術	研究	野菜花き
	エゾリンドウの塊茎と芽序に着目した株分解法	研究	生産環境
	エゾリンドウの主塊茎と副塊茎に着目した株の経年推移	研究	生産環境
畜産	飼料用トウモロコシの不耕起栽培における冬作ライ麦の最適刈取時期	普及	家畜飼養・飼料
	飼料畑及び不定形・波及状草地におけるトラクタ搭載型GPS作業支援システムを活用した除草剤散布作業精度の向上	普及	外山畜産

## IV 試験研究成果の発表

## IV 試験研究成果の発表

### 1 試験成績書等刊行物

資料番号等	表題名	発行年月	総頁数
<b>プロジェクト推進室</b>			
プロ推 23-No.1	平成22年度 試験研究成績書 プロジェクト推進室(水田農業)	24.3	171
<b>企画管理部</b>			
経営 23 No.1	先進的水田農業経営体の経営実態と特徴 —大規模水田作経営の先進事例調査から—	24.1	38
経営 23 No.2	岩手県産レタスの競争ポジショニングと対応方向	24.2	150
経営 23 No.3	復興モデル作成支援シート ユーザーズガイド 2012年1月版	24.1	44
経営 23 No.4	岩手県における農地所有主体の動向	24.3	47
経営 23 No.5	岩手県における経営耕地面積の動向	24.3	50
経営 23 No.6	岩手県における農地の”出し手”側の貸付・耕作放棄の動向	24.3	28
経営 23 No.7	岩手県における労働関係指標および資本関係指標の動向	24.3	46
経営 23 No.8	平成23年度試験研究成績書	24.3	126
<b>技術部</b>			
園芸 22 No.1	平成22年度 試験成績書 技術部園芸研究室(果樹)	23.3	180
技術 23 No.2	平成21年度 花き試験成績書(技術部園芸研究室)	24.1	42
<b>環境部</b>			
環境 23 No.1	平成22年度 試験研究成績書(生産環境研究室)	24.3	171
環境 23 No.2	平成23年度 試験研究成績書(生産環境研究室)	24.3	195
環境 23 No.1	平成23年度 試験研究成績書(病理昆虫研究室)	24.3	287
<b>病虫害防除部</b>			
	平成23年度 植物防疫事業年報	24.5	169
	畦畔管理による斑点米被害軽減対策現地実証	24.2	22
<b>畜産研究所</b>			
畜産 23 No.1	平成23年度試験成績書(畜産研究所)	24.3	102

## 2 研究レポート(平成23年度発行分)

No	タイトル	担当研究室
621	小畦立て播種栽培技術マニュアル	プロジェクト推進室
622	無コーティング種子を使用した作溝同時湛水直播栽培の生育の特徴と管理のポイント	プロジェクト推進室
623	りんどう選花作業台セットによる選花作業時間の短縮効果	農業経営
624	水田農業経営体の特徴と経営展開のポイント	農業経営
625	小ぎく収穫調製作業に影響を及ぼす要因と改善方向	農業経営
626	復興モデル作成支援シート	農業経営
627	りんごに対する落果防止剤(1-ナフタレン酢酸ナトリウム)の使用方法	果樹
628	スピードスプレーヤ用ドリフト低減型ノズル及び立木用ドリフト低減型防除機の特徴(追補)	果樹
629	津波被災果樹園地におけるりんごの生育状況	果樹
630	早生低アミロース水稻品種「岩手91号」の育成	作物(技術)
631	大吟醸酒原料向け水稻品種「岩手酒98号」の育成	作物(技術)
632	津波被災水田において栽培した水稻の事例解析	作物(技術)
633	岩手県における水稻主要品種の幼穂形成期追肥実施を7月上旬に判定する目安	作物(技術)
634	麦の雑草防除の動向とイネ科雑草に有効な土壌処理剤の特性	作物(技術)
635	10月上旬開花の切り花向け青色リンドウF1品種「いわてVLB-1号」の育成	野菜花き
636	アスパラガス伏せ込み促成栽培11月生産技術	野菜花き
637	リンドウ早生品種における発蕾から開花までの日数増加・減少程度の判断指標	野菜花き
638	リンドウ越冬芽を用いた超低温保存法	野菜花き
639	津波被災きゅうり圃場における除塩対策	南部園芸
640	園芸畑作施肥設計支援シート	生産環境
641	津波被災水田(無作付け)での自然降雨によるEC推移	生産環境
642	特別栽培米専用肥料の連用による収量・品質及び可給態窒素への影響	生産環境
643	エゾリンドウの主塊茎と副塊茎に着目した株の経年推移	生産環境
644	アカスジカスミカメの斑点米形成時期	病理昆虫
645	岩手県のリンゴ園地に生息するカブリダニ類	病理昆虫

No	タイトル	担当研究室
646	転炉スラグを用いた土壌pH改良によるキュウリホモプシス根腐病の被害軽減	病理昆虫
647	蛋白質源として大豆サイレージを給与した日本短角種の肥育	家畜育種
648	県有黒毛和種種雄牛の一価不飽和脂肪酸割合育種価の推定	家畜育種
649	バークシャー種の肥育後期(体重70～110kg)における飼料用米配合飼料給与が発育・肉質に及ぼす影響	家畜育種
650	乾物収量性に優れた飼料用とうもろこし早生品種「ロイヤルデントTH680」	家畜飼養・飼料
651	飼料用トウモロコシの不耕起栽培における二毛作前作ライ麦の最適刈取時期	家畜飼養・飼料
652	育成中期(体重270kg)までの育成牛に搾乳用TMRを併給する飼料給与技術	家畜飼養・飼料
653	飼料用トウモロコシ圃場および不定形・波丘草地におけるトラクタ搭載型GPS作業支援システムを活用した除草剤散布作業精度の向上	外山畜産
654	作溝式播種機を用いた早春牧草追播における入牧時草丈が牧草定着に及ぼす影響	外山畜産
655	各種要因が黒毛和種子牛市場価格に及ぼす影響の性別による違いについて	種山畜産
656	黒毛和種産肉能力検定(現場後代検定法)成績	種山畜産
657	促成アスバラガス廃根を用いたレタス圃場のキタネグサレセンチュウ被害軽減技術	園芸(県北)
658	岩手県雑穀遺伝資源データベースシステム	作物(県北)
659	雑穀の移植栽培による抑草効果	作物(県北)
660	雑穀品目別主要病害虫の被害様相と発生時期	作物(県北)

### 3 岩手県農業研究センター研究報告

第11号(平成23年10月発行)

区分	論文題名	著者	所属
報文	ダイズ小畦立て播種機の開発及び導入効果	高橋昭喜	プロジェクト推進室
		及川一也	プロジェクト推進室 (現 八幡平農業改良普及センター)
		渡邊麻由子	プロジェクト推進室
		井村裕一	元園芸畑作部野菜畑作研究室 (現 農林水産部農産園芸課)
		小黒澤清人	技術部果樹研究室
リンドウ種苗生産のための組織培養システム		星伸枝	技術部野菜花き研究室
		竹澤利和	元農産部応用生物工学研究室 (現 県南広域振興局一関農林振興センター)
		阿部潤	元農産部応用生物工学研究室 (現 岩手県生物工学研究所)
		佐々木力	元農産部応用生物工学研究室 (現 技術部作物研究室)
リンゴ新品種「岩手7号」		畠山隆幸	技術部果樹研究室
		高橋司	技術部果樹研究室
		大野浩	元技術部園芸研究室 (現 農林水産部農産園芸課)
		小野田和夫	元園芸畑作部
		田村博明	元技術部園芸研究室 (現 中央農業改良普及センター)
		小野浩司	元技術部園芸研究室 (現 中央農業改良普及センター)
		小原繁	技術部果樹研究室
		奥平麻里子	元園芸試験場果樹部 (現 宮古農業改良普及センター)
		佐々木仁	元園芸畑作部果樹研究室 (現 中央農業改良普及センター)
		河田道子	元園芸畑作部果樹研究室 (現 中央農業改良普及センター)
		佐々木真人	元園芸試験場果樹部 (現 宮古農業改良普及センター)
		石川勝規	元園芸畑作部果樹研究室 (現 大船渡農業改良普及センター)
		鈴木哲	元園芸畑作部果樹研究室 (現 一関農業改良普及センター)
		久米正明	元園芸畑作部果樹研究室 (現 二戸農業改良普及センター)
		浅川知則	元園芸畑作部果樹研究室 (現 農林水産部農業普及技術課)
		長崎優子	元園芸畑作部果樹研究室 (現 農林水産部農業普及技術課)
藤根勝榮	元園芸畑作部		
佐藤秀継	元園芸畑作部果樹研究室		

区分	論文題名	著者	所属
報文	ブドウ新品種「岩手3号」	大野 浩 田村 博明 小野 浩司 小原 繁 佐々木 仁 三浦 晃弘 鈴木 哲 藤根 勝榮	元技術部園芸研究室 (現 農林水産部農産園芸課) 元技術部園芸研究室 (現 中央農業改良普及センター) 元技術部園芸研究室 (現 中央農業改良普及センター) 技術部果樹研究室 元園芸畑作部果樹研究室 (現 中央農業改良普及センター) 元園芸畑作部果樹研究室 (現 久慈農業改良普及センター) 元園芸畑作部果樹研究室 (現 一関農業改良普及センター) 元園芸畑作部
要報	リンドウ切り花の収穫後生理特性と各種品質保持技術の効果	穴戸 貴洋 関村 照吉 平 潤 英 利 市村 一雄 湯本 弘子	元環境部生産環境研究室 (現 県南広域振興局経営企画部) 元生産環境部保鮮流通技術研究室 (現 岩手県環境保健研究センター) 元生産環境部保鮮流通技術研究室 (現 県南広域振興局花巻農林振興センター) (独)農業・食品産業技術総合研究機構 花き研究所 (独)農業・食品産業技術総合研究機構 花き研究所

#### 4 学会等研究報告

##### (1) 学術論文(専門家の査読を受け、掲載された論文)

###### 岩手県農業研究センター研究報告

- 高橋昭喜・及川一也\*1・渡邊麻由子・井村裕一\*2・小黒澤清人(2011)  
大豆小畦立て播種機の開発及び導入効果  
岩手県農業研究センター研究報告 11:1-16  
\*1 八幡平農業改良普及センター  
\*2 岩手県農林水産部農産園芸課

###### Plant disease

- T. Ito\*1, S. Fuji\*1, E. Sato\*1, Y. Iwadate, T. Toda\*1, and H. Furuya\*1 (2012)  
Detection of *Phomopsis sclerotioides* in Commercial Cucurbit Field Soil by Nested Time-Release PCR.  
Plant disease. 96(4):515-521.  
\*1 秋田県立大学

###### Applied Entomology and Zoology(日本応用動物昆虫学会報:英文誌)

- Hiroshi Hada and Ken-Taro Sekine\*1 (2011)  
A Diagnostic Multiplex Polymerase Chain Reaction Method to Identify Japanese Internal Apple-feeding Lepidopteran Pests—*Grapholita molesta*, *Grapholita dimorpha* (Lepidoptera: Tortricidae), and *Carposina sasakii* (Lepidoptera: Carposinidae).  
Appl Entomol Zool. 46:287-291.  
\*1 岩手生工研

###### 日本植物病理学会報

- 岩館 康哉・勝部 和則・長谷 修\*1・生井 恒雄\*1 (2011)  
キュウリホモプシス根腐病に対するクロルピクリンくん蒸剤マルチ内畦内処理と抵抗性台木クロダネカボチャの併用による防除効果.  
日植病報 77(4):278-286.  
\*1 山形大学農学部

###### 北日本病害虫研究会報

- 横田 啓(2011)  
岩手県中部のアカソ群落とダイズ圃場におけるウコンノメイガの発生消長.  
北日本病害虫研究会報 62:134-139.
- 岩館 康哉(2011)  
キュウリホモプシス根腐病に対するクロルピクリンくん蒸剤を用いた深層土壌くん蒸処理の防除効果.  
北日本病害虫研究会報 62:65-69.
- 岩館 康哉・吉田 雅紀\*1(2011)  
キュウリ黒星病に対する各種薬剤の防除効果と本病原菌のチオファネートメチルに対する感受性について.  
北日本病害虫研究会報 62:59-64.  
\*1 岩手県病害虫防除所
- 岩館 康哉・千葉 賢一\*1・竹澤 利和\*2・赤坂 志保・川村 浩美\*3・多田 勝郎\*4・猫塚 修一\*5(2011)  
畦畔と本圃の遮断処理によるリンドウこぶ症の抑制.  
北日本病害虫研究会報 62:89-92.  
\*1 現在:大船渡農業改良普及センター \*2 現在:県南広域振興局一関農林センター  
\*3 現在:中央農業改良普及センター \*4 現在:岩手県立農業大学  
\*5 現在:農業普及技術課
- 羽田 厚(2011)  
岩手県内のりんご園地におけるカブリダニ類の発生状況  
北日本病害虫研究会報 62:221. 講要
- 洞口 博昭\*1・武田 眞一\*2(2011)  
オリサストロビン粒剤の箱施用を活用したイネ紋枯病のインターバル防除の可能性.  
北日本病害虫研究会報 62:206. 講要  
\*1 現在:久慈農業改良普及センター \*2 JA全農いわて

岩手県獣医師会雑誌(第37巻第4号 平成23年10月発行)

○児玉英樹・佐々木家治\*1・茂木英樹\*2(2011)

原著「牛コロナウイルス病ワクチンの経済評価と予防体制の確立」

\*1 花巻環境福祉環境センター \*2全農岩手県本部

## (2) 学会発表(発表要旨)

園芸学会(平成23年度秋季大会:2011.9.24~26開催・岡山大学津山キャンパス 園芸学研究. 10(別2): 2011.9発行)

○山口貴之・高橋拓也(2011)

高温が休眠中のアスパラガスの萌芽に及ぼす影響

園芸学研究第10巻(別冊2): 214.

○篠田光江\*・武田悟\*・山口貴之・新井正善\*(2011)

アスパラガス促成栽培養成株掘り上げ後の冷蔵および乾燥処理が地下部の糖類に及ぼす影響

園芸学研究第10巻(別冊2): 213.

\* 秋田県農業試験場

○北澤裕明\*1・元木悟\*2・山口貴之・常盤秀夫\*3・浦上敦子\*4(2011)

アスパラガスの貯蔵根におけるBrix糖度分布とその変動

園芸学研究 10(別2): 477.

\*1食品総合研究所、\*2長野県野菜花き試験場、\*3福島県農業総合研究所、\*4野菜茶業研究所

○浦上敦子\*1・元木悟\*2・山口貴之・松永邦則\*3・國久美由紀\*1・植野玲一郎\*4・山崎篤\*5・芳賀紀之\*6・常盤秀夫\*7・山田文典\*8・酒井浩晃\*2・瀧澤民雄\*9・池内隆夫\*10・渡辺慎一\*11・新里仁克\*12・遠山智之\*13・鈴木卓\*13・小泉丈晴\*14・北澤裕明\*15(2011)

アスパラガス1年養成株を用いたトンネル内伏せ込み促成栽培試験と生育・収量の雌雄間差

園芸学研究 10(別2): 212.

\*1農研機構野菜研、\*2長野県野菜花き試、\*3バイオエア・エコサイエンス(株)、\*4北海道原環セ、\*5農研機構東北農研、\*6福島農総セ会津、\*7福島農総セ浜、\*8群馬農総セ中山間、\*9JAちくま、\*10香川農試三木、\*11農研機構九州沖縄農研、\*12沖縄農研セ、\*13北海道大院農、\*14群馬農総セ、\*15農研機構食総研

○藤尾拓也・小田島 雅・佐々木裕二(2011)

イチゴ育苗期の夜冷短日処理と窒素施肥による第2花房の花成誘導と花房別収量

園芸学研究 10(別2): 135.

○高橋拓也(2011)

パブリカ無加温ハウス栽培における栽培管理および秋期の追熟処理が収量に与える影響

園芸学研究 10(別2): 191.

園芸学会(平成24年度春季大会:2012.3.28~29開催・大阪府立大学中百舌鳥キャンパス 園芸学研究. 11(別1): 2012.3発行)

○山口貴之・藤尾拓也(2011)

11月生産を目指したアスパラガス伏せ込み促成栽培新生産体系

園芸学研究第11巻(別冊1): 印刷中

○長谷川弘樹\*、成田香\*、前田智雄\*、小村昌紀\*、本多和茂\*、山口貴之(2011)

アスパラガス伏せ込み促成栽培における若茎のルチン含量および外観品質に及ぼす補光処理の影響

園芸学研究第10巻(別冊2): 213.

\* 弘前大学農学生命科学部

土壤肥料学会(2011年度日本土壤肥料学会東北支部会岩手大会:2011.7.6~7.7開催・マリオス盛岡地域交流センター)

<緊急シンポジウム>東日本大震災の土壌および作物への影響と今後の課題

○佐藤 喬

岩手県における農地の津波被害の実態と対策

園芸学会(平成24年度春季大会:2012.3.28~29開催・大阪府立大学 園芸学研究. 11(別1):2012.3発行)

○阿部 弘・葉上恒寿\*1・宍戸貴洋\*2・大友英嗣・中里 崇・小菅裕明・木内 豊(2012)

エゾリンドウの採花期間における根張り施肥位置との関係

園芸学研究 11(別1):186.

\*1現宮古農改善セ岩泉サブセンター

\*2現県南広域振興局(西和賀町出向)

北日本病害虫研究発表会(2012.2.16~17開催・盛岡市 北日本病害虫研究会報. 63: 印刷中)

- 横田 啓(2012)  
ダイズのマメシクイガに対する各種薬剤の防除効果.
- 岩館 康哉(2012)  
ハウレンソウ白斑病に対する数種殺菌剤の防除効果.
- 富永 朋之・熊谷 親一(2012)  
2011年岩手県奥州市の穂いもち防除省略栽培地域における発生状況.
- 熊谷 親一・岩館 康哉・富永 朋之・洞口 博昭 \*1(2012)  
水稲箱施用剤の減量施用時におけるいもち病の発生リスク.  
\*1 久慈農業改良普及センター
- 羽田 厚・鈴木 敏男\*1(2012)  
リンドウホソハマキに対する数種殺虫剤の効果.  
\*1 奥州農業改良普及センター
- 村上 太郎・菅 広和\*1・横田 啓・大友 令史(2012)  
発生予察におけるアカスジカスミカメのフェロモントラップの有効性.  
\*1 久慈農業改良普及センター
- 斎藤 真理子・村上 太郎・大友 令史・藤澤 由美子(2012)  
斑点米カメムシに関する警報の発令を受けた現場の動き
- 藤澤 由美子・村上 太郎・斎藤 真理子・大友 令史(2012)  
2011年における斑点米カメムシ類の発生実態
- 加藤 清吾・吉田 雅紀(2012)  
岩手県のリンドウ栽培におけるキオビトガリメイガの発生
- 吉田 雅紀・加藤 清吾(2012)  
岩手県におけるオオタバコガの発生
- 大友 令史・仲谷 房治\*1・名久井 一樹(2012)  
岩手県におけるヒメボクトウの発生  
\*1 岩手県植物防疫協会

日本応用動物昆虫学会(2012.3.27~29開催・奈良県近畿大学 講演要旨)

- 羽田 厚・多田 典穂・藤澤 巧・鈴木 敏男\*1(2012)  
寒冷地のキャベツ圃場における環境保全型農業の指標生物種としての2種のゴミムシ類の動態.  
第56回日本応用動物昆虫学会大会 平成24年度日本農学会大会分会講演要旨集:42.  
\*1 奥州農業改良普及センター
- 横田 啓(2012)  
アカスジカスミカメによる斑点米形成時期.  
第56回日本応用動物昆虫学会大会 平成24年度日本農学会大会分会講演要旨集:24.
- 大友 令史・岩館 康哉(2012)  
アカスジカスミカメによる時期別の斑点米被害発生リスク  
第56回日本応用動物昆虫学会大会

日本植物病理学会東北部会(2011.10.31~11.1開催・青森県青森市)

- 岩館 康哉(2012)  
キュウリホモプシス根腐病に対する転炉スラグを用いた土壌pH改良の台木品種別の発病抑制効果.  
日本植物病理学会報 78(1):68. 講要
- 関根 健太郎\*1・厚見 剛\*1・富田 麗子\*1・岩館 康哉・山田 秀俊\*1(2011)  
網羅的RNAウイルス検出技術DECS法の実用性の検証.  
日本植物病理学会報 78(1):65. 講要

日本植物病理学会大会(2012.3.28~30開催・福岡県福岡市)

- 岩館 康哉(2012)  
転炉スラグを用いた土壌pH改良によるキュウリホモプシス根腐病の被害軽減.  
平成24年度日本植物病理学会大会講演要旨予稿集: 183.

日本畜産学会(第114回大会:2011.8.26~27開催 講演要旨:2011.8.26発行)

○佐藤 洋一・藤村 和哉・米澤 智恵美・平野 貴\*1・渡邊 敏夫\*1・高須賀 晶子\*1・菊池 雄・熊谷 光洋・杉本 善憲\*1・鈴木 啓一\*2(2011)  
岩手県黒毛和種集団におけるNCAPG遺伝子型多型の効果  
第114回日本畜産学会大会講演要旨:89,143  
\*1 畜技協遺伝研・\*2東北大院農

日本畜産学会(第115回大会:2012.3.27~30開催 講演要旨:2012.3発行)

○佐藤 洋一・米澤 智恵美・佐々木 直・熊谷 光洋・菊池 雄・鈴木 啓一\*1(2011)  
岩手県産黒毛和種牛肉における脂肪酸割合の遺伝的パラメータと種雄牛の育種価  
第115回日本畜産学会大会講演要旨  
\*1 東北大院農

日本動物遺伝育種学会(第12回年次大会:2011.11.19~20開催 講演要旨:2011.11.19発行)

○佐藤 洋一・米澤 智恵美・平野 貴\*1・中野 光\*2・鈴木 強史・児玉 英樹・熊谷 光洋・高須賀 晶子\*1・鈴木 啓一\*2(2011)  
日本短角種の枝肉重量にNCAPG遺伝子型多型が及ぼす影響  
日本動物遺伝育種学会第12回大会講演要旨集, 31  
\*1 畜技協遺伝研・\*2東北大院農

日本養豚学会(第96回大会:2012.3.22~23開催 講演要旨:2012.3発行)

○佐々木 直・今成 麻衣\*1・熊谷 光洋(2012)  
パークシャー種肥育後期豚における飼料用米配合飼料給与が发育・肉質に及ぼす影響.  
第96回日本養豚学会講演要旨  
\*1 農研機構東北農研

東北農業試験研究発表会(第54回 2011.8.10開催・秋田市)・東北農業研究(第64号,印刷中)

○高橋昭喜・渡邊麻由子・扇良明(2011)  
小麦の密条用小畦立て播種機の開発と効果  
○畠山隆幸・高橋司・及川耳呂・奥平麻里子\*1・臼井紀子\*2  
リンゴ新品種'岩手5号'の主要特性  
\*1 宮古農業改良普及センター、\*2 元岩手県生物工学研究センター  
○高橋司・及川耳呂・畠山隆幸  
リンゴの安定生産を目的とした授粉専用品種の特性  
○高橋拓也(2011)  
岩手県における若苗利用トマト抑制作型栽培技術  
○佐々木 直・菊池 雄(2011)  
交配計画作成プログラム「豚交配支援システム」  
○堀間久己(2011)  
バイオガスプラント由来消化液の秋施用が土壌中無機態窒素の動態および飼料用トウモロコシの収量等に及ぼす影響。  
○木戸場 結香・齋藤 浩和(2011)  
TMRにおける破砕処理トウモロコシサイレージ給与割合が産乳性に与える影響

東日本家畜受精卵移植技術研究会(第27回大会:2012.1.26~27開催・岐阜県高山市 講演要旨2012.1発行)

○児玉英樹・木戸場結香・齋藤浩和・岩角美幸・小林雄二・米澤智恵美・熊谷光洋(2012)  
CIDR前処置が発情後4日目における牛胚移植の受胎率に及ぼす影響  
東日本家畜受精卵移植技術研究会報通刊28号

## 5 雑誌等掲載

### (1) 専門雑誌等

#### 日本植物調節剤研究協会東北支部会報

日影勝幸  
東日本大震災を受けた水田および畑ほ場とその後の経過(岩手県)  
日本植物調節剤研究協会東北支部会報第47号(2012年3月)

#### 農業総覧

日影勝幸  
病虫害防除・資材編(追録17号)「水田除草剤の解説」

#### 農業技術体系

高橋司(2012)  
JM7台木利用りんご樹の幼木～若木期(7年生頃)における低樹高仕立て法  
農業技術体系(台  
第1-②巻 リンゴ

### (2) 月刊農業普及(平成23年4月号～平成24年3月号)

4月号	岩館 康哉	話題の病虫害講座「キュウリ黒星病」
5月号	高橋 彩子 高橋智宏	よく分かる土づくり第5回「施肥設計支援シート」 農業研究センター 試験研究レポート 水稲の生育ステージを予測して冷害を予防し、適切な栽培管理を行う 新しい岩手県リアルタイムメッシュ気象情報システムに対応した水稲主要品種の生育ステージ予測技術
7月号	横田 啓	試験研究レポート「ダイズ害虫ウコンノメイガに対する薬剤防除効果」
8月号	富永 朋之	話題の病虫害講座「リンドウ褐斑病」
9月号	横田 啓	話題の病虫害講座「マメシクイガ」
10月号	羽田 厚 山形 広輔	話題の病虫害講座「オオタバコガ」 乾物収量に優れた飼料用とうもろこし 極早生品種 「パイオニア95日(38H20)」
10月号	高橋 彩子	よく分かる土づくり第10回「たい肥の連用効果」
11月号	斎藤 真理子	話題の病虫害講座「雪腐病」
12月号	渡邊 麻由子 大友 令史	「オンファーム・トライアル」による大豆小畦立て播種栽培技術の普及 話題の病虫害講座「果樹カメムシ」
1月号	及川 耳呂 児玉 英樹	季節の農作業(ぶどう) 受胎率向上のためのホルスタイン未経産受胎牛の飼料給与プログラムと血液検査指標値
2月号	大友 英嗣	農業研究センター試験研究レポート「簡易土壌分析システムに対応した施肥設計支援シート」
3月号	臼井 智彦	試験研究レポート「粒状側条施肥機付き直播機での作溝同時直播」

### (3) 岩手の畜産(平成23年5月号～平成24年3月号)

5月号	尾張 利行	乾物収量性に優れた飼料用トウモロコシ極早生品種「パイオニア95日(38H20)」
7月号	佐々木 直	交配計画作成プログラム「豚交配管理支援システム」
9月号	増田 隆晴	トラクタ搭載型GPSを活用した大規模草地の精密管理技術
11月号	米澤 智恵美	黒毛和種肥育前期にトウモロコシサイレージを多給する技術
1月号	鈴木 強史	日本短角種産肉能力検定(現場後代検定)について
3月号	山形 広輔	乾物収量性に優れた飼料用トウモロコシ早生品種「ロイヤルデントTH680」

### (4) 岩手りんごタイムス(平成23年4月号～平成24年3月号)

4月号	高橋 司 畠山 隆幸	凍霜害対策について マメコバチの利用方法
5月号	羽田 厚 富永 朋之 大友 令史 名久井 一樹	交信攪乱剤使用の留意点 斑点落葉病と褐斑病の防除について 殺ダニ剤の使用について 幼果期の防除について
6月号	田口 礼人 富永 朋之 大友 令史	樹相診断について 輪紋病と炭そ病の発生生態と防除について 農薬の適正使用について

(4) 岩手りんごタイムス(平成23年4月号～平成24年3月号)

7月号	及川 耳呂	夏期管理について
	羽田 厚	枝幹害虫の防除について
	富永 朋之	効率的なすす病対策について
	大友英嗣	園内の土壌管理について(0701)
	名久井 一樹	盛夏期の防除について
8月号	及川 耳呂	早生品種の管理について
	大友英嗣	欠乏症などによる樹体の変化(0801)
	大友 令史	収穫期前の防除について(早生種)
9月号	畠山 隆幸	岩手7号について
	小原 繁	肥料施肥について
10月号	畠山 隆幸	果実鮮度保持剤スマートフレッシュについて
11月号	及川 耳呂	湿害対策について
	大友 令史	野そ対策
12月号	畠山 隆幸	大玉で果汁の多い「岩手5号」
	高橋 司	改植の進め方
	大友 令史	今年の防除の反省
1月号	畠山 均	年頭に当たり
	高橋 司	せん定について
	羽田 厚	平成24年りんご病害虫防除指針の主な改正点
3月号	名久井 一樹	今年の防除対策

(5) その他の雑誌等

施設と園芸

高橋拓也(2011)
ミニ情報 秋期出荷量向上を目指したトマト抑制作型栽培技術確立への取り組み
施設と園芸154(2011夏). 2011.8月. P7

グリーンレポート

高橋拓也(2011)
岩手県の施設栽培に向くパプリカの有望品種
グリーンレポート第507号(2011年9月)

農業および園芸

元木悟*1、前田智雄*2、井上勝広*3、山口貴之、渡辺慎一*4、松永邦則*5、尾崎行生*6、浦上敦子*7、甲村浩之*8、佐藤達雄*9、荒木肇*10、北澤裕明*11
世界のアスパラガス生産の現状と展望(1)1. 世界および日本のアスパラガス生産の動向
農業および園芸、養賢堂、86(7):775-783 (2011)
*1長野県野菜花き試験場、*2弘前大学農学生命科学部、*3長崎県島原地域振興局、*4九州沖縄農業研究センター、*5パイオニアエコサイエンス、*6九州大学大学院農学研究院、*7野菜茶業研究所、*8広島県立広島大学、*9茨城大学農学部、*10北海道大学北方生物圏フィールド科学センター、*11食品総合研究所
元木悟*1、前田智雄*2、井上勝広*3、山口貴之、渡辺慎一*4、松永邦則*5、尾崎行生*6、浦上敦子*7、甲村浩之*8、佐藤達雄*9、荒木肇*10、北澤裕明*11
世界のアスパラガス生産の現状と展望(2)2. ホワイトアスパラガス生産の先進国、オランダにおけるアスパラガス生産
農業および園芸、養賢堂、86(8):874-878 (2011)
*1長野県野菜花き試験場、*2弘前大学農学生命科学部、*3長崎県島原地域振興局、*4九州沖縄農業研究センター、*5パイオニアエコサイエンス、*6九州大学大学院農学研究院、*7野菜茶業研究所、*8広島県立広島大学、*9茨城大学農学部、*10北海道大学北方生物圏フィールド科学センター、*11食品総合研究所
元木悟*1、渡辺慎一*2、山口貴之、前田智雄*3、松永邦則*4、尾崎行生*5、浦上敦子*6、甲村浩之*7、佐藤達雄*8、荒木肇*9、北澤裕明*10
世界のアスパラガス生産の現状と展望(3)3. 急速に拡大するペルーのアスパラガス生産
農業および園芸、養賢堂、86(9):961-972 (2011)
*1長野県野菜花き試験場、*2九州沖縄農業研究センター、*3弘前大学農学生命科学部、*4パイオニアエコサイエンス、*5九州大学大学院農学研究院、*6野菜茶業研究所、*7広島県立広島大学、*8茨城大学農学部、*9北海道大学北方生物圏フィールド科学センター、*10食品総合研究所

## 農業および園芸

元木悟\*1、尾崎行生\*2、竹内陽子\*2、山口貴之、渡辺慎一\*3、松永邦則\*4、前田智雄\*5、荒木肇\*6、佐藤達雄\*7、浦上敦子\*8

世界のアスパラガス生産の現状と展望(4)4.ペルーとの国際競争を終えて、南アメリカのアスパラガス生産  
農業および園芸、養賢堂、86(10)、1044-1056(2011-10)

\*1長野県野菜花き試験場、\*2九州大学大学院農学研究院、\*3九州沖縄農業研究センター、\*4バイオニアエコサイエンス、\*5弘前大学農学生命科学部、\*6北海道大学北方生物圏フィールド科学センター、\*7茨城大学農学部、\*8野菜茶業研究所

佐藤達雄\*1、甲村浩之\*2、浦上敦子\*3、荒木肇\*4、山口貴之、松永邦則\*5、前田智雄\*6、元木悟\*7

世界のアスパラガス生産の現状と展望(5)5.世界最大のアスパラガス輸入国、米国のアスパラガス生産の今後  
農業および園芸、養賢堂、86(11):1118-1127(2011)

\*1茨城大学農学部、\*2広島県立広島大学、\*3野菜茶業研究所、\*4北海道大学北方生物圏フィールド科学センター、\*5バイオニアエコサイエンス、\*6弘前大学農学生命科学部、\*7長野県野菜花き試験場

甲村浩之\*1、元木悟\*2、佐藤達雄\*3、浦上敦子\*4、松永邦則\*5、荒木肇\*6、山口貴之、前田智雄\*7、園田高広\*8

世界のアスパラガス生産の現状と展望(6)6.北半球のオフシーズンをターゲットに、オセアニアのアスパラガス生産  
農業および園芸、養賢堂、86(12):1196-1204(2011)

\*1広島県立広島大学、\*2長野県野菜花き試験場、\*3茨城大学農学部、\*4野菜茶業研究所、\*5バイオニアエコサイエンス、\*6北海道大学北方生物圏フィールド科学センター、\*7弘前大学農学生命科学部、\*8酪農学園大学

甲村浩之\*1、元木悟\*2、浦上敦子\*3、尾崎行生\*4、佐藤達雄\*5、松永邦則\*6、荒木肇\*7、山口貴之、前田智雄\*8、園田高広\*9

世界のアスパラガス生産の現状と展望(7)7.米国との自由貿易協定で拡大したメキシコのアスパラガス生産  
農業および園芸、養賢堂、87(1):102-111(2012)

\*1広島県立広島大学、\*2長野県野菜花き試験場、\*3野菜茶業研究所、\*4九州大学大学院農学研究院、\*5茨城大学農学部、\*6バイオニアエコサイエンス、\*7北海道大学北方生物圏フィールド科学センター、\*8弘前大学農学生命科学部、\*9酪農学園大学

尾崎行生\*1、元木悟\*2、柴田雅人\*3、竹内陽子\*1、園田高広\*4、荒木肇\*5、山口貴之、松永邦則\*6、前田智雄\*7、佐藤達雄\*8、浦上敦子\*9、井上勝広\*10

世界のアスパラガス生産の現状と展望(8)8.世界第1位のアスパラガス生産国、中国のゆくえ  
農業および園芸、養賢堂、87(2):262-269(2012)

\*1九州大学大学院農学研究院、\*2長野県野菜花き試験場、\*3岡山県農業大学校、\*4酪農学園大学、\*5北海道大学北方生物圏フィールド科学センター、\*6バイオニアエコサイエンス、\*7弘前大学農学生命科学部、\*8茨城大学農学部、\*9野菜茶業研究所、\*10長崎県島原地域振興局、

元木悟\*1、浦上敦子\*2、松永邦則\*3、山口貴之、園田高広\*4、甲村浩之\*5、尾崎行生\*6、井上勝広\*7、荒木肇\*8、前田智雄\*9、佐藤達雄\*10

世界のアスパラガス生産の現状と展望(9)9.古産地「台湾」の盛衰と新興産地「韓国」の戦略、東アジアのアスパラガス生産  
農業および園芸、養賢堂、87(3):印刷中(2012)

\*1長野県野菜花き試験場、\*2野菜茶業研究所、\*3バイオニアエコサイエンス、\*4酪農学園大学、\*5広島県立広島大学、\*6九州大学大学院農学研究院、\*7長崎県島原地域振興局、\*8北海道大学北方生物圏フィールド科学センター、\*9弘前大学農学生命科学部、\*10茨城大学農学部

6 新聞等掲載

部所名	記事見出し	掲載紙	掲載年月日
<b>プロジェクト推進室</b>			
	大豆作の湿害低減に効果 水田での小畦立て播種栽培 代かきハローを土台に	全国農業新聞	23.6.10
	独自の大豆栽培 最高位 二子中央営農組合(北上)が農水大臣賞 湿害防ぎ収量増評価	岩手日報	23.6.10
	水稲直まき広めよう 盛岡、八幡平市で現地研修会 育苗いらずで低コスト	岩手日報	23.6.23
	小麦播種と排水同時に 北上・県農研センター 代かき用機材を活用	岩手日日新聞	23.6.25
	農家単収、品質向上へ 事例紹介や技術情報交換 北上 あす東北大豆シンポ	岩手日日新聞	23.8.3
	小麦播種 開発技術普及へ 県農業研究センター・北上 農機具店対象に実演	岩手日日新聞	23.8.4
	圃場視察で技術共有 東北大豆シンポ・北上 事例発表、講演も	岩手日日新聞	23.8.5
	生研センター 汎用コンバイン現地検討会を開催	農機新聞	23.10.18
	小麦栽培の新技術実演 密条用小畦立て 湿害回避で増収期待	日本農業新聞	23.10.19
	ナタネ10アール300キロ超どり 追肥と条播きで高収量 東北ナタネセミナー	日本農業新聞	23.11.30
	小畦立て播種で増収 岩手県農業研究センター 湿害を軽減	日本農業新聞	23.12.9
	平成23年度農業機械学会東北支部大会シンポジウム及び現地見学会	農業機械学会 東北支部報第58号	23.12.31
	有機栽培と病害虫防除 試験研究成果を発表 一関・大東	岩手日日新聞	24.2.29
<b>企画管理部</b>			
<b>農業経営研究室</b>			
	小菊の選花効率化へ 一関農改センター 地域リーダー研修会	岩手日日新聞	23.7.16
	岩手県農研センター開発小菊用作業台「選花くん」 実演し改良点探る 一関農改センター労力軽減へ期待	日本農業新聞	23.7.21
	花の選別効率化へ作業台 一関の農改センター 農家向け実演会	岩手日報	23.9.28
	作業台セット「選花くん」 一関地方に合わない!? 農改センター説明会 農家から改善指摘多く	岩手日日新聞	23.9.28
<b>研究企画室</b>			
	農業研究センター業務方針・北上 沿岸の農業復興後押し 除塩や新技術開発	岩手日日新聞	23.5.19
	蚕の生態じっくりと 県農業研究センター・北上 児童が一日研究員	岩手日日新聞	23.8.3
	蚕の生態 見て触れて 北上・県農業研究センター 児童が体験学習	岩手日報	23.8.3
	農研センター公開 あすから	毎日新聞	23.9.1
	農研センター身近に 震災復旧活動を紹介 参観デー始まる・北上 郷土食・水産物展示も	岩手日日新聞	23.9.3
	フラワーコンテスト・北上 県内生産品を紹介	岩手日日新聞	23.9.5
	全農いわてフラワーコンテスト 阿部さん(JA新いわて)最優秀賞	日本農業新聞	23.9.7
<b>総務課</b>			
	県農研センター 「違反や事故ゼロ」決意 北上署に交通安全誓約書提出	岩手日日新聞	23.7.1
<b>○農業科学博物館</b>			
	近代農業創成期の資料展示 北上・農業化学博物館企画展	岩手日日新聞	23.5.12
	食の大切さ再認識 北上・農業博物館企画展 飢饉の歴史や非常食紹介	岩手日日新聞	23.8.16
	履物で知る農業文化 北上の博物館 80点、生活の変遷紹介	岩手日報	23.10.20
	農耕と履物歴史感じて 農科博物館企画展・北上 牛馬用わらじも紹介	岩手日日新聞	23.12.18
	明りが映す知恵 北上で企画展 江戸から昭和の45点	岩手日報	24.1.12
	キャベツ再興の軌跡 北上・農業科学博物館 道具やパネル展示	岩手日報	24.1.27
	「昔の灯りと暖を取る道具」テーマに 火と人間の関わり知ろう 江戸時代から昭和前半紹介 北上・県農業科学博物館企画展	岩手日日新聞	24.2.8
	岩手産キャベツ足跡たどる 北上・県農業科学博物館特別展 写真やパネルで紹介	岩手日日新聞	24.2.16

部所名	記事見出し	掲載紙	掲載年月日
<b>技術部</b>			
<b>作物研究室</b>			
	水稲 予測技術を開発 北上・県農研センター 気象情報活用、誤差少なく	岩手日日新聞	23.7.9
	短期間で有用遺伝子特定 岩手生物工学県など新手法開発 被災農地の塩害対策期待	岩手日報	24.1.23
	イネ優良遺伝子1年で特定 岩手などの研究チーム 組み換えなく品種改良	岩手日日新聞	24.1.23
	特性遺伝子素早く特定 農作物の味・耐病性 岩手生物工学研究センターが新手法 最新装置で変異体解析 品種改良低コスト化	河北新報	24.1.23
	稲の遺伝子特定・解説 塩害水田の耕作再開に期待 県農業研究センターなど	毎日新聞	24.2.9
<b>果樹研究室</b>			
	授粉専用品種は効果的 県農業研究センター タスカンの特性を明らかに	盛岡タイムス	23.5.16
		岩手日日新聞	23.5.31
	リンゴ省力、初期収量が増 岩手県農研センター 低樹高仕立て法確立	日本農業新聞	23.6.7
	りんご「紅いわて」登場 本県初の赤色品種 来年から全国出荷	岩手日報	23.10.8
	リンゴ樹高を低く 県農業研究センター 剪定の工夫を紹介	岩手日日新聞	23.10.8
<b>野菜花き研究室</b>			
	パプリカ 株間40センチの支柱4本仕立て 北上・県農研センター 植栽方法を推奨	岩手日日	23.9.29
	頂花房もよく開花 リンドウ新品種「いわてLB-2号」育成	日本種苗新聞	23.11.21
	接木作業、省力化 北上、花巻でセミナー	岩手日日新聞	23.12.18
	リンドウ新品種育成 晩成種で形質安定 収穫期間の拡大期待	岩手日日新聞	24.1.16
	アスパラ伏せ込み促成栽培 1年半養成が有効 東北高冷地でも安定	日本農業新聞	24.2.3
<b>南部園芸研究室</b>			
	震災復旧・復興支援プロジェクトチームの設置	岩手日日新聞	23.4.7
	大津波により農地が冠水 塩害対策で表層除去 関係機関が支援に乗り出す	東海新報	23.5.1
	沿岸部復興策示す 除塩対策や複合経営モデル 岩手県農研センター	日本農業新聞	23.5.21
	除塩対策を検証 陸前高田実証田	岩手日報	23.5.26
	稲生育への津波の影響 データ収集へ 県農業研究センター陸前高田で試験栽培	毎日新聞	23.5.26
	除塩を施し田植え 竹駒の実証圃 津波克服の「シンボル」に	東海新報	23.5.26
	育て「復興キュウリ」津波かぶった畑に定植 竹駒町の小田さん 後継者の多賀子さんも作業	東海新報	23.6.14
	津波被害畑でキュウリ栽培 来月下旬収穫へ成長見守る 陸前高田の農家	岩手日日新聞	23.6.21
	キュウリの栽培再開 陸前高田・小田さん 津波被害に負けず	朝日新聞	23.6.24
	キュウリ栽培で復興へ 県農業研究センター 被災畑の除塩完了	東日本激災復興新聞	23.6.24
	再起のイチゴ赤々 陸前高田	岩手日報	23.12.23
	復興イチゴ初収穫	読売新聞	23.12.23
	復興イチゴ収穫	東海新報	23.12.24
	挑戦(1)2012いわて経済 農業 食材生かし雇用創出 農業生産法人アグリランド高田 社長 昌山修一氏	岩手日報	24.1.12
	復興イチゴ評価上々 陸前高田 来月、市場出荷目指す	河北新報	24.1.21
	「復興イチゴ」注目の的 浸水地でも栽培可能 県開発の高設栽培システムで	東海新報	24.1.21
	農業復興一歩ずつ 陸前高田で県報告会「高設栽培」視察も	岩手日報	24.1.22
	「復興イチゴ」注目の的 浸水地でも栽培可能 県開発の高設栽培システムで	盛岡タイムス	24.1.25
	塩害対策で実証結果示す 県農研センター成果報告会 営農本格再開へ期待 陸前高田	岩手日日新聞	24.1.26
	復興イチゴ来月出荷へ 塩害土壌使わず栽培 陸前高田で収穫開始	岩手日日新聞	24.1.31
	被災地の栽培成果紹介 きょう北上で「いちごセミナー」	岩手日日新聞	24.2.23
	岩手農研センターが開発 東日本機電開発が製品化 陸前高田に苺施設	農経新報	24.3.5

部所名	記事見出し	掲載紙	掲載年月日
<b>環境部</b>			
<b>生産環境研究室</b>			
	農地の放射性物質測定調査 県が83地点で実施へ	岩手日報	23.11.5
	放射性物質調査 県、農地で本格開始 月内にサンプル採取	岩手日日新聞	23.11.5
	試験田で放射線調査実演 県、水田や畑83カ所土壌調査へ	朝日新聞	23.11.5
	県内の農地土壌の放射性物質調査	胆江日日新聞	23.11.5
<b>病理昆虫研究室</b>			
	りんご害虫簡易な識別技術開発 農研センターと生工研・北上 予察など活用期待	岩手日日新聞	23.5.17
	イチゴ生食用が長期 北上でセミナー 取引動向を紹介	岩手日日新聞	24.2.26
<b>病害虫防除部</b>			
<b>病害虫防除課</b>			
	カメムシの防除徹底を 県が警報第1号	岩手日日新聞	23.8.2
	カメムシ多発で警報 防除の徹底県呼び掛け	岩手日報	23.8.2
<b>畜産研究所</b>			
<b>家畜育種研究室</b>			
	配合飼料を10%削減 黒毛和種肥育で新技術	盛岡タイムス	23.7.19
	飼料で受胎率アップ 県農業研究センターが技術開発	盛岡タイムス	23.7.24
<b>県北農業研究所</b>			
<b>総務課</b>			
	県北の農業理解深めて 軽米 県施設が公開デー	岩手日報	23.9.10
	軽米地区県公所3施設を一般公開 親子でプランター作り 園芸セミナーや農産物の販売も	デーリー東北	23.9.16
<b>園芸研究室</b>			
	業務用の夏秋ホウレンソウ～露地栽培法を開発～ 岩手県農業研究センター	日本農業新聞	23.7.6

## 7 テレビ・ラジオ放送

### (1) テレビ

部所名	出演者	内 容	放送局名	放送年月日	投込み有無
企画管理部 研究企画室		一日こども農業研究員	北上ケーブルテレビ	23.8.2	有
企画管理部 研究企画室		農研センター参観デー始まる	岩手朝日テレビ	23.9.2	有
企画管理部 研究企画室		農研センター参観デー・フラワーコンテスト	テレビ岩手	23.9.2	有
環境部 生産環境研究室	佐藤 喬 高橋彩子	放射性物質調査 県が83地点で実施へ	NHK盛岡 岩手朝日テレビ いわてめんこいテレビ 岩手放送テレビ テレビ岩手	23.11.4 23.11.4 23.11.4 23.11.4 23.11.4	
技術部 南部園芸研究室		復興イチゴ 陸前高田	テレビ岩手	23.12.22	有
技術部 野菜花き研究室		晩抽性ハクサイ ―浮気野菜の甘い秘密― いのちドラマチック	NHK BSプレミアム	24.2.29	

### (2) ラジオ

部所名	出演者氏名	内 容	放送局名	放送年月日	投込み有無
技術部 南部園芸研究室		震災復旧・復興支援プロジェクトチームの取組み	TOKYO FM	23.6.14	

## 8 指導資料等掲載

部所・研究室名	執筆者氏名	タイトル	掲載資料名	発行年月
プロジェクト推進室	渡邊 麻由子 高橋 昭喜 寺田 道一	小畦立て播種栽培技術マニュアル	小畦立て播種栽培技術マニュアル	24.1
技術部				
果樹研究室	畠山 隆幸	果樹雑草防除及び果樹用成長調整剤使用指	岩手県農作物病害虫・雑草防除指針	24.3
作物研究室	高橋 智宏	雑草防除(水稲)	平成24年度岩手県農作物病害虫・雑草防除指針	24.3
	小綿 寿志 伊藤 信二	雑草防除(畑作物)	平成24年度岩手県農作物病害虫・雑草防除指針	24.3
	小原 繁 高橋 司 及川 耳呂 畠山 隆幸 田口 礼人	果樹指導指針	果樹指導指針	24.3
野菜花き研究室	山口 貴之	東北農研・岩手農研合同シンポジウム「元気です!東北のアスパラガス」資料	東北農研・岩手農研合同シンポジウム「元気です!東北のアスパラガス」資料	24.2
	赤坂 志保	花き雑草防除及び花き用成長調整剤使用指針	平成24年度岩手県農作物病害虫・雑草防除指針	24.3
環境部				
生産環境研究室	大友 英嗣	果樹における施肥管理、収穫後管理他	果樹指導要項	24.3
病理昆虫研究室	多田 典穂	防除指導資料(野菜害虫)	平成24年度岩手県農作物病害虫・雑草防除指針	24.3
	富永 朋之	防除指導資料(果樹・花き病害)	平成24年度岩手県農作物病害虫・雑草防除指針	24.3
	羽田 厚	防除指導資料(果樹・花き害虫)	平成24年度岩手県農作物病害虫・雑草防除指針	24.3
	横田 啓	防除指導資料(水稲・畑作害虫、土壌害虫、鳥獣害防除)	平成24年度岩手県農作物病害虫・雑草防除指針	24.3
	岩舘 康哉	防除指導資料(畑作・野菜病害、土壌病害)	平成24年度岩手県農作物病害虫・雑草防除指針	24.3
	熊谷 親一	防除指導資料(水稲病害、資材消毒、展着剤の利用)	平成24年度岩手県農作物病害虫・雑草防除指針	24.3
	富永 朋之	果樹病害防除	平成24年度果樹指導要項	24.3
	富永 朋之	果樹害虫防除	平成24年度果樹指導要項	24.3
	横田 啓	水稲、小麦、大豆の採種ほ基本防除体系(虫害防除)	平成24年度主要農作物採種ほ病害虫基本防除体系	24.3
	岩舘 康哉	小麦、大豆の採種ほ基本防除体系(病害防除)	平成24年度主要農作物採種ほ病害虫基本防除体系	24.3
	熊谷 親一	水稲の採種ほ基本防除体系(病害防除)	平成24年度主要農作物採種ほ病害虫基本防除体系	24.3

部所・研究室名	執筆者 氏名	タイトル	掲載資料名	発行年月
病虫害防除部 病虫害防除課	吉田 雅紀	農薬安全使用指針	平成24年度岩手県農作物病虫害・雑草防除指針	24.3
畜産研究所 家畜飼養・飼料研究室	山形 広輔	雑草防除(飼料作物)	平成24年度岩手県農作物病虫害・雑草防除指針	24.3

## 9 図書資料収集・提供

項目	冊数・人数
総蔵書数	69,329 冊
平成23年度収集図書数	774 冊
学会誌	51 冊
資料	174 冊
研究報告	164 冊
気象	7 冊
記録誌	1 冊
国関係刊行物	2 冊
雑誌(図書)	29 冊
社団法人	2 冊
財団法人	19 冊
図鑑	2 冊
総記	4 冊
単行本	53 冊
定期	9 冊
統計	18 冊
図書	12 冊
洋雑誌	11 冊
CD-ROM	33 冊
雑誌	183 冊
図書室利用者数(延べ)	195 名
同貸し出し冊数	238 冊

※数値はいずれもセンター本部のみ(2012/3/30現在)

## 10 ホームページ

	項目	件数	内訳
入力件数	研究レポート	102	平成23年度発行分
	試験研究成果	60	平成23年度試験研究成果書
	研究報告類	7	岩手県農業研究センター研究報告第11号
	らぼ・れたあ	72	No. 1~70(研究トピックス)
	行事予定	7	参観デー、東北農研・岩手農研合同シンポジウム、他
	各種資料	63	平成22年度年報、小畦立て播種栽培マニュアル
	農業科学博物館	26	企画展第48~51回、同・特別展、農業ふれあい公園だより第19号
	その他	58	一日子供農業研究員、英語版サイト、 月別アクセス状況、組織紹介、任期付研究員募集案内、他
アクセス件数	トップページ	48,153	平成23年度分
	総ページビュー	3,318,450	平成23年度分

## V 指導・啓発活動

## V 指導・啓発活動

### 1 技術伝達研修等への対応

担当部所	開催期日	開催場所	内 容	参集人員
農業研究センター主催				
プロジェクト推進室	23.7.29	北上市 (農業研究センター)	麦類の密条用小畦立て播種技術に関するワークショップ	20名
プロジェクト推進室 企画管理部 研究企画室 農業経営研究室 技術部 果樹研究室 作物研究室 南部園芸研究室	24.1.20	陸前高田市 (川の駅よこた、 アグリランド高田)	震災復旧・復興支援プロジェクトチーム活動成果報告会及び復興イチゴ現地検討会	20名
技術部 野菜花き研究室 県北農業研究所 園芸研究室	24.2.1～2	岩手町現地ほ場 盛岡市(マリオス)	東北農研・岩手農研合同シンポジウム 「元気です! 東北のアスパラガス」	195名
プロジェクト推進室 企画管理部 研究企画室 技術部 作物研究室	24.2.10	盛岡市 (エスポワールいわて)	岩手・青森連携研究シンポジウム「岩手・青森で共同開発! 水稲多収品種と直播栽培技術」	105名
【新技術・普及活動検討会】(中央農業改良普及センター主催)				
企画管理部 農業経営研究室 技術部 野菜花き研究室 県北農業研究所 園芸研究室	24.1.26	北上市 (農業研究センター)	平成23年度新技術・普及活動検討会(野菜)	26名
技術部 果樹研究室	24.1.26	北上市 (農業研究センター)	平成23年度果樹関係試験研究成果	30名
プロジェクト推進室	24.1.27	北上市 (農業研究センター)	平成23年度新技術・普及活動検討会(水田利用)	45名
企画管理部 農業経営研究室 技術部 作物研究室 県北農業研究所 作物研究室	24.1.27	北上市 (農業研究センター)	平成23年度新技術・普及活動検討会(水稲、畑作物)	40名
技術部 野菜花き研究室 県北農業研究所 園芸研究室	24.1.27	北上市 (農業研究センター)	平成23年度新技術・普及活動検討会(花き)	26名
企画管理部 農業経営研究室	24.2.9	北上市 (農業研究センター)	平成23年度新技術・普及活動検討会(経営)	15名
畜産研究所 家畜飼養・飼料研究室 外山畜産研究室	24.1.25	滝沢村 (畜産研究所)	平成23年度新技術・普及活動検討会(畜産)	30名

担当部所	開催期日	開催場所	内 容	参集人員
<b>【普及指導員専門技術研修】(中央農業改良普及センター主催)</b>				
プロジェクト推進室	23.7.29	北上市 (農業研究センター)	麦類の密条用小畦立て播種技術に関するワークショップ	20名
プロジェクト推進室	23.11.8	北上市 (農業研究センター)	普及指導員専門技術向上研修Ⅲ(作物)	8名
<b>技術部</b> 果樹研究室	23.6.13～15	北上市 (農業研究センター)	普及指導員専門技術基本研修(果樹)	1名
	23.9.7～9	〃	〃	1名
	23.10.3～5	〃	〃	1名
	23.12.5～7	〃	〃	1名
	24.1.18～20	〃	〃	1名
	23.6.16	北上市 (農業研究センター)	普及指導員専門技術研修(果樹Ⅰ)	10名
	23.7.13	北上市 (農業研究センター)	普及指導員専門技術研修(果樹Ⅱ)	10名
<b>技術部</b> 野菜花き研究室	23.7.14	北上市 (農業研究センター)	普及指導員専門技術向上研修Ⅰ(花き)	10名
	23.10.11	北上市 (農業研究センター)	普及指導員専門技術向上研修Ⅱ(花き)	14名
	23.11.25	北上市 (農業研究センター)	リンドウ施肥管理技術及び欠株対策に係る検討会	14名

## 2 現地指導・研修会等への講師派遣

担当部所 研究室 担当者	内 容	年月日	依 頼 者	場 所
<b>プロジェクト推進室</b>				
高橋 昭喜	平成23年度岩手県産小麦現地検討会	23.6.14	農産園芸課	矢巾町、紫波町
高橋 昭喜	岩手中央農協小麦生産部会研修会 「湿害軽減播種技術について」	23.6.17	岩手中央農業協同組合	紫波町
寺田 道一	平成23年度水稻直播栽培現地検討会	23.6.22	農産園芸課	八幡平市 盛岡市
臼井 智彦	平成23年度普及指導員等研修(農政課題解決 研修)「水稻等の有機栽培技術Ⅱ」	23.7.26	(独)農研機構 東北農業研究センター	宮城県登米市
渡邊 麻由子	東北大豆シンポジウム in いわて	23.8.4	東北地域大豆振興協議会	北上市 (農研センター)
寺田 道一	麦大豆収益性向上チーム会議	23.8.29	農産園芸課	北上市 (農研センター)
寺田 道一	NOSAI胆江 麦指導会	23.8.30	胆江地方農業共済組合	奥州市
寺田 道一	第2回一関地方水稻直播栽培現地検討会	23.9.13	一関農業改良普及センター	一関市
高橋 昭喜	いわてアグリフロンティアスクール 「水田高度利用技術」	23.9.29	岩手大学	滝沢村
寺田 道一	小麦小畦立て播種技術実演会	23.10.11	花巻農業協同組合	花巻市
寺田 道一	須川土地改良区視察研修会	23.11.1	須川土地改良区	北上市 (農研センター)
高橋 昭喜	東北ナタネセミナー	23.11.10	(独)農研機構 中央農業総合研究センター	雫石町 西和賀町
扇 良明	第5回担い手経営力アップセミナー 「水稻直播技術の種類と特徴」	23.11.30	全農岩手県本部	北上市 (農研センター)
渡邊 麻由子 寺田 道一	平成23年度 水田営農を元気にする 新技術等普及戦略検討会	24.1.26	中央農業改良普及センター 県域G	北上市 (農研センター)
渡邊 麻由子 臼井 智彦	平成23年度 新技術・普及活動検討会	24.1.27	中央農業改良普及センター 県域G	北上市 (農研センター)
臼井 智彦	水稻有機栽培現地試験成績発表会	24.2.28	一関地方有機農業推進 協議会	一関市
高橋 昭喜	麦大豆収益性向上チーム会議	24.3.8	農産園芸課	盛岡市
渡邊 麻由子	平成23年度農業機械開発改良試験研究 打合せ会議	24.3.9	(独)農研機構 生物系特定 産業技術研究支援センター	埼玉県さいたま市
<b>企画管理部</b>				
<b>農業経営研究室</b>				
小野寺 郁夫	土地改良事業営農推進対策委員会現地検討会	23. 8.25	農産園芸課	一関市、藤沢町
小野寺 郁夫	特産農産物生産振興共進会審査(ホップ部門)	23. 12.26	農産園芸課	盛岡市
小野寺 郁夫	平成23年度農業農村指導士研修会	24. 1.31	農業普及技術課	盛岡市
小野寺 郁夫	特産農産物生産振興共進会審査(葉たばこ部門)	24. 3.26	農産園芸課	盛岡市
土澤 一博	平成23年度小菊地域リーダー研修会(第2回)	23.7.9	一関農業改良普及センター	藤沢町
土澤 一博	いわて産学官連携フォーラム	23.11.9	いわて産学連携推進協議会	盛岡市

担当部所 研究室 担当者	内 容	年月日	依 頼 者	場 所
松浦 貞彦	GAP導入促進経営支援ナビゲーションシステム 指導会	23.9.14	(農)宮守川上流生産組合	遠野市
松浦 貞彦	震災関連成果報告会	23.1.20	岩手県農業研究センター	陸前高田市
<b>技術部</b>				
<b>作物研究室</b>				
佐々木 力	安全・安心な稲作	23.7.12	㈱ミツハシ	北上市 (農研センター)
佐々木 力	低コスト稲作栽培技術	23.9.9	秋田県能代・山本土地改良区	北上市 (農研センター)
佐々木 力	岩手県における稲作研究の取り組み	24.3.30	奈良県宇陀市農業委員会	北上市 (農研センター)
菅原 浩視	平成23年度奥州市前沢農業振興協議会研修会	23.6.21	奥州市前沢農業振興協議会	奥州市
菅原 浩視	水稲栽培技術研修	23.8.29	真城農事組合	北上市 (農研センター)
小綿 寿志	平成23年度種子審査委員研修会	23.7.28	農産園芸課	北上市 (農研センター)
高橋 智宏	平成23年度種子審査委員研修会	23.7.28	農産園芸課	北上市 (農研センター)
伊藤 信二	平成23年度種子審査委員研修会	23.7.28	農産園芸課	北上市 (農研センター)
川代 早奈恵	農業大学校(作物増殖)	23.11.28	農業大学校	農業大学校
<b>野菜花き研究室</b>				
渡辺 芳幸	いわてフラワーコンテスト2011	23.9.1	全農岩手県本部	北上市 (農研センター)
<b>果樹研究室</b>				
小原 繁 高橋 司 及川 耳呂 畠山 隆幸 田口 礼人	純情りんごコンテスト審査(1期)	23.10.20	全農岩手県本部	北上市 (農研センター)
小原 繁 高橋 司 及川 耳呂 畠山 隆幸 田口 礼人	純情りんごコンテスト審査(2期)	23.11.24～ 25	全農岩手県本部	北上市 (農研センター)
小原 繁	「りんごの神さま」島善隣先生碑前際	23.8.27	花巻農業協同組合 矢沢りんご部会	花巻市
小原 繁	オリジナルりんご品種「紅いわて」発表求評会	23.10.7	農産園芸課	盛岡市
小原 繁	JA江刺 りんご品評会	23.10.28	江刺市農業協同組合	奥州市
小原 繁	岩手県青果販売農業協同組合 りんご研修会	24.1.20	岩手県青果販売農業協同組合	盛岡市
高橋 司	果樹共済損害評価講習会	23.8.19	岩手県農業共済組合連合会	北上市 (農研センター)
高橋 司	平成23年度東北農業試験研究推進会議 果樹部会及び寒冷地果樹合同現地研究会	23.9.22	東北農業試験研究推進会議 果樹推進部会	山形県寒河江市
高橋 司	JA江刺 りんご品評会	23.11.22	江刺市農業協同組合	奥州市
高橋 司	岩手ブルーベリーの会 冬期講習会	24.3.24	岩手ブルーベリーの会	盛岡市

担当部所 研究室 担当者	内 容	年月日	依 頼 者	場 所
小原 繁 高橋 司 及川 耳呂 畠山 隆幸 田口 礼人	紅いわて収穫前指導会 平成23年度果樹品種検討会	23.9.15	農産園芸課	北上市 (農研センター)
高橋 司 畠山 隆幸	第7回くだもの新品種プラットフォーム 「リンゴの新品種と加工用とについて考える」	23.11.15	(独)農研機構 果樹研究所	大阪府大阪市
高橋 司 畠山 隆幸	平成23年度りんご新品種「紅いわて」研修会	23.12.5	二戸農業改良普及センター	二戸市
畠山 隆幸	岩手県果樹協会平成24年度冬期講習会 第19回通常総会	24.1.24	岩手県果樹協会	一関市
畠山 隆幸	農業大学校 講師(作物増殖・果樹)	24.1.23	農業大学校	金ケ崎町
畠山 隆幸	りんご育種指導者研修 (第4回)	24.2.10	農産園芸課	北上市 (農研センター)
田口 礼人	平成23年度オリジナルぶどう(岩手県育種) 試食・栽培研修会	23.9.28	二戸農業改良普及センター	二戸市
漆原 昌二	簡易かん水装置導入推進現地研修会	23.6.17	農産園芸課	一関市
漆原 昌二	野菜普及員専門技術基本研修	23.7.4~7	中央農業改良普及センター	北上市 (農研センター)
漆原 昌二	野菜普及員専門技術向上研修	23.7.27	中央農業改良普及センター	北上市 (農研センター)
漆原 昌二	かん水装置研修会	23.9.16	新岩手農業協同組合	北上市 (農研センター)
漆原 昌二	ピーマン反省会	24.1.20	花巻農業協同組合	遠野市
高橋 拓也	野菜普及員専門技術基本研修	23.7.4~7	中央農業改良普及センター 県域G	北上市 (農研センター)
高橋 拓也	野菜普及員専門技術向上研修	23.7.27	中央農業改良普及センター	北上市 (農研センター)
高橋 拓也	パプリカ目揃え及び研修会	23.7.12	全農岩手県本部	北上市 (農研センター)
高橋 拓也	次年度パプリカ栽培検討会	23.12.26	全農岩手県本部	北上市 (農研センター)
高橋 拓也	パプリカ栽培研修会	24.3.28	全農岩手県本部	北上市 (農研センター)
山口 貴之	アスパラガス研修会	23.4.26	農産園芸課	一戸町
山口 貴之	野菜普及員専門技術基本研修	23.7.4~7	中央農業改良普及センター 県域G	北上市 (農研センター)
山口 貴之	全野研 キュウリ審査会	23.7.19~20	日本種苗協会	長野県塩尻市
山口 貴之	野菜普及員専門技術基本研修	23.9.21	中央農業改良普及センター 県域G	北上市 (農研センター)
藤原 一道	りんどう採種技術検討会	23.4.15 23.5.20 23.6.13 23.7.13 23.8.10 23.9.22 23.10.27 24.1.16 24.3.26	農産園芸課	奥州市

担当部所 研究室 担当者	内 容	年月日	依 頼 者	場 所
藤原 一道	岩手県園芸育種研究会りんどう部会	23.9.2	農産園芸課	北上市 (農研センター)
藤原 一道	岩手県大型花き経営者協議会研修会	24.3.16	全農岩手県本部	盛岡市
星 伸枝	りんどう採種技術検討会	23.4.15	農産園芸課	奥州市
星 伸枝	リンドウ育種研究会	23.9.2	農産園芸課	北上市 (農研センター)
星 伸枝	農業大学校 講師(作物増殖・花き)	23.12.14	農業大学校	金ケ崎町
赤坂 志保	りんどう採種技術検討会	23.4.15 23.9.22 23.10.27 24.1.16	農産園芸課	奥州市
赤坂 志保	りんどう実証圃現地検討会	23.8.25	いわてふるさと農業協同組合	奥州市
赤坂 志保	地域希望農業技術サポート会議(実証圃調査)	23.11.7	胆江地方農業振興協議会	奥州市
赤坂 志保	地域希望農業技術サポート会議	24.3.14	胆江地方農業振興協議会	奥州市
中里 崇	りんどう採種技術検討会	23.4.15 23.5.17 23.7.12 24.3.26	農産園芸課	奥州市
中里 崇	第1回りんどう圃場巡回	23.6.15	花巻農業協同組合 鉢花生産部会	花巻市
中里 崇	第1回花き専門研修	23.6.22	農業大学校	金ケ崎町
中里 崇	りんどう圃場巡回・意見交流会	23.7.15	花巻農業協同組合 鉢花生産部会	花巻市
中里 崇	平成23年度西和賀花卉共進会	23.9.8	西和賀花卉生産組合	西和賀町
中里 崇	平成23年度鉢りんどう実績検討会	23.10.26	花巻農業協同組合 鉢花生産部会	花巻市
中里 崇	いまさら聞けないこんなこと！ 花巻地域りんどう栽培基礎講座	23.11.1	中央農業改良普及センター 県域G	花巻市
中里 崇	平成23年度実績検討・反省会	23.12.9	花巻農業協同組合 鉢花生産部会	花巻市
中里 崇	農業大学校(作物増殖・花き)	24.1.23	農業大学校	金ケ崎町
中里 崇	北上鉢りんどう試験品種指導会	24.2.10	北上地域鉢りんどう生産部会	北上市 (農研センター)
<b>南部園芸研究室</b>				
山田 修	四季成りいちご経営体技術支援チーム会議	23.4～24.3 (6回)	中央農業改良普及センター	北上市 (農研センター)
佐々木 裕二 山田 修	きゅうりほ場コンクール審査	23.8.29	大船渡農業協同組合	陸前高田市 住田町
佐々木 裕二 山田 修 小田島 雅	普及員専門技術向上研修(野菜)	23.7.7	中央農業改良普及センター 県域G	陸前高田市
山田 修	きゅうりリーダー会議第2回	23.12.16	大船渡農業改良普及セン ター 大船渡農業協同組合	住田町
山田 修	岩手いちごセミナー	24.2.23	中央農業改良普及センター 県域G	北上市 (農研センター)

担当部所 研究室 担当者	内 容	年月日	依 頼 者	場 所
<b>環境部</b>				
木内 豊	二戸地方農林水産業振興大会 「県産農産物・土壌等の放射性物質について」	24.2.9	二戸農林振興センター	二戸市
<b>生産環境研究室</b>				
小林 卓史	第8回土づくり研究会	23.7.20	土づくり研究会	北上市
小林 卓史	いわてアグリフロンティアスクール	23.10.20	岩手大学	盛岡市
小林 卓史	宮古地方農業者のつどい2012	24.2.19	宮古地方農業協議会	宮古市
小林 卓史	平成23年度農業者のための放射性物質対策 研修会	24.3.22	一関農林振興センター	一関市
佐藤 喬	平成23年度 東北農業研究センター シンポジウム 「津波被害農地の除塩対策技術」	23.12.1	(独)農研機構 東北農業研究センター	宮城県仙台市
	未利用資源活用研究会第8回全県大会及び 第10回土づくり研究会	24.2.7	土づくり研究会	盛岡市
大友 英嗣	農地の除塩技術の研修会	24.2.16	日本土水総合研究所	盛岡市
<b>病理昆虫研究室</b>				
多田 典穂	農業大学校講義	23.8.30	農業大学校	北上市 (農研センター)
	平成23年度岩手県園芸産地改革戦略推進会議 技術対策部会ピーマン現地研修会	23.8.31	農産園芸課	奥州市
	平成23年度専門技術基本研修(野菜第Ⅲ期)	23.9.21	中央農業改良普及センター 県域G	北上市 (農研センター)
	アグリフロンティアスクール	23.10.17	岩手大学	盛岡市
	平成23年度植物防疫事業実績検討会	23.12.13	岩手県病害虫防除所	北上市 (農研センター)
	平成23年度新技術・普及活動検討会 (野菜部門)	24.1.27	中央農業改良普及センター 県域G	北上市 (農研センター)
	いわていちごセミナー	24.2.23	中央農業改良普及センター 県域G	北上市 (農研センター)
富永 朋之	農業大学校講義	23.8.30	農業大学校	北上市 (農研センター)
	平成23年度植物防疫事業実績検討会	23.12.13	岩手県病害虫防除所	北上市 (農研センター)
	平成23年度植物防疫事業実績検討会	23.12.15	岩手県病害虫防除所 全農岩手県本部	北上市 (農研センター)
	平成24年度一関地方りんご病害虫防除歴 編集会議	24.1.6	一関地方農林業振興協議会	一関市
	岩手県農薬管理使用アドバイザー養成研修	24.1.12	農業普及技術課	盛岡市
	平成23年度新技術・普及活動検討会 (果樹部門)	24.1.27	中央農業改良普及センター 県域G	北上市 (農研センター)
羽田 厚	平成23年度岩手県植物防疫関係者技術研修会	23.11.24～ 25	(社)岩手県植物防疫協会	花巻市
	平成23年度植物防疫事業実績検討会	23.12.13	岩手県病害虫防除所	北上市 (農研センター)
	平成23年度植物防疫事業実績検討会	23.12.15	岩手県病害虫防除所 全農岩手県本部	北上市 (農研センター)
	平成23年度盛岡地方りんご病害虫防除対策 検討会	23.12.19	盛岡地方農業農村振興 協議会	盛岡市
	平成23年度新技術・普及活動検討会 (果樹部門)	24.1.27	中央農業改良普及センター 県域G	北上市 (農研センター)

担当部所 研究室 担当者	内 容	年月日	依 頼 者	場 所
羽田 厚	平成23年度いわて純情りんごセミナー	24.2.10	全農岩手県本部	北上市 (農研センター)
	平成23年度北海道・東北地区植物防疫職員等 技術研修会	24.2.23～24	東北農政局	宮城県仙台市
横田 啓	病害虫防除指導研修会	23.6.6	岩手県病害虫防除員協議会	北上市 (農研センター)
	集落営農組織等ステップアップ講座	23.8.19	中央農業改良普及センター 地域G	北上市 (農研センター)
岩館 康哉	平成23年度植物防疫事業実績検討会	23.12.13	岩手県病害虫防除所	北上市 (農研センター)
	岩手県農薬管理使用アドバイザー養成研修	24.1.12	農業普及技術課	盛岡市
	平成23年度新技術・普及活動検討会 (作物部門)	24.1.27	中央農業改良普及センター 県域G	北上市 (農研センター)
	平成23年度北海道・東北地区植物防疫職員等 技術研修会	24.2.23～24	東北農政局長	宮城県仙台市
	平成23年度専門技術向上研修(野菜Ⅲ)	23.9.12	中央農業改良普及センター 県域G	久慈市
	平成23年度専門技術基本研修(野菜第Ⅲ期)	23.9.21	中央農業改良普及センター 県域G	北上市 (農研センター)
	平成23年度岩手県園芸産地改革戦略推進会議 技術対策部会園芸産地改革ネットワーク 夏秋キュウリの安定生産対策技術検討会 現地検討会	23.9.15	農産園芸課	遠野市
熊谷 親一	キュウリ講習会	23.10.24	岩手中央農業協同組合	盛岡市
	平成23年度岩手県植物防疫関係者 技術研修会	23.11.24～ 25	(社)岩手県植物防疫協会	花巻市
	きゅうりリーダー会議	23.11.18	大船渡農業普及普及セン ター	陸前高田市
	平成23年度植物防疫事業実績検討会	23.12.13	岩手県病害虫防除所	北上市 (農研センター)
	平成23年度新技術・普及活動検討会 (野菜部門)	24.1.27	中央農業改良普及センター 県域G	北上市 (農研センター)
	畑作物共済(ホップ)事業推進会議並びに ホップ栽培歴検討会	24.1.26～27	岩手県農業共済組合連合会 岩手県ホップ協会	盛岡市
	いわていちごセミナー	24.2.23	中央農業改良普及センター 県域G	北上市 (農研センター)
	JA岩手ふるさと園芸部会きゅうり専門部 研修会	24.2.24	岩手ふるさと農業協同組合 園芸部会	奥州市
	平成23年度植物防疫事業実績検討会	23.12.13	病害虫防除所	北上市 (農研センター)
	岩手県農薬管理使用アドバイザー養成研修	24.1.12	農業普及技術課	盛岡市
<b>病害虫防除部</b> <b>病害虫防除課</b>				
田中 英樹	普及指導員新任者研修、普及活動基本研修	23.11.14	中央農業改良普及センター 県域G	北上市 (農研センター)
大友 令史	新規就農者研修	23.5.27	農業大学校	金ケ崎町 (農業大学校)
	「環境にやさしいりんごづくり推進事業」指導会	23.6.3	滝沢村	滝沢村
	りんご病害虫防除研修会	23.6.9	全農岩手県本部	北上市 (農研センター)

担当部所 研究室 担当者	内 容	年月日	依 頼 者	場 所	
大友 令史	果樹普及員研修	23.9.8	中央農業改良普及センター 県域G	北上市 (農研センター)	
	農薬アドバイザー更新研修	23.10.23	農業普及技術課	釜石市	
	植物防疫職員中央研修	23.12.6～7	農林水産省	神奈川県横浜市	
	農薬アドバイザー更新研修	23.12.8	農業普及技術課	奥州市	
	一関地方果樹防除暦検討会	23.1.6	一関地方農林業振興協議会	一関市	
	病害虫防除員研修会	23.1.27	岩手県病害虫防除員協議会	盛岡市	
名久井 一樹	新規就農者研修	23.5.27	農業大学校	金ヶ崎町	
	「環境にやさしいりんごづくり推進事業」指導会	23.6.3	滝沢村	滝沢村	
	りんご病害虫防除研修会	23.6.9	全農岩手県本部	北上市 (農研センター)	
	農薬適正使用研修会	23.6.21	新岩手農業協同組合	雫石町	
	「環境にやさしいりんごづくり推進事業」指導会	23.7.15	滝沢村	滝沢村	
	農薬適正使用研修会	23.7.28	奥州農業改良普及センター	奥州市	
	農薬アドバイザー更新研修	23.9.27	農業普及技術課	二戸市	
	農薬アドバイザー更新研修	23.10.13	農業普及技術課	釜石市	
	普及指導員新任者研修、普及活動基本研修	23.11.14	中央農業改良普及センター 県域G	北上市 (農研センター)	
	JAVいわて中央りんご防除検討会	23.12.27	JAVいわて中央	紫波町	
	農薬アドバイザー更新研修	24.1.13	農業普及技術課	北上市 (農研センター)	
	加藤 清吾	農薬アドバイザー更新研修	23.9.27	農業普及技術課	二戸市
		花き専門技術向上研修	23.10.11	中央農業改良普及センター 県域G	北上市 (農研センター)
小ぎくオオタバコガ研修		23.10.24	中央農業改良普及センター 地域G	北上市 (農研センター)	
農薬アドバイザー更新研修		23.11.7	農業普及技術課	盛岡市	
集落営農ステップアップ講座		24.2.14	中央農業改良普及センター 地域G	北上市 (農研センター)	
第3回りんどう栽培基礎講座		24.3.12	花巻農業協同組合	花巻市	

担当部所 研究室 担当者	内 容	年月日	依 頼 者	場 所
藤澤 由美子	集落営農ステップアップ講座	23.8.19	中央農業改良普及センター 地域G	北上市 (農研センター)
	農業大学校事例研究	23.8.30	農業大学校	北上市 (農研センター)
	農薬アドバイザー更新研修	23.11.7	農業普及技術課	盛岡市
	江刺地方病害虫防除員協議会研修会	23.6.3	江刺地方病害虫防除員 協議会	奥州市
	農薬アドバイザー更新研修	23.12.8	農業普及技術課	奥州市
	病害虫防除員研修会	23.1.27	岩手県病害虫防除員協議会	盛岡市
	県病害虫防除連絡協議会実績検討会	24.2.28	県病害虫防除連絡協議会	盛岡市
吉田 雅紀	農薬適正使用研修会	23.7.28	奥州農業改良普及センター	奥州市
	農薬アドバイザー更新研修	23.9.27	農業普及技術課	二戸市
	花き専門技術向上研修	23.10.11	中央農業改良普及センター 県域G	北上市 (農研センター)
	小ぎくオオタバコガ研修	23.10.24	中央農業改良普及センター 地域G	北上市 (農研センター)
	普及員植防研修	23.10.27～ 28	中央農業改良普及センター 県域G	北上市 (農研センター)
	農薬アドバイザー更新研修	23.11.7	農業普及技術課	盛岡市
	植物防疫関係者研修会	23.11.24	(社)岩手県植物防疫協会	花巻市
	農薬アドバイザー更新研修	23.12.8	農業普及技術課	奥州市
	農薬アドバイザー養成研修	24.1.12	農業普及技術課	盛岡市
	農薬アドバイザー更新研修	24.1.13	農業普及技術課	北上市 (農研センター)
	岩手県農薬卸商組合研修会	24.1.27	岩手県農薬卸商組合	盛岡市
	集落営農ステップアップ講座	24.2.14	中央農業改良普及センター 地域G	北上市 (農研センター)
	八幡平キャベツ研修会	24.2.21	新岩手農業協同組合	岩手町
	第3回りんどう栽培基礎講座	24.3.12	花巻農業協同組合	花巻市
	斎藤 真理子	農薬アドバイザー更新研修	23.12.8	農業普及技術課
農薬アドバイザー養成研修		24.1.12	農業普及技術課	盛岡市
村上 太郎	江刺地方病害虫防除員協議会研修会	23.6.3	江刺地方病害虫防除員 協議会	奥州市
	集落営農ステップアップ講座	23.8.19	中央農業改良普及センター 地域G	北上市 (農研センター)
	江刺地方病害虫防除員協議会研修会	23.11.11	江刺地方病害虫防除員 協議会	北上市 (農研センター)
	岩手県農薬管理使用アドバイザー養成研修	24.1.12	農業普及技術課	盛岡市
	岩手県農薬卸商組合研修会	24.1.27	岩手県農薬卸商組合	盛岡市
	病害虫防除員研修会	24.1.27	岩手県病害虫防除員協議会	盛岡市
	県産業用無人ヘリコプターオペレーター 連絡協議会研修会	24.3.3	県産業用無人ヘリコプター オペレーター連絡協議会	花巻市

担当部所 研究室 担当者	内 容	年月日	依 頼 者	場 所
<b>畜産研究所</b>				
<b>家畜育種研究室</b>				
熊谷 光洋	第37回日本短角種研究会大会	23.11.10	日本短角種研究会	久慈市
児玉 英樹	家畜人工授精講習会	23.10.31、 11.1	畜産課	金ヶ崎町 (農業大学校)
	家畜受精卵移植講習会	24.2.6・8・ 14・17・20・21	畜産課	金ヶ崎町 (農業大学校)
佐藤 洋一	家畜人工授精講習会	23.10.25、 11.17	畜産課	金ヶ崎町 (農業大学校)
	第21回farm to tableフォーラム研究会	23.10.5	岩手farm to table フォーラム研究会	滝沢村 (畜産研究所)
	黒毛和種後代検定枝肉調査会研修会	24.1.13	全国和牛登録協会 岩手県支部	花巻市
鈴木 強史	農業大学校講義	23.10.27	農業大学校	金ヶ崎町
<b>家畜飼養・飼料研究室</b>				
佐藤 直人	子牛市場ワンポイント講座	23.12.7	全農岩手県本部	奥州市
	平成23年度岩手ふるさと酪農部会全体研修会	23.12.27	岩手ふるさと農業協同組合	金ヶ崎町
	放射性物質に関する対策会議および研修会	24.1.16	普及技術課	北上市 (農研センター)
	宮古地域農業者の集い	24.2.19	宮古地方農業振興協議会	宮古市
齋藤 浩和	家畜人工授精講習会	23.10.24・26	畜産課	金ヶ崎町
	農業大学校講義	24.2.1	農業大学校	金ヶ崎町
	家畜商講習会	24.3.12	流通課	盛岡市
木戸場 結香	酪農家講習会	23.7.7	花平酪農協同組合	滝沢村
	農業大学校講義	23.11.25	農業大学校	金ヶ崎町
堀間 久巳	子牛市場ワンポイント講座	23.12.14	全農岩手県本部	雫石町
	岩中酪農研修会	24.2.17	岩中酪農協同組合	八幡平市
尾張 利行	酪農家講習会	23.7.7	花平酪農協同組合	滝沢村
	子牛市場ワンポイント講座	23.12.15	全農岩手県本部	雫石町
山形 広輔	子牛市場ワンポイント講座	23.12.16	全農岩手県本部	雫石町

担当部所 研究室 担当者	内 容	年月日	依 頼 者	場 所
<b>外山畜産研究室</b>				
鈴木 啓太	家畜人工授精講習会	23.10.31	畜産課	金ヶ崎町
	家畜体内受精卵移植講習会	24.2.2～3・ 17・20～21	畜産課	金ヶ崎町
菊池 恭則	中央畜産研修会『放牧』	23.9.26～27	農林水産省	福島県
	放牧指導者研修会	23.10.26～ 28	日本草地畜産種子協会	熊本県
<b>種山畜産研究室</b>				
西田 清	人工授精師講習会	23.11.1・2・ 8・10・11	畜産課	金ヶ崎町他
	子牛市場ワンポイント講座	23.12.8	全農岩手県本部	奥州市
今野 一之	人工授精師講習会	23.11.9	畜産課	金ヶ崎町他
	受精卵移植師講習会	24.2.9～10	畜産課	金ヶ崎町他
	家畜商講習会	24.3.12～13	流通課	盛岡市
小梨 茂	人工授精師講習会	23.11.8・10・ ・11	畜産課	金ヶ崎町他
<b>東北農業研究所 作物研究室</b>				
仲條 眞介 阿部 亜希子	花巻地方雑穀栽培研修会	23.4.27	花巻農業協同組合	花巻市
中西 商量	平成23年度二戸地方農林水産振興協議会 現地研修会 雑穀等輪作試験圃場	23.8.3	県北広域振興局	軽米町
阿部 亜希子	二戸管内県農林公所現地研修会	23.9.15	二戸農業改良普及センター	軽米町 (県北農業研究所)
仲條 眞介	軽米町小中学校保健部会研修会 「宮澤賢治と雑穀」	23.10.19	軽米町小中学校保健部会	軽米町 (県北農業研究所)
仲條 眞介	農業問題研修会	24.1.17～18	㈱佐藤政行種苗	花巻市
中西 商量 阿部 亜希子	二戸地域雑穀生産者大会	24.1.18	二戸地方農林水産振興 協議会 農産園芸部会	二戸市
阿部 亜希子	九戸地域雑穀生産者実績検討会	24.2.22	九戸村	九戸村
阿部 亜希子	一戸町雑穀セミナー	24.2.29	一戸町	一戸町
<b>園芸研究室</b>				
高橋 晋 藤沢 巧 田代 勇樹 武田 純子	ほうれんそう現地研修会	23.6.28	中央農業改良普及センター 県域G	軽米町 (県北農業研究所)
高橋 晋 藤沢 巧 武田 純子	農業大学校現地視察研修	23.8.23	農業大学校	軽米町 (県北農業研究所)
田代 勇樹	野菜茶業課題別研究会 業務用ほうれんそう栽培技術	23.9.28～29	(独)農研機構 野菜・茶業研究所	茨城県つくば市
高橋 晋	東北農研・岩手農研合同シンポジウム 「元気です 東北のアスパラガス」 レタスの輪作品目としてのアスパラガス	24.2.1～2	(独)農研機構 東北農業研究センター	盛岡市

### 3 視察者、見学者の受け入れ状況

区 分	来所者数	参観デー来場者数	合計	備 考
本 部	1,066 人	2,500 人	3,566 人	・平成23年4月～平成24年3月 ・畜産研究所参観デーは中止 ・本部参観デーは台風のため 2日間を1日に短縮
畜産研究所	240 人	0 人	240 人	
県北農業研究所	614	600	1,214	
計	1,920 人	3,100 人	5,020 人	

### 4 春季一般公開及び参観デー

名 称	開催期日	開催場 所	参 集 人 員
春季一般公開	23.4.19～24	農業ふれあい公園 「農業科学博物館」	37 名
参観デー(本部)	23.2～3	農業研究センター本部 農業ふれあい公園 「農業科学博物館」	2,500 名
参観デー(畜産研究所)	中止		
〃 (県北農業研究所)	23.9.9～9.10	県北農業研究所	600 名

### 5 現地ふれあい農業研究センター

開催期日	開催場 所	主 な 内 容	参集人員
24.1.20	陸前高田市 (川の駅よこた・ アグリランド高田)	岩手県農業研究センター震災復旧・復興支援 プロジェクトチーム活動成果報告会及び 復興イチゴ現地検討会	65名
24.2.10	盛岡市 (エスポワールいわて)	岩手・青森で共同開発！水稲多収品種と 直播栽培技術	105名

### 6 一日子供農業研究員

名 称	開催期日	内 容	参集人員
一日子供農業研究員 ～夏休み 蚕の研究～	23.8.2	小学5年生を対象とした蚕の研究  (蚕の観察、飼育体験)  講師: 繭と糸の会(7名)  (補助: 花巻農業高等学校2年生2名)	28名

## 7 農業科学博物館、農業ふれあい公園、加工工房(加工体験)の利用者

項目	主な内容	開催期日	参集人数	
農業科学博物館	入館者数	入館者総数(企画展、イベント、その他を含む来館者数)	3,159名	
		農業研究センター春季一般公開	23.4.19～24 (51名)	
		農業研究センター参観デー	23.9.2～3 (605名)	
	企画展	収蔵品を「企画テーマ」に合わせて年4回展示紹介		—
		第48回「農業改良普及事業創成期の技術資料～手書きの巻物」	23.4.5～6.30	
		第49回「命を救った食べ物～飢饉の歴史と生きるための食物」	23.7.7～9.30	
		第50回「生活・生業と履物」	23.10.7～12.27	
		第51回「昔の灯りと暖をとる道具」	24.1.9～3.28	
	特別展	「園芸産地いわて 過去・現在・そして未来へ」	24.1.22～2.19	
	イベント	「松飾り作り体験」	23.12.25	10名(4組)
その他	学校教育支援活動(社会科実習、校外学習等の受入)	—	1,036名(18校)	
農業ふれあい公園 ゲートボール場	ゲートボール、グラウンドゴルフなど	利用期間 4月～11月	5,793名 (318件)	
農業ふれあい公園 加工工房	加工研修準備	農村起業者食品加工研修のための試作	23.9.29	6名
	加工実習	平成23年度アグリレディースセミナー	23.10.12	10名
	加工研修準備	農村起業者食品加工研修のための試作	23.10.27	6名
	加工研修	農村起業者食品加工研修	23.11.17	30名
	加工実習	農業大学の農産加工概論 加工実習(りんごジュース)	23.12.7	45名
	加工研修	平成23年度第3回農村起業講座(加工実習)での米粉パン、米粉菓子製造	23.12.19	35名

## 8 研修生の受け入れ

### (1) 海外研修

氏名	所属	研修目的	受け入れ部所 (研究室)	期間
Mr. ZHANG Ren He	中国 西北農林科学技術大学	JAICA集団研修「日本短角種の現状と改良、粗飼料多給肥育」	畜産研究所 (家畜育種研究室)	23.8.8
Ms. NATALIA Hesty	インドネシア 農業省 家畜保健総局	〃	〃	〃
Mr. TORIBIO SEQUEIRA Luis Arturo	ニカラグア 国立農業大学 獣医学部	〃	〃	〃
Mr. MENICKRAMA GE Ajith Priyantha Kumara	スリランカ 畜産農村開発省 家畜生産保健局	〃	〃	〃
Mr. BODAHEWA Ajith Priyantha	スリランカ 中部州 家畜生産保健局 獣医師事務所	〃	〃	〃
Mr. BUI Phong Viet	ベトナム 国立畜産研究所 家畜飼料・草地局	〃	〃	〃

### (2) 北東北3県連携にかかる人事交流(研修)

氏名	所属	研修目的	受け入れ部所 (研究室)	期間
該当なし				

### (3) 短期研修生

氏名	所属	研修目的	受け入れ部所 (研究室)	期間
上和野 恵太	岩手県農業共済組合連合会	水稻栽培技術研修	技術部作物研究室	23.5.17 ～23.11.10
小野寺 達也	岩手県農業共済組合連合会	果樹栽培技術研修	果樹研究室	23.6.7 ～24.1.19
佐々木 撰	岩手中部農業共済組合	果樹栽培技術研修	果樹研究室	23.6.7 ～24.1.19
稲田 寛之	胆江地域農業共済組合	果樹栽培技術研修	果樹研究室	23.6.7 ～24.1.19
戸巻 守	NPO 西和賀農業振興センター	リンドウの培養増殖について	野菜花き研究室	23.6.15 23.11.24

#### (4) 体験学習の受け入れ

ア 小中学校等の「総合的な学習の時間」等に対応したもの

所属	研修内容	人数(人)	受け入れ研究室等	期日
北上市立上野中学校 2年生	職場体験学習	2	研究企画室他	23.9.8～9
花巻市立花巻北中学校	職場見学	141	研究企画室	23.10.4
花巻市立笹間第一小学校	職場見学	27	研究企画室	23.11.1
北上市立口内小学校	職場見学	25	研究企画室	23.11.30
奥中山中学校	職場体験学習	2	家畜飼養・飼料研究室 家畜育種研究室	23.6.29
盛岡市立北陵中学校	総合学習	2	家畜飼養・飼料研究室 家畜育種研究室	23.7.27

イ 高等学校、大学の「職場体験研修」「視察」等に対応したもの

所属	研修内容	人数(人)	受け入れ研究室等	期日
帯広畜産大学 6年生	視察研修:乳用牛・肉用牛における 研究内容について	1	家畜飼養・飼料研究室 家畜育種研究室	23.5.12
盛岡農業高校専攻科	肉用牛の飼養技術	1	外山畜産研究室	23.7.25～29 24.1.5～13
岩手県立花巻農業高等学校 生物科学科2年生	現場体験実習	3	各研究室	23.8.1～2
岩手大学 農学部農学生命課程3年生	視察研修	40	家畜飼養・飼料研究室	23.8.4
岩手大学 3,5年生 日本大学 5年生 麻布大学 5年生	行政体験研修:畜産研究所における 獣医師の業務	4	家畜育種研究室	23.8.25
鹿児島大学 4年生 日本大学 4年生 麻布大学 5年生	行政体験研修:畜産研究所における 獣医師の業務	4	家畜育種研究室	23.8.29
岩手大学 農学部農学生命課程3年生	現場体験実習	2	各研究室	23.8.29～ 23.9.2
岩手県立岩谷堂高等学校 1年生	現場見学	40	研究企画室	23.8.30
岩谷堂農林高校	水稻病虫害防除試験の概要	40	病理昆虫研究室	23.8.30
岩手大学農学部	害虫トラップ調査、ほうれんそう防除試験	2	病理昆虫研究室	23.8.31
岩手県立千厩高等学校 1年生	視察研修	41	研究企画室	23.9.24
県立農業大学校事例視察研修	視察研修	24	種山畜産研究室	23.10.11
岩手大学 農学部動物科学過程2年生	視察研修	30	家畜飼養・飼料研究室 家畜育種研究室	23.10.12
岩手大学 3年生	職場見学会(米の成分分析)	25	技術部作物研究室	23.12.26

所属	研修内容	人数(人)	受け入れ研究室等	期日
岩手大学2～4年生 東北大学2～4年生 信州大学2～4年生	オープン県庁 (農業関係大学生の職場体験)	13	野菜花き研究室 生産環境研究室	23.12.26
盛岡農業高校専攻科	家畜育種について	15	家畜育種研究室	24.1.31
岩手県立花巻農業高等学校 生物科学科1年生	現場見学	40	研究企画室	24.2.2

## 9 協議会、委員会等委員

協議会、委員会等の名称	役 職	担 当 機 関	職 名
岩手県研究開発推進連絡会議	委員	商工労働観光部科学・ものづくり振興課	所長
岩手県農業技術開発会議	構成員 構成員 構成員 構成員 構成員 構成員 構成員	農業普及技術課	所長 副所長 企画管理部長 技術部長 環境部長 病虫害防除部長 畜産研究所長 県北農業研究所長
岩手県バイオテクノロジー研究調整会議	委員	農業普及技術課	所長
岩手県農業農村指導士選考委員会	選考委員	農業普及技術課	所長
岩手県農業気象協議会	委員 委員 幹事 幹事 幹事 幹事 幹事 幹事	農業普及技術課	技術部長 病虫害防除所長 (病虫害防除部長) 果樹研究室長 作物研究室長 (技術部) 野菜花き研究室長 生産環境研究室長 家畜飼養・飼料研究室長 作物研究室長 (県北研) 病虫害防除所次長 (病虫害防除課長)
環境と共生する産地づくり運動推進協議会	幹事	農業普及技術課	環境部長
岩手県農薬管理使用アドバイザー認定委員会	委員 委員	農業普及技術課	病虫害防除部長 環境部長
放射性物質の農作物等への影響に係る 生産管理指導対策会議	構成員	農業普及技術課	環境部長 畜産研究所次長
岩手県農業共済保険審査委員会	委員	団体指導課	技術部長
いわて純情米需要拡大推進協議会	幹事	流通課	技術部長
いわての大豆普及推進協議会	委員	流通課	技術部長
土地改良事業営農推進対策委員会	副委員長 委員 委員 中央幹事 中央幹事 中央幹事 中央幹事 中央幹事	農村計画課	企画管理部長 技術部長 県北農業研究所長 農業経営研究室長 野菜花き研究室長 生産環境研究室長 家畜飼養・飼料研究室長 園芸研究室長 (県北研)

協議会、委員会等の名称	役 職	担 当 機 関	職 名
岩手県農業農村整備事業地区 担い手育成協議会	委員	農村建設課	農業経営研究室長
農作物奨励品種検討会議	構成員	農産園芸課	所長
岩手県特産農産物生産振興共進会	審査委員長 審査委員 審査委員	農産園芸課	県北農業研究所長 農業経営研究室長 作物研究室長 (県北研)
岩手県農作業安全対策協議会	委員	農産園芸課	副所長
岩手県農業機械士認定委員会	委員	農産園芸課	技術部長
岩手県農業機械士技能検定	技能検定員 技能検定員	農産園芸課	上席専門研究員 (プロジェクト推進室) 技能員 (プロジェクト推進室)
岩手県麦・大豆等産地体制確立推進協議会 同 事務局	委員 事務局員	農産園芸課	技術部長 作物研究室長 (技術部)
全国豆類経営改善共励会岩手県審査委員会	審査委員長 審査委員 審査委員	農産園芸課	技術部長 作物研究室長 (技術部) 作物研究室長 (県北研)
全国麦作共励会岩手県審査委員会	審査委員長 審査委員 審査委員	農産園芸課	技術部長 作物研究室長 (技術部) 作物研究室長 (県北研)
岩手県特産農作物生産振興共進会審査委員会	審査委員長 審査委員 審査委員	農産園芸課	県北農業研究所長 作物研究室長 (技術部) 作物研究室長 (県北研)
麦・大豆収益性向上対策チーム	構成員 構成員	農産園芸課	プロジェクト推進室長 作物研究室長 (技術部)
県産米食味向上プロジェクトチーム	構成員 構成員 構成員	農産園芸課	プロジェクト推進室長 作物研究室長 (技術部) 生産環境研究室長
「農業機械安全使用講習会開催業務委託」 契約候補者審査委員会	委員	農産園芸課	プロジェクト推進室長
岩手県園芸産地改革戦略推進会議	委員 委員	農産園芸課	農業経営研究室長 野菜花き研究室長
(財)岩手生物工学研究センター評議会	評議員	(財)岩手生物工学研究センター	所長
花北地方農業農村振興連絡協議会 (花巻地域希望農業技術サポート会議を兼ねる)	構成員	県南広域振興局農政部 花巻農林振興センター	企画管理部長
大船渡地方農業振興協議会	構成員	沿岸広域振興局農林部 大船渡農林振興センター	南部園芸研究室長
中央環境審議会土壌農薬部会農薬小委員会	専門委員	環境省 水・大気環境局	病虫害防除部長
東北土地利用型作物安定生産推進協議会	構成員	東北農政局	作物研究室長 (技術部)

協議会、委員会等の名称	役 職	担 当 機 関	職 名
北上市みどりのまちづくり審議会	委員	北上市	企画管理部長
住田町農業振興協議会	構成員	住田町	南部園芸研究室長
日本農業経営学会	理事	(独)中央農業総合研究センター	農業経営研究室長
東北農業試験研究協議会	理事	(独)農研機構・東北農業研究センター	所長
農業機械等緊急開発事業推進プロジェクトチーム (中山間地域対応型汎用コンバイン)	委員 委員	(独)生物系特定産業技術研究センター	プロジェクト推進室長 上席専門研究員 (プロジェクト推進室)
東北農業経済学会	評議員	東北大学農学部	農業経営研究室長
岩手農林研究協議会 (AFR)	副会長(委員) 幹事	岩手大学農学部	所長 技術部長
いわて純情米体質強化推進協議会	幹事	全国農業協同組合連合会岩手県本部	技術部長
日本農業賞岩手県代表選考審査委員	委員長	全国農業協同組合連合会岩手県本部	所長
岩手県施肥合理化協議会	参与 参与 幹事 幹事 幹事 幹事 幹事 幹事	全国農業協同組合連合会岩手県本部	環境部長 畜産研究所長 プロジェクト推進室長 果樹研究室長 野菜花き研究室長 生産環境研究室長 家畜飼養・飼料研究室長 県北農業研究所次長
2011いわて純情りんごコンテスト	審査委員長 審査員 審査員 審査員	全国農業協同組合連合会岩手県本部	技術部長 果樹研究室長 主査専門研究員 (果樹研究室) 病理昆虫研究室長
いわてフラワーコンテスト2011	審査委員長 審査委員	全国農業協同組合連合会岩手県本部	技術部長 野菜花き研究室長
岩手県麦民間流通地方協議会	構成員	全国農業協同組合連合会岩手県本部	作物研究室長 (技術部)
岩手県農業共済組合連合会損害評価会	評価委員 (農作物・水稲) 評価委員 (農作物・水稲) 評価委員 (農作物・麦) 評価委員 (果樹) 評価委員 (畑作物) 評価委員 (園芸施設)	岩手県農業共済組合連合会	作物研究室長 (技術部) 病理昆虫研究室長 上席専門研究員 (技術部作物研究室) 果樹研究室長 専門研究員 (技術部作物研究室) 野菜・花き研究室長
日本植物調節剤研究協会東北支部	委員 監事	日本植物調節剤研究協会東北支部	作物研究室長 (技術部) 果樹研究室長

協議会、委員会等の名称	役職	担当機関	職名
岩手県産業用無人ヘリコプター推進協議会	幹事	岩手県農業共済組合連合会	病害虫防除課長
岩手県植物防疫協会	運営部会幹事 運営部会幹事 運営部会幹事 事業部会幹事 事業部会幹事 事業部会幹事 事業部会幹事 事業部会幹事 事業部会幹事	(社)岩手県植物防疫協会	技術部長 環境部長 病害虫防除所長 (病害虫防除部長) 作物研究室長 (技術部) 果樹研究室長 野菜花き研究室長 病理昆虫研究室長 家畜飼養・飼料研究室長 病害虫防除所次長 (病害虫防除課長)
岩手県農産物改良種苗センター 種子価格設定委員会	委員	(社)岩手県農産物改良種苗センター	作物研究室長 (技術部)
平成23年度種子事故防止兼 種子事故調査委員会	委員	(社)岩手県農産物改良種苗センター	病理昆虫研究室長
農業機械学会東北支部 平成23年度 支部大会実行委員会	委員 委員	農業機械学会東北支部	プロジェクト推進室長 上席専門研究員 (プロジェクト推進室)
いわて和牛改良増殖対策事業推進協議会	委員 委員	畜産課	畜産研究所次長兼 種山畜産研究室長 家畜育種研究室長
いわて短角和牛改良推進協議会	委員	日本短角種集団育種推進協議会 畜産課	家畜育種研究室長 外山畜産研究室長
全国和牛能力共進会出品対策委員会	委員 委員	畜産課 全国農業協同組合連合会岩手県本部	畜産研究所次長兼 種山畜産研究室長 家畜育種研究室長
畜産環境整備事業農機具導入委員会	委員	畜産課	家畜飼養・飼料研究室長
岩手県飼料増産推進協議会	委員	畜産課	家畜飼養・飼料研究室長
岩手県畜産技術連盟	世話人	畜産研究所	畜産研究所長
盛岡市牧野運営協議会委員	委員	盛岡市	外山畜産研究室長
岩手県農協大型酪農経営連絡協議会	委員	全国農業協同組合連合会岩手県本部	畜産研究所長
岩手県乳質改善協議会	委員	全国農業協同組合連合会岩手県本部	畜産研究所長
ミルクシステム診断事業推進委員会	委員	(社)岩手県畜産協会	家畜飼養・飼料研究室長
岩手県乳用牛群検定推進協議会	幹事	(社)岩手県畜産協会	家畜飼養・飼料研究室長
全国和牛登録協会登録委員産肉能力 検定委員会	参与 参与 委員	全国和牛登録協会	畜産研究所長 畜産研究所次長兼 種山畜産研究室長 主査専門研究員 (種山畜産研究室)
和牛改良専門委員会	委員 委員	全国和牛登録協会岩手県支部	畜産研究所次長兼 種山畜産研究室長 家畜育種研究室長

協議会、委員会等の名称	役 職	担 当 機 関	職 名
県南和牛育種組合育種推進委員会	育種推進委員	全国和牛登録協会岩手県支部	主査専門研究員 (種山畜産研究室)
中央和牛育種組合育種推進委員会	育種推進委員	全国和牛登録協会岩手県支部	主査専門研究員 (種山畜産研究室)
日本短角種検定委員会	委員	日本短角種登録協会	家畜育種研究室長
日本短角種研究会	評議員	日本短角種研究会	家畜育種研究室長
日本短角種枝肉情報分析委員会	委員	肉用牛改良情報活用協議会	家畜育種研究室長
岩手県獣医師会学術広報委員会	副委員長	岩手県獣医師会	家畜育種研究室長

## VI 職員研修

## VI 職員研修

### 1 大学院派遣

職・氏名	所属部所・研究室	研究内容	派遣先	派遣期間
専門研究員 阿部 陽	技術部 作物研究室	水稻の重要形質に関するQTL遺伝子の 単離・同定および機能解析	岩手大学大学院 連合農学研究科 (連携院:岩手生物 工学研究センター)	19.4～24.3
専門研究員 岩館 康哉	環境部 病理昆虫研究室	キュウリホモプシス根腐病の発生生態と防除に 関する研究	岩手大学大学院 連合農学研究科 (山形大学)	21.10～
専門研究員 佐藤 洋一	畜産研究所 家畜育種研究室	日本短角種におけるDNA情報を活用した育種 に関する研究	東北大学大学院 農学研究科	22.4～

### 2 海外派遣・研修

職・氏名	所属部所・研究室	研修内容等	派遣先	派遣期間
該当なし				

### 3 国内研修への派遣

#### (1) 依頼研究員

職・氏名	所属部所・研究室	研修内容	派遣先	派遣期間
主任専門研究員 阿部 弘	環境部 生産環境研究室	採花期間の窓における効果的施肥技術の 開発	(独)農業・食品産業 技術総合研究機構 花き研究所 花き研究領域	23.6.1～8.31 (90日間)

#### (2) 北東北3県研究職員交流(職員派遣)

職・氏名	所属部所・研究室	研修内容	派遣先	派遣期間
主任専門研究員 寺田 道一 主任専門研究員 臼井 智彦	プロジェクト推進室	低投入型乾田直播栽培技術の研修	(地独)青森県産業 技術センター 農林総合研究所 水稻栽培部	23.6.28～29、 23.9.16

#### (3) 農林水産関係研究リーダー研修

職・氏名	所属部所・研究室	研修内容	派遣先	派遣期間
環境部長 木内 豊 所長 茂市 修平	環境部 県北農業研究所	研究開発におけるリスクマネジメント他	東京都 農林水産省	23.7.28～29

#### (4) 独立行政法人農業・食品産業技術総合研究機構 短期集合研修

職・氏名	所属部所・研究室	研修内容	派遣先	派遣期間
主任専門研究員 千田 裕	企画管理部 農業経営研究室	数理統計基礎編 I	茨城県 農林水産技術会議 事務局筑波事務所	23.10.10～14
主任専門研究員 藤尾 拓也	技術部 園芸研究室	数理統計研修(基礎編)		23.11.6～11

#### (5) 農林水産関係研究者研修

職・氏名	所属部所・研究室	研修内容	派遣先	派遣期間
該当なし				

## (6) その他

職・氏名	所属部所・研究室	研修内容	派遣先	派遣期間
主任専門研究員 寺田 道一 主任専門研究員 臼井 智彦	プロジェクト推進室	第13回 東北雑草研究会	青森県 黒石市・青森市	23.6.27～28
プロジェクト推進室長 扇 良明 主査専門研究員 渡邊 麻由子	プロジェクト推進室	東北大豆シンポジウム in いわて	北上市 (農研センター)	23.8.4
上席専門研究員 高橋 昭喜	プロジェクト推進室	平成23年東北地域マッチングフォーラム及び 東北農業試験研究発表会	秋田県秋田市	23.8.8～9
上席専門研究員 高橋 昭喜	プロジェクト推進室	平成23年度農業機械学会東北支部大会	北上市 (農研センター)	23.8.18
プロジェクト推進室長 扇 良明 上席専門研究員 高橋 昭喜 主査専門研究員 渡邊 麻由子 主任専門研究員 寺田 道一 主任専門研究員 臼井 智彦	プロジェクト推進室	農業機械学会東北支部 東北農業試験研究推 進会議基盤技術推進部会作業技術研究会 平成23年度合同シンポジウム 「震災復興を視野に入れた東北地域の水田 農業の技術開発」	北上市 (農研センター)	23.8.18
主任専門研究員 臼井 智彦	プロジェクト推進室	有機農業研究者会議2011	茨城県つくば市	23.11.28～29
主任専門研究員 臼井 智彦	プロジェクト推進室	東北農研シンポジウム 「津波被害農地の除塩対策技術」	宮城県仙台市	23.12.1
主査専門研究員 渡邊 麻由子	プロジェクト推進室	東北地域大豆300A技術等普及推進大会	宮城県仙台市	23.12.9
プロジェクト推進室長 扇 良明 主任専門研究員 寺田 道一 主任専門研究員 臼井 智彦	プロジェクト推進室	東北農研シンポジウム 「育てよう！東北の鉄コーティング水稲直播」	盛岡市	23.12.12
主任専門研究員 寺田 道一	プロジェクト推進室	鉄コーティング湛水直播栽培技術研究会	東京都	24.1.24
主任専門研究員 寺田 道一 主任専門研究員 臼井 智彦	プロジェクト推進室	平成23年度岩手・青森連携研究シンポジウム 「岩手・青森両県で共同開発！水稲多収品種と 直播栽培技術」	盛岡市	24.2.10
主任専門研究員 寺田 道一	プロジェクト推進室	平成23年度全国農業システム化研究会 最終成績検討会	東京都	24.2.14～15
主任専門研究員 臼井 智彦	プロジェクト推進室	北日本病害虫研究会	盛岡市	24.2.16～17
主任専門研究員 臼井 智彦	プロジェクト推進室	鉄コーティング直播栽培技術の試験研究に 関する研修	広島県 福山市・広島市	24.2.23～24
主査専門研究員 渡邊 麻由子	プロジェクト推進室	平成23年度生研センター 研究報告会・農業機械 開発改良試験研究 打合せ	埼玉県さいたま市	24.3.8～9
主任専門研究員 臼井 智彦	プロジェクト推進室	平成23年度 東北ブロック環境保全農業推進フォーラム	宮城県仙台市	24.3.23
主任専門研究員 寺田 道一	プロジェクト推進室	日本作物学会第233回講演会	東京都府中市	24.3.29～30

職・氏名	所属部所・研究室	研修内容	派遣先	派遣期間
上席専門研究員 勝部 和則	企画管理部 研究企画室	会計事務担当職員研修(基礎編)	盛岡市	23.9.5
主査専門研究員 土田 泰輔	企画管理部 研究企画室	会計事務担当職員研修(基礎編)	盛岡市	23.9.5
主任専門研究員 伊勢 智宏	企画管理部 研究企画室	いわて知的財産権セミナー	盛岡市	24.2.10、24
上席専門研究員 勝部 和則	企画管理部 研究企画室	全国イノベーションコーディネータフォーラム 2011 in 仙台	宮城県仙台市	23.11.1
主任専門研究員 伊勢 智宏	企画管理部 研究企画室	平成23年度 ITサポート研修会	盛岡市	23.11.22
主任主査 吉田 勝	企画管理部 総務課	会計事務担当職員研修(出納局主催)	盛岡市	23.9.5
主幹兼総務課長 高橋 義記	企画管理部 総務課	安全運転管理者等講習 (公安委員会による研修)	北上市	23.10.6
主査専門研究員 高橋 司 専門研究員 畠山 隆幸 技師 田口 礼人	技術部 果樹研究室	第54回東北農業試験研究発表会	秋田県	23.8.10
専門研究員 畠山 隆幸	技術部 果樹研究室	第7回 くだもの新品種プラットホーム	大阪府	23.11.15
主任専門研究員 高橋 司	技術部 果樹研究室	梅新品種「露茜」の特性調査 和歌山うめ研究所	和歌山県	23.11.16
主査専門研究員 及川 耳呂	技術部 果樹研究室	第65回北日本病害虫研究発表会	盛岡市	24.2.16～17
主任技能員 菊地 徳章	技術部 果樹研究室	クレーン運転業務特別研修	花巻市	24.2.17～18
主任専門研究員 及川 耳呂 技師 田口 礼人	技術部 果樹研究室	岩手県果実酒研究会講演会	盛岡市	24.2.23
主任専門研究員 高橋 拓也	技術部 野菜花き研究室	第54回東北農業試験研究発表会	秋田県	23.8.10
主任専門研究員 藤尾 拓也 主任専門研究員 山口 貴之 主任専門研究員 高橋 拓也	技術部 野菜花き研究室	平成23年度園芸学会秋季大会	岡山県	23.9.24～25
上席専門研究員 藤原 一道	技術部 野菜花き研究室	平成23年度花き研究戦略会議	茨城県	23.10.20～21
野菜花き研究室長 渡辺 芳幸 上席専門研究員 漆原 昌二 主任専門研究員 高橋 拓也 主任専門研究員 藤尾 拓也	技術部 野菜花き研究室	全自動接ぎ木装置に関する現地セミナー	北上市 (農研センター)	23.12.14
主任専門研究員 高橋 拓也	技術部 野菜花き研究室	農研機構(NARO)植物工場つくば実証拠点 2011年度第4回研修会 「植物工場におけるパプリカ生産について」	茨城県つくば市	24.1.16

職・氏名	所属部所・研究室	研修内容	派遣先	派遣期間
所長 高橋 伸夫 技術部長 畠山 均 野菜花き研究室長 渡辺 芳幸 主任専門研究員 山口 貴之 上席専門研究員 藤尾 拓也 研究企画室長 泉川 澄男 上席専門研究員 勝部 和則 主査専門研究員 土田 泰輔 主任専門研究員 伊勢 智宏 主任専門研究員 阿部 弘 園芸研究室長 高橋 晋 技師 武田 純子	所長  技術部 野菜花き研究室  企画管理部 研究企画室  環境部 生産環境研究室 県北農業研究所 園芸研究室	東北農研・岩手農研合同シンポジウム 「元気です！東北のアスパラガス」	岩手町・盛岡市	24.2.1～2
主任専門研究員 高橋 拓也 主任専門研究員 藤尾 拓也	技術部 野菜花き研究室	第33回施設園芸総合セミナー・機器資材展	東京都	24.2.16～17
主任専門研究員 赤坂 志保 主任専門研究員 藤尾 拓也 主任専門研究員 山口 貴之	技術部 野菜花き研究室	平成24年度園芸学会春季大会	大阪府	24.3.27～29
南部園芸研究室長 佐々木 裕二	技術部 南部園芸研究室	いわて産学官連携フォーラム ～リエゾン-Iマッチングフェア2011～	盛岡市	23.11.15
主任専門研究員 小田島 雅	技術部 南部園芸研究室	日本農作業学会シンポジウム	栃木県	23.11.24～25
南部園芸研究室長 佐々木 裕二 主任専門研究員 小田島 雅	技術部 南部園芸研究室	平成23年度土づくり研究会	宮城県	23.12.8
南部園芸研究室長 佐々木 裕二	技術部 南部園芸研究室	アグリビジネス創出フェア	宮城県	23.12.20
主査専門研究員 山田 修 主任専門研究員 小田島 雅	技術部 南部園芸研究室	第33回施設園芸総合セミナー・機器資材展	東京都	24.2.16～17
主任専門研究員 小田島 雅	技術部 南部園芸研究室	農業の早期復興に向けた試験研究成果報告会	宮城県	24.2.22

職・氏名	所属部所・研究室	研修内容	派遣先	派遣期間
主査専門研究員 多田 典穂	環境部 病理昆虫研究室	第16回農林害虫防除研究会山口大会	山口県山口市	23.6.9～10
主査専門研究員 多田 典穂	環境部 病理昆虫研究室	鹿児島県IPMシンポジウム	鹿児島県 鹿児島市 南さつま市	23.8.25～26
主任専門研究員 岩館 康哉	環境部 病理昆虫研究室	園芸学会平成23年度秋季大会	岡山県岡山市	23.9.24～26
主任専門研究員 岩館 康哉	環境部 病理昆虫研究室	第26回報農会シンポジウム 植物保護ハイビジョン2011	東京都	23.9.28
主任専門研究員 岩館 康哉	環境部 病理昆虫研究室	第9回ウイルス病防除研究会セミナー	熊本県熊本市	23.10.3～5
主任専門研究員 羽田 厚 主任専門研究員 横田 啓	環境部 病理昆虫研究室	第27回個体群生態学会大会	岡山県	23.10.14～16
主任専門研究員 岩館 康哉 技師 熊谷 親一	環境部 病理昆虫研究室	EBC研修会ワークショップ2011	東京都	23.10.18
主任専門研究員 岩館 康哉 技師 熊谷 親一	環境部 病理昆虫研究室	第21回殺菌剤耐性菌研究会シンポジウム	東京都	23.10.19
主任専門研究員 岩館 康哉	環境部 病理昆虫研究室	2011年度(平成23年度)農研機構セミナー 「野菜の土壌病虫害防除における環境保全的 対策研究の最前線ー病原菌の識別・定量検 出、発病リスクの評価、防除技術についてー」	京都府京都市	23.10.20
主任専門研究員 岩館 康哉	環境部 病理昆虫研究室	平成23年度植物病理学会東北部会発表	青森県青森市	23.10.31～ 11.1
主査専門研究員 多田 典穂	環境部 病理昆虫研究室	第17回農作物病虫害防除フォーラム	東京都	23.11.2
主任専門研究員 岩館 康哉	環境部 病理昆虫研究室	日本土壌微生物学会2011年度大会	宮城県大崎市	23.11.25～26
主査専門研究員 多田 典穂 主任専門研究員 横田 啓	環境部 病理昆虫研究室	第21回天敵利用研究会	奈良県奈良市	23.12.1～2
主査専門研究員 多田 典穂 主査専門研究員 富永 朋之 主任専門研究員 羽田 厚 主任専門研究員 横田 啓 主任専門研究員 岩館 康哉 専門研究員 佐藤 千穂子 技師 熊谷 親一	環境部 病理昆虫研究室	第65回北日本病虫害研究発表会	盛岡市	24.2.16～17
主任専門研究員 横田 啓	環境部 病理昆虫研究室	関東東山病虫害研究会第59回研究発表会	栃木県宇都宮市	24.3.2
主任専門研究員 羽田 厚	環境部 病理昆虫研究室	日本農薬学会第37回大会	岡山県	24.3.14～16
主任専門研究員 羽田 厚	環境部 病理昆虫研究室	日本生態学会第59回大会	滋賀県	24.3.17～20

職・氏名	所属部所・研究室	研修内容	派遣先	派遣期間
主任専門研究員 岩館 康哉	環境部 病理昆虫研究室	平成24年度日本植物病理学会 日韓合同シンポジウム	福岡県福岡市	24.3.27
主任専門研究員 羽田 厚 主任専門研究員 横田 啓	環境部 病理昆虫研究室	第56回日本応用動物昆虫学会大会発表	奈良県奈良市	24.3.27～29
主査専門研究員 富永 朋之	環境部 病理昆虫研究室	平成24年度日本植物病理学会大会	福岡県福岡市	24.3.28～30
主任専門研究員 岩館 康哉 技師 熊谷 親一	環境部 病理昆虫研究室	平成24年度日本植物病理学会大会発表	福岡県福岡市	24.3.28～30
主査専門研究員 富永 朋之	環境部 病理昆虫研究室	第22 回殺菌剤耐性菌研究会シンポジウム	福岡県福岡市	24.3.31
技師 熊谷 親一	環境部 病理昆虫研究室	日本植物病理学会 第12 回バイオコントロール研究会	福岡県福岡市	24.3.31
主任 加藤 清吾 技師 吉田 雅紀	病虫害防除部 病虫害防除課	農研機構セミナー	京都府京都市	23.10.20～21
主査 名久井 一樹 外5名	病虫害防除部 病虫害防除課	植物病害診断研究会	青森県青森市	23.10.31～ 11.1
技師 村上 太郎	病虫害防除部 病虫害防除課	病虫害防除所職員等中央研修	神奈川県横浜市	23.12.5～8
部長 築地 邦晃 外4名	病虫害防除部 病虫害防除課	日本植物防疫協会シンポジウム	東京都	24.1.12
主任主査 大友 令史 外8名	病虫害防除部 病虫害防除課	北日本病虫害研究会	盛岡市	24.2.16～17
技師 斎藤 真理子 技師 村上 太郎	病虫害防除部 病虫害防除課	北海道東北地区植物防疫職員等技術研修会	宮城県仙台市	24.2.24～25
専門研究員 佐々木 直	畜産研究所 家畜育種研究室	東北農業研究センター技術講習 (アミノ酸分析及びせん断力価測定)	県内	23.11.1～11
技師 木戸場 結香	畜産研究所 家畜飼養・飼料研究室	東北地区登録委員研修会	青森県	23.7.28～29
専門研究員 山形 広輔	畜産研究所 家畜飼養・飼料研究室	平成23年度雑草生態及び除草剤試験に 関する研修会	茨城県	23.8.23～24
技師 木戸場 結香	畜産研究所 家畜飼養・飼料研究室	中央畜産技術研修(乳牛)	福島県	23.11.14～17
専門研究員 尾張 利行 専門研究員 山形 広輔 主任技能員 工藤 明彦 主任技能員 松本 徹	畜産研究所 家畜飼養・飼料研究室	水田・里山放牧推進協議会情報交換会	栃木県	23.11.18
室長 佐藤 直人 技師 木戸場 結香	畜産研究所 家畜飼養・飼料研究室	アグリビジネス創出フェア	千葉県	23.11.30～ 12.2

職・氏名	所属部所・研究室	研修内容	派遣先	派遣期間
専門研究員 山形 広輔	畜産研究所 家畜飼養・飼料研究室	中央畜産技術研修(飼料A・B)	福島県	24.1.16～19
専門研究員 尾張 利行	畜産研究所 家畜飼養・飼料研究室	牧草放射線検査研修会	宮城県	24.1.31
専門研究員 齋藤 浩和 技師 木戸場結香	畜産研究所 家畜飼養・飼料研究室	全酪連絡農セミナー2012	宮城県	24.2.27
専門研究員 尾張 利行	畜産研究所 家畜飼養・飼料研究室	生研センター研究報告会	埼玉県	24.3.9
技師 木戸場 結香	畜産研究所 家畜飼養・飼料研究室	乳用牛飼養管理技術セミナー	県内	24.3.15
主任技能員 上野 由克	畜産研究所 総務課	酸素欠乏等危険作業主任者技能講習	県内	23.9.14～16
主任技能員 荒木田 俊 技能員 上澤 賢輝 技能員 葉木沢一也	畜産研究所 総務課	チェーンソー従事者講習会	県内	24.3.12～13
技師 大崎 翔	畜産研究所 種山研究室	中央畜産技術研修(新任)	福島県	23.9.20～22
主査専門研究員 吉田 宏	県北農業研究所 作物研究室	シンポジウム 「広域的な農畜産物の放射能汚染を効果的に抑制する農業技術」	茨城県つくば市	23.9.5
主査専門研究員 吉田 宏	県北農業研究所 作物研究室	やませ研究会	青森県弘前市	23.9.20～21
次長兼 作物研究室長 小菅 裕明	県北農業研究所 作物研究室	技術情報交流セミナー	東京都	23.10.18
主任専門研究員 阿部 亜希子	県北農業研究所 作物研究室	病害虫にかかるシンポジウム	東京都	23.11.2
主査専門研究員 吉田 宏	県北農業研究所 作物研究室	東北農研シンポジウム 「津波被害農地の塩害対策技術」	宮城県仙台市	23.12.1
主査専門研究員 吉田 宏	県北農業研究所 作物研究室	土づくり研究会	宮城県仙台市	23.12.8
主査専門研究員 吉田 宏	県北農業研究所 作物研究室	東北農研シンポジウム 「水稻直播栽培 鉄コーティング」	盛岡市	23.12.12
主査専門研究員 仲條 眞介	県北農業研究所 作物研究室	メタボロミクス解析講習会	大阪府大阪市	23.12.16～17
主査専門研究員 中西 商量	県北農業研究所 作物研究室	SHITAシンポジウム 「植物工場次世代への展開」	東京都	24.1.19～20
主査専門研究員 吉田 宏	県北農業研究所 作物研究室	岩手青森機関連携多収品種開発シンポジウム	盛岡市	24.2.10
主査専門研究員 吉田 宏	県北農業研究所 作物研究室	農薬研究先進地研修	静岡県掛川市	24.2.20～21
主査専門研究員 吉田 宏	県北農業研究所 作物研究室	やませ研究会	宮城県仙台市	24.3.5～6
上席専門研究員 藤沢 巧	県北農業研究所 園芸研究室	コナダニシンポジウム・農林害虫防除研究会	山口県山口市	23.6.7
園芸研究室長 高橋 晋 主査専門研究員 鹿糠 美雪	県北農業研究所 園芸研究室	りんどう研究会	盛岡市	23.6.27

職・氏名	所属部所・研究室	研修内容	派遣先	派遣期間
上席専門研究員 藤沢 巧	県北農業研究所 園芸研究室	低濃度アルコール土壌消毒開発事業 現地研修会	徳島県 名西郡石井町	23.7.11
技師 武田 純子	県北農業研究所 園芸研究室	岩手県リン酸資源地産地消研究会	盛岡市	23.9.8
園芸研究室長 高橋 晋	県北農業研究所 園芸研究室	園芸学会アスパラガス小集会	岡山県岡山市	23.9.23
主査専門研究員 鹿糠 美雪	県北農業研究所 園芸研究室	花きシンポジウム	茨城県つくば市	23.11.9～10
園芸研究室長 高橋 晋	県北農業研究所 園芸研究室	寒冷地アスパラガスシンポジウム	盛岡市	24.2.1～3
技師 武田 純子	県北農業研究所 園芸研究室	施設園芸セミナー	東京都	24.2.16～17

#### 4 所内研修等

##### (1) 岩手県総務部人事課主催研修

職・氏名	所属部所・研究室	研修内容	派遣先	派遣期間
上席専門研究員 高橋 昭喜	プロジェクト推進室	ブレイング・マネージャー研修(第2期)	人事課主催	23.11.2～3
技師 田口 礼人	技術部 果樹研究室	新採用職員研修	人事課主催	23.5.30～6.3 23.11.7～11
専門研究員 畠山 隆幸	技術部 果樹研究室	eラーニング 人を動かすプラン&プレゼンテーション基礎	人事課主催	23.8.25～ 24.2.29
果樹研究室長 小原 繁	技術部 果樹研究室	新任担当課長研修(第3期)	人事課主催	24.2.6～2.8
主任専門研究員 藤尾 拓也	技術部 野菜・花き研究室	eラーニング 人を動かすプラン&プレゼンテーション基礎	人事課主催	23.8.25～ 24.2.29
主査専門研究員 星 伸枝	技術部 野菜・花き研究室	新任主査研修	人事課主催	24.2.1～3
専門研究員 高橋 彩子	環境部 生産環境研究室	eラーニング 自分らしさを活かした対人能力向上コース	人事課主催	23.8.25～ 24.2.29
技師 熊谷 親一	環境部 病理昆虫研究室	新採用職員研修	人事課主催	23.5.30～6.3 23.11.7～11
生産環境研究室長 小林 卓史	環境部 生産環境研究室	担当課長級研修	人事課主催	23.10.26～28
主査専門研究員 多田 典穂	環境部 病理昆虫研究室	eラーニング 人を動かすプラン&プレゼンテーション基礎	人事課主催	23.8.25～ 24.2.29
主任専門研究員 岩館 康哉	環境部 病理昆虫研究室	eラーニング ファシリテーション基本コース	人事課主催	23.8.25～ 24.2.29
技師 村上 太郎	病害虫防除部 病害虫防除課	採用3年目研修	人事課主催	23.10.19～21
技師 大崎 翔	畜産研究所 種山研究室	新採用職員研修(第1期)	人事課主催	23.5.30～6.1 23.10.3～7
次長兼室長 菊池 雄	畜産研究所 種山研究室	新任総括課長等研修	人事課主催	23.9.7～8
技師 大崎 翔	畜産研究所 種山研究室	新採用職員研修(第2期)	人事課主催	23.10.3～7
室長 熊谷 光洋	畜産研究所 家畜育種研究室	新任担当課長等研修	人事課主催	23.10.26～28
室長 佐藤 直人	畜産研究所 家畜飼養・飼料研究 室	新任担当課長等研修	人事課主催	24.2.6～8
主査専門研究員 鹿糠 美雪	県北農業研究所 園芸研究室	新任主査研修	人事課主催	24.2.1～3

(2) 所内研修

研修会名称	所属部所・研究室	研修内容	主催	開催日
情報セキュリティ研修会	本部	情報の安全・安心10のポイント・情報セキュリティ対策	研究企画室	23.4.14
会計事務等研修会	本部	会計の基本原則、適正な会計事務処理の方法、経理事務処理方法等 講師:総務課員	総務課	①23.7.12 ②23.11.22
交通安全研修会	本部	交通安全の啓発ビデオ上映、講話 講師:北上警察署員	総務課	23.7.19
救急救命・AED操作講習会	本部	一般救命講習 講師:北上消防署員	総務課	23.8.29
保健衛生教室	本部	「働く人のストレスマネジメント」 講師:(財)岩手県予防医学協会 臨床心理士	総務課	23.9.7
会計事務等研修会	畜産研究所	会計の基本原則、適正な会計事務処理の方法、経理事務処理方法等 講師:総務課員	総務課	23.7.29
交通安全研究会	畜産研究所	交通安全の啓発ビデオ上映、交通安全危険予知トレーニング 講師:総務課長	総務課	23.9.21
救急救命・AED操作講習会	畜産研究所	心肺蘇生法、AED講習 講師:盛岡西消防署員(滝沢北出張所)	総務課	23.10.19
健康推進事業(健康教室)	畜産研究所	健康推進教室 講師:岩手県予防医学協会職員	総務課	23.11.28
三公所合同交通安全研修会	県北農業研究所	交通安全の啓発ビデオ上映 二戸警察署員による講話	総務課	23.7.27
旅費研修会	県北農業研究所	旅行命令とサービスについて	総務課	24.1.16

## 5 所内セミナー等

名 称	開催期日	内 容	参集人員
<b>【本部】</b> <b>【プロジェクト推進室】</b> プロジェクト推進室ゼミ	23.7.15	白山営農組合における水稲直播・大豆うね立て栽培の取組み 寺田 道一(主任専門研究員)	7 名
	23.11.9	ナタネの畦立て同時播種機の開発 高橋 昭喜(上席専門研究員)	7 名
	23.12.20	水稲の有機栽培について 白井 智彦(主任専門研究員)	6 名
	24.1.30	コンバインの収穫精度試験について 高橋 昭喜(上席専門研究員)	4 名
<b>【企画管理部】</b> 大学院派遣研究成果発表会 並びに依頼研究員研修成果 発表会	24.3.23	水稲の重要形質に関与するQTL遺伝子の単璃・同定及び機能 解析(大学院派遣) 阿部 陽(専門研究員) 採花期間のりんどうにおける効果的施肥技術の開発(依頼研究) 阿部 弘(主任専門研究員)	45 名
<b>【技術部】</b> 技術部ゼミ	23.4.28	平成22年度北東北3県連携人事交流研修報告 畠山 隆幸(果樹研究室専門研究員)	27 名
	23.4.28	国際植物動物ゲノム学会発表(サンディエゴ市)報告 阿部 陽(作物研究室専門研究員)	27 名
	23.6.29	研究実施圃場の状況確認(果樹研究室、野菜花き研究室) 技術部各担当(果樹研究室、野菜花き研究室)	21 名
	23.7.26	岩手県における若苗利用トマト抑制作型栽培技術(東北農業研究 発表会部内発表) 高橋 拓也(野菜花き研究室主任専門研究員)	26 名
	23.7.26	リンゴの安定生産を目的とした授粉専用品種の特性(東北農業研究 発表会部内発表) 高橋 司(果樹研究室主査専門研究員)	26 名
	23.7.26	リンゴ新品種‘岩手5号’の主要特性(東北農業研究発表会部内発 畠山 隆幸(果樹研究室専門研究員)	26 名
	23.11.28	エーデルロツソ(ぶどう岩手3号)の食味評価について 田口 礼人(果樹研究室技師)	20 名
	24.3.6	岩手県職員38年間のおもいで 畠山 均(技術部部长)	49 名

名 称	開催期日	内 容	参集人員
<b>[環境部]</b> 環境部ゼミ	23.6.7	放射線に関する基礎知識 講師:地方独立行政法人岩手県工業技術センター 副理事長	40 名
	24.3.22	エンジロンドウの採花期間における根張り施肥位置との関係 阿部 弘(生産環境研究室 主任専門研究員) ※園芸学会平成24年度春季大会口頭発表リハーサル (病理昆虫研究室の発表リハーサルと合同)	10 名
	24.2.9	2011年岩手県奥州市の穂もち防除省略栽培地域における発生 富永 朋之(病理昆虫研究室 主査専門研究員) ダイズのマメシクイガに対する各種薬剤の防除効果 横田 啓(病理昆虫研究室 主任専門研究員) リンドウホソハマキに対する数種殺虫剤の効果 羽田 厚(病理昆虫研究室 主任専門研究員) ハウレンソウ白斑病に対する数種殺菌剤の防除効果 岩館 康哉(病理昆虫研究室 主任専門研究員)	10 名
		水稻箱施用剤の減量施用時におけるいもち病の発生リスク 熊谷 親一(病理昆虫研究室 技師) 発生予察におけるアカスジカスミカメのフェロモントラップの有効性 村上 太郎(病害虫防除課 技師)	
	24.3.22	寒冷地のキャベツ圃場における環境保全型農業の指標生物種としての2種のゴミムシ類の動態 羽田 厚(病理昆虫研究室 主任専門研究員) アカスジカスミカメによる斑点米形成時期 横田 啓(病理昆虫研究室 主任専門研究員)	10 名
<b>[畜産研究所]</b> 東北畜産学会発表予演会  日本畜産学会予演会  養鶏農場飼養管理者研修	23.8.8	交配計画作成プログラム「豚交配支援システム」 バイオガスプラント由来消化液の秋施用が土壤中無機態窒素の動態および飼料用トウモロコシの収量等に及ぼす影響 TMRにおける破砕処理トウモロコシサイレージ給与割合が産乳性に与える影響	15 名
	23.8.23	岩手県黒毛和種集団におけるNCAPG遺伝子型多型の効果	10 名
	23.11.17	高病原性鳥インフルエンザの基礎知識 他 講師:中央家畜保健衛生所 防疫課長	8 名
<b>[県北農業研究所]</b> 第1回所内ゼミ  第2回所内ゼミ (外部公開ゼミ)  第3回所内ゼミ  第4回所内ゼミ	23.7.5	試験圃場説明会	20 名
	23.8.3	放射線に関する基礎知識 講師:地方独立行政法人岩手県工業技術センター 副理事長	70 名
	23.9.6	放射線に関する各種会議等の復命・発表会 主査専門研究員 吉田 宏 技師 武田 純子	10 名
	24.3.21	学会等発表報告会 上席専門研究員 藤沢 巧 主査専門研究員 仲條 真介	15 名

## VII 試験研究以外の業務概要

## VII 試験研究以外の業務概要

### 1 作物の原々種の採種

#### (1) 主要農作物種子法に基づく原々種種子の生産

種 類	品 種	面 積 (a)	採種量 (kg)	備考 (採種場所等)
水稻(うるち)	かけはし	3	45	農業研究センター
	あきたこまち	5	115	〃
	ひとめぼれ	8	185	〃
	つぶみのり	0.5	25.7	〃
	つぶゆたか	0.5	21	〃
水稻(もち)	ヒメノモチ	3	109	〃
	もち美人	2	41	〃
小麦	ゆさちから	5	240	〃
大豆	リュウホウ	30	455	〃

#### (2) その他原々種種子の生産

種 類	品 種	面 積(a)	採種量(g)	備考(採種場所等)
小豆	生産無し	—	—	—
りんどう	IHO	—	3.34	農業研究センター
	EZ	—	3.91	〃
	HO2・1・4	—	4.16	〃
	Y5・1・4	—	0.33	〃
	Job	—	0.35	〃
	Ba	—	1.24	〃

## 2 作物の原種の採種

### (1) 主要農作物種子法に基づく原種種子の生産

種類	品種	面積 (a)	採種量 (kg)	備考 (採種場所等)
水稻うるち	かけはし	50	1,220	農業研究センター
	いわてっこ	50	1,520	〃
	あきたこまち	154	2,640	〃
	どんびしやり	-	-	〃
	ひとめぼれ	305	11,140	〃
	ササニシキ	30	720	〃
水稻もち	カグヤモチ	-	-	〃
	ヒメノモチ	40	800	〃
	もち美人	10	160	〃
酒造好適米	ぎんおとめ	-	-	〃
	吟ぎんが	10	320	〃
水稻非主食用米	つぶみのり	7	280	〃
水稻非主食用米	つぶゆたか	8	200	〃
小麦	ナンブコムギ	250	3,150	〃
	ゆきちから	150	4,560	〃
大豆	ナンブシロメ	110	1,980	〃
	スズカリ	-	-	〃
	リュウホウ	-	-	〃
	ユキホマレ	-	-	〃
	青丸くん	-	-	〃

### (2) その他原種種子の生産

種類	品種	面積(単位)	採種量(単位)	備考(採種場所等)
小豆	岩手大納言	7	41(kg)	農業研究センター
	ベニダイナゴン	7	45(kg)	〃
そば	岩手早生	-	-	-
雑穀	もじゃっぺ(ヒエ)	-	4(kg)	農業研究センター 県北農業研究所
小ぎく	アイمامアーリーイエロー	-	10(株)	農業研究センター
	アイمامホワイト	-	10(株)	〃
	アイمامホワイトピーチ	-	10(株)	〃
	アイمامピンク	-	10(株)	〃
	アイمامイエロー	-	10(株)	〃
	アイمامレモンイエロー	-	10(株)	〃
	アイمامオータムホワイト	-	10(株)	〃
	アイمامパープルレッド	-	10(株)	〃
	アイمامアーリーホワイト	-	10(株)	〃
	アイمامオレンジ	-	10(株)	〃
	アイمامレッド	-	10(株)	〃

### 3 種苗等の配布

#### (1) 主要農作物種子法に基づく種苗の配布

種 類	品 種	数 量(kg)	配 布 先
水稻うるち原種 (24年採種圃用)	かけはし	440	(社) 岩手県農産物改良種苗センター
	いわてっこ	1,600	〃
	あきたこまち	3,060	〃
	どんぴしゃり	660	〃
	ササニシキ	300	〃
	ひとめぼれ	11,040	〃
	ぎんおとめ	40	〃
	吟ぎんが	60	〃
	つぶみのり	140	〃
	つぶゆたか	120	〃
水稻もち原種 (24年採種圃用)	カグヤモチ	—	(社) 岩手県農産物改良種苗センター
	ヒメノモチ	799	〃
	もち美人	120	〃
小麦原種 (23年採種圃播種用)	ナンブコムギ	4,080	(社) 岩手県農産物改良種苗センター
	ゆきちから	3,270	〃
	ネバリゴシ	120	〃
	コユキコムギ	120	〃
大豆原種 (23年採種圃播種用)	ナンブシロメ	1,100	(社) 岩手県農産物改良種苗センター
	スズカリ	—	〃
	青丸くん	30	〃
	ユキホマレ	30	〃
	すずほのか	6	〃
	コスズ	15	〃

注) 旧年産の種子も供給していること。

## (2) その他種苗の配布

種 類	品 種	数 量(単位)	配 布 先
水稻新形質米等	ゆきおとめ	30(kg)	(社) 岩手県農産物改良種苗センター
	つづみ星	5(kg)	〃
	岩手酒98号	72(kg)	〃
	岩手91号	90(kg)	〃
小豆原種	岩手大納言	8(kg)	(社) 岩手県農産物改良種苗センター
	ベニダイナゴン	3(kg)	〃
そば原種	岩手早生		配付実績無し
えだまめ原種			配付実績無し
小ぎく	アイمامピュアホワイト	7(株)	(社) 岩手県農産物改良種苗センター
	アイمامホワイトピーチ	7(株)	〃
	アイمامピンク	7(株)	〃
	アイمامイエロー	7(株)	〃
	アイمامオータムイエロー	7(株)	〃
りんどう	採種用母株(組織培養株)		
	Sen2	500(株)	(社) 岩手県農産物改良種苗センター
	Y Ry	50(株)	〃
	TO	50(株)	〃
	採種用母株(実生苗)		
	ENG	500(本)	(社) 岩手県農産物改良種苗センター
	IHO	400(本)	〃
	えぞ早生	700(本)	〃
	HO2・1・4	400(本)	〃
	Y5・1・4	400(本)	〃
	Y5・3・1	700(本)	〃
	Ba	500(本)	〃
	OK	200(本)	〃
	りんご	岩手7号(紅いわて)	7(kg)
岩手5号		1(kg)	〃
ぶどう	エーデルロツソ	2(kg)	(社) 岩手県農産物改良種苗センター
ヒエ	軽米在来(白)	0.1(kg)	(社) 岩手県農産物改良種苗センター
	達磨ヒエ	2(kg)	(社) 岩手県農産物改良種苗センター
	ねばりっこ2号	1.5(kg)	(社) 岩手県農産物改良種苗センター
アワ	大槌10	0.2(kg)	(社) 岩手県農産物改良種苗センター
	虎の尾	2.5(kg)	(社) 岩手県農産物改良種苗センター
キビ	釜石16	7.3(kg)	(社) 岩手県農産物改良種苗センター

#### 4 県有種雄牛の精液の供給

(畜産研究所種山畜産研究室:平成24年3月31日現在)

##### (1) 黒毛和種

(単位:本)

種雄牛の名	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
菊福秀	1,481	1,216	1,207	1,055	1,104	3,154	1,114	996	1,460	1,324	1,337	1,269	16,717
菊安舞鶴	215	202	166	155	175	209	208	222	248	263	243	250	2,556
来待招福	517	480	392	377	290	274	179	197	257	278	245	256	3,742
金菊徳	0	5	23	5	23	5	0	0	53	13	10	0	137
飛良美継	283	117	81	192	81	105	85	105	156	225	145	222	1,797
雪乃花	675	555	337	405	145	229	268	245	208	354	244	411	4,076
平北勝1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
北真鶴	5	0	0	0	0	0	18	15	12	3	10	20	83
岩輝57	0	0	20	0	0	0	10	10	30	10	10	5	95
房平茂	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
城乃神	0	5	0	10	5	0	0	0	0	0	0	0	20
第五八雲	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
秀福安	384	15	87	90	0	15	40	65	75	35	58	15	879
原茂勝	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
純康大	22	15	0	25	10	20	0	5	10	0	0	0	107
桜銀次	10	0	10	0	0	5	0	0	0	0	0	0	25
大和魂	0	0	0	0	0	0	0	0	20	0	0	0	20
花安勝	0	30	0	5	0	0	0	3	70	375	600	520	1,603
平花丸	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	10	5	15
月山桜	0	15	345	415	40	48	80	65	10	11	50	0	1,079
その他	0	20	0	0	0	0	20	10	1	100	50	0	201
計	3,592	2,675	2,668	2,734	1,873	4,064	2,022	1,938	2,610	2,991	3,012	2,973	33,152

##### (2) 日本短角種

(単位:本)

種雄牛の名	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
松錦	8	5	0	0	0	0	0	0	0	0	0		13
若鯨	0	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0		4
勝富	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	20	20
福藤	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		0
川辰	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		0
木川12	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		0
慶一	0	0	20	0	0	0	0	0	0	10	0	23	53
辰錦	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	30	30
辰福	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	10	10
辰郎	0	0	10	0	0	0	0	0	0	0	0	20	30
その他	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	10	10
計	8	9	30	0	0	0	0	0	0	10	0	113	170

## 5 種豚、種鶏等の配布

(畜産研究所家畜育種研究室:平成24年3月31日現在)

### (1) 銘柄鶏の配布

品 種	種 類			配 布 先
	雌(羽)	雄(羽)	計(羽)	
南部かしわ雛	4,438	520	4,958	岩手しずくいし南部かしわ生産組合他

### (2) 種豚の配布

品 種	種 類			配 布 先
	雌(頭)	雄(頭)	計(頭)	
L	6	0	6	県内養豚農場
B	4	1	5	県内養豚農場
LW	3	0	3	県内養豚農場
計	13	1	14	

## 6 寄託放牧

(畜産研究所外山畜産研究室:平成24年3月31日現在)

### (1) 牛

品 種	種 類			計(頭)
	成牛雌(頭)	成牛雄(頭)	子牛(頭)	
日本短角種	56	1	48	105

### (2) 馬

品 種	種 類			計(頭)
	成馬雌(頭)	成馬雄(頭)	子馬(頭)	
ブル系等	12	1	6	19

## VIII 人事、予算、財産

## Ⅷ 人事、予算、財産

### 1 岩手県農業研究センター予算 (H23年度・2月現計)

(単位:千円)

区 分	(内 訳)	予 算 額
<b>【農業費】</b>		
人件費(本部・県北)		756,989
庁舎管理費(本部)		106,839
ほ場管理費(本部)		42,324
ふれあい公園管理運営費		16,773
庁舎管理費(県北)		26,681
ほ場管理費(県北)		3,142
試験研究費(国庫、委託試験等)		120,679
(1)植物防疫研究費	11,957	
(2)土壌対策研究費	4,090	
(3)外部資金等農業試験研究費	104,632	
高生産性農業新技術開発促進研究費(県単研究費)		23,639
主要農作物採種管理費		16,914
令達事業(本部)		
令達事業(県北)		
合 計		1,113,980
<b>【畜産業費】</b>		
人件費(畜産)		450,433
庁舎管理費		65,448
飼育管理費		108,239
管理運営費(種山畜産研究室分)		116,191
試験研究費(国庫、委託試験等)		16,557
農業関係試験研究委託事業	16,557	
高生産性畜産新技術開発促進研究費(県単研究費)		19,556
令達事業		
合 計		776,424
全 体 計		1,890,404

2 建物・用地の面積及び飼養家畜数 (H24.3.31現在)

(1) 建物・用地の面積

	用 地 (ha)							建物(m <sup>2</sup> )		
	耕 地					林野等	施設用地	総面積	棟数	延面積
	水田	畑	樹園地	採草放牧地	小計					
本 部	30	28	21		80	16	23	118	79	29,676
北 上	26	18	21		65		18	84	32	19,198
<b>【主な施設面積(内数)】</b>										
管理棟										2,911
実験研究棟										5,057
作物調査研究棟										716
育苗ガラス温室										992
穀物乾燥原種調整調査棟										860
園芸作物調査棟										716
生産環境調査棟										608
ふれあい公園						16	2	17	13	3,431
南部園芸研究室		1			1		0	2	6	1,522
旧銘柄米開発研究室	4	1			5		2	7	25	4,684
その他		8			8		0	8	3	841
畜産研究所		136		1,535	1,671	399	38	2,108	181	36,427
滝沢(本所)		68		14	82	50	33	165	124	23,299
外山畜産研究室		6		1,471	1,477	241	5	1,722	42	6,676
種山畜産研究室		63		50	112	108	0	221	15	6,452
県北農業研究所	1	11	0		12		8	20	17	8,105
合 計	31	175	21	1,535	1,763	415	69	2,246	277	74,208

(2) 飼養家畜頭数(H24.2.1現在)

(単位:頭・羽)

種別性別		雄	雌	計	品種別頭羽数
乳用牛	経産牛		67	67	ホルスタイン種 117
	育成牛(子牛含む)		50	50	
肉用牛	(滝沢)	94	32	126	黒毛和種 30、日本短角種 87、交雑種 9
	(外山)	25	168	193	黒毛和種 108、日本短角種 84、交雑種 1
	(種山)	98	43	141	黒毛和種 141、交雑種 16
	牛 計	217	360	577	
豚	種豚	15	25	40	<b>【種豚の内訳】</b> パークシャー種 25、ランドレース種(イワテハヤチネL2) 12、大ヨークシャー種 1、デュロック種 2、雑種 6
	子豚	26	113	139	
	計	41	138	179	
鶏	種鶏	366	1,452	1,818	岩手地鶏 266、岩手大型ロード 293、基礎鶏 358、ホワイトロックロード 596、軍鶏 288、ホワイトロック 17
	南部かしわ雛			0	
	計	366	1,452	1,818	

### 3 種苗登録、特許等

#### (1) 種苗登録

種 類	登録(出願)品種の名称	登 録 番 号	登 録 年 月 日	備 考
りんどう	いわて乙女	第 544号	S59. 3.19	育成者権失効
りんどう	ジョバンニ	第 1,101号	S61. 8. 8	〃
りんどう	イーハトーヴォ	第 1,100号	S61. 8. 8	〃
大豆	緑良	第 2,517号	H 2.12. 5	〃
大豆	緑翠	第 2,516号	H 2.12. 5	〃
りんどう	アルビレオ	第 2,553号	H 2.12. 5	〃
りんどう	マシリイ	第 3,073号	H 4. 2.29	〃
りんどう	ホモイ	第 3,074号	H 4. 2.29	〃
ぶどう	エーデルアーリー	第 3,404号	H 5. 3.10	
りんご	きおう	第 3,947号	H 6. 3.14	
りんどう	アルタ	第 4,085号	H 6. 8.22	育成者権失効
稲	かけはし	第 4,410号	H 7. 3.23	
稲	ゆめさんさ	第 4,411号	H 7. 3.23	育成者権放棄
りんどう	ポラーノ ホワイト	第 4,999号	H 8. 3.18	
りんどう	あおこりん	第 7,713号	H12. 2.22	
りんどう	ももこりん	第 7,714号	H12. 2.22	
りんどう	ポラーノ ブルー	第 7,715号	H12. 2.22	
大豆	星めぐり	第 7,756号	H12. 2.22	品種登録取消
稲	吟ぎんが	第10,471号	H14. 9. 4	
スターチス	アイスター モーブ	第10,673号	H14. 9.30	育成者権放棄
スターチス	アイスター ラベンダー	第10,674号	H14. 9.30	〃
スターチス	アイスター ライラックブルー	第10,675号	H14. 9.30	〃
スターチス	アイスター ロージーピンク	第10,676号	H14. 9.30	〃
スターチス	アイスター ライラック	第10,677号	H14. 9.30	〃
稲	ぎんおとめ	第10,963号	H15. 2.20	
大豆	ちゃげ丸	第11,099号	H15.3.17	
大豆	ぷっくらこ	第11,100号	H15.3.17	品種登録取消
稲	いわてっこ	第12,177号	H16. 8.18	
きく	アイمامアーリーイエロー	第13,034号	H17. 3.23	
きく	アイمامホワイト	第13,035号	H17. 3.23	
きく	アイمامピンク	第13,036号	H17. 3.23	
きく	アイمامイエロー	第13,037号	H17. 3.23	
きく	アイمامホワイトピーチ	第13,038号	H17. 3.23	
稲	もち美人	第13,295号	H17. 9.13	
りんご	黄香	第13,771号	H18. 2.27	
きく	アイمامレモンイエロー	第13,800号	H18. 2.27	
きく	アイمامオータムホワイト	第13,801号	H18. 2.27	
きく	アイمامパープルレッド	第13,802号	H18. 2.27	
きく	アイمامアーリーホワイト	第13,803号	H18. 2.27	
きく	アイمامオレンジ	第15,952号	H19.12.18	

種 類	登録(出願)品種の名称	登 録 番 号	登 録 年 月 日	備 考
きく	アイمامレッド	第15,953号	H19.12.18	登録申請取り下げ
稲	どんびしゃり	第16,604号	H20. 3.17	
りんどう	マジエル	第16,725号	H20. 3.17	
りんどう	キュースト	第16,726号	H20. 3.17	
スターチス	アイスター ソフトピンク	出願番号第18,507号	出願(H17. 7. 8)	
きく	アイمامオータムイエロー	第17,727号	H21. 3. 6	
きく	アイمامオータムレッド	第17,728号	H21. 3. 6	
きく	アイمامピュアホワイト	第17,968号	H21. 3.19	
りんご	岩手7号	第18,415号	H21. 9.10	
りんどう	いわて夢あおい	第18,762号	H22. 1.14	
りんどう	ももずきんちゃん	第20,210号	H23. 1.25	
りんどう	いわてDPB1号	第20,345号	H23. 2.15	
稲	かぐやの舞	第20,350号	H23. 2.15	
稲	つづみ星	第20,351号	H23. 2.15	
稲	つづみのり	第20,535号	H23. 3. 9	
稲	あけのむらさき	第20,710号	H23. 3.18	
稲	吟さやか	第20,711号	H23. 3.18	
稲	ゆきおとめ	第20,712号	H23. 3.18	
稲	つづゆたか	第20,716号	H23. 3.18	
ひえ	ねばりっこ1号	第21,577号	H24. 3. 9	
ひえ	ねばりっこ2号	第21,578号	H24. 3. 9	
ひえ	ねばりっこ3号	第21,579号	H24. 3. 9	
ぶどう	エーデルロツソ	出願番号第24,975号	出願(H22. 7. 2)	
りんどう	いわて夢みのり	出願番号第26,503号	出願(H23.11.30)	
りんご	大夢	出願番号第26,637号	出願(H23.12.28)	

## (2) 特許、実用新案

名 称	出願・公開番号(年月日)	登録番号(年月日)
米を原料とした飲料の製造方法	特開平03-272671 (H 3.12. 4)	1990534(H 7.11. 8) ※H22. 3.19存続期間満了
牧草種子の播種方法及び牧草種子の散布用の複合肥料ペレット	特開平10-276514 (H10.10.20)	(公開・拒絶査定)
マクロシードペレットの散布装置	特開平10-276516 (H10.10.20)	(公開・拒絶査定)
遺伝子導入りんご及びその作出法	特開2000-270700 (H12.10. 3)	(公開・拒絶査定)
果樹の成育状態評価方法	特開2004-147539 (H16. 5.27)	4026684(H19.10.19)
土壌用有機成分の推定装置	特開2005-017115 (H17. 1.20)	3902160(H19. 1.12)
ハトムギ食品の製造方法	特開2005-040104 (H17. 2.17)	3842253(H18. 8.18)

名 称	出願・公開番号(年月日)	登録番号(年月日)
家畜用胚移植器	特開2006-181078 (H18. 7.13)	4111523(H20. 4.18)
降霜予測装置	特開2006-189403 (H18. 7.20)	4053544(H19.12.14)
有機肥料の製造方法及び有機肥料	特開2006-265027 (H18.10. 5)	4240492(H21. 1. 9)
物質の成分推定方法及び物質の成分推定装置	特開2007-187486 (H19. 7.26)	4258780(H21. 2.20)
水田作業機の排水溝形成装置	特開2010-124775(H22. 6.10)	4854045(H23.11. 4)
りんどうの鮮度保持用包装袋及びりんどうの保存方法	特開2010-163197(H22. 7.29)	(公開・審査請求中)
高設栽培装置及びこれを用いた高設栽培方法	特開2010-227008(H22.10.14)	4900735(H24. 1. 13)
樹皮繊維培土の製造方法及び樹皮繊維培土	特開2012-24006(H24. 2. 9)	(公開・審査請求中)

### (3) 一般に公開しているプログラム等

名 称	公 開 (年月日)	バージョン	担当研究室(開発者)
「生産技術体系」及び「営農計画作成支援シート」	平成18年 2月22日	ver.1.2	農業経営研究室 (主任専門研究員 前山 薫)
集落営農組織化効果試算シート	平成18年 6月 9日	ver.0.1	農業経営研究室 (主任専門研究員 前山 薫)
作業可能日数率算出支援シート	平成19年 3月30日	ver.1.0	生産工学研究室 (主任専門研究員 前山 薫)
水稻施肥設計支援シート	平成21年 7月 6日	ver.3.0	生産環境研究室 (主任専門研究員 大友 英嗣)
園芸畑作施肥設計支援シート	平成24年 2月 7日	ver.1.0	生産環境研究室 (主任専門研究員 大友 英嗣)

#### 4 表彰

表彰名称(表彰団体)	表彰の対象者(組織)			表彰の対象となった事績内容	表彰年月日	
(内部表彰) 平成23年度第1回 農業研究センター 所長表彰 (通算19回)	プロジェクト推進室 企画管理部 環境部 技術部 ※グループ ○印はリーダー	震災復旧・復興支援 プロジェクトチーム  南部園芸研究室 生産環境研究室 南部園芸研究室 プロジェクト推進室 研究企画室 農業経営研究室 果樹研究室 作物研究室 野菜・花き研究室 南部園芸研究室 生産環境研究室	室長 上席専門研究員 主査専門研究員 主任専門研究員 主任専門研究員 主任専門研究員 主査専門研究員 主査専門研究員 主任専門研究員 主任専門研究員 主任専門研究員	○佐々木 裕二 佐藤 喬 山田 修 白井 智彦 沼田 芳宏 松浦 貞彦 及川 耳呂 日影 勝幸 藤尾 拓也 小田島 雅 大友 英嗣	除塩及び新たな栽培技術実証により震災被害を被った沿岸地域農業の復旧・復興に貢献	23.8.22
	技術部 ※グループ	作物研究室 作物研究室 作物研究室 果樹研究室 果樹研究室	上席専門研究員 主査専門研究員 専門研究員 技能員 技能員	○小綿 寿志 高橋 智宏 伊藤 信二 西野 哲仁 小黒澤 清人	良質な主要農作物種子の安定生産の取り組み	
	病害虫防除部 ※グループ	病害虫防除課	主任主査 主任 技師	○大友 令史 藤澤 由美子 村上 太郎	普及センターとの情報共有化による病害虫発生予察・防除指導の改善	
(内部表彰) 平成23年度第2回 農業研究センター 所長表彰 (通算20回)	プロジェクト推進室 企画管理部 ※グループ	プロジェクト推進室 〃 〃 〃 研究企画室 農業経営研究室	主査専門研究員 上席専門研究員 主任専門研究員 技能員 主任専門研究員 主任専門研究員	○渡邊 麻由子 高橋 昭喜 寺田 道一 菅野 輝彦 伊勢 智宏 松浦 貞彦	「小畦立て播種栽培技術マニュアル」の作成	24.1.27
	企画管理部 ※個人	総務課	主査	加藤 泰彦	使用最大電力制限措置への主導的対応と経費節減に貢献	
	企画管理部 ※個人	総務課	主事	佐々木あき子	生産米売払いに係る契約予定人選定方法の見直しにより収入増に貢献	
	企画管理部 ※個人	研究企画室	上席専門研究員	勝部 和則	新たな機関評価の仕組みづくりと機関評価の円滑な実施に貢献	
	技術部 ※グループ	野菜花き研究室	上席専門研究員 主査専門研究員 主任専門研究員 主任専門研究員	○藤原 一道 星 伸枝 赤坂 志保 中里 崇	リンドウ種苗の安定生産の取組	
	技術部 ※個人	野菜花き研究室	主任専門研究員	中里 崇	10月上旬開花の切り花向け青色リンドウF1品種「いわてVLB-1号」の育成	
	技術部 ※個人	果樹研究室	主査専門研究員	及川 耳呂	リンゴ栽培におけるドリフト低減型ノズル及び立木用ドリフト低減型防除機の効率的な利用方法の開発	
	技術部 ※個人	作物研究室	上席専門研究員	菅原 浩視	水稲『岩手91号』、水稲『岩手酒98号』の育成	
	技術部 ※個人	作物研究室	専門研究員	阿部 陽	次世代型シーケンサーを活用した遺伝子解析手法の開発	
	技術部 ※個人	野菜花き研究室	主任専門研究員	山口 貴之	アスパラガス伏せ込み促成栽培11月生産技術の開発	

表彰名称(表彰団体)	表彰の対象者(組織)				表彰の対象となった事績内容	表彰年月日
(内部表彰) 平成23年度第2回 農業研究センター 所長表彰 (通算20回)	企画管理部 技術部 環境部 畜産研究所 ※グループ  放射性物質に係る 農業技術対策検討 チーム	環境部 企画研究室 作物研究室 果樹研究室 同 野菜花き研究室 生産環境研究室 同 同 畜産研究所 家畜飼養・飼料研究室	環境部長 上席専門研究員 専門研究員 果樹研究室長 主査専門研究員 野菜花き研究室長 生産環境研究室長 主査専門研究員 主任専門研究員 次長 家畜飼養・飼料 研究室長	○木内 豊 勝部 和則 伊藤 信二 小原 繁 高橋 司 渡辺 芳幸 小林 卓史 中野 亜弓 大友 英嗣 山田 和明 佐藤 直人	農作物等における放射性物質の 実態調査と生産管理指導対策の 提示	24.1.27
	環境部 ※個人	病理昆虫研究室	主任専門研究員	岩館 康哉	転炉スラグを用いた土壌pH改良 によるキュウリホモブシス根腐病 の被害軽減技術の開発	
	環境部 ※個人	生産環境研究室	主任専門研究員	阿部 弘	エゾリンドウ塊茎の精密調査手 法の開発と経年推移の解明	
	環境部 ※個人	病理昆虫研究室	主任専門研究員	横田 啓	アカスジカスミカメの斑点米形成 時期の解明	
	環境部 ※個人	病理昆虫研究室	技師	熊谷 親一	「らぼ・れたあ」を活用して農研セ ンターの活動を広くPR ～Fresher's Voice 2011 「親ちゃんのラボ日記」～をシ リーズ化	
(内部表彰) 平成23年度第1回 農業研究センター 畜産研究所長表彰 (通算7回)	畜産研究所 ※個人	総務課	主任技能員	小笠原 幸一郎	危険物保安監督者として長年に わたり危険物事故の予防に貢献	23.9.29
	畜産研究所 ※個人	外山畜産研究所	主任技能員	藤原 時夫	円形対流式不凍給水槽の開発、 風雪退避柵及び給餌施設等の 製作により試験研究課題化の実 現に貢献	
(内部表彰) 平成23年度第2回 農業研究センター 畜産研究所長表彰 (通算8回)	畜産研究所 ※個人	総務課	主幹兼総務課長	澤口 総一	「労働災害予防システム」を構築 し労働災害の発生防止に貢献	24.3.5
	畜産研究所 ※個人	外山畜産研究所	主査専門研究員	増田 隆晴	「飼料用トウモロコシ圃場及び不 定形・波丘草地におけるトラクタ 搭載型GPS作業支援システムを 活用した除草剤散布作業精度の 向上」技術を開発	
	畜産研究所 ※グループ	家畜育種研究室 (肉牛舎グループ)	主任技能員	小林 雄二	パドックの排水改良工事により 試験牛の飼養環境改善に貢献	
			主任技能員	永洞 俊司		
			技能員	細野 貴樹		
			技能員	葉木澤 一也		
	畜産研究所 ※グループ	家畜育種研究室 (鶏舎グループ)	主任技能員	関村 武志	「人工授精技術の習得及び平準 化」について、計画的に技術研 修と実践作業に取組み、授精 率・作業効率等の人工授精技術 の向上が図られ、技術継承と作 業環境づくりに貢献	
			主任技能員	右京 隆二		
技能員			鷺見 義信			
日々雇用職員			高橋 多津子			
日々雇用職員			土井尻 ヤス子			
日々雇用職員			中村 真弓			
日々雇用職員	畠山 シヅエ					
主査専門研究員	佐々木 睦美					

表彰名称(表彰団体)	表彰の対象者(組織)				表彰の対象となった事績内容	表彰年月日	
(内部表彰) 平成23年度第2回 農業研究センター 畜産研究所長 表彰 (通算8回)	畜産研究所 ※グループ	家畜飼養・飼料研究室 (飼料グループ)	主任専門 研究員	尾張 利行	放射性物質対策への支援業務と 並行し、「飼料用トウモロコシの不 耕起栽培における二毛作ライ麦 の最適刈取時期」及び「乾物収 量性に優れた飼料用トウモロコシ 早生品種の選定」等飼料生産技 術を開発	24.3.5	
			主査専門 研究員	堀間 久己			
			専門研究員	山形 広輔			
	畜産研究所 ※グループ	外山畜産研究所 (和牛子牛飼養改善 グループ)	主任専門 研究員	菊池 恭則			
			主任技能員	藤原 時夫			
			主任技能員	竹田 政則			
			主任技能員	荒木田 俊一			
	畜産研究所 ※グループ	牧草放射線検査チーム	家畜飼養・飼料 研究室長	佐藤 直人			放射性物質対策に対応し、牧草 を始めとする飼料中の放射性物 質の検査体制の構築や迅速・正 確な検査の実施により本県の安 全な畜産物供給に貢献
			家畜育種研究室長	熊谷 光洋			
	(内部表彰) 平成23年度第1回 農業研究センター 県北農業研究所長 表彰 (通算3回)	県北農業研究所 ※個人	総務課	技能員			清水 賢一
(内部表彰) 平成23年度第2回 農業研究センター 県北農業研究所長 表彰 (通算4回)	県北農業研究所 ※個人	作物研究室	主査専門研究員	中西 商量	雑穀の移植栽培による抑草技術 の開発	24.3.8	
	県北農業研究所 ※個人	作物研究室	主査専門研究員	仲條 眞介	岩手県雑穀遺伝資源データ ベースシステムの開発		
	県北農業研究所 ※個人	作物研究室	主任専門研究員	阿部 亜希子	雑穀主要病害虫の被害様相と発 生時期の解明		
	県北農業研究所 ※グループ	作物研究室	主査専門研究員	吉田 宏	東日本大震災に係る被災地へ の支援活動(水田除塩対策、土 壌分析、プランター贈呈)		
		園芸研究室	主査専門研究員	鹿糠 美雪			
		園芸研究室	技師	武田 純子			



職名	氏名	職名	氏名
<b>畜産研究所長</b>	<b>佐々木 宏</b>	<b>外山畜産研究室長</b>	<b>長内 幸一</b>
次長	竹田 順一	主査専門研究員	増田 隆晴
次長	山田 和明	主任専門研究員	鈴木 啓太
次長	菊池 雄	主任専門研究員	菊池 恭則
<b>主幹兼総務課長</b>	<b>澤口 総一</b>	主任技能員	藤原 時夫
主任主査	菅原 宣年	主任技能員	竹田 政則
主任	鷺田 昭雄	主任技能員	荒木 田俊一
運転技士兼技能員	吉田 正弘	技能員	鳴海 茂揮
主任技能員	関村 武志	<b>種山畜産研究室長</b> (次長兼務)	<b>菊池 雄</b>
主任技能員	小笠原 幸一郎	主任	村上 和也
主任技能員	石川 勝美	主査専門研究員	西田 清
主任技能員	小林 雄二	主任専門研究員	小梨 茂
主任技能員	米澤 健治	主任専門研究員	今野 一之
主任技能員	右京 隆二	技師	大崎 翔
主任技能員	上野 由克	主任技能員	斎藤 和一
主任技能員	工藤 明彦	主任技能員	佐藤 洋貴
主任技能員	菅原 薫	主任技能員	中村 健
主任技能員	松本 徹	技能員	後藤 克明
技能員	永洞 俊司	<b>県北農業研究所長</b>	<b>茂市 修平</b>
技能員	細野 貴樹	次長	小菅 裕明
技能員	鷺見 義信	総務課長	工藤 一也
技能員	畠山 博文	主任主査	竹澤 秀典
技能員	水澤 博征	運転技士兼技能員	日山 千代司
技能員	上澤 賢輝	技能員	清水 賢一
技能員	谷地 館透	技能員	藤根 寛道
技能員	葉木 澤一也	<b>園芸研究室長</b>	<b>高橋 晋</b>
技能員	荒屋 康之	上席専門研究員	藤沢 巧
技能員	西野 聖	主査専門研究員	鹿糠 美雪
<b>家畜育種研究室長</b>	<b>熊谷 光洋</b>	専門研究員	田代 勇樹
主査専門研究員	佐々木 睦美	技師	武田 純子
主査専門研究員	児玉 英樹	<b>作物研究室長(次長兼務)</b>	<b>小菅 裕明</b>
主任専門研究員	佐藤 洋一	主査専門研究員	中西 商量
専門研究員	鈴木 強史	主査専門研究員	吉田 宏
専門研究員	佐々木 直	主査専門研究員	仲條 眞介
専門研究員	米澤 智恵美	主任専門研究員	阿部 亜希子
<b>家畜飼養・飼料研究室長</b>	<b>佐藤 直人</b>		
主査専門研究員	堀間 久己		
主任専門研究員	尾張 利行		
専門研究員	斎藤 浩和		
専門研究員	山形 広輔		
技師	木戸 場結香		

## IX 東日本大震災津波への対応

## IX 東日本大震災津波への対応

### 1 被害の状況

(1) 県全体の被害の状況

平成23年3月11日発生した三陸沖を震源とするマグニチュード9.0の大地震とそれに伴う巨大津波により、本県各地に深刻な被害を与えた。

ア 地震及び津波の概要(平成23年7月25日現在 岩手県災害対策本部及び岩手県復興局まとめ)

①発生日時:平成23年3月11日(金)14時46分頃 ②震央地名:三陸沖 ③震源の深さ:24km

④規模:マグニチュード9.0

⑤本県の最大深度:震度6弱(大船渡市、釜石市、滝沢村、矢巾町、花巻市、一関市、奥州市、藤沢町)

⑥津波の高さ:宮古 8.5m、大船渡8.0m、釜石4.2m、久慈港8.6m(推定)

イ 被害の状況(平成23年7月25日現在 岩手県災害対策本部調べ)

被害の区分		被害	単位	備考
人的被害	死者数	4,611	人	
	行方不明者数	2,081	人	
	負傷者	186	人	一部負傷者を把握できていない市町村がある。
計		6,878	人	
家屋被害	全・半壊	24,534	棟	
	一部損壊	5,010	棟	
計		29,544	棟	
産業被害	農業被害	589	億円	
	林業被害	250	億円	
	水産業・漁港被害	3,587	億円	
	工業(製造業)被害	890	億円	
	商業(小売・卸売業)被害	445	億円	
	観光業(宿泊施設)被害	326	億円	津波による流出、浸水被害の推定額であり、地震による被害は含めていない。
計		6,087	億円	
公共土木施設被害	河川・海岸・道路等施設被害	1,723	億円	
	都市・公園施設被害	405	億円	
	港湾関係施設被害	445	億円	
計		2,573	億円	

(2) 農業研究センターの被害の状況

本部・畜産研究所・県北農業研究所の被害状況をそれぞれ記載

ア 本部の状況

南部園芸研究室(陸前高田市)は地震および津波により、庁舎、温室等が全損、ほとんどの備品等が流失するなど、壊滅的な被害を受けた。

なお、本部(北上市)においても、地震により高価な備品が破損するなどの被害を受けた。

区分	被害総額		施設			備品			
			被害内容	被害面積	被害額	主な被害機器	被害額		
南部園芸研究室	227,609	千円	庁舎、温室等全損	1,522㎡	201,194	千円	葉面積測定装置他	26,415	千円
本部	5,802	千円					クロマトグラフ他	5,802	千円
計	233,411	千円		1,522㎡	201,194	千円		32,217	千円

イ 畜産研究所

- ・庁舎等建物のひび割れ
- ・分析機器の破損等(純水製造装置の全損、その他分析機器の一部破損)

ウ 県北農業研究所

被害なし

## 2 農業研究センター災害対策本部の活動

月日	時刻	項目	特記事項
3/11(金)	14:46	(東北地方太平洋沖地震発生)	・自家発電装置起動
	14:58	農業研究センター災害対策本部設置	・職員の安否確認、施設・設備の被害状況確認並びに南部園研、畜研、県北研の情報収集を指示
	17:30	第2回災害対策本部会議	・職員の安否未確認8名 ・本庁、南部園研、畜研、県北研との連絡不能 ・本庁各課へ被害状況速報(公用車使用)
	19:00		・南部園研職員3名私用車で本部到着 職員は日々雇用職員も含めて全員無事。庁舎、ハウス等の施設は壊滅と報告
	20:00		・農林水産企画室に第1報をネットで報告 ・職員の安否未確認者8名から16名に増加するも、全員の無事を確認
	22:30	第3回災害対策本部会議	・夜間待機者(保安要員)の設置協議 ・夜間待機者を8名とする
3/12(土)	9:00	第4回災害対策本部会議	・北上市から断水の通告 ・各部から被害状況報告 ・節水のため、トイレ使用箇所制限 ・南部園研の被害状況確認を指示、調査隊4名を公用車で陸前高田市へ派遣 ・節電のため、不用電源スイッチ切断を指示
	9:30		・生物学研究所に重要試薬(シーケンス用酵素)の冷凍保存を依頼
	12:00	第5回災害対策本部会議	・各部からの被害状況報告 ・自家発電装置サブタンクの残量について
	13:00		・地下タンクから自家発電装置のサブタンクへホースで人力(約10人)給油
	15:15		・南部園研調査隊帰庁 ・庁舎、ハウスとも壊滅状態、公用車1台も所在不明と報告
	17:00	第6回災害対策本部会議	・職員の家族安否状況確認 ・南部園研を本部(プロジェクト推進室内)に移設 ・出張は必要最小限とし、庁内対応優先を申し合わせ
	18:00	第7回災害対策本部会議	・各部からの被害状況報告 ・夜間待機者(保安要員)として各部1名配置を決定
3/13(日)	9:00	第8回災害対策本部会議	・県外出張職員の帰路状況報告 ・ライフライン状況確認(停電(自家発電も不良)、電話不通、水道は概ね良好) ・ポータブル発電機(ガソリンエンジン)で電源確保 ・節水を申し合わせ
	11:00		・所長が本庁に南部園研の被害状況報告
	12:00	第9回災害対策本部会議	・各部からの状況報告 ・午後の待機者(保安要員)は必要最小限とすることを指示 ・ライフラインの状況確認(断水、停電、電話不通状態継続)
	18:00	第10回対策本部会議	・全農いわて、アピオ救援活動への支援要請の件 ・各部状況報告(県外出張者の帰路状況等) ・津波警報解除、2号非常配備とし全員連絡体制維持を指示 ・夜間は保安要員配置を決定

月日	時刻	項目	特記事項
3/14(月)	8:30	第11回対策本部会議	<ul style="list-style-type: none"> <li>各部の活動状況等(被害確認)報告及び情報交換</li> <li>ライフラインの状況報告</li> <li>通電、通水、燃料(特A:7000弱、軽油4000、ガソリン僅か)ガス点検中</li> <li>引き続き2号非常配備とすることを確認</li> </ul>
	9:00	全職員への状況説明(1階ホール)	<ul style="list-style-type: none"> <li>各部の被害状況説明</li> <li>ライフラインの状況説明</li> <li>黙祷</li> </ul>
	11:30	第12回対策本部会議	<ul style="list-style-type: none"> <li>各部活動状況の情報交換</li> <li>各部被害状況(写真含み)の取りまとめ報告指示</li> <li>家族不明者の確認状況報告</li> <li>救援活動計画(14~18日:全農いわて営農センター、アピオ)調整</li> <li>各部必要最低限とすることを内容とした電気の使用制限を指示</li> <li>公用車の使用制限を指示(災害支援用務優先)</li> <li>プリウス2台、ハイエース1台、レガシー1台、軽トラック1台</li> <li>節水のためトイレの使用制限を指示(3階トイレ封鎖)</li> <li>燃料節約のため、暖房停止の継続を報告</li> </ul>
	17:00	第13回対策本部会議	<ul style="list-style-type: none"> <li>各部活動状況の情報交換</li> <li>救援活動計画(14~18日:全農いわて営農センター、アピオ)調整</li> <li>引き続き2号非常配備とし、全員連絡体制維持を確認</li> </ul>
3/15(火)	13:00	第14回対策本部会議	<ul style="list-style-type: none"> <li>各部活動状況の情報交換</li> <li>畜研飼料不足であと2週間程度、圃場勤務者から寒いとの声</li> <li>救援活動計画(14~18日:全農いわて営農センター、アピオ)調整</li> <li>救援勤務者の超勤等勤務処理方法確認(当面帳簿で管理)</li> <li>引き続き2号非常配備とし全員連絡体制維持を確認</li> </ul>
	17:00	第15回対策本部会議	<ul style="list-style-type: none"> <li>各部活動状況の情報交換</li> <li>救援活動計画(15~18日:アピオ)修正</li> <li>「全農いわて」での追加支援活動の要請への対応</li> <li>→フォークリフト作業(オペレーター1名)</li> <li>引き続き2号非常配備とし全員連絡体制維持を確認</li> </ul>
3/16(水)	13:00	第16回対策本部会議	<ul style="list-style-type: none"> <li>各部活動状況の情報交換</li> <li>ハウス暖房灯油・A重油調達不可により世代促進温室、園芸温室、野菜苗の集中管理化を指示</li> <li>職員の家族不明者確認状況報告</li> <li>引き続き暖房停止、電気・公用車・トイレ使用制限、節水を確認</li> </ul>
	15:13	(中国黒龍江省農業科学院)	<ul style="list-style-type: none"> <li>農業科学院院長からお見舞いのメール着信、同日夕方所長名でFAX返信</li> </ul>
	17:00	第17回対策本部会議	<ul style="list-style-type: none"> <li>各部活動状況の情報交換</li> </ul>
3/17(木)	10:00	部長会議	<ul style="list-style-type: none"> <li>被災者移送支援活動の人選を検討</li> </ul>
	11:00	(一時移送候補地登録)	<ul style="list-style-type: none"> <li>被災者の一時移送候補地として農研施設3件を登録</li> </ul>
	13:00	第18回対策本部会議	<ul style="list-style-type: none"> <li>各部活動状況の情報交換</li> <li>職員の家族不明者確認状況報告</li> <li>被災者移送活動の人選検討</li> <li>引き続き暖房停止、電気・公用車・トイレ使用制限、節水を確認</li> <li>1号非常配備とし、全員連絡体制維持を確認</li> </ul>
	15:00	部長会議	<ul style="list-style-type: none"> <li>被災者移送支援者の名簿作成(氏名・自宅・電話等)</li> </ul>
	17:00	第19回対策本部会議	<ul style="list-style-type: none"> <li>各部活動状況の情報交換</li> <li>救援活動計画の変更を報告</li> <li>南部園芸研究室被害状況調査チームを編成</li> <li>20~21日:大船渡&amp;陸前高田、調査の確認と重要物品の回収、土壌調査</li> <li>引き続き暖房停止、電気・公用車・トイレ使用制限、節水を確認</li> <li>1号非常配備とし、全員連絡体制維持を確認</li> </ul>

月日	時刻	項目	特記事項
3/18(金)	13:00	第20回対策本部会議	<ul style="list-style-type: none"> <li>各部活動状況の情報交換</li> <li>南部園芸研究室被害状況調査チームの調査計画検討</li> <li>連休期間中は各研究室1名配置を指示</li> <li>引き続き暖房停止、電気・公用車・トイレ使用制限、節水を確認</li> <li>1号非常配備とし、全員連絡体制維持を確認</li> </ul>
	17:00	第21回対策本部会議	<ul style="list-style-type: none"> <li>各部活動状況の情報交換</li> <li>救援活動計画(19日～22日)調整</li> <li>休日の体制確保</li> <li>幹部職員交替で日直・当直、各研究室等1名日直配置を指示</li> <li>引き続き暖房停止、電気・公用車・トイレ使用制限、節水を確認</li> <li>1号非常配備とし、全員連絡体制維持を確認</li> </ul>
3/20(日)	7:15	(調査チーム出発)	<p>【目的】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>①南部園芸研究室被害状況調査・重要物品回収</li> <li>②大船渡、陸前高田地方土壌サンプル採集・調査</li> </ul>
3/22(火)	9:00	第22回対策本部会議	<ul style="list-style-type: none"> <li>連休中の日直・当直者からの活動状況報告</li> <li>南部園芸研究室被害状況・土壌調査チーム報告</li> <li>引き続き暖房停止、電気・公用車・トイレ使用制限、節水を確認</li> <li>1号非常配備とし、全員連絡体制維持を確認</li> </ul>
	15:00	第23回対策本部会議	<ul style="list-style-type: none"> <li>各部情報交換(部局連絡調整会議資料を提供)</li> <li>南部園芸研究室被害報告(暫定版)</li> <li>引き続き暖房停止、電気・公用車・トイレ使用制限、節水を確認</li> <li>1号非常配備として全員連絡体制維持を確認</li> </ul>
	16:30	部長等会議	<ul style="list-style-type: none"> <li>アピオでの救援物資積込作業割当(23日～25日:計16名)</li> </ul>
3/23(水)	13:00	第24回対策本部会議	<ul style="list-style-type: none"> <li>各部情報交換(部局連絡調整会議資料を提供)</li> <li>普及災害対策技術支援打合せ(3/24県庁)に環境部生産環境室長、南部園芸研究室長の出席を確認</li> <li>引き続き暖房停止、電気・公用車・トイレ使用制限、節水を確認</li> <li>1号非常配備とし、全員連絡体制維持を確認</li> </ul>
3/24(木)	10:30	部長会議	<ul style="list-style-type: none"> <li>アピオ救援活動支援者協議</li> </ul>
	13:00	第25回対策本部会議	<ul style="list-style-type: none"> <li>各部情報交換</li> <li>フォークリフト県消防学校へ移送(調整担当:流通課)した旨報告</li> <li>引き続き暖房停止、電気・公用車・トイレ使用制限、節水を確認</li> <li>1号非常配備とし、全員連絡体制維持を確認</li> </ul>
	16:30	部長会議	<ul style="list-style-type: none"> <li>農業復旧対策の技術支援打合せ結果の報告</li> <li>震災対応連携プロジェクトチームの編成検討</li> </ul>
3/25(金)	10:30	部長会議	<ul style="list-style-type: none"> <li>アピオでの救援物資積込作業割当(26日～31日:計37名)</li> </ul>
	13:00	第26回対策本部会議	<ul style="list-style-type: none"> <li>各部情報交換</li> <li>引き続き暖房停止、電気・公用車・トイレ使用制限、節水を確認</li> <li>1号非常配備とし、全員連絡体制維持を確認</li> </ul>
3/28(月)	13:00	第27回対策本部会議	<ul style="list-style-type: none"> <li>各部情報交換</li> <li>震災復興支援連携プロジェクトチームの編成案協議</li> <li>引き続き暖房停止、電気・公用車・トイレ使用制限、節水を確認</li> <li>1号非常配備とし、全員連絡体制維持を確認</li> </ul>

月日	時刻	項目	特記事項
3/29(火)	13:00	第28回対策本部会議	<ul style="list-style-type: none"> <li>各部情報交換</li> <li>震災復興支援連携プロジェクトチームの編成修正案協議</li> <li>幹部職員の日直体制(4月1日～10日)検討</li> <li>南部園芸研究室管理費予算は執行停止、それ以外は例年通り可となった旨報告</li> <li>南部園芸研究室の被害調査及び公用車の搜索のためのチーム派遣を検討</li> <li>引き続き暖房停止、電気・公用車・トイレ使用制限、節水を確認</li> <li>1号非常配備とし、全員連絡体制維持を確認</li> </ul>
3/30(水)	13:00	第29回対策本部会議	<ul style="list-style-type: none"> <li>各部情報交換</li> <li>アピオ保管飲料水を農研センターへ移送することになった旨報告</li> <li>燃料供給状況と今後の対応検討</li> <li>災害救援物資(缶詰・レトルト食品等)提供の依頼があった旨報告、センター内へ呼びかけることを確認</li> <li>営農技術対策マニュアル検討</li> <li>早朝暖房開始、公用車使用制限解除、トイレ使用制限、節水・節電継続を申し合わせ</li> <li>1号非常配備とし、全員連絡体制維持を確認</li> </ul>
3/31(木)	9:10	部長会議	4月1～14日のアピオ支援活動調整
	13:00	第30回対策本部会議	<ul style="list-style-type: none"> <li>各部情報交換</li> <li>一時保管場所(車庫)への飲料水搬入計画報告</li> <li>早朝暖房、トイレ使用制限、節水・節電継続を確認</li> <li>1号非常配備とし、全員連絡体制維持を確認</li> </ul>
	午後～	(車庫へ支援物資搬入)	アピオ飲料水の搬入・保管(10トン車 5台)
4/1(金)	10:00	運営会議(兼31回対策会議)	各部情報交換
	13:00 14:00	(車庫へ支援物資搬入)	アピオ飲料水搬入・保管(10トン車 3台)
4/4(月)	9:30	(車庫へ支援物資搬入)	アピオ飲料水搬入・保管(10トン車 2台)
	13:00	第32回対策本部会議	<ul style="list-style-type: none"> <li>宮古普及センターからの土壌分析要望報告</li> <li>農林水産業の被害額算定状況報告</li> <li>一時移送支援チームの活動状況報告</li> </ul>
	13:30	(車庫へ支援物資搬入)	アピオ飲料水搬入・保管(10トン車 2台)
4/5(火)	9:15	第33回対策本部会議	<ul style="list-style-type: none"> <li>大船渡地域営農相談会・南部園研状況確認結果の報告</li> <li>復興支援プロジェクトチームに県北農業研究所の役割を追加することを確認</li> <li>環境部保有の放射線測定器(1台)の使用可否確認を指示</li> <li>被災地の圃場の堆積物、ヘドロ分析等(重金属分析)は県としての検討必要との認識で一致</li> <li>農研の被害総額(南部園研2億1千万円、本部9百70万円)を報告</li> </ul>
4/6(水)	10:30	第34回対策本部会議	<ul style="list-style-type: none"> <li>震災復旧チームの活動状況報告</li> <li>大船渡地域営農相談会(4/5キュウリ指導会、4/6トマト指導会)参加</li> <li>南部園芸研究室の物品の回収計画(4/7を予定)</li> <li>当面の補正予算要求対応(要求は見送り)</li> <li>飲料水の搬入状況(10tトラック12台分完了)</li> </ul>
4/7(木)	23:32	(震度5強(北上管内)の余震発生)	<ul style="list-style-type: none"> <li>1号配備(参集者23名)</li> <li>地震発生と同時に停電、非常電源稼働</li> <li>被害状況確認</li> </ul>

月日	時刻	項目	特記事項
4/8(金)	8:30	第35回対策本部会議(兼運営会議)	(停電継続中、非常電源稼働) ・1号配備対応状況報告 ・被害状況を再確認を各部へ指示 ・非常電源のコンセントを確認のうえ、研究用備品(冷蔵庫等)の使用に支障のないようにすることを各部へ指示
	15:00	第36回対策本部会議	・前夜の地震の被害状況報告 ・陸前高田水田土壌分析結果報告 ・宮古・久慈土壌分析(重金属等)要請への対応 ・復旧復興取組状況の情報共有(農業普及技術課フォルダーに記載) ・研究センターの復旧復興取組状況確認(県北研も含む) ・復旧復興の方向性(県農林水産部)について情報共有 ・沿岸市町村訪問結果報告(所長) ・南部園研敷地の瓦礫置場への利用について ・土日当番各部1名配置を決定 ・災害対策実施マニュアルの改正案説明
4/11(月)	13:00	第37回対策本部会議	・震災1か月に当たり、一斉黙とうすることを確認(14:46～) ・災害フォルダーの整理・統合を指示 ・土日日直は休止、平日は継続を申し合わせ ・センターほ場用水の通水状況報告(通水未確認)
4/13(水)	13:00	第38回対策本部会議	・新たに花巻空港物資搬入への支援要請があった旨報告 ・南部園研は取り壊し・撤去とする方針を確認 ・県営かん排事業気仙川地区における塩害対策実証ほの設置を了承 ・農村建設課、普及技術課等本庁関係者と被災地域の関係機関による意見交換を14～15日に実施予定である旨情報提供 ・大学関係者等から支援活動の打診がいくつか来ていることについて報告。窓口の一本化が必要との認識で一致
4/15(金)	13:00	第39回対策本部会議(兼運営会議)	・アピオ及び花巻空港の支援体制確認
4/18(月)	13:00	第40回対策本部会議	・アピオ支援の組織体系確認 ・農業研究センター震災復旧・復興プロジェクト工程表協議 ・南部園芸研究室の清掃のため、チーム編成のうえ派遣することを検討
4/20(水)	13:00	第41回対策本部会議	・南部園芸研究室庁舎整理の実実施計画協議(4/27 10時～15時予定) ・土壌分析結果(重金属)の概要報告 ・南部園芸研究室建物調査、撤去費用等の処理方針報告 (農林水産企画室は6月補正要求に建物調査費用は盛り込まない方針である旨報告) ・JST東日本大震災対応・緊急研究開発成果実装支援プログラムへの応募について協議
4/22(金)	9:00	第42回対策本部会議(兼運営会議)	・津波災害に係る技術対策会議の概要報告(環境部長) ・実証ほの設置打合せ状況報告(南部園芸研究室長)
4/25(月)	13:00	第43回対策本部会議	・東日本大震災による病害虫発生調査への影響について報告(病害虫防除部) ・第6回災害復興営農対策会議の結果報告(南部園芸研究室) (陸前高田市は総合営農指導センターの継続は困難とし、取り壊しする意向を示している旨報告) ・南部園芸研究室庁舎整理の準備状況について報告
4/28(木)	9:00	第44回対策本部会議(兼運営会議)	・南部園芸研究室庁舎整理状況報告 (農薬、試薬、小農具類、養液タンク2000l等を回収。次回整理は5月末頃を予定) ・陸前高田市営農指導センター建物について、専門家は「全壊」と判定したとの情報入手した旨報告 ・宮古地域園芸実証ほ設置打合せ結果報告 ・大船渡市義援金交付支援業務の状況報告
5/2(月)	13:00	第45回対策本部会議	・震災復旧・復興プロジェクトチーム実証ほの設置状況報告 ・5/9以降の花巻空港物資搬入支援再開について、流通課から連絡があった旨を報告

月日	時刻	項目	特記事項
5/6(金)	9:00	第46回対策本部会議(兼運営会議)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・陸前高田市の要請により、南部園芸研究室敷地をがれき置場として貸与した旨報告</li> <li>・被災した南部園芸研究室について、農林水産企画室、農業普及技術課が行った農林水産部長協議の結果を報告 (本館等は修繕困難、解体撤去の方針。ただし、時期と予算要求については今後検討することで部長了解)</li> <li>・震災復旧・復興モデル実証圃設置打合せ(5/2陸前高田市竹駒地区)結果報告</li> </ul>
5/9(月)	13:00	第47回対策本部会議	<ul style="list-style-type: none"> <li>・県民くらしの安全課が車庫に保管している水の在庫量を確認した旨を報告</li> <li>・当面花巻空港支援はない旨を報告</li> <li>・5/20の農業農村復興対策連絡会議、総括課長会議には、農研震災復旧・復興プロジェクトチームの取組みを報告(県北分も含めて)することを確認</li> </ul>
5/11(水)	10:00	部長会議	<ul style="list-style-type: none"> <li>・アピオへの新たな支援要請への対応検討(5/16～5/31まで、延べ13人)</li> </ul>
5/13(金)	9:00	第48回対策本部会議(兼運営会議) ※以後は運営会議に統合	<ul style="list-style-type: none"> <li>・第3回センター震災復旧・復興支援プロジェクトチーム会議(5/12)の結果を報告</li> <li>・県営かんがい排水事業気仙地区塩害対策実証ほの設置に関する農村建設課から農業研究センターへの依頼事項を報告 農研への依頼事項 ①流入土砂排土工法選定等実証展示ほ設定に当たっての助言 ②除塩実証展示ほ土壌の塩類濃度分析</li> <li>・情報提供(茨城県における原発事故風評被害損害賠償請求スキームのイメージ)</li> <li>・情報提供(放射能の影響等について)</li> </ul>

### 3 復旧・復興に向けた活動

(1)地域の復旧・復興対策会議等への対応

会議の名称	主催者	開催回数	延べ対応者数
災害復興営農対策会議	大船渡地方農業振興協議会	18	30
宮古地域園芸実証ほ設置打ち合わせ	宮古農業改良普及センター	1	3
災害復興営農対策会議	大船渡地方農業振興協議会	2	2

(2)復旧支援業務の実施

業務内容	実施日数	延べ対応者数
被災水田土壌調査、生育調査、収量調査	7	11
津波被災水稲・土壌調査等	7	13
津波被災きゅうり生育調査等	14	23
塩害土壌モニタリング及び断面調査	14	37

(3)復興支援業務の実施

業務内容	実施日数	延べ対応者数
釜石市 小麦播種作業支援	2	5
陸前高田市復興イベント業務	2	2
津波被害果樹園における生育状況のモニタリング調査	8	13
(宮古地域) 4/20 促成アスパラガス栽培実証の打合せ(宮古普及センター)	1	2
5/18 大作畦実証圃の設置(重機持ち込み)	1	2
9/30 現地病害虫発生調査	1	2
12/18 株堀取り支援(重機持ち込み)	1	4
12/20 株提供	1	4
(久慈地域) 6/10 ねぎの植え付け支援	1	4
6/27～ 移植(機械の貸出)	1	2
10/19 ねぎ皮むき機の実演及び貸出(10/24～)	1	4
10/24～ ねぎ皮むき機の貸出	1	2

## (4)放射性物質に係る業務

業務内容	実施日数	延べ対応者数
本部		
農地土壌調査	1	1
放射性物質測定支援業務(岩手県環境保健センター)	9	9
放射性物質調査に係る土壌サンプリング	2	2
農地土壌の放射性物質濃度分布図作成に係る土壌サンプリング※	17	320
農作物および土壌における放射性物質の測定	120	360
畜産研究所		
放射性物質分析支援(岩手県環境保健研究センター)	5	5
畜産課勤務(放射線対策支援業務)23年8月8日～10月31日	58	58
牧草等放射線検査 23年10月3日～24年3月20日現在	104	199
牛肉の放射線検査(岩手畜産流通センター)23年10月11日～11月25日	19	19
畜産課勤務(放射線対策支援業務)23年12月1日～24年3月31日	81	81
県北農業研究所		
3/28 久慈市海水流入地区の土壌調査	1	2
4/4 野田村海水流入地区水田全筆の土壌採取	1	2
4/5～ 土壌分析	20	30
4/13 除塩対策実証圃設置にかかる事前調査(宮古市撰待地区)	1	3
4/25 除塩対策実証圃の設置(撰待地区水利組合、普及センター他) クロ塗り、資材散布、耕起	1	5
5/9～9/30 土壌EC・生育・収量調査(野田村長地・米田、岩泉町小本、宮古市撰待、12圃場)	6	28

※本部の実施日数、延べ対応者数は中央農業改良普及センター(県域)を含む

## (5)復旧・復興支援の取組み紹介(農業研究センター主催含む)

会議等の名称	主催者	研究室名	発表者職・氏名	参加者数(人)
INS第8回土づくり研修会	INS土づくり研究会	南部園芸研究室	室長 佐々木 裕二	30
施肥合理化協議会総会	岩手県施肥合理化協議会	南部園芸研究室	室長 佐々木 裕二	30
大船渡農業振興協議会総会	大船渡農業振興協議会	南部園芸研究室	室長 佐々木 裕二	30
陸前高田市復興街づくりイベント	陸前高田市街づくり実行委員会	南部園芸研究室 他プロジェクト チーム員	南部園芸研究室 他プロジェクト チーム員	17,500
園芸学会東北支部公開シンポジウム	園芸学会東北支部	南部園芸研究室	主査専門研究員 山田 修	60
北日本イチゴ研究会	園芸学会東北支部	南部園芸研究室	主査専門研究員 山田 修	40

会議等の名称	主催者	研究室名	発表者職・氏名	参加者数 (人)
除塩対策実証ほ現地検討会 (大船渡農振協第2回園芸部会と併催)	大船渡農業振興協議会	南部園芸研究室	主査専門研究員 山田 修	21
第12回岩手農林研究協議会シンポジウム	岩手農林研究協議会(AFR)	南部園芸研究室	室長 佐々木 裕二	30
東日本大震災の復旧・復興のための 技術講習会・技術相談会	(独)農業・食品産業技術 総合研究機構 農村工学研究所	南部園芸研究室	主任専門研究員 小田島 雅	110
きゅうりリーダー会議第2回	大船渡農業改良普及センター JAおおふなど	南部園芸研究室	主査専門研究員 山田 修	15
東北地域アグリビジネス創出フェア2011	東北地域農林水産・食品 ハイテク研究会	南部園芸研究室	室長 佐々木 裕二	100
震災復旧・復興実証圃におけるイチゴ 閉鎖型2層ハンモック栽培システム説明会	岩手県農業研究センター	南部園芸研究室	主査専門研究員 山田 修	25
災害復興営農対策会議 (タイムリー成果検討会)	大船渡農業振興協議会	南部園芸研究室 他プロジェクト チーム員	南部園芸研究室 他プロジェクト チーム員	28
農研センター復旧・復興支援プロジェクト チーム活動成果報告会及び 復興イチゴ現地検討会	岩手県農業研究センター	南部園芸研究室	主査専門研究員 山田 修	65
農楽の会総会	北上市農政課	南部園芸研究室	室長 佐々木 裕二	37
INS未利用資源活用研究会 第8回全県大会・第10回土づくり研究会	INS土づくり研究会・未利用資源 活用研究会	南部園芸研究室	室長 佐々木 裕二	40
岩手県バイオテクノロジー研究成果発表会	農業普及技術課	南部園芸研究室	室長 佐々木 裕二	20
平成23年度農業機械開発改良試験研究 打合せ会議水田作・畑作分科会	(独)生研センター	プロジェクト推進室	主査専門研究員 渡邊 麻由子	170
東北農業試験研究推進会議 果樹推進部会	(独)東北農研センター	果樹研究室	室長 小原 繁	27
寒冷地果樹研究会	(独)果樹研究所	果樹研究室	主査専門研究員 及川 耳呂	222
陸前高田市果樹防除説明会	大船渡農業協同組合	果樹研究室	主査専門研究員 及川 耳呂	54
平成23年度園芸学会秋季大会 イチゴ小集会	園芸学会	園芸研究室	主任専門研究員 藤尾 拓也	60
第8回INS土づくり研究会	土づくり研究会	生産環境研究室	室長 小林 卓史	40
日本土壌肥料学会東北支部会 緊急シンポジウム	土肥学会東北支部、 東北農業研究センター	生産環境研究室	上席専研 佐藤 喬	80
東北農業研究センターシンポジウム	東北農業研究センター	生産環境研究室	上席専研 佐藤 喬	120
INS第10回土づくり研究会	土づくり研究会	生産環境研究室	上席専研 佐藤 喬	40
農地の除塩技術の研修会	日本土水総合研究所	生産環境研究室	主任専研 大友 英嗣	20
放射性物質に関する農業指導者向け 研修会	農業普及技術課	生産環境研究室	室長 小林 卓史	200
二戸地方農林水産業振興大会	二戸地方農林水産業振興協議会	環境部	部長 木内 豊	200
宮古地方農業者の集い2012	宮古地方農業振興協議会	生産環境研究室	室長 小林 卓史	100
平成23年度農業者のための 放射性物質対策研修会	一関農林振興センター	生産環境研究室	室長 小林 卓史	200

## (6)岩手県災害対策本部等から要請のあった支援業務への対応

業務の内容	期間	日数	延べ対応者数
本部			
救援物資配送支援(全農岩手県本部)	23.3.14	1	16
救援物資配送支援(岩手産業文化センター)	23.3.15～7.30	82	243
被災者一時移送支援	23.3.20～4.1	11	72
救援物資配送支援(花巻空港)	23.4.19	1	2
義援金交付事務支援(大船渡市)	23.4.27～5.2	6	18
放射性物質分析支援(岩手県環境保健研究センター)	23.8.8～9.30	43	79
救援物資配布キャラバン	23.10.6	1	1
救援物資配送支援(岩手産業文化センター)	23.3.15～7.1	14	14
救援物資配送支援(全農岩手県本部)	23.3.14～3.15	2	2
救援物資配送支援(花巻空港)	23.4.27	1	1
義援金交付事務支援(大船渡市)	23.4.29、5.4	2	2
畜産研究所			
救援物資配送支援(岩手産業文化センター)	23.3.15～7.29	77	221
救援物資配送支援(全農岩手県本部)	23.3.14～	2	10
県北農業研究所			
救援物資配送支援(岩手産業文化センター)	23.10.8	1	1
救援物資配送支援(全農岩手県本部)	23.3.14	1	1
被災者一時移送支援	23.3.28～3.30	3	3

## X 沿革

## X 沿革

- 明治31年 種馬厩を盛岡市に設置。
- 明治34年 農事試験場(3部制:庶務・種芸・分析)を本宮村向中野(現盛岡市)に設置。  
種馬厩を種畜場と改称。
- 明治35年 種畜場を盛岡市から滝沢村に移転。
- 明治36年 農事試験場に園芸部(4部制)を新設。
- 大正 2年 原蚕種製造所を胆沢郡水沢町(現奥州市水沢区)に設置。
- 大正 8年 農事試験場胆江分場を江刺郡愛宕村(現奥州市江刺区)に設置。
- 大正11年 原蚕種製造所を蚕業試験場(4係制:庶務・蚕種・試験・桑園)と改称。
- 大正12年 農事試験場に病虫部(5部制)を新設。  
外山御料牧場を種畜場に移管し、種畜場本場を玉山村(現盛岡市玉山区)に移転(滝沢は支場となる)。
- 昭和 2年 種鶏場を岩手郡巻掘村(現盛岡市玉山区)に設置。
- 昭和 5年 農事試験場軽米農場を九戸郡軽米町に設置。  
蚕業試験場一戸桑園を二戸郡一戸町に設置。
- 昭和10年 農事試験場遠野試験地を上閉伊郡松崎村(現遠野市)に設置。
- 昭和12年 種畜場本場を滝沢村に移転、玉山は外山支場となる。  
蚕業試験場六原桑樹試験地を金ヶ崎町に設置。
- 昭和13年 蚕業試験場一戸桑園を一戸支場と改称。
- 昭和15年 農事試験場軽米農場を九戸分場と改称。
- 昭和21年 農事試験場高冷地試験地を二戸郡小鳥谷村(現一戸町)に設置。
- 昭和22年 農事試験場遠野試験地が国営に移管。
- 昭和23年 種鶏場を紫波郡日詰町(現紫波町)に移転。
- 昭和25年 農事試験場を農業試験場(4部制:総務・営農・農産・畜産)と改称。  
農業試験場畜産部を種畜場と併設。  
農業試験場葡萄試験地を稗貫郡大迫町(現花巻市大迫町)に設置。  
農業試験場沿岸作物試験地を九戸郡長内村(現久慈市)、下閉伊郡豊間根村(現山田町)及び気仙郡小友村(現陸前高田市)に委託設置。
- 昭和26年 農業試験場南部試験地を気仙郡米崎村(現陸前高田市)に設置。  
農業試験場に遠野試験地が国から移管。  
農業試験場に農業経営研究部門設置。  
工芸作物原種農場を雫石町に設置。
- 昭和28年 蚕業試験場を水沢市(現奥州市水沢区)龍ヶ馬場に移転。
- 昭和30年 農業試験場本場機構改革(8部制:庶務・種芸・化学・園芸・病虫・経営・農機具・畜産)。  
蚕業試験場機構改革(4部制:庶務・栽桑・養蚕・病理化学)。
- 昭和32年 蚕業試験場一戸支場を一戸分場と改称。
- 昭和36年 蚕業試験場一戸分場を二戸郡一戸町上野に新築移転。
- 昭和37年 農業試験場の園芸部、南部試験地及びぶどう試験地を分離して園芸試験場(3部制:庶務・果樹・蔬菜花卉)を北上市に設置。南部試験地及びぶどう試験地をそれぞれ、南部分場、大迫圃場と改称。  
農業試験場胆江分場及び九戸分場をそれぞれ、県南分場、県北分場と改称。  
種畜場に種鶏場及び農業試験場畜産部を併合して畜産試験場を滝沢村に設置。  
農業試験場遠野試験地及び沿岸作物試験地を廃止。  
工芸作物原種農場を農業試験場に統合し、原種部を設置。
- 昭和38年 農業試験場本場を盛岡市から滝沢村へ移転。
- 昭和39年 畜産試験場外山支場を外山試験地と改称。
- 昭和41年 農業試験場本場機構改革(4部制:庶務2係・技術・環境・経営)。
- 昭和44年 園芸試験場蔬菜花卉部を野菜花き部に改称。
- 昭和46年 農業試験場本場機構改革(科制導入。技術部:水田作科・畑作科・作業技術科、環境部:施肥改善科・土壤改良科・病害虫科、経営部:経営科・流通経済科)。  
農業試験場県南分場及び県北分場に分場次長を設置。  
農業試験場高冷地試験地を園芸試験場へ移管し、高冷地分場となる。  
園芸試験場に環境部を設置。  
園芸試験場大迫圃場を大迫試験地と改称。  
畜産試験場外山試験地を外山分場と改称。
- 昭和47年 園芸試験場南部分場を陸前高田市米崎町から同市高田町へ移転。

昭和48年	蚕業試験場六原桑樹試験地を六原試験地と改称。
昭和51年	農業試験場作業技術科を農業機械科に改称。
昭和53年	蚕業試験場六原試験地を廃止。 蚕業試験場養蚕部、病理化学部をそれぞれ養蚕経営部、環境部に改称。
昭和56年	園芸試験場高冷地分場を高冷地開発センターに改称。
昭和57年	蚕業試験場整備計画実施(～昭和58年)。
平成3年	農業試験場に水稻育種科を設置。
平成8年	畜産試験場種山肉用牛改良センターを住田町に設置。
平成9年	農業試験場、蚕業試験場、園芸試験場及び畜産試験場を農業研究センターに再編整備。 農業試験場本場、園芸試験場本場、同大迫試験地及び蚕業試験場本場を統合し、北上市にセンター本部を設 農業試験場県南分場及び園芸試験場南部分場をそれぞれ銘柄米開発研究室、南部園芸研究室と改称。 農業試験場県北分場、園芸試験場高冷地開発センター及び蚕業試験場一戸分場を統合し、軽米町に県北農 業研究所を設置。 畜産試験場を畜産研究所に改組。 畜産試験場外山分場及び種山肉用牛改良センターをそれぞれ外山畜産研究室、種山畜産研究室に改称。 県北農業研究所に専門技術員を配置。
平成10年	園芸畑作部蚕桑技術研究室繭品質評価分室を盛岡市に設置(繭検定所を廃止)。 センター本部に専門技術員を配置。
平成11年	企画経営情報部マーケティング研究室を農業経営研究室に統合。
平成13年	病害虫部を新設し、病害虫防除課及び病理昆虫研究室を設置。 銘柄米開発研究室、蚕桑技術研究室及び同研究室繭品質評価分室を廃止。 南部園芸研究室を陸前高田市高田町から同市米崎町へ移転。
平成16年	総務部管理課を同部総務課に統合。 県北農業研究所にいわて雑穀遺伝資源センターを設置。 企画経営情報部内にいわて農林水産知的財産相談センターを設置。
平成17年	病害虫防除課県北農業研究所駐在を廃止、病害虫防除所(本部)へ統合。 専門技術員(県北農業研究所勤務)を専門技術員室(本部)へ勤務振り替え。
平成18年	専門技術員室を廃止(中央農業改良普及センターへ勤務振り替え)。 いわて農林水産知的財産相談センターを閉鎖(業務は岩手県知的所有権センターで実施)。
平成20年	センター本部が2プロジェクト推進室4部体制、畜産研究所が1課4研究室、県北農業研究所が1課2研究室に再編整備。
平成23年	プロジェクト推進室を1プロジェクト体制、技術部園芸研究室を果樹研究室と野菜花き研究室に再編整備。 技術部南部園芸研究室(陸前高田市)が東日本大震災で被災し、研究員は本部勤務で研究を継続。

## <所 在>

<b>岩手県農業研究センター</b>		
<b>本 部</b>	〒024-0003	岩手県北上市成田20-1 Tel. 0197-68-2331 FAX. 0197-68-2361 ホームページ <a href="http://www.pref.iwate.jp/~hp2088/">http://www.pref.iwate.jp/~hp2088/</a> Email : CE0008@pref.iwate.jp (本部) Email : CE0001@pref.iwate.jp (病害虫防除所)
(南部園芸研究室)	〒029-2206	岩手県陸前高田市米崎町字川崎101 Tel. 0192-55-3733 FAX. 0192-55-2093
<b>畜産研究所</b>	〒020-0173	岩手県岩手郡滝沢村字砂込737-1 Tel. 019-688-4326 FAX. 019-688-4327 Email : CE0010@pref.iwate.jp
(外山畜産研究室)	〒028-2711	岩手県盛岡市玉山区藪川字大の平40 Tel. 019-681-5011 FAX. 019-681-5012
(種山畜産研究室)	〒029-2311	岩手県気仙郡住田町世田米字飼沢30 Tel. 0197-38-2312 FAX. 0197-38-2177 Email : CE0034@pref.iwate.jp
<b>県北農業研究所</b>	〒028-6222	岩手県九戸郡軽米町大字山内23-9-1 Tel. 0195-47-1070 FAX. 0195-49-3011 Email : CE0009@pref.iwate.jp

**平成 23 年度 岩手県農業研究センター年報**

平成 24 年 7 月発行

**岩手県農業研究センター**

〒024-0003 岩手県北上市成田20-1

TEL (0197) 68-2331 FAX (0197) 68-2361

IWATE-AGRICULTURAL RESEARCH CENTER

20-1Narita,Kitakami Iwate 024-0003,Japan